## 北斗市

# 館野6遺跡(2)

- 高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 -

第2分冊

Ⅲ-2・3 遺構出土の遺物

平成28年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

## 北斗市

# 館野6遺跡(2)

- 高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 -

第2分冊

Ⅲ-2・3 遺構出土の遺物

平成28年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

## 第2分冊(本文Ⅲ-2・3)目次

目次・挿図	目次・表目次						
Ⅲ 遺構の	調査と出土遺	物(遺構は盛土遺構	以外の	ものをさす	I 章参照)…		1
2 遺構	出土の土器・	土製品					1
(1) 竪	穴住居						1
(2) 土	坑						89
(3) T	ピット						89
(4) 焼	土						89
(5) 集	石						94
(6) 遺	物集中						94
3 遺構	出土の石器・	石製品					98
(1) 竪	穴住居						98
(2) 土	坑						144
(3) T	ピット						144
(4) 焼	土						144
(5) 集	石						148
(6) 遺	物集中						148
4 表…							150
	第 2	分冊(本文	· III -	- 2 • 3)	挿図目	了次	
図Ⅲ-2-1	遺構出土土器	H18(1~7) ······	2	छा	遺構出土土器	H26(1 · 2) ·······	10
図Ⅲ-2-2	遺構出土土器	H19(1~6) ·······	3		遺構出土土器	H26(3) ······	
図Ⅲ-2-3	遺構出土土器	H20(1~4) ·······	4		遺構出土土器	H26(4~6) ······	
図Ⅲ-2-4		H20(5~14)······	5			H27(1~8) ·······	23
図Ⅲ-2-5			6			H28(1~11)·······	
図Ⅲ -2-6		H21(1~5) ·······				H29(1~4) ·······	
図Ⅲ-2-7		H21(6~9) ·······				H29(5~8) ·······	
図Ⅲ -2-8		H21(10 · 11) ·······				H29(9~12)·······	
図Ⅲ -2-9	遺構出土土器	H21(12~20) ·······				H29(13~16) ·······	
		H21(21~28) ·······				H29(17~24) ·······	
		H21(29~35) ·······				H29(25~29) ·······	
図皿 -2-11							
		H21(36~40) ·······				H29(30~33) ·······	
	遺構出土土器	H22(1~6) ·········				H29(34~37) ·······	
	遺構出土土器	H23(1~6) ·········				H29(38~50) ·······	
	遺構出土土器	H23(7~21) ·······		⊠Ⅲ - 2 - 32		$H30(1) \cdot H31(1\sim7)$	
⊠Ⅲ-2-16	遺構出土土器	H24(1~11)······	17		H32(1∼3) ·	H33(1∼3) ······	35
	Can tan in the second	H25(1~10)······			Mariana de la composição	H34(1~5) ······	

図 III - 3 - 15	遺構出土石器	H29(12~16) ······ 116	図Ⅲ-3-30	遺構出土石器	$H52(4\sim8) \cdot H53(1\cdot2)$
図Ⅲ-3-16	遺構出土石器	H30(1~8) ······ 117			133
図Ⅲ-3-17	遺構出土石器	H31(1~5) ······ 118	図 Ⅲ -3-31	遺構出土石器	H54(1~5) ······ 135
図 III - 3 - 18	遺構出土石器	H31(6~10)⋅H32(1)	図 Ⅲ -3-32	遺構出土石器	H55(1~5) · H56(1~3)
		119			136
図 III - 3 - 19	遺構出土石器	H33(1~7) ······ 120	図 Ⅲ -3-33	遺構出土石器	H57(1~3) · H58(1~7)
図 Ⅲ -3-20	遺構出土石器	H34(1∼6) ⋅ H35(1 ⋅ 2)			137
		122	図 III -3-34	遺構出土石器	H60(1~7) ······ 138
図 II - 3 - 21	遺構出土石器	H35(3) ⋅ H36(1~3) ⋅	図 Ⅲ -3-35	遺構出土石器	H62(1~5) · H63(1)
	H37(1~6)	123			140
図 II - 3 - 22	遺構出土石器	H37(7∼14) ⋅ H38(1)	図 Ⅲ -3-36	遺構出土石器	H64(1~4) · H65(1) ·
		124		$H66(1 \cdot 2)$	141
図 III - 3 - 23	遺構出土石器	H38(2~5) · H39(1~12)	図Ⅲ-3-37	遺構出土石器	H66(3~5) · H67(1~5)
		125			142
図 III - 3 - 24	遺構出土石器	H39(13~16) ······ 126	図Ⅲ-3-38	遺構出土石器	H67(6∼11)······ 143
図 III - 3 - 25	遺構出土石器	H39(17~20) · H40(1)	図 Ⅲ -3-39	遺構出土石器	P43(1~17) ·
		127		P51(1~3)	• P55(1~4) ······ 145
図 II - 3 - 26	遺構出土石器	H41(1~7) ······· 129	図Ⅲ-3-40	遺構出土石器	P 56(1~7) ······ 146
図 III - 3 - 27	遺構出土石器	H43(1~3) · H44(1~3)	図Ⅲ-3-41	遺構出土石器	P 56 (8~16) ······ 147
		130	図 Ⅲ -3-42	遺構出土石器	P 56 (17~19) ······· 148
図 II - 3 - 28	遺構出土石器	H45(1 · 2) · H46(1) ·	図 III - 3 - 43	遺構出土石器	F79(1~3) ·
	H49(1) · H	51(1~4) 131		F82(1~3)	· S 5(1) ····· 149
図 III - 3 - 29	遺構出土石器	H51(5~8) · H52(1~3)			
		132			

## 第2分冊(本文Ⅲ-2・3)表目次

表Ⅲ-4	遺構出土掲載復元土器一覧	15
表Ⅲ-5	遺構出土掲載復元土器接合破片一覧	15
表Ⅲ-6	遺構出土掲載土器破片拓影化一覧	16
表Ⅲ-7	遺構出土石器一覧	17

#### 2 遺構出土の土器・土製品

この項に掲載した土器はいずれも縄文時代の土器である。詳細は「観察表(表 $\Pi-4$  遺構掲載復元土器一覧)」に記した。出土位置がわかるものについては第1分冊第 $\Pi$ 章1項の遺構図で「掲載番号 1 の土器・土製品」ならば「土 1」のように示した。復元個体については「観察表(表 $\Pi-4$  遺構掲載復元土器一覧)」と別に「接合状況・未接合だが同一個体と思われる破片一覧(表 $\Pi-5$  遺構掲載復元土器接合破片一覧)」を示した。復元に至らなかったもので、破片資料を拓影図化したものについては、両者をまとめた体裁の別表(表 $\Pi-6$  遺構掲載土器破片拓影化一覧)に示した。当調査範囲において地文の縄文の撚りが複雑な縄文土器が多いため拓本による拓影図を多用した。従って復元個体か否かは図上ではわかりにくい側面を持つ。表 $\Pi-4$ 復元土器一覧にない個体は表 $\Pi-6$ に掲載されている。

本文中でNo付きで示された数字はそれぞれの遺構について遺物出土位置を現場で記録した点取り番号である。特に記載が無いものは掲載番号である。No数字の後に()付きで掲載番号を示している場合もある。遺物番号とあるのは遺物収集帳(遺物台帳)上の記録番号である。

#### (1) 竪穴住居

H18: 床面直上とベンチ直上から同一個体の円筒下層 d2式が出土している。 $1 \sim 5$  は覆土 1 層出土である。1、2 は中期前半の土器、 $3 \sim 5$  は前期後半の土器である。

1 は隆帯区画内に半截竹管により C字型の刺突列が充填される。2 は口縁の残存部からいずれも中期前葉、円筒上層 a 式と考える。1 は最初、円筒上層 c 式の可能性を考えたが、段階 H58-1・2 と並行する円筒上層 a 式の最新ものとした。縦区画が横方向に連続する。これが口縁部に上下 2 段配される。

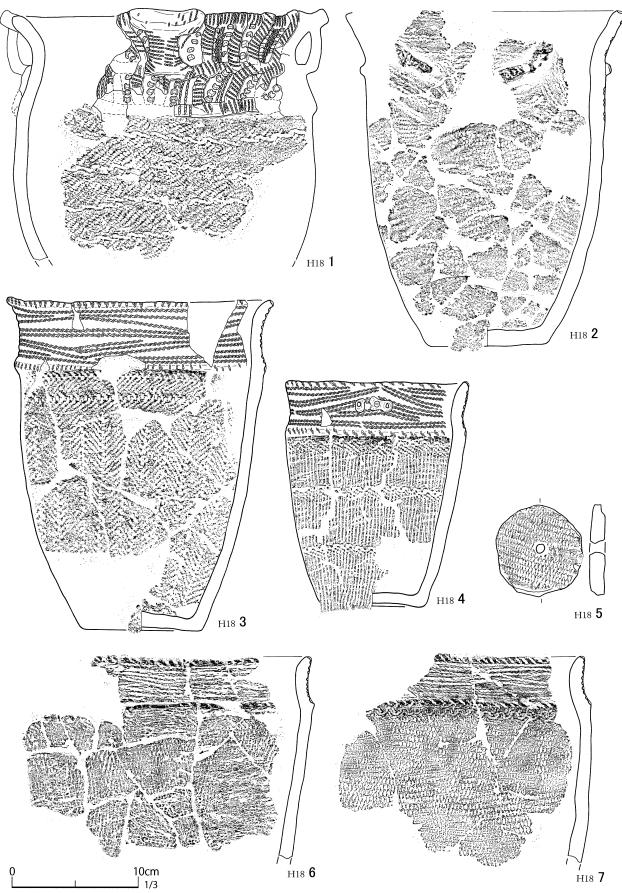
5は多軸絡条体地文の胴部破片の縁辺を丁寧に擦って円形に成形している。中央に穿孔を持つ。再生土製品と称したものである。3は結束第一種羽状縄文が縦方向に連続してはしる土器である。口縁部文様帯にも結束第一種羽状縄文が2段巡る。4は結束第二種羽状縄文が横回転したものを帯状に3段持つ。いずれも口縁部文様帯の幅が広い。

6 は床面、7 はベンチ上から出土した土器である。いずれも円筒下層 d 式土器で、同一個体と考える。ベンチと床面で出土土器が共通する事となる。

H19: 覆土1層と覆土2層いずれも同一個体のまとまりは無かった。縄文時代前期後半円筒下層b式から円筒下層d2式、さらに一部は中期円筒上層a式まで出土している。また円筒下層b式については磨滅が著しい破片ばかりである。

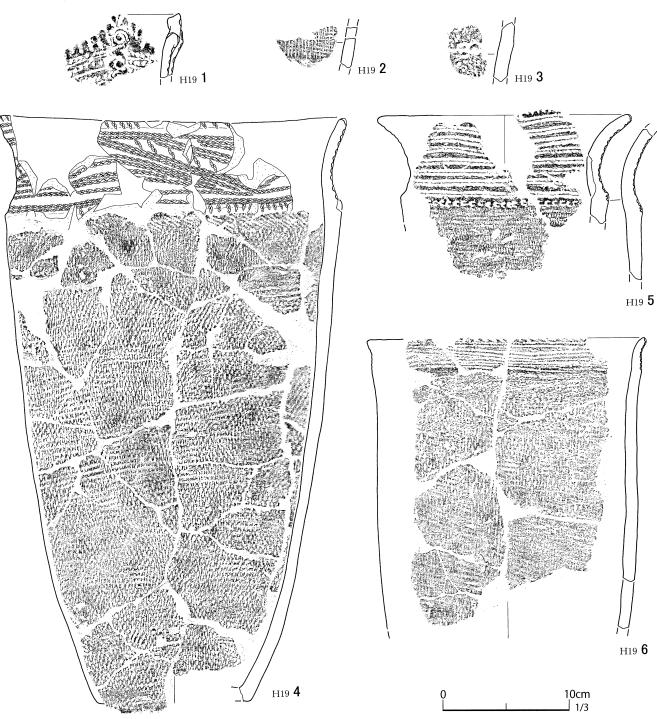
覆土2層で円筒下層d2式の同一個体のまとまり4が出土している。2は覆土1層、1・3・4は覆土2層からの出土、5は覆土1層と2層出土のものが接合した。2・3は再生土製品である。2は円筒下層d式、3は円筒下層b式の土器片である。1は中期初頭の口縁部破片である。4・5は円筒下層d2式土器である。いずれも口縁部文様帯の幅が広い。5は半截竹管による連続刺突を持ち、4は口縁部文様帯直下に結束第一種羽状縄文が回転する。

6 は床面出土である。口縁部文様帯の幅が狭く、円筒下層 d 2 式最古段階あるいは d 1 式最新段階 と考える。

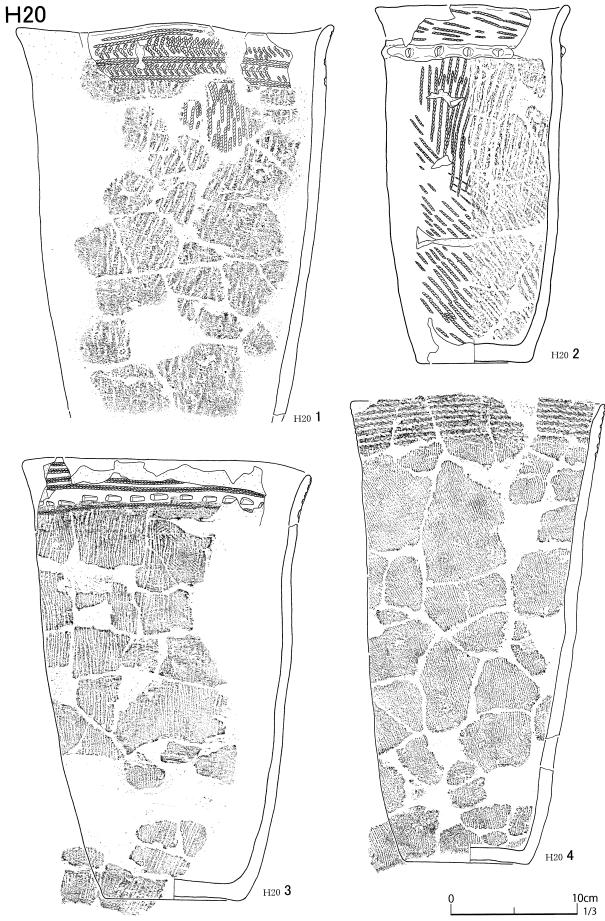


図Ⅲ-2-1 遺構出土土器 H18(1~7)

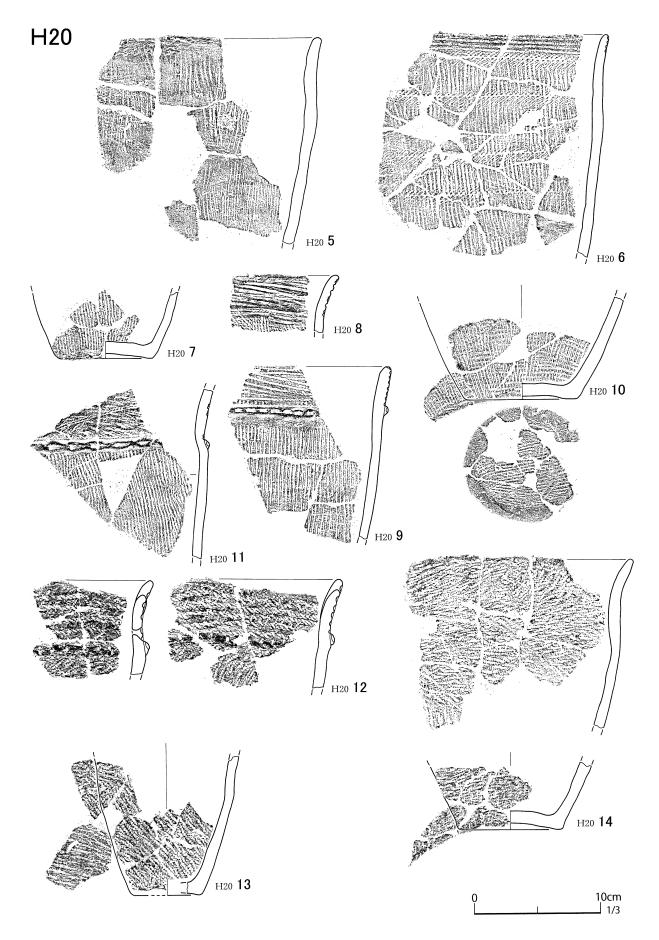




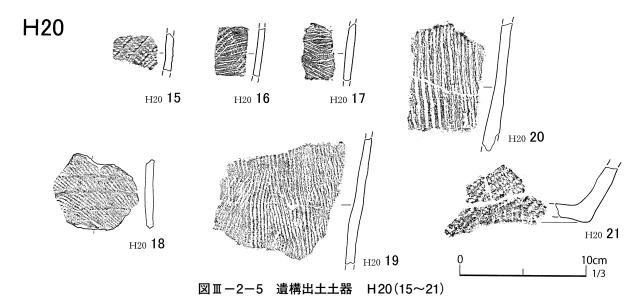
図Ⅲ-2-2 遺構出土土器 H19(1~6)



図Ⅲ-2-3 遺構出土土器 H20(1~4)



図II-2-4 遺構出土土器 H20(5~14)



H20: 床面の点取りどうしは接合しなかった。復元土器  $1 \sim 4$  は住居廃絶後の窪みの中央部から出土した。円筒下層 b 2 式から円筒下層 d 1 式にかけての時期であった。

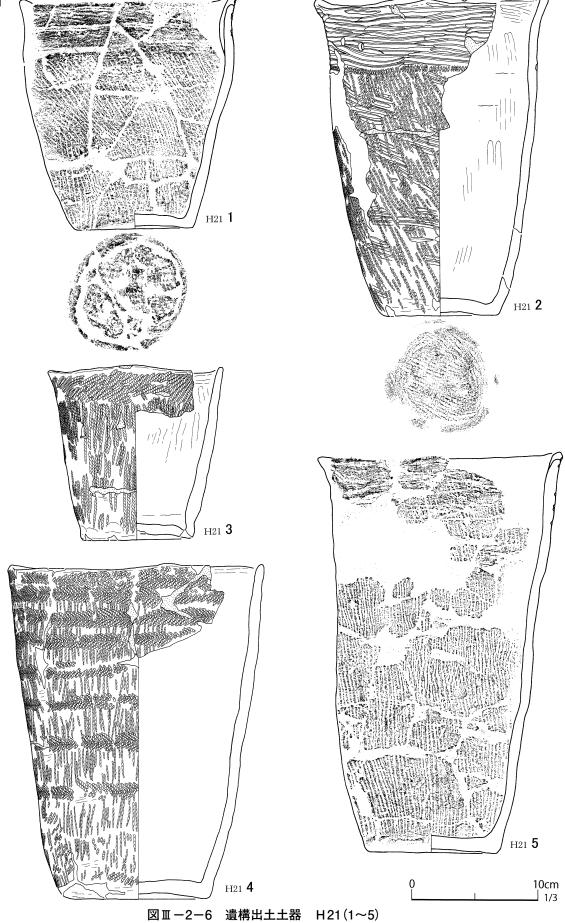
 $1\cdot 3$  は円筒下層 d1 式古段階、2 は円筒下層 b2 式、4 は円筒下層 c 式である。いずれもベルトやトレンチといった住居廃絶後、窪みだった場所に廃棄されたものである。拓影図資料についても同様に円筒下層 c 式から下層 d1 式までのものが目立つ(5~14)。M4 盛土を掘り込んでいる家であり、 $1\cdot 3\cdot 4$  は明らかにM4 盛土より新しい。覆土は盛土を掘り返した土の流入土であって縄文時代早期(15~18)から、円筒下層 c 式(8)、円筒下層 d1 式(5~7・9・10)までの土器が入り込む。床面からは円筒下層 b2~c 式(20・21)の破片が出土している。

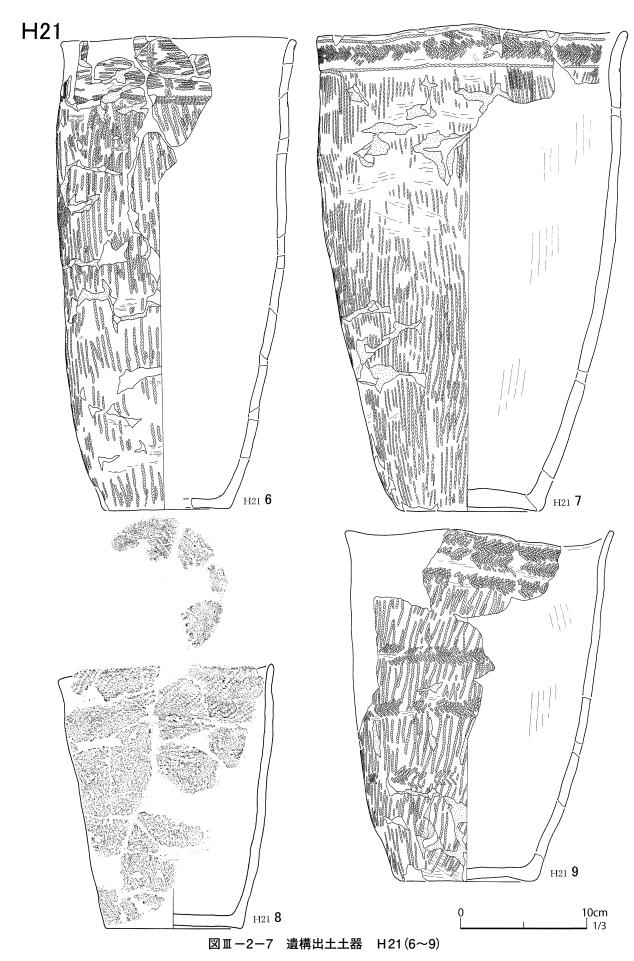
H21:円筒下層 c 式に限りなく近い下層 d1式  $(1\cdot 2\cdot 5)$  が出土するが、残存率は良好ではない。 H29に比べると円筒下層 c 式に近い円筒下層 d1式が多い 7  $(HP-11\cdot 14$  ほか出土)・3 (覆土 7 層) 出土) 7 層を中心として円筒下層 d1式がまとまっている  $(4\sim 7\cdot 10\cdot 11)$ 。ここからはH39と接合したH39-53の破片も出土している。より下位の 9 層から円筒下層 d1式古段階である 8 も出土する。 点取り番号No.31 は 6 である。胎土に砂粒が多い点で他の円筒下層 d1式と異なっている。 R L 縄自 縄自巻縄文が縦走する。撚りが他のものと比較してゆるい。

7層北側から出土の復元個体 3 は円筒下層 d1 式古段階古。7層東側から出土の復元個体 6・10 は円筒下層 d1 式古段階古。7層北側と7層東側が接合した、復元個体 4・11 は円筒下層 d1 式古段階古。7層北側と7層東側が接合した、復元個体 7で円筒下層 d1 式古段階古。7層東側から出土の復元個体 1・2・5 は円筒下層 d1 式最古段階。7層中央復元 H39-53(H39-点取り番号 No. 27・28・33・34と接合) H21 覆土中には菱形を基調とする直線構成の文様がある円筒下層 d1 式として、復元出来なかった 26 があるのみ。「円筒下層 d1 式古段階古」とした、H29 覆土下位とH21 はほぼ同じ時期である。

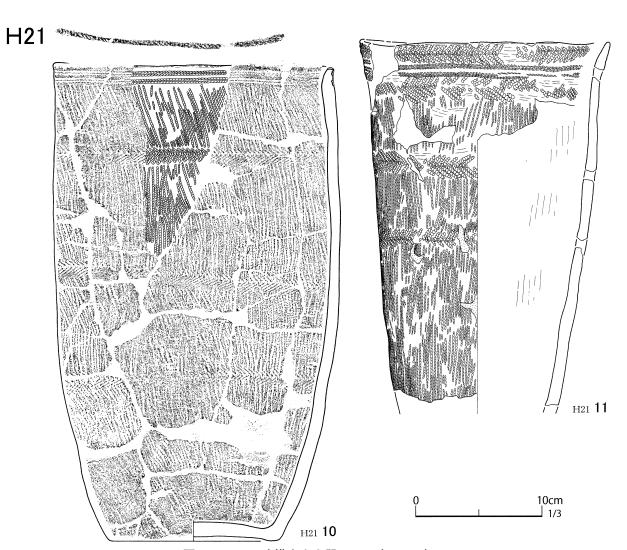
覆土9層の8、覆土7層南側からは $1\cdot 2\cdot 5$ など円筒下層 d1式最古段階のものが出土しているが、残存状態が悪い。このころの盛土を掘りこんで逆に流入してきた可能性がある。覆土7層北側を中心に出土した $3\cdot 4\cdot 6\cdot 7\cdot 9\sim 11$ は円筒下層 d1式古段階古である。

12~14・16・17・26 は覆土東側上位から出土した。12 は焼成粘土塊である。13・14・16・17・26 は円筒下層 d 1 式である。26 は中央から東側にかけて覆土上位からの出土である。13 のように明瞭な隆帯による口縁部文様帯を区画する個体は調査範囲内では少ない。14 の口縁部文様帯には結束第一種羽状縄文の対向がみられる。26 は山形文が鋸歯状に連続する。菱形文風である。いずれも円筒





8



図Ⅲ-2-8 遺構出土土器 H21(10·11)

下層b式起源で円筒下層c式にかけて盛行した文様に由来する。

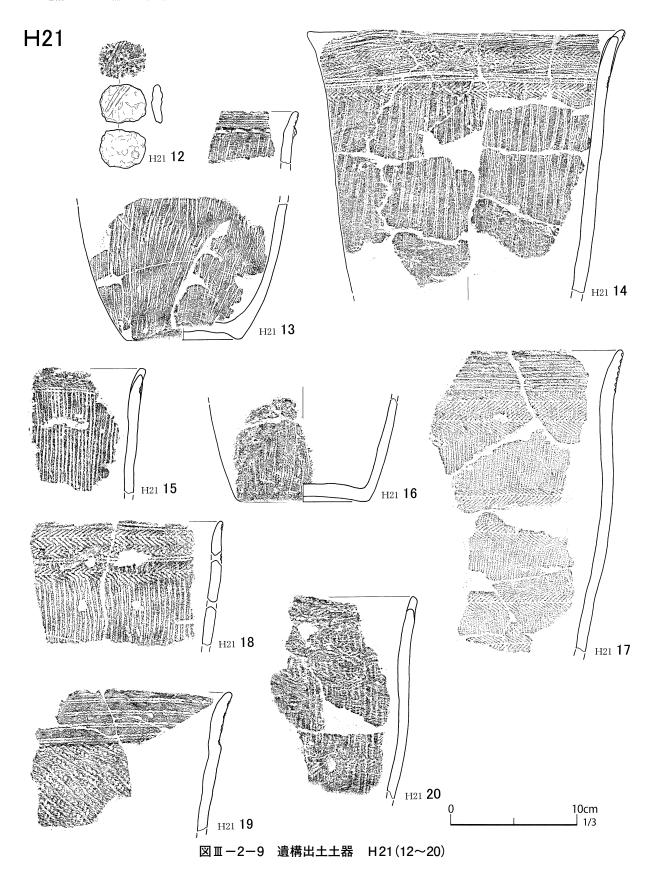
15・18・19 は覆土東側壁際から出土した土器片である。15・18 は円筒下層 d1 式、19 は円筒下層 c 式である。地文が合撚りと、古い傾向が残る。肩部で口縁部文様帯を区画するタイプは調査区内では少ない。18 は二対の補修孔を持ち、縁辺を四角く成形した、再生土製品の一種という可能性がある。20・22~25・28 は覆土東側下位から出土した。20 は東側上位のものと接合した円筒下層 d1 式、28 は円筒下層 c 式、22~25 は焼成粘土塊である。

 $21\cdot 27\cdot 30\cdot 33$  は覆土 7 層から出土した。 $30\cdot 33$  は覆土 7 層上位からの出土である。30 は円筒下層 b 2  $\sim$  c 式期の胴部片を加工したものである。縁辺を打ち欠きと擦り切りによって円形に成形し、ほぼ中央に穿孔する。 $21\cdot 27\cdot 33$  は円筒下層 d 1 式である。21 は、覆土 9 層をはじめとして広範囲に破片が散らばっていた。33 は筒型の深鉢で、一段階前の器形を思わせたが、文様は円筒下層 d 1 式のそれである。破片数は多かったが、胴部と口縁部の接点はなかった。

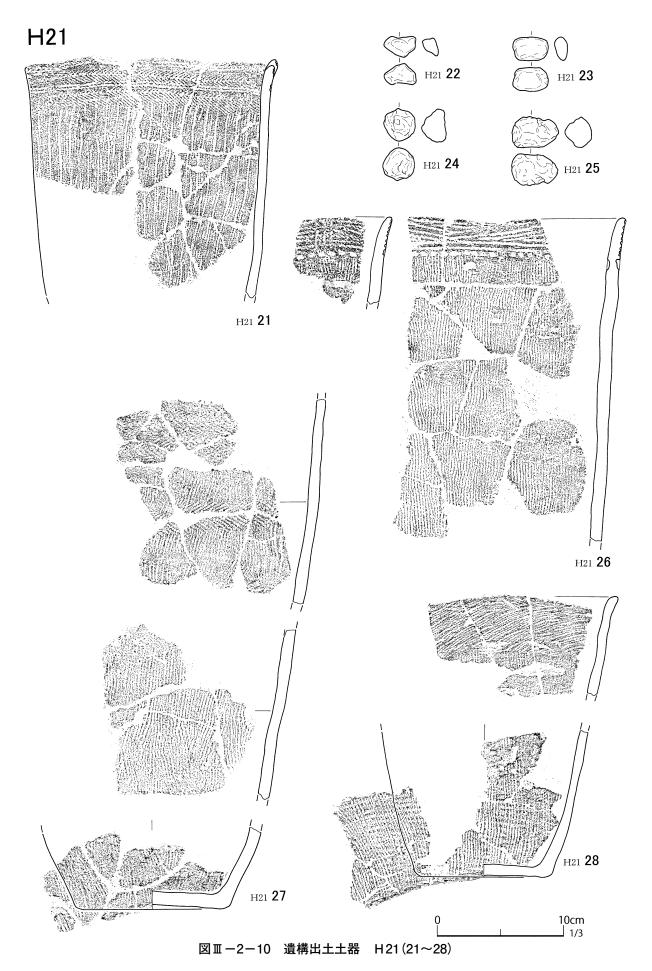
29 は覆土下位から出土した。円筒下層 b 式の底部際破片を成形した再生土製品の可能性がある。

32・36 は覆土9層から出土した。32 は円筒下層 d1式である。36 は円筒下層 b2式の古段階のものである。縄文地文。隆帯で口縁部を区画する。

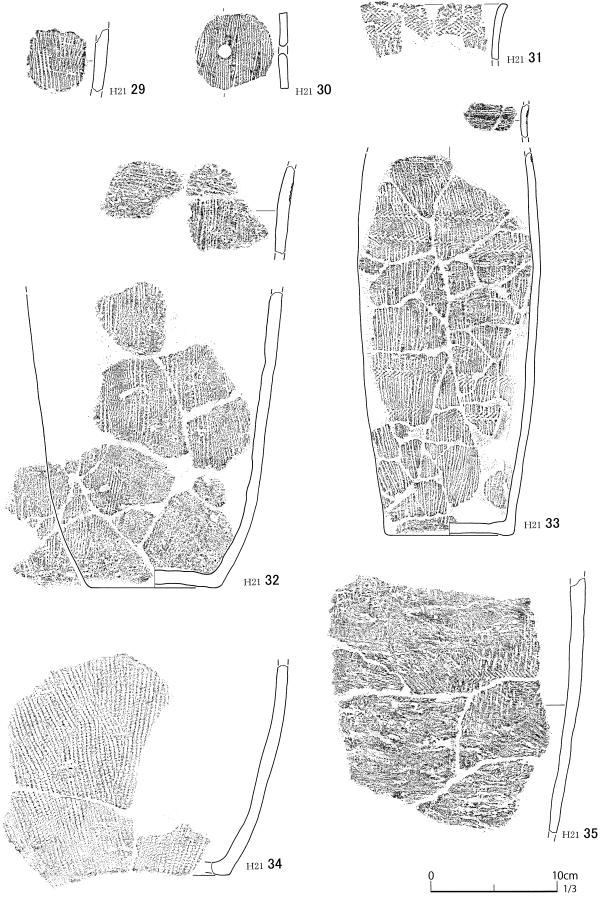
31·35 は覆土上位南側から出土した。34 は覆土上位から出土した。38 は覆土西側から出土した。37·39 は覆土からの出土である。Aトレンチからの出土なので住居中央部分である。いずれも円筒



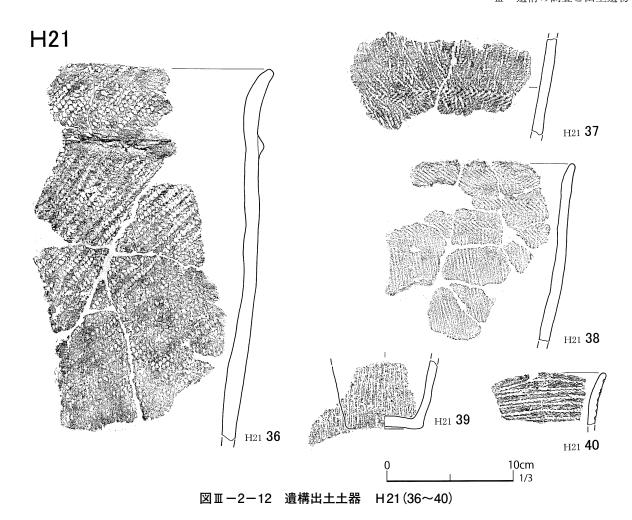
10







図Ⅲ-2-11 遺構出土土器 H21(29~35)



下層 d1式である。

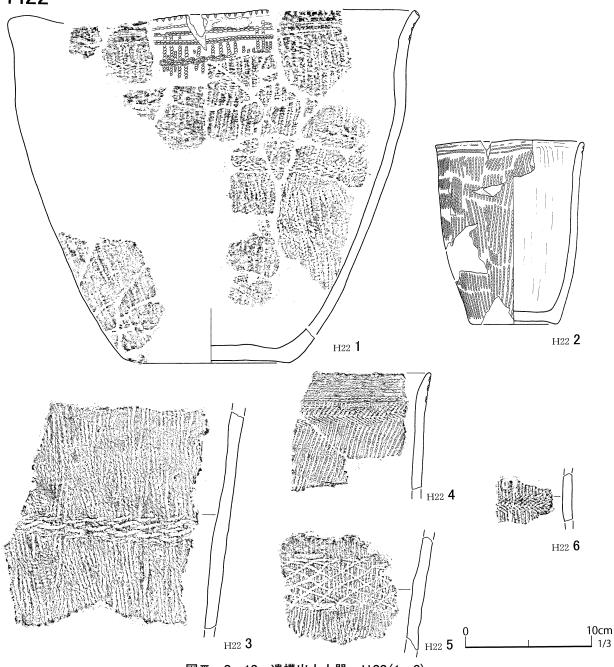
40 は床面から出土した円筒下層 c 式の口縁部破片である。縄線で加飾する。

H22:覆土下位から、円筒下層 d1式古段階( $1\cdot 2$ )および HP -2から、円筒下層 d1式(6)が出土している。1 は覆土 5 層からまとまって出土した。円筒下層 d1式で磨滅が著しい。他個体と比較して、器高に比べて径が大きい。2 は覆土東側からまとまって出土した。円筒下層 d1式で小型の深鉢である。

3・5 は覆土中から出土した円筒下層 b 式の破片である。いずれも胴部中央に帯状の文様帯を持つ。 3 は結節回転、5 は単軸絡条体第 5 類横回転。4・6 は円筒下層 d 1 式である。4 は覆土の西側から出 土し、古段階の可能性がある。6 は付属遺構 HP-22 覆土中から出土した胴部破片である。

H23:  $1\cdot 5\cdot 6$  は覆土中から出土した円筒下層 d 式土器である。1 は円筒下層 d 1 式の小型深鉢。点取りN0.1 は円筒下層 d 1 式の複数個体の破片によって構成されているが、このうちに混じっていた。5 は円筒下層 d 2 式で点取りN0.3 である。器壁が厚く、肩部が明瞭に張り出す。6 は覆土 3 層から出土した円筒下層 d 式で、結節の帯が胴部中央を巡ることから古手のものだが、幅広い口縁部文様帯を持つ。調査区内でまとまって出土した円筒下層 d 1 式よりは新しいあるいは、異系統の土器である。点取りN0.3 である。

2・3 はIV群 a 類土器である。2 は小型深鉢で、口縁部の形態から、涌元式~トリサキ式に並行す



図Ⅲ-2-13 遺構出土土器 H22(1~6)

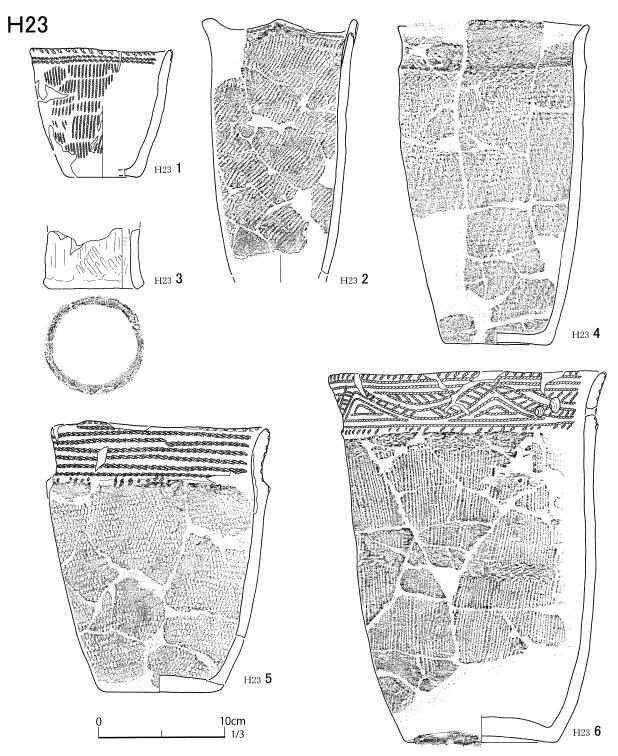
る。十腰内式由来の沈線文を持たない。3は高台状の脚である。

4 は覆土 2 層から出土した円筒下層 d 1 式、円筒下層 c 式に近い古手のもので磨滅が著しい。点取  $0 \times 2$  である。多軸絡条体地文を持つ。

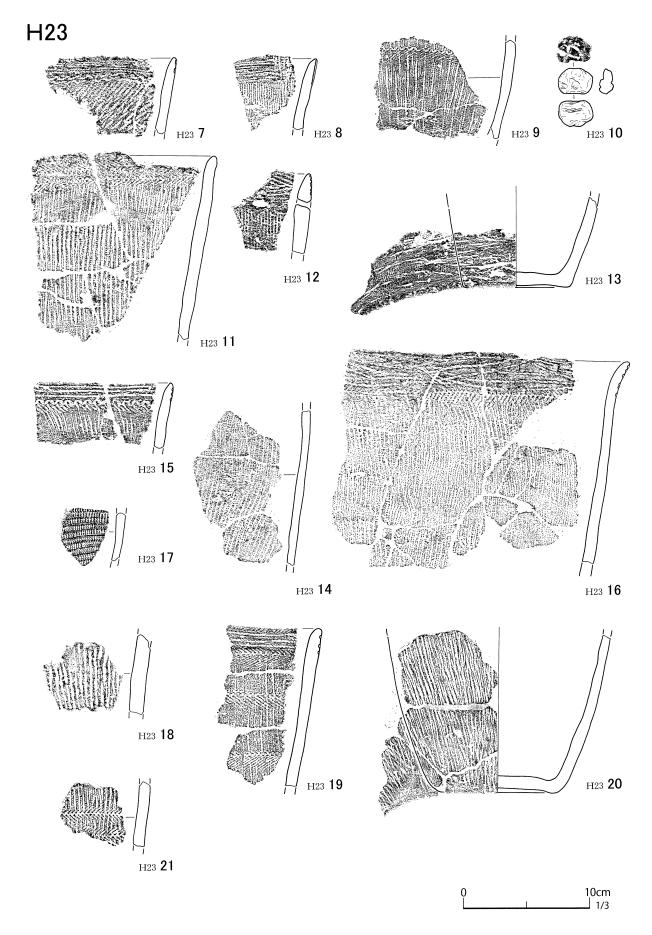
7・8・11 は点取りNo.1 あるいはNo.2 に混在していた円筒下層 d 1 式である。7 はNo.1、8 はNo.2、11 はNo.1 とNo.2 両方の遺物が接合した。

 $9\cdot12\cdot13$  は覆土出土点取り $10\cdot3$  に混在していた。9 は円筒下層 d 1 式、 $12\cdot13$  は下層 d 2 式の可能性がある。9 は胴下半部破片である。12 は焼成以前の穿孔を持つ。13 は底部から胴部にかけての破片である。

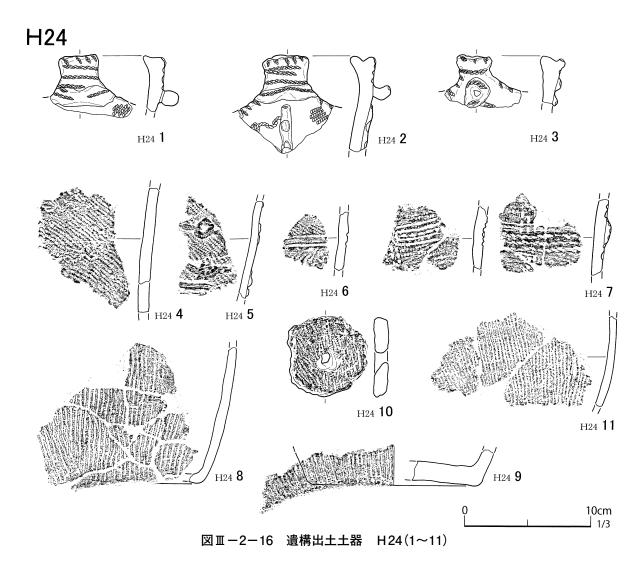
10 は覆土出土の焼成粘土塊であり、繊維を含む事から円筒下層式の胎土と共通する。



図Ⅲ-2-14 遺構出土土器 H23(1~6)



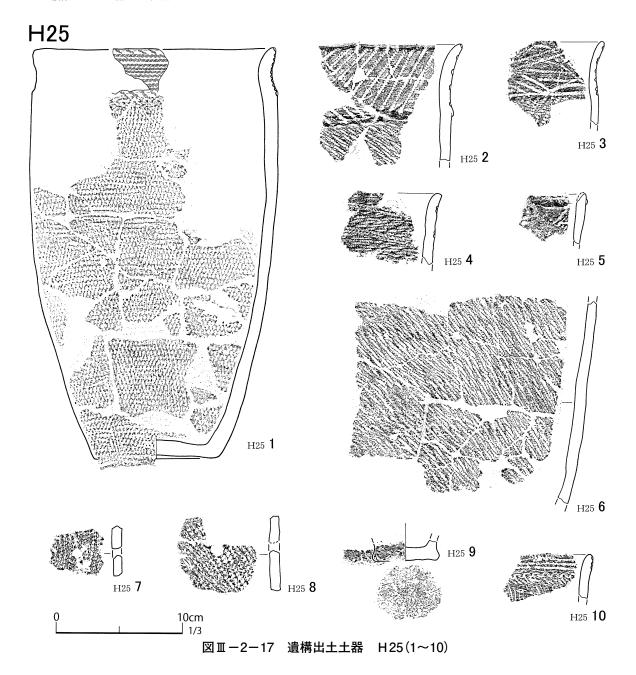
図Ⅲ-2-15 遺構出土土器 H23(7~21)



14・16 は点取りNo.4 から抽出した円筒下層 d1 式である。

 $17\sim20$  は覆土からの出土である  $19\cdot20$  は円筒下層 d 1 式である。17 は縄文時代早期コッタロ式ないしは中茶路式である。18 は円筒下層 b 式である。21 は付属遺構 HP-2 の覆土から出土した円筒下層 d 1 式土器である。

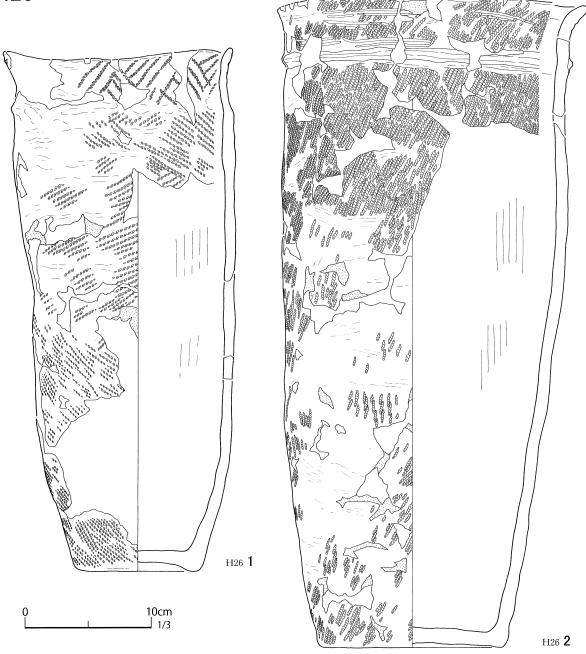
日24:1は床面出土のものでサイベ沢 $\Pi$ 式である。 $2\sim 4\cdot 6$ は覆土 2 層出土遺物で、サイベ沢 $\Pi$ 式である。5 は覆土 1 層と覆土 2 層出土遺物が接合したもので、円筒上層 d 式である。7 は覆土 1 層と覆土 2 層出土遺物が接合したもので、円筒上層 d 式である。7 は覆土 1 層と覆土 2 層で同一個体片が出土した。 $\Pi$ 群 b 類大安在 B式である。 $8\cdot 9$  は覆土 2 層出土遺物で、円筒下層 d1 式である。10 は覆土 2 層出土で、円筒下層 b 式から円筒下層 c 式にかけての土器胴部片である。縁辺を打ち欠き、中央に穿孔がある。11 は床面遺物と覆土 2 層出土遺物が接合した。円筒下層 b 式後半である。



7は覆土2層出土である。円筒下層b式から円筒下層c式の胴部破片である。縁辺を打ち欠いて中央に穿孔する。再生土製品に関連するものとした。8は付属遺構 HP−2 覆土出土である。円筒下層b式の胴部破片である。縁辺を打ち欠いて中央に穿孔する。再生土製品に関連するものとした。

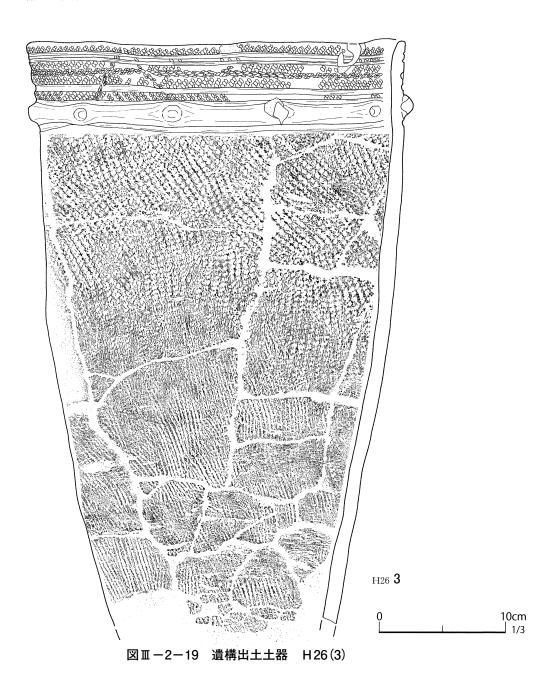
10 は床面出土である。円筒下層 d 1 式の口縁部破片である。9 は付属遺構 HF − 1 覆土 3 層出土である。平底で小型の底部である。円筒下層 d 1 式かⅢ群 a 類土器の可能性がある。



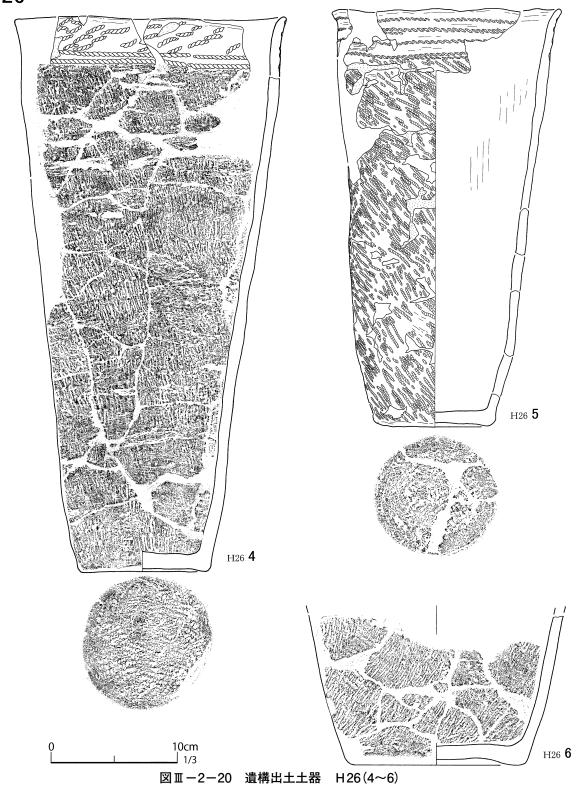


図Ⅲ-2-18 遺構出土土器 H26(1·2)

H26 廃絶後、44 Y 区で取り上げられたM6-2 出土遺物はM6に掘り込まれたH26 竪穴住居の廃絶後に、その窪みに廃棄された遺物群である。上位は焼土を伴う「H26 内廃棄層出土遺物」下位は「H26 覆土2層廃棄遺物」後者で、M6から振替可能だったものは先述の点取りされた二個体の土器である。同時に現地で点取り№3とした石器はM6盛土関連遺物として石器掲載番号635(第3分冊)



として図化した。これは上の「H26内廃棄層遺物」と考察した時点で図版を作成したためである。調査時にH26廃絶後に堆積した44Y区の土層出土遺物はM6-2出土として記録した。そのため机上の操作でこれらをH26廃棄層出土遺物とH26覆土2層出土遺物に振り分けることは不可能であった。隆帯で口縁部文様帯を区画する2・3がある。隆帯が明瞭な3は上に連続刺突を持つ。2は隆帯の直上直下に沈線文を施す。口縁部文様帯に、4は結節回転文を持ち、1は複数の縄線を鋸歯状に配する。3は縄線で鋸歯状文の一部を施す。さらに3・4が地文に単軸絡条体回転地文を持つ。3は胴部上半が縦走縄文下半が絡条体地文。4は単軸絡条体4類か6A類か判然としなかったが6A類の可能性が高い。器形的には、1・2に対し3・4・5はゆるく胴部中央から外反する筒形である。5が共伴するなど、器形や胎土を考慮すると時間軸的には時期的には一段階古い円筒下層b2~c式に並行すると考える。しかし1~6は円筒下層c式土器の様相が強い土器のまとまりとした。そこで特に「円筒下層c式古段階」とした。



H27:1は床面出土のものである。円筒下層 c 式である。波頂部から垂下する擦痕が明瞭である。2は円筒下層 b 2 ~ c 式、口縁部に水平方向に走る縄線が複数段施される。6は円筒下層 b 2 式新段階である。覆土 2 層出土である。5・8 は覆土 1 層出土である。5 は焼成粘土塊である。8 は円筒下層 d 1 式である。口縁部に結束第一種羽状縄文が二段施される。

4・7 は覆土2層出土である。円筒下層c式である。4 は口縁部文様帯の幅が狭く、隆帯上に刺突が連続する。7 は器壁が薄く、単軸絡条体地文が密である。円筒下層d1式に近い新しい時期のものである。3 は覆土2層出土である。円筒上層a式である。

H28: 1·2 は覆土出土の円筒下層 d1式である。1は覆土3層、2は覆土1層の出土である。

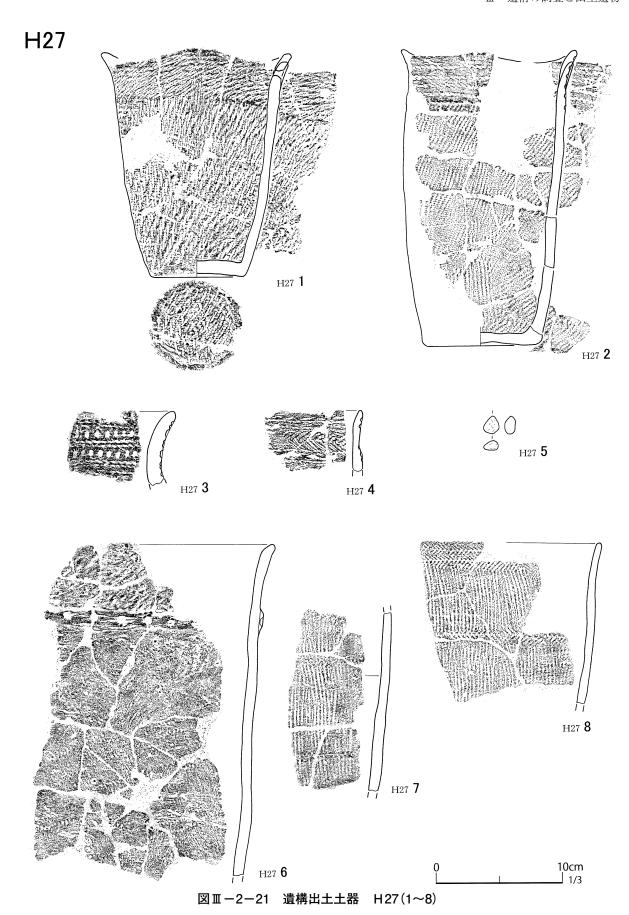
3・5・6・10 は覆土1層出土である。3 は焼成粘土塊である。5・6 は円筒下層2式新段階の土器底部と考える。10 は円筒下層bから下層c式の底板部の破片である。縁辺を打ち欠き、中央付近に穿孔する。4 は床面出土である。円筒下層c式である。8 は覆土2層出土である。縄文時代早期の土器である。7・9・11 は覆土3層出土である。7 は円筒下層d1式並行の土器底部と考える。9 は円筒下層d1式である。縄線による平行線文を口縁に持ち、刺突列で区画する。H21-26という可能性が高い。11は9と類似した文様構成だが、文様帯が幅広く、胎土の砂粒が少ない。円筒下層c式と考える

H29: 竪穴住居廃絶直後の廃棄としては 25 が覆土下位№ 18 と 60 Q 区M 2-2 出土遺物との接合である。廃絶直後の家の遺物と 5 m離れた斜面際の遺物が接合した。

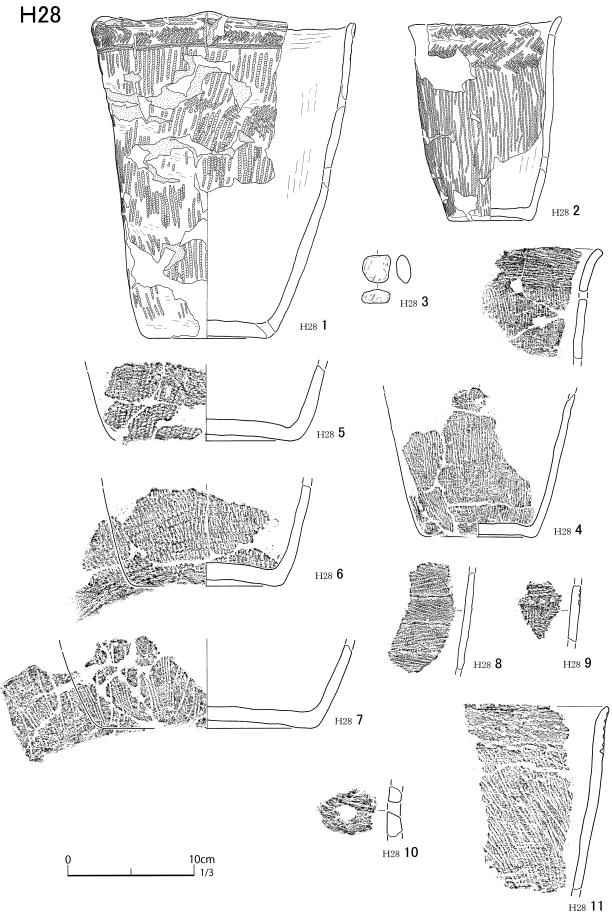
 $1\sim11\cdot13\cdot14\cdot17$  は円筒下層 d 1 式古段階新。 $25\sim37\cdot38\cdot40$  は円筒下層 d 1 式古段階古。 $12\cdot15\cdot16\cdot18\sim23\cdot41\cdot42\cdot44\sim46\cdot49$  は円筒下層 d 1 式。24 は円筒下層 d 2 式、43 は円筒下層 c 式、 $47\cdot48$  は円筒下層 b 式、50 は焼成粘土塊である。

1~18・22・23 は覆土上位出土である。

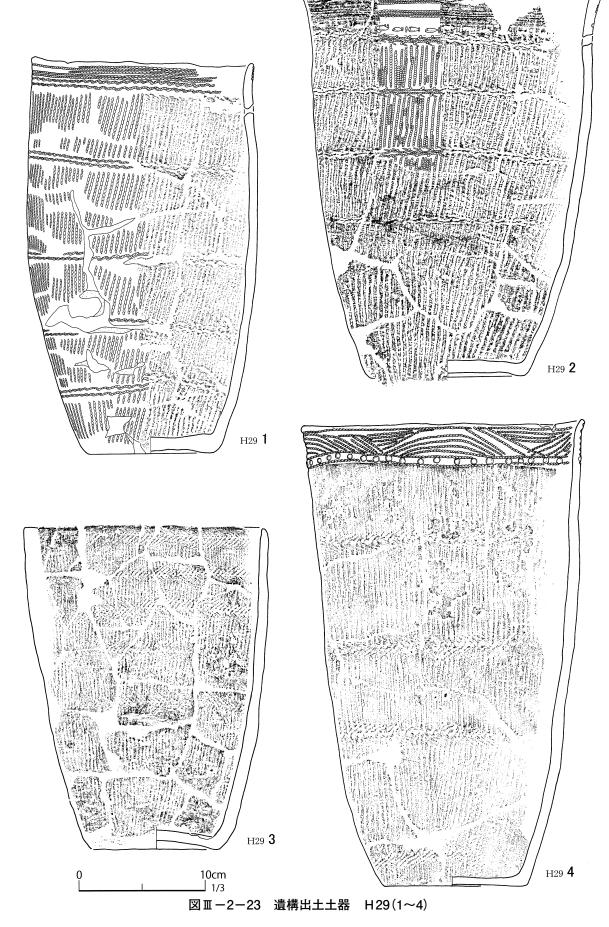
1は点取り№ 30である。単軸絡条体とふたつの結節回転による多段の帯。縄線による口縁部文様。 2は点取り№4である。自縄自巻とふたつの結節回転による多段の帯。頸部には押し引きが巡る。矢 羽縄線による口縁部文様。連続刺突があり、押し引き風である。3 は点取りNo.1 である。単軸絡条体 と結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文回転による口縁部文様。4 は点取り No. 14 で ある。自縄自巻と結束第一種羽状縄文による多段の帯。口縁部文様帯には縄線による波状文と鋸歯 状文の組み合わせ。頸部には連続した円形刺突を持つ隆帯。5は点取りNo.12である。覆土上位No.9 や11と接合している。自縄自巻地文。縄線による口縁部文様。6は点取り№5である。覆土上位№4 と接合している。小型深鉢、単軸絡条体地文。縄線による口縁部文様。7は点取りNo.5である。自縄 自巻地文である。縄線による口縁部文様でところどころ縄線により縦区画。8 は点取りNo. 13 である。 覆土上位№9と接合している。四単位と思われるゆるやかな波頂部を持ち、自縄自巻地文である。縄 線による口縁部文様。9は点取りNo.30である。自縄自巻地文。縄線による口縁部文様。10は点取り No.3である。自縄自巻地文。口唇に爪による刺突、口縁には押し引きが連続する。矢羽縄線による口 縁部文様。11 は点取りNa.2 である。口縁部文様帯には、矢羽縄線によって直線的な山形の連続を施す。 自縄自巻地文。矢羽縄線による菱形基調と思われる縄線文。水の影響か、脱色して変形著しい。12 は点取りNo. 10 である。自縄自巻に、結束第一羽状縄文により多段の帯。胴下半から底部にかけて残存。 13 は点取りNo.6 である。縄文を縦走させる地文。結束第一種羽状縄文を二段口縁部に施す。14 は点 取りNo.8である。同一個体の可能性がある遺物が覆土下位点取りNo.21に混在していた。口縁部文様 帯は複数本のL縄線による曲線構成の文様。自縄自巻を縦走する地文。15 は点取り№ 32 である。自

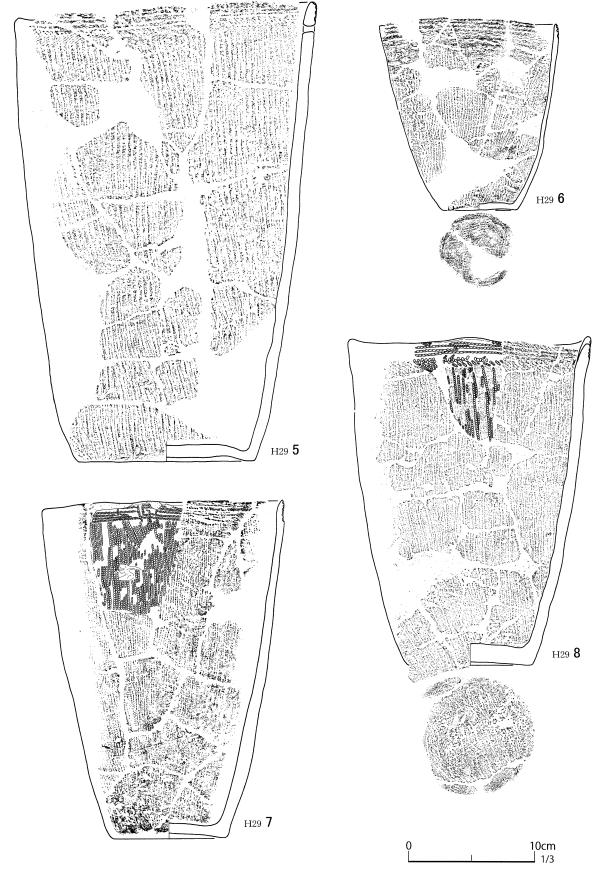


23

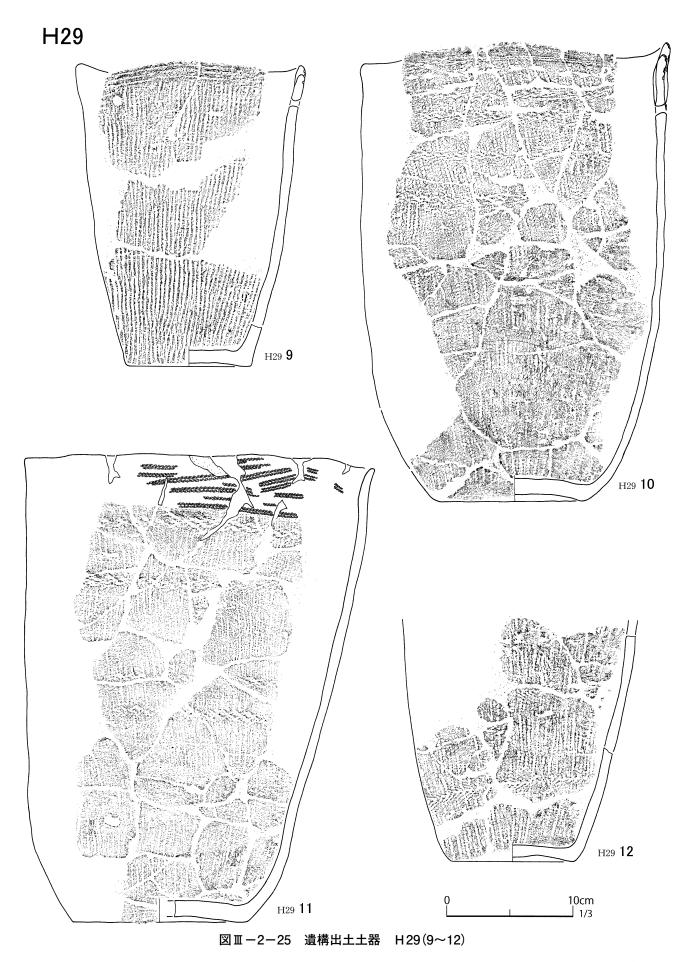


図Ⅲ-2-22 遺構出土土器 H28(1~11)

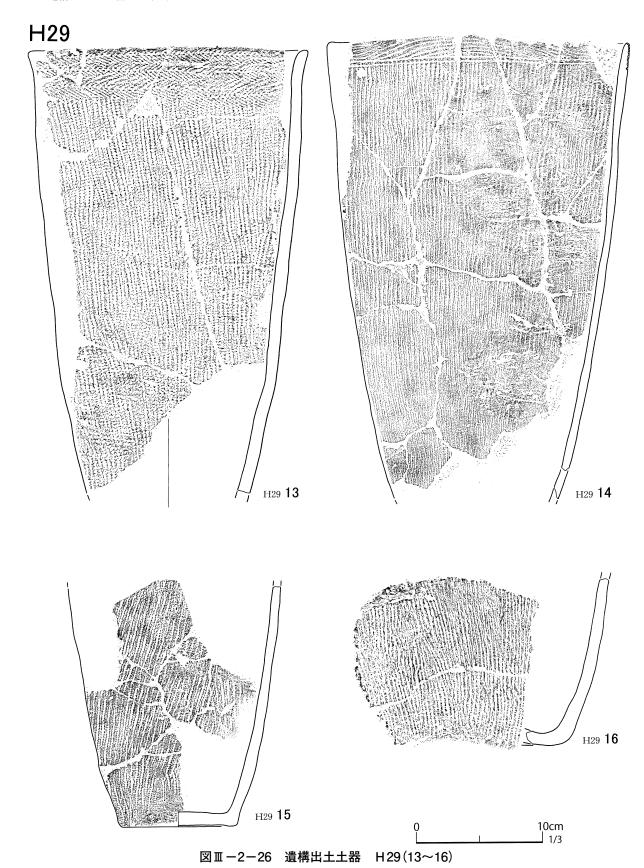




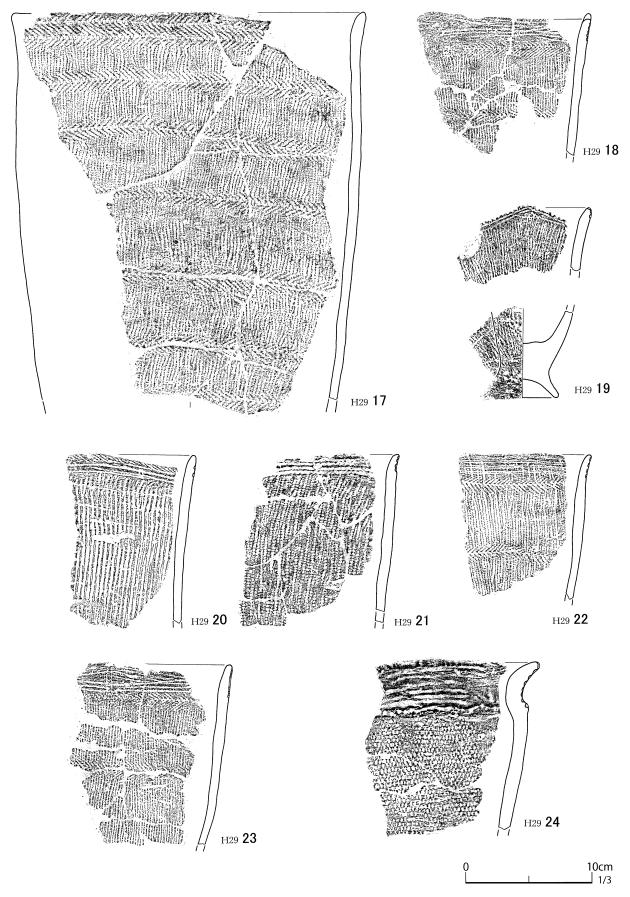
図Ⅲ-2-24 遺構出土土器 H29(5~8)



27



縄自巻地文の胴下半から底部にかけて残存。16 は点取りNo.7である。単軸絡条体地文を底面にも有する。胴下半から底部にかけて残存。17 は点取りNo.9 である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文による口縁部文様。その直下には逆回転でもう1 段施す。18 は点



図Ⅲ-2-27 遺構出土土器 H29(17~24)

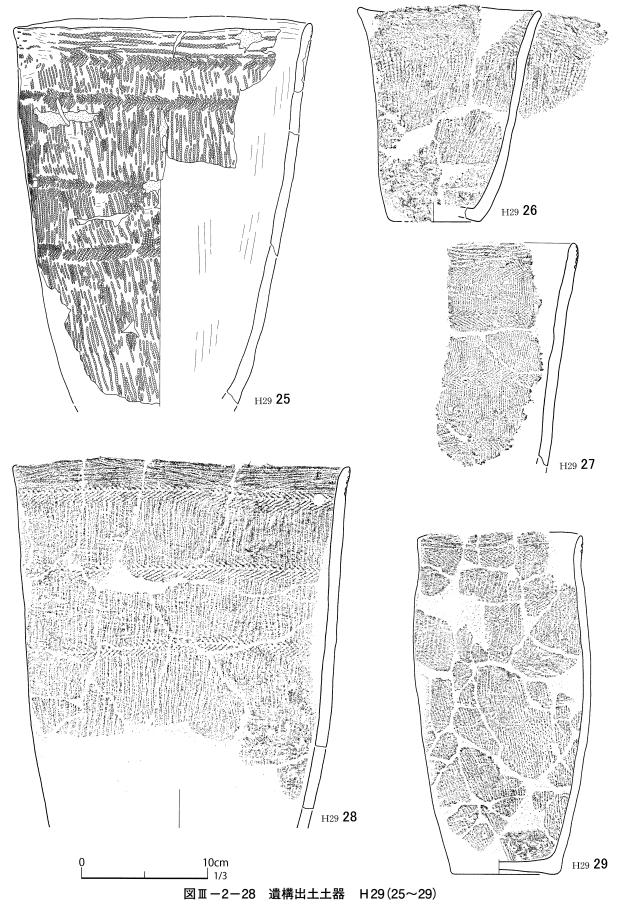
取りNo. 32 である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状縄線によって菱形文様施文。縄線で口縁部文様。19 は覆土からの出土である。円筒下層 d 1 式の脚付き小型杯である。単軸絡条体地文。縄線で口縁部施文。トレンチ出土の口縁部と覆土出土底部に接点は無く、地文と径からの推定である。22・23 は覆土上位からの出土である。いずれも自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。24 は覆土上位出土、円筒下層 d 2 式である。肩部には円形刺突が連続。多軸絡条体地文。口縁部には縄線文様。

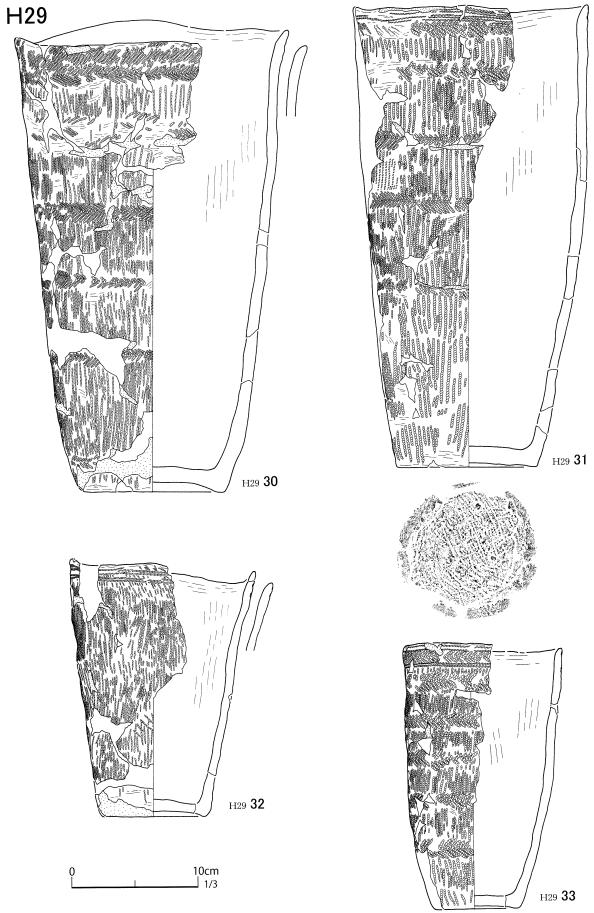
20・21 は覆土からの出土である。円筒下層 d l 式である。いずれも自縄自巻地文である。 25~40 は覆土下位出土である。

25 は点取りNo. 18 である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文による多段の帯である。矢羽状縄線 による口縁部文様。26 は点取りNo. 17 である。小型深鉢で、自縄自巻を口縁部と胴部に施文。自縄自巻 を口縁部に横回転。27 は点取りNo. 16 と 17 が接合した。26 と共伴して出土した。単軸絡条体と結束第 一種羽状縄文による多段の帯。縄線による直線構成の口縁部文様構成。28 は点取り№ 15 である。覆 土下位No.16と接合している。自縄自巻と結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状の縄線により山形文 様の連続による口縁部文様。29 は点取りNo. 20 である。自縄自巻地文である。縄線による口縁部文様。 30 は点取りNo 19 である。絡条体地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文の回転 により口縁部文様を構成。矢羽状風縄線によって口縁部文様を構成する。31 は点取り№ 17 である。覆 土下位No.19と接合している。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。縄線による直線構成の口縁 部文様。ゆるやかな波頂部の形状も反映する。32 は点取りNo 24 である。単軸絡条体地文。結束第一 種羽状縄文回転後、矢羽状縄線押圧。33 は点取りNo. 26 である。縄文を縦走と結束第一種羽状縄文で 多段の帯。34 は点取り№ 27 である。覆土下位№ 20. 29 と接合している。付属遺構 HP-12 出土遺物 と接合している。絡条体地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状縄線によってゆるやかな波頂 部に対応した、曲線的な縄線文様。35 は点取りNo.22 である。自縄自巻と結束第一種羽状縄文により多 段の帯。撚りの違う縄線を交互に密にして施す。36 は点取り№ 15 である。付属遺構 HP-19 覆土出土 遺物と接合している。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状風の縄線によって直線構成 の文様が施される。37 は点取りNo.38 である。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一 種羽状縄文施文後、矢羽状縄線が施文される。38 は覆土下位点取りNo. 20 である。円筒下層 d 1 式である。 絡条体地文に結束第一種羽状縄文による多段の帯。菱形を基調とした、直線構成の文様を口縁部に持 つ。菱形に対応する縦区画を持つ。39 は覆土上位点取りNo.31 である。覆土下位点取りNo.19 と覆土最 下位点取りNo.38に同一と思われる破片が混じる。円筒下層d1式である。自縄自巻に、帯状に2段の 結節回転。40 は覆土下位点取りNo. 23 とNo. 25 が接合した。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段 の帯。結束第一種羽状縄文を施文後、矢羽状縄線を施文する。41 は覆土最下位出土点取りNo. 39 である。 絡条体地文による底部。42 は付属遺構 HP-12 覆土からの出土である。自縄自巻地文。胎土には砂粒 が目立つ。43 は床面出土、点取りNo.48 である。円筒下層 c 式である。直前段反撚り地文の底部。

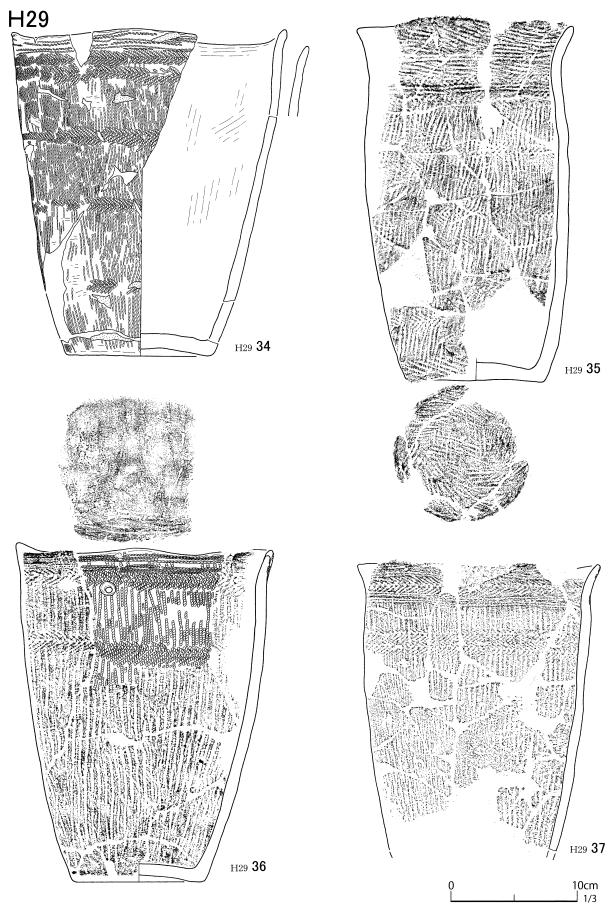
44~49 は再生土製品の可能性が高いものである。44~46 は覆土上位から出土した。円筒下層 d 1 式の土器片を擦り切りによって短冊状に成形したものである。47~49 は土器片の縁辺を打ち欠きによって粗く成形したものである。丸くしようとした可能性がある。3 点とも覆土出土で遺物番号 179 であり同日同時同地点にて取り上げられたものである。同時期の所為とも考えられる。48・47 は円筒下層 b 式、49 は円筒下層 d 1 式である。48 は中央に穿孔がある。

50 は覆土上位から出土した再生土製品である。繊維と海綿骨針を含み、円筒下層式土器の胎土に似ている。竹管背面による押し引きが残る。

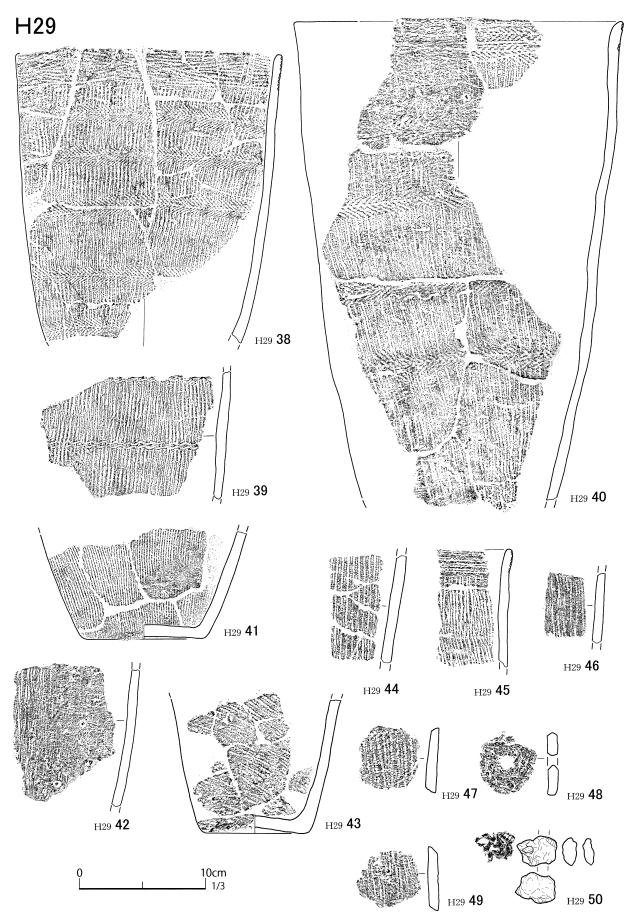




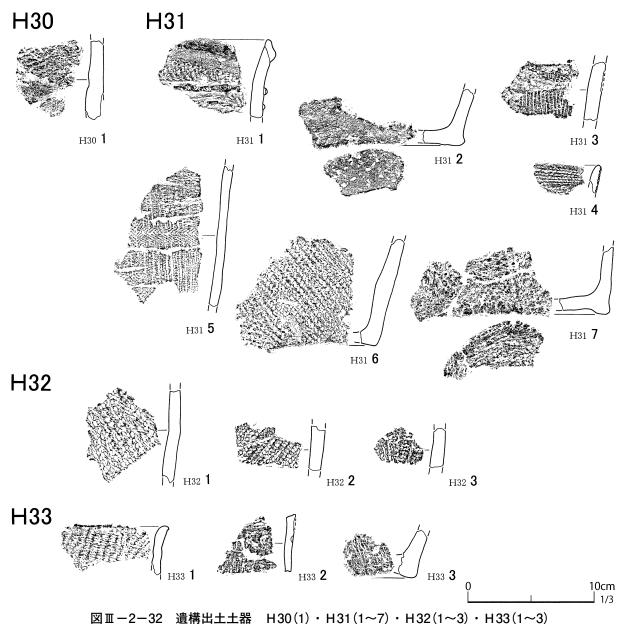
図II-2-29 遺構出土土器 H29(30~33)



図Ⅲ-2-30 遺構出土土器 H29(34~37)



図Ⅲ-2-31 遺構出土土器 H29(38~50)



覆土下位に無く、上位にある特徴として刺突列、口縁部文様に曲線的な要素が入ってくる点を挙げ

H30:1 は床面からの出土である。円筒下層 b 式である。磨滅が著しく断定できないが縁辺を加工した再生土製品の可能性がある。

る事ができる。

H31:  $1 \sim 6$  は覆土 1 層出土である。7 は床面出土で、点取り 1 である。 $1 \cdot 2$  は円筒上層 1 式である。1 は細い粘土紐による加飾がある。1 は底面には網代様の痕跡があるがミガキにより不明瞭。1 は円筒下層 1 は円筒下層 1 である。1 は細り

4・5 は円筒下層 d 1 式、4 は矢羽状縄線、5 は自縄自巻と結束第一種羽状縄文による多段の帯。6・7 は円筒下層 b 式である。6 は複節地文、7 は直前段合撚地文。

H32:1~3は円筒下層b式で、1は古段階の可能性がある。直前段合撚地文。1·2は床面から出土

した。3は付属遺構 HF-1 覆土1層からの出土である。単軸絡条体地文。

H33:  $1 \sim 3$  は円筒下層 b 式である。1 は覆土 1 層から、2 は HF -1 覆土 3 層からの出土である。3 は床面から出土した。1 の地文は縄文が縦走する。2 は器壁の薄さと内面調整のミガキの丁寧さから円筒下層 c 式の可能性もある。3 は単軸絡条体地文。

H34: H34 は覆土から円筒下層 b 式から円筒下層 c 式が出土。覆土上部の2層に円筒下層 d1 式新段階を廃棄する。1~3 は覆土2層出土である。円筒下層 d1 式であるが新段階で円筒下層 d2 式に近い。1 は点取りNo.7、2 は点取りNo.1、3 は点取りNo.8 である。1の口縁部文様帯は矢羽状縄線で山形文を施す。区画内には縄を曲げた部分を連続押圧する。単軸絡条体地文。2・3 は自縄自巻地文。口縁部文様帯について、2 は縄線を交差し、3 は山形文を鋸歯状に連続する。

4、5は覆土2層出土破片が接合している。いずれも円筒下層 d 式で 4・5 ともにサルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。1~3に近い時期のものと考える。4 は胴部下半分のため、新旧明言し難い。覆土2層点取り№6である。覆土西側のまとまりと接合した。5 は磨滅が著しい。覆土2層点取り№1と覆土1層№2が同一個体であると考える。点取り№2を図化した。円筒下層 d1式胴部のまとまりである。点取り№1と同一と思われるものを図化した。口縁部には縄線により直線構成の文様。点取り№4は円筒下層 d1式胴部のまとまりだが、磨滅砕片が主体で接合・図化が出来なかった。出土する円筒下層 d1式新段階については、口縁部文様帯に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す段階である。円筒下層 d2式により近い時期。

H35: 1 と 2 は床面出土、点取りNo.6 から立ち上がった復元土器である。二個体の円筒下層 c 式土器が、No.6 として床面で潰れていたこととなる。

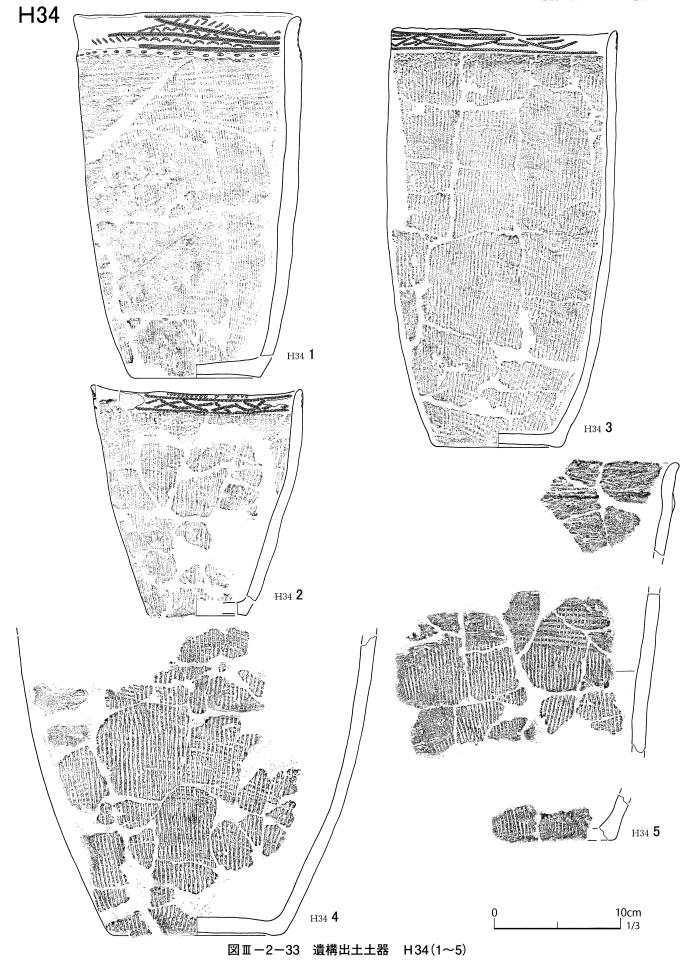
1は半截竹簡の表裏を使った沈線文が描かれる。口縁地文は縄文。胴部地文は絡条体である。ゆる やかな波頂部を持つ。2も同様の器形だが全面縄文地文である。

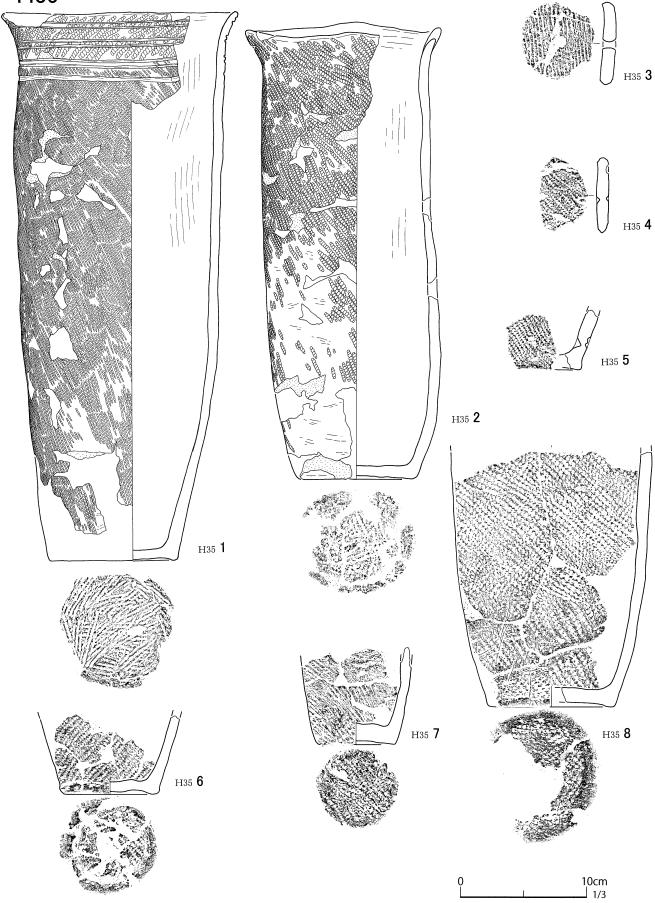
 $3\cdot 4\cdot 5$  は再生土製品の可能性が高いものである。3 は床面からの出土で縁辺を成形し、中央に穿孔する。比較的形状が整う。4 と 5 は覆土からの出土で中央に穿孔がみられるが貫通してない。5 は底部際の破片であり、器の形状に即して図化した。

6 は覆土1層下位点取り№ 22 である。7 は覆土1層下位点取り№ 18 である。8 は覆土1層下位点取り№ 19 と 20 である。上げ底と筒型の胴部から、円筒下層 b 2 ~ c 式前後の胴部下半から底部にかけてである。

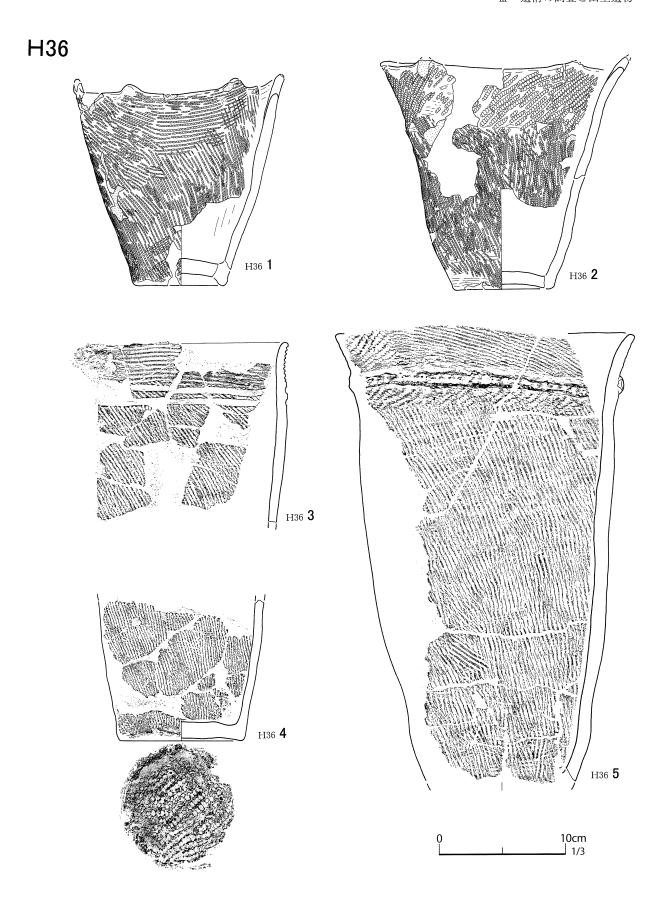
H36:  $1\cdot 2$  は覆土 2 層から二個体まとまって出土した。いずれも六単位の波頂部を持つ又は持ったと推定できる、円筒下層 b  $2\sim c$  式土器である。よく外反する口縁部形態を持ち薄い器壁を持つ。口縁部文様帯の原体は違うが、よく類似した器形である。1 は覆土 2 層出土N0.5 を主体として、覆土 2 層出土2 層出土30.6 が接合した。30.7 が接合した。30.8 が表さる。30.8 が表

5 は覆土 2 層から出土した。点取りNo.6 とM 4-3,58 R 区から出土した遺物が明らかに同一個体であった。底は見つからず、口縁部から胴部にかけてのまとまりが、縦半分ずつ8 m ほど離れた場所から見つかった。円筒下層 b 2 ~ c 式のころの深鉢と考えられるが、口縁部文様帯直下に文様帯があるといった古い要素も持つ。隆帯上はヘラによる刺突が連続する。三個体とも胎土は円筒下層 c 式に近

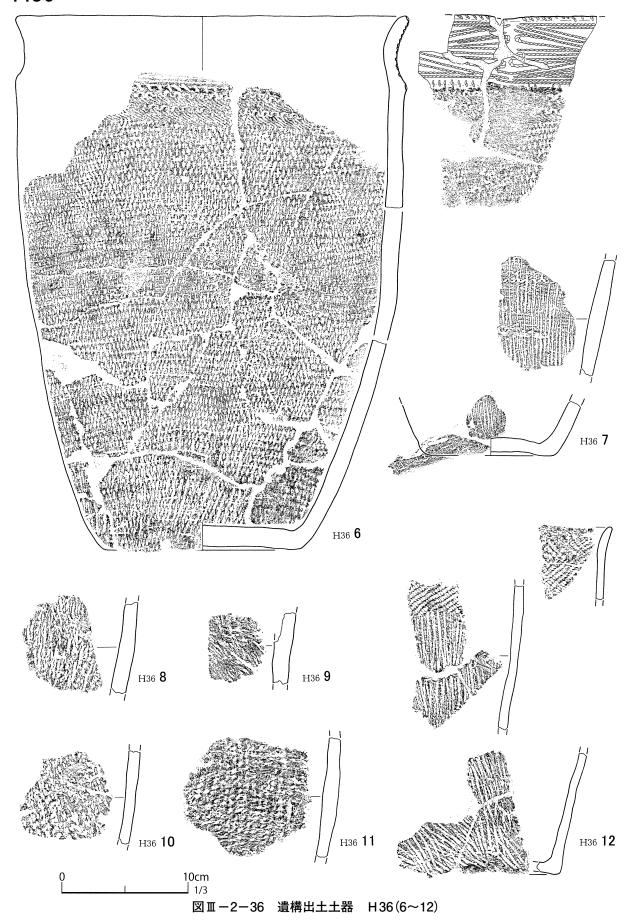


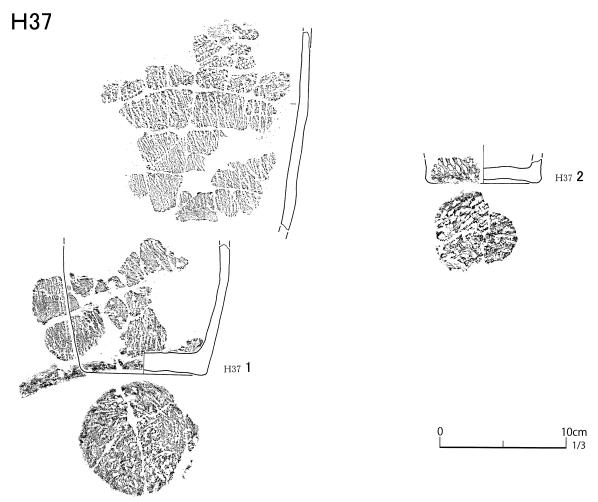


図Ⅲ-2-34 遺構出土土器 H35(1~8)



図Ⅲ-2-35 遺構出土土器 H36(1~5)





図Ⅲ-2-37 遺構出土土器 H37(1~2)

い。H36-5 と同様な例としてH29-25 がある。住居出土遺物と住居から 5 m離れたところのまとまった破片が接合した。このH36-5 とH29-25 のいずれについて顕著な磨滅も無く、意図的に打ち欠いて別々のところに捨てた可能性がある。「斜面の際」と「住居廃絶後の窪み」に捨て分ける点が共通する。

No.4のほとんどが6の円筒下層d2式となった。口縁部破片はNo.4の出土した58U区M2-3から住居検出前に見つかった破片である。接点はなかった。肩部の文様と径、地文から同一個体と判断した。口縁部文様には縄の屈曲部を対向させる。覆土の西側からは円筒下層b2~c式土器が出土している。

- $3\cdot 4\cdot 8\sim 12$  は覆土西側から出土した。 $3\cdot 4\cdot 12$  は円筒下層 b  $2\sim c$  式のもの他は円筒下層 b 2 式相当と考える。
- 3・4 いずれも単軸絡条体地文である。3 は口縁部文様帯にサルボウ条痕を施し、沈線で胴部と区画する。4 は意図的に穿孔された破片が接合した(左上の破片の孔)。底面には胴部地文と異なり縄文を施す。8~11 は縁辺が意図的に成形されている可能性がある。再生土製品として扱った。11 は全面が磨滅している。

7と12は比較的破片数が多く残存していたが、復元には至らなかった。7は覆土東側からの出土である。円筒下層 d 1 式の胴下半部である。自縄自巻に結節回転を組み合わせた多段の帯である。円筒下層 d 1 式の可能性がある。12 は円筒下層 b 2  $\sim$  c 式である。口縁部文様帯は残存部が少ない。同一原体の縄文を縦回転と横回転を組み合わせて羽状にしているように見える。単軸絡条体地文である。

H37: 1 は床面出土である。No.24である。2 は床面出土のものと接合した。No.81 そして 83 と同一個体である。1 と 2 のいずれも円筒下層 b 2 式と考える。1 は単軸絡条体第 5 類による網目状の地文である。底面には合撚の縄文。2 は多軸絡条体地文である。底面も同様である。いずれも上げ底である。

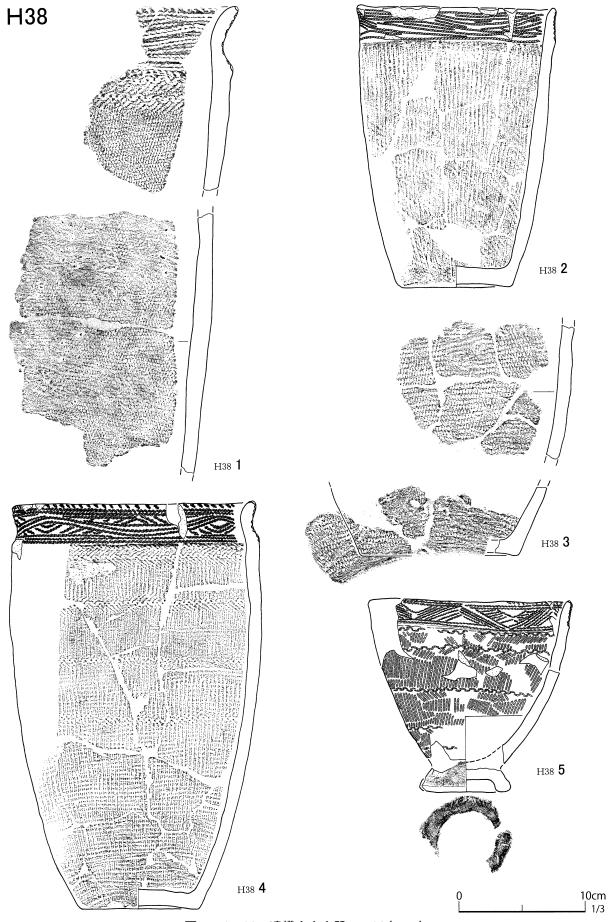
H38: 覆土中から円筒下層下 d1式がところどころまとまって出土する。比較的上部からの出土が目立つ。点取り№1 (4・5)・№3 (8) (7と9に若干接合)・№4 (12)・№5 (10)・№6 (11)・№7 (6) を記録した。覆土上半部から大型の円筒下層 d1式の破片が出土する。口縁部文様帯内に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す円筒下層 d2式に近い段階である。床面近くからは口縁部文様帯の幅が狭く、区画帯を持たない円筒下層 d1式が出土している。円筒下層 d1式と円筒下層 T d2式では器壁の厚みに大きな差がある。それを判断基準とした。8・10~12・14 は意図的に半割に近い形で割られた可能性がある。

1・3 は円筒下層 d 2 式。1 は覆土上位から最上位にかけての遺物が接合した。多軸絡条体地文。3 は覆土上位の遺物が接合した。多軸絡条体地文である。

2・4~9は円筒下層 d1式新段階。2は覆土最上位で検出された。縄文縦走地文で、口縁部には縄線で直線構成の崩れた菱形文の連続を施す。4は覆土上位出土、点取りNo.1である。サルボウ条痕横走後、単軸絡条体と結束第二種羽状縄文により多段の帯。口縁部には波状に近いゆるやかな山形の連続を縄線で施す。5は覆土上位および覆土南側、およびM2-2起源とみられるM1盛土遺物が接合した。台付の鉢である。自縄自巻に結束第二種羽状縄文で多段の帯にする。口縁部には複数の縄線で鋸歯状文を施す。6は覆土上位出土、点取りNo.7である。単軸絡条体地文と結束第二種羽状縄文により多段の帯にする。口縁部には縄線により菱形の連続と波状文を組み合わせる。7は覆土上位出土、点取りNo.1を主体とし、覆土下位のものと接合した。H56覆土最上位遺物とも接合した。M2-2~M2-2下位で62~63R区とも接合する。サルボウ条痕横走後、単軸絡条体回転と結束第一種羽状縄文の組み合わせで多段の帯にする。口縁部には縄線により菱形の連続と波状文を組み合わせる。8は覆土上位出土で、点取りNo.3である。自縄自巻地文、口縁部には縄線で直線構成の文様。区画には押し引きが連続する隆帯を持ち直下には結束第一種羽状縄文。大型の深鉢破片。9は覆土上位出土、点取りNo.3である。M2-2で63-Q~R区とも接合する。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走、結束第一種羽状縄文により多段の帯。口縁部には縄線により山形文の連続。7と9は地文に違いはあるが、節のたった細かい原体を密に使うため、雰囲気が似ている。

10・13~17・20 は円筒下層 d 1 式古段階。10 は覆土上位出土、点取り№ 5 を主体とする。自縄自 巻地文。口縁部に縄線と羽状縄文を施す。

13 は覆土上位で出土した。13 の地文は自縄自巻を縦走。口縁部は縄線を水平方向に平行に施す。14 は床面出土、点取り№9 を主体とする。大型の深鉢破片である。自縄自巻地文。口縁部には水平方向の縄線を押圧し、縦区画を持つ。15~18 は円筒下層 d 1 式を擦り切って短冊状の再生土製品を成形しようとしたものである。15 は大型破片を擦り切る途中の過程のものである。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。口縁部には縄線による直線構成の文様。16・17 は 15 と同一個体の可能性が高い。18 も類似する個体である。20 も円筒下層 d 1 式胴部破片の縁辺を擦り切って円形の再生土製品を作ろうとした可能性がある。18・20 は口縁部のない胴部破片であるため、円筒下層 d 1 式に分類している。11・12 は円筒下層 d 1 式。11 は覆土上位出土で、点取り№6 である。12 は覆土上位出土で、点取り№6 である。いずれも自縄自巻地文で、11 は結節回転を組み合わせて多段の帯にする。19 は円筒下層 b 式の破片中央に穿孔して再生土製品にしたものである。

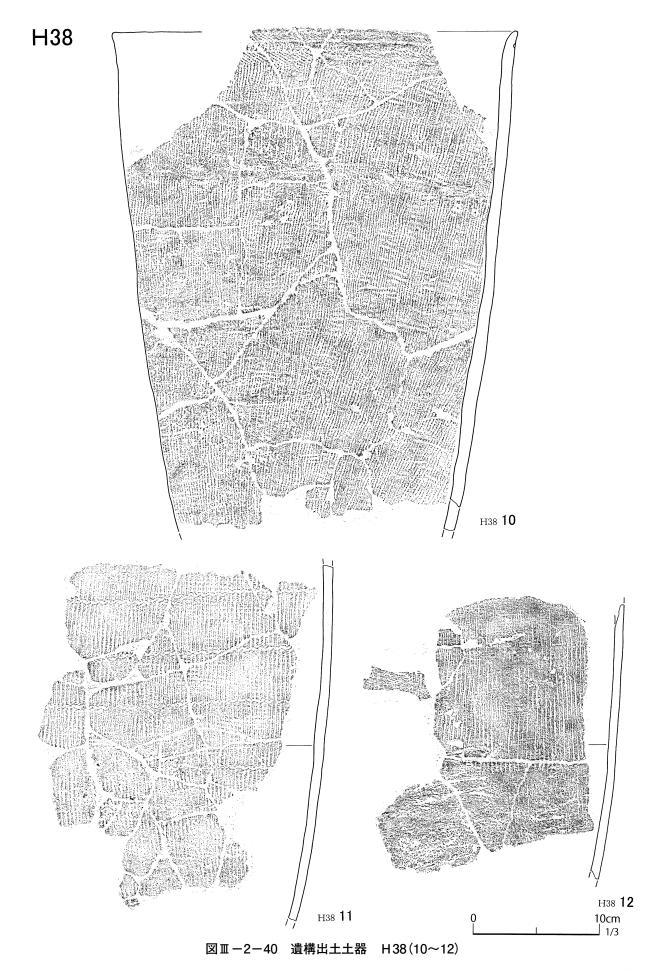


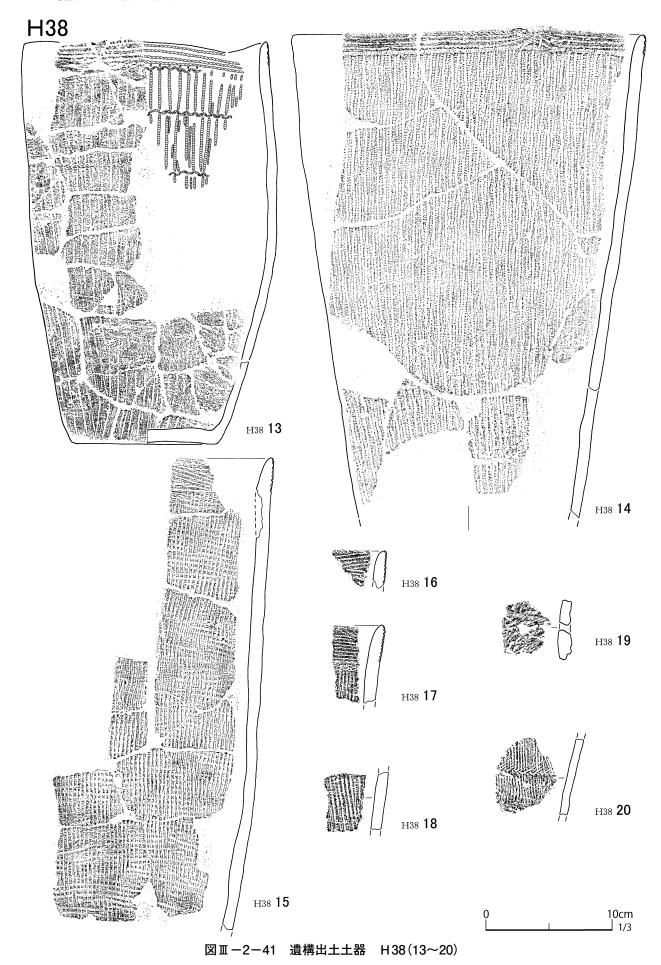
図Ⅲ-2-38 遺構出土土器 H38(1~5)



図Ⅲ-2-39 遺構出土土器 H38(6~9)

10cm 1/3





46

H39: H39 は円筒下層 c 式の頃の住居と思われ、円筒下層 c 式が複数個体復元されている。覆土最下位でのまとまりNa 40 (64)、Na 41 (63) が床面出土に近い状況である。 $42\cdot47$  が覆土上位から下位にかけて出土した破片が接合あるいは同一個体と思われた。この二個体はむしろ上位のものが多いことから、この家は円筒下層 c 式の時期に掘り込まれて廃絶した可能性を考えた。42 や覆土上位から出土した 43 (覆土上位Na 19) の方が古いことになる。流入と考える。覆土下位主体に出土した円筒下層 d 1 式新段階はこの住居の廃絶直後のまとまりと考える。

出土する円筒下層 d1式新段階についてはで口縁部文様帯に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す段階である。円筒下層 d2式により近い時期である。これらと円筒下層 d2式が出土する。

円筒下層 d 2 式が復元個体では 2・3・7・11・15~18・20~26・28・29・55・56 他に 1・4・5・9・12~14・30。円筒下層 d 1 式新段階 d 2 式への過渡期段が復元個体では 19・27・31・32・34・35 他に 6。円筒下層 d 1 式新段階が復元個体では 33・41・49~53、他に 40。円筒下層 d 1 式最古段階の範疇のものとして 46・60。円筒下層 d 1 式の範疇のものとして 36~39・54。円筒下層 d 式の範疇のものとして 8。円筒下層 c 式が復元個体では 42・43・63~65 他に 44・45・47・57~59・61・62。円筒下層式期のものは 10 の焼成粘土塊である。

円筒下層 d1式土器 53 について、H21 覆土 7 層中央出土遺物がH39 出土遺物と接合した。H39 は 覆土上位から下位にかけての接合である。

1 は覆土最上部点取り№ 22 である。同一個体だが、磨滅が著しく復元に至らなかった。多軸絡条体地文。口縁部には縄線で直線構成の文様。

2は覆土2層直下出土遺物を中心に覆土7最上位、上位の遺物が接合した。また覆土下位東側に遺物とも接合した。覆土2層直下の遺物は主に覆土上位の遺物と接合するが、下位については東側のものと接合、あるいは共通するものがある。今回も覆土東側下位の遺物と接合した。肩部に押し引きを連続。縄線により直線構成の文様か。口唇部欠損。単軸絡条体地文。

3は覆土最上部出土、点取りNo.22を主体として、主に覆土最上位の遺物が接合した。円筒下層d2式である。肩部に円形刺突が連続。多軸絡条体地文。口縁部に短い縄線の連続による円筒下層d1式新段階風の施文。

4 は覆土最上位の遺物が接合した。類似するものは覆土南側および住居と同調査区のM2-2から出土している。単軸絡条体第4類による地文。

5はH39 覆土上位遺物を中心に接合したものである。同一個体の可能性のあるものは周辺のM2 盛土やH62からも出土している。M2起源のM1出土遺物とも接合した。円筒下層d2式である。波 頂部に対応する四つの刺突が特徴的である。

6 は覆土上位から、点取り№ 18 である。同一個体と思われる破片は覆土最上位からも出土している。自縄自巻と結束第一種羽状縄文で多段の帯。口縁部には縄線による施文。やや曲線味を帯びる。

7は覆土上位、点取りNo.7が主体となって接合した。円筒下層d2式である。サルボウ条痕横走施 文後、単軸絡条体地文。口縁部には複節の縄線による施文。やや曲線味を帯びる。

8は再生土製品である。8は覆土上位から出土した円筒下層 d 2 式である。多軸絡条体地文の胴部 破片の縁辺を円形に成形したものである。

9は覆土上位出土点取りNo.8である。口径の割に口縁部文様帯の幅が狭く、口縁部文様帯直下に結節の回転が見られる事から古段階のものと考える。縄線を二つ折りにして曲面を対向させる。

10 は焼成粘土塊である。点取りNo.13 に混在していた。No.13 は覆土上位は掲載番号32の土器復元の主となった点取り遺物である。繊維・砂粒を含むため円筒下層式土器の胎土が焼けたものと考える。

11・12 は覆土上位、点取りNo.2 である。11 は矢羽縄線によって平行線文様を施文。多軸絡条体地文。12 は覆土上位から出土した円筒下層 d 2 式の底部である。

13 は住居北側のトレンチでまとまっていたものがM 2,62T区からの出土遺物と接合した。同一個体の可能性があるものは覆土上位、覆土1層から出土している。

14 は覆土上位、点取りNo.6である。15 は覆土上位、点取りNo.5である。円筒下層 d 2 式の底部である。多軸絡条体地文で上げ底である。

16 は覆土上位出土遺物が接合した。点取りNo.16 を主体とする。口縁部文様には縄線により山形文、連続する縄線で充填する。所々結束第一種羽状縄文施文で多段の帯。

17 は覆土最上部出土、点取りNo.23 である。口縁部文様は縄線により菱形基調の文様を連続して施す。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。

18 は覆土上位、点取りNo.3 である。ほかにM1の遺物が接合した。多軸絡条体地文。肩部に半截 竹管によるC字形刺突を連続。口縁部文様には2本一組の縄線で直線構成の文様。

19 は覆土上位の遺物および東側覆土下位の遺物が接合した。覆土上位の点取り№ 17・№ 18・№ 21 が接合している。口縁には縄線によって鋸歯状文、間隙を波状文や縄線押圧の連続で充填する。自縄自巻と結束第二種羽状縄文で多段の帯。

20 は覆土 2 層直下の遺物を主体として覆土上位遺物と接合した。サルボウ条痕施文後、自縄自巻を縦走。口縁部には菱形基調の文様。

21 は覆土上位出土、点取りNo.16 を主体として接合した。口縁部には縄線によって山形文を鋸歯状に連続。多軸絡条体地文。

22 は覆土上位、点取りNo.1 である。縄線によって山形ないしは菱形文を連続。単軸絡条体地文。

23 は覆土上位、点取りNo.11 である。口縁部には縄線を平行に走らせる。多軸絡条体地文。

24 は覆土上位、点取りNo.9とNo.10 が接合、復元の主となる。口縁部には縄線を平行させる。区画となる肩部にはC字状の圧痕を連続する。木目状撚糸地文である。

25 は覆土上位出土点取りNo.12 を主体として接合した。口縁部には絡条体側面圧痕で山形文を推定四単位で施す。多軸絡条体地文。

26 は覆土 2 層直下から出土、点取り No. 25 である。縄線で山形文を推定四単位で施す。単軸絡条体地文。

27 は覆土上位、点取り№ 14 を主体とする。他に覆土下位、点取り№ 26、および覆土 2 層直下のものが接合した。口縁部には縄線で波状文を施し、間隙には複数の縄線押圧で充填する。サルボウ条痕施文後、自縄自巻と結束第二種羽状縄文で多段の帯。

28 は覆土上位から最上位にかけての遺物を主体に接合した。点取りNo.24 を含む。口縁部から底部にかけて、磨滅して不明瞭だが、条痕施文後、木目状撚糸文地文を施す。胎土と器壁の厚さから円筒下層 d 2 式とした。

29 は覆土上位でまとまっていた。多軸絡条体地文施文後、サルボウ条痕横走。地文および胎土から、 円筒下層 d 2 式の小型深鉢とした。

31 は覆土北側上位出土遺物である。点取りNo.12 が接合した。円筒下層 d 2 式胴部下半である。自縄自巻と結束第二種羽状縄文によって多段の帯。30 としたのは同時に出土した口縁部破片である。地文の撚りの向き等から判断して別個体であるが、同時期の可能性が高い。32 は覆土上位、点取りNo.13 を主体として接合した。覆土 2 層直下、覆土下位の遺物も接合している。円筒下層 d 2 式である。口縁部には縄線によって山形文の連続。多軸絡条体地文。33 は覆土上位、点取りNo.20 である。自縄

自巻地文の胴部下半分である。円筒下層 d1式新段階に相当するものと考える。34 は覆土2層直下の遺物を主体として、60 R 区のM2-2 と接合した。口縁部は縄線押圧の連続で2ないし3段の押圧列を形成する。地文は単軸絡条体と2段の結節回転の組み合わせで多段の帯にする。明瞭な肩部と器壁の厚さが、円筒下層 d2式を思わせる。文様と口径に対して長い胴部により古い要素を持つ。35 は覆土2層直下、M3的な土層であるが、この遺物を主体として、覆土上位遺物が接合したものである。口縁部は縄線により山形文を連続する。胴部はサルボウ条痕施文後、自縄自巻地文。明瞭な肩部と器壁の厚さが、円筒下層 d2式を思わせる。文様により古い要素を持つ。

 $36\sim39$  は円筒下層 d 1 式の胴部破片を短冊状に擦り切ったもの、あるいはその残片である。 $36\sim38$  は短冊形である。 $36\cdot37$  は覆土南側から出土している。39 は覆土 1 層から出土している。38 は覆土上位から出土している。

40 は覆土上位、点取りNo.13である。磨滅した円筒下層 d1 式である。口縁部には縄線によって鋸歯状文が施される。所々に縦区画として円形刺突があしらわれる。絡条体地文と結束第二種羽状縄文で多段の帯。41 は覆土2層直下の遺物を主体として覆土上位遺物と接合した。サルボウ条痕横走後、自縄自巻施文。円筒下層 d1 式新段階の胴下半部である。42 は覆土上位の遺物を主体として接合した。点取りNo.24 を含む。ただし接合状況をみると、覆土上位~下位また平面的にも広い範囲の遺物が接合した。口縁部にはサルボウ条痕を横走、縄文地文。43 は覆土上位、点取りNo.19 である。口縁部には矢羽縄線を水平方向に密に施文する。円形刺突を押し引く隆帯により区画。合撚を縦走する地文。円筒下層 c 式新段階である。

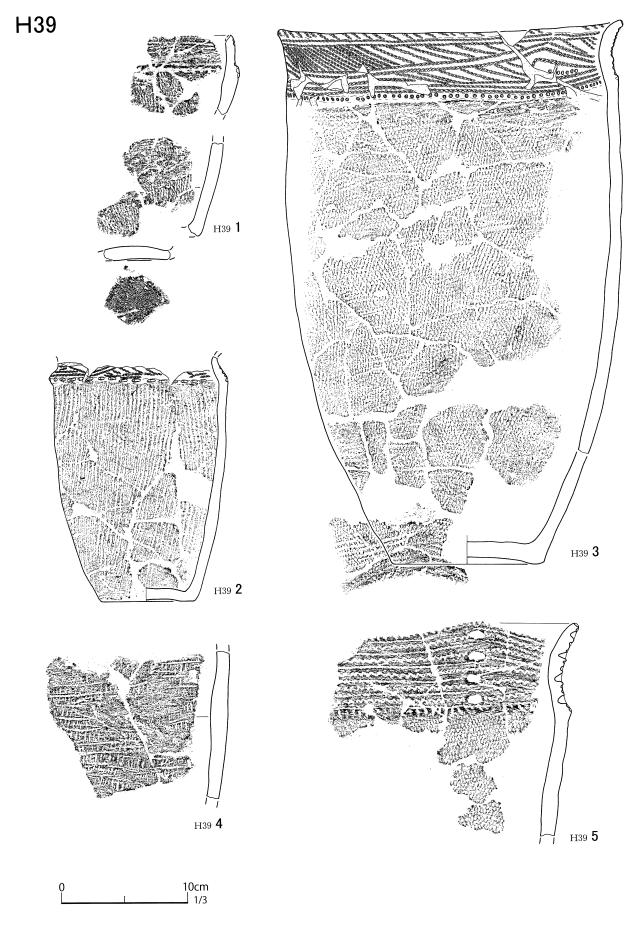
44 は覆土南側から出土した。口縁部には反撚り縄線と縄文を施す。45 は覆土南側から出土している。 円筒下層 c 式でも古手のものである。口縁部は縄文施文、区画は縄線、地文は単軸絡条体。

46 は覆土上位の点取り№ 17・18・21 が接合した。口縁部文様は磨滅によって不明瞭。自縄自巻と結節回転の組み合わせで多段の帯。円筒下層 d 1 式だが、器形と口縁部文様帯の幅から円筒下層 c 式に近い土器と考える。47 は覆土上位出土点取り№ 24 である。類する破片は覆土の東側を中心に上位、下位の差なく出土した。このような時期に竪穴住居が掘り込まれた可能性がある。口縁部には直前段反撚り縄文、地文は単軸絡条体地文。48 は覆土上位出土遺物が接合した。中には点取り№ 15 が混じる。縄線で鋸歯状文を描く。サルボウ条痕施文後、単軸絡条体地文。

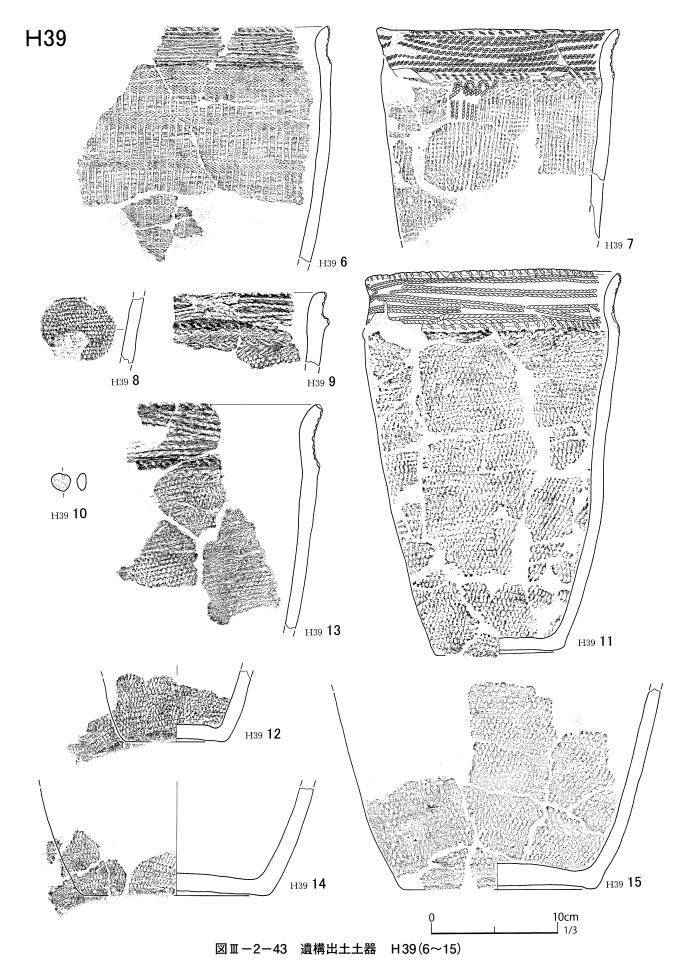
49 は覆土下位出土、点取りNo.35 である。口縁部には縄線で菱形文様の連続。地文には自縄自巻地文。区画には押し引き気味の刺突列を持つ隆帯。台付きの鉢である。50 は覆土下位出土点取りNo.31 である。縄線により山形文の連続。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。

51 は覆土中位出土、点取りNo.32である。口縁部には縄線で波状文。サルボウ条痕を横走後、自縄自巻を縦走。

52 は覆土下位出土、点取り№ 26 である。口縁部には結束第一種羽状縄文と縄線で施文。サルボウ条痕施文後、自縄自巻。53 は覆土下位出土遺物、特に点取り№ 33 を主体とし、覆土上位~下位にかけての遺物が出土した。H21 の覆土 7 層上面の遺物 1 点とも接合している。縄線押圧を矢羽状に並べ、対向させる。区画は押し引きによる二列の刺突列。自縄自巻地文。54 は覆土下位出土であり、覆土下位出土の点取り№ 42 が同一個体と考えられる。単軸絡条体地文の底部。55 は覆土下位出土、点取り№ 28 を主体とし、№ 37 の 2 点と接合した。自縄自巻地文の底部。56 は覆土下位出土、点取り№ 39 を主体とする。口縁部に結節回転と縄線を施す。二種類の直前段反撚り縄文による地文。57 は覆土下位出土で点取り№ 30 である。単軸絡条体回転および結束第一種羽状縄文回転をくみあわせたものを口縁部および胴部地文に施す。隆帯上には押し引きを連続する。胎土と器壁から、円筒下層 c 式

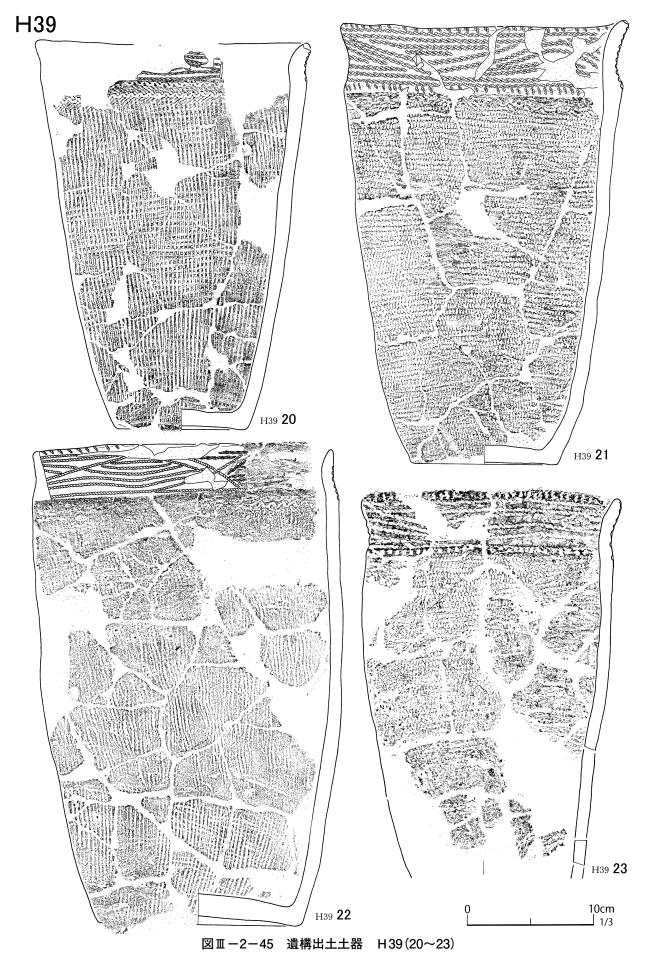


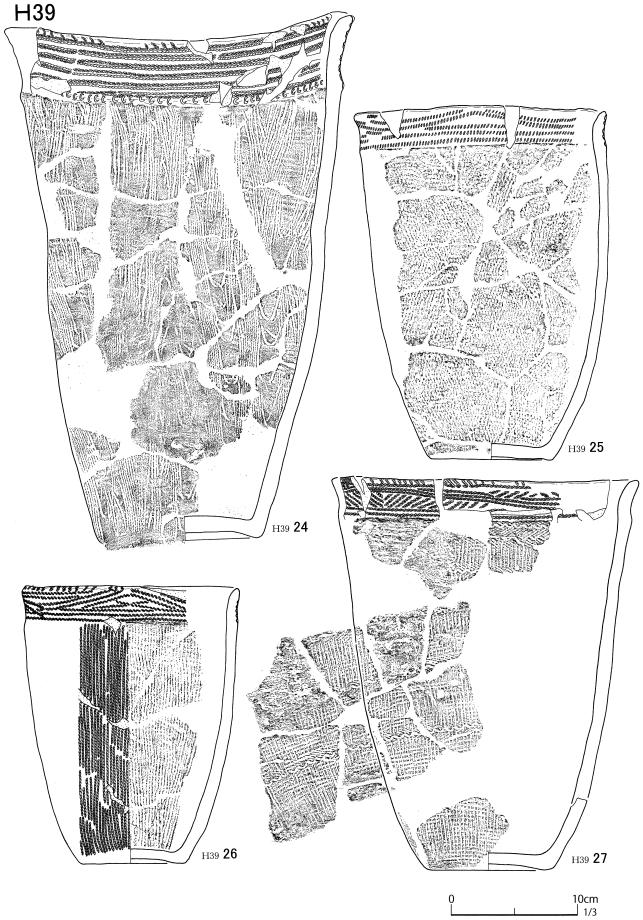
図Ⅲ-2-42 遺構出土土器 H39(1~5)



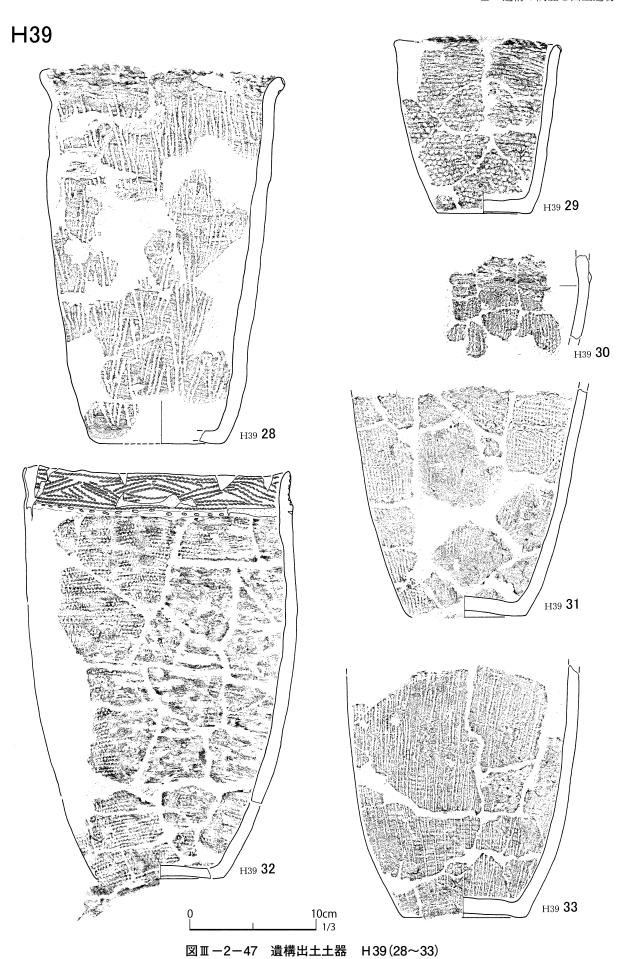


図Ⅲ-2-44 遺構出土土器 H39(16~19)

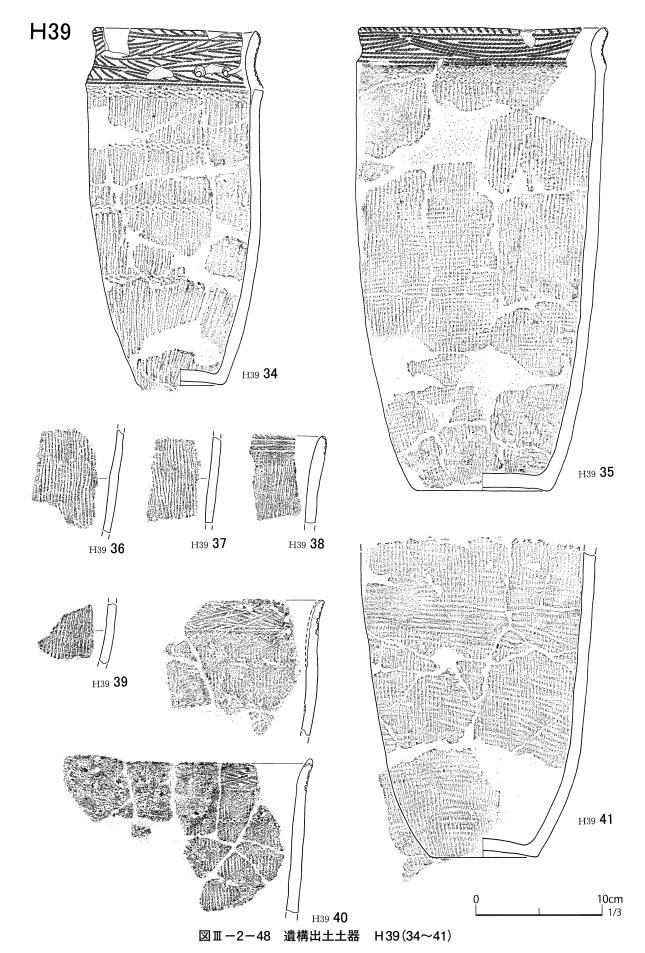




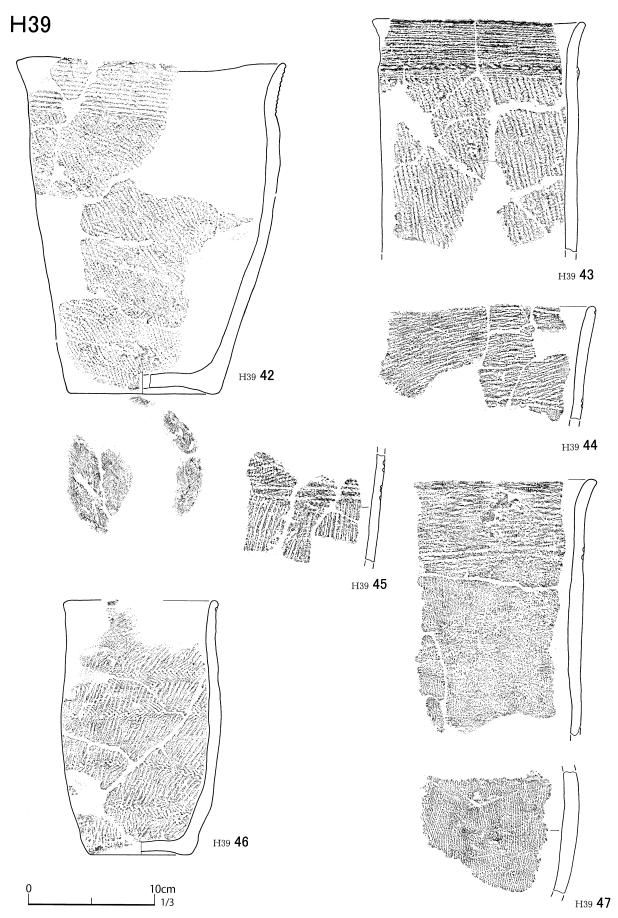
図Ⅲ-2-46 遺構出土土器 H39(24~27)



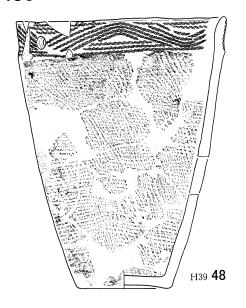
55



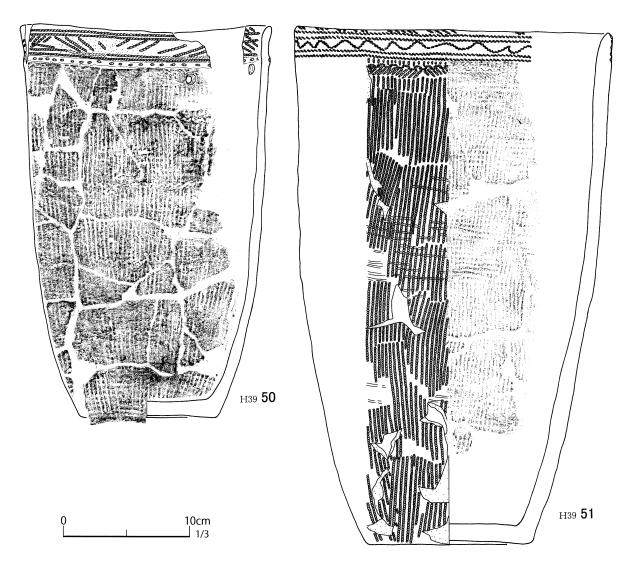
56



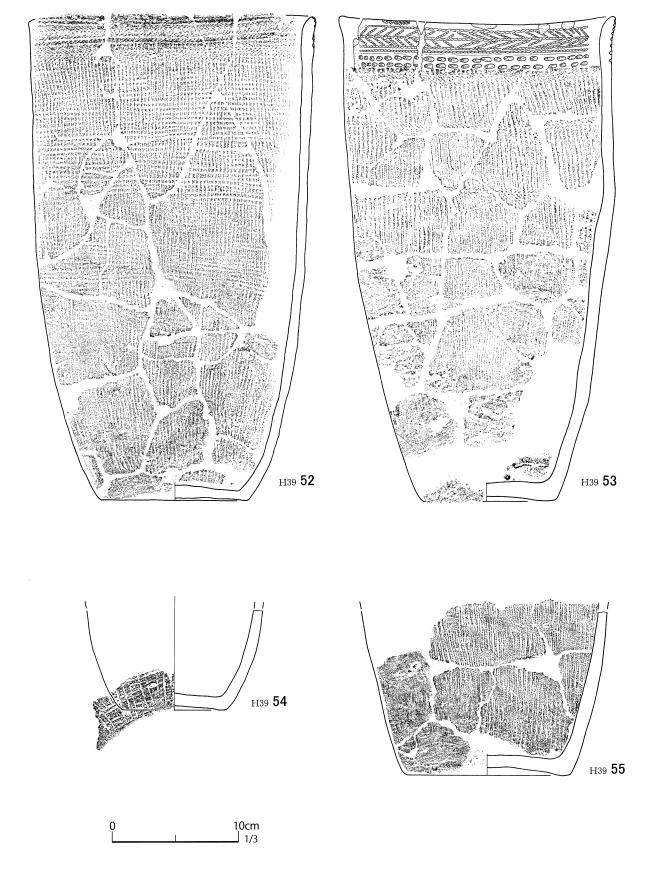
図Ⅲ-2-49 遺構出土土器 H39(42~47)



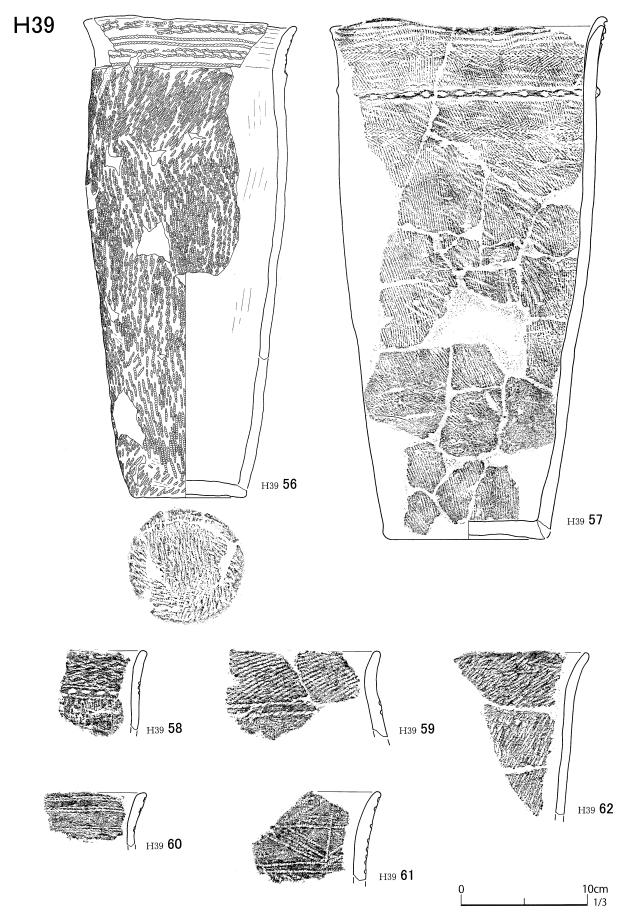




図Ⅲ-2-50 遺構出土土器 H39(48~51)



図Ⅲ-2-51 遺構出土土器 H39(52~55)



図II-2-52 遺構出土土器 H39(56~62)

と考える。文様要素として連続刺突を持つ隆帯が円筒下層 b2式的、そして地文の組み合わせが円筒下層 d1式的である。

58~62 は円筒下層 c 式である。58・60・61 は覆土東側から、59 は覆土下位から、62 は覆土上位から出土した。61 は絡条体側面圧痕により文様の正中線が波頂部に対応していると思われる菱形文様を口縁部に施す。58 は結節回転文を口縁部文様帯に持つ。60 は 2 本一組の縄線で無文時地の口縁部に文様を描く。円筒下層 d 1 式に近い文様である。62 は直前段反撚り地文の土器である。接合破片に点取りNo. 18 を含むまた類似した破片が覆土下位東側からも出土している。59 は内弯する口縁部形態と縄文地文の口縁部文様帯、二本の縄線による区画。58 もその古い文様要素から円筒下層 b 2 式段階まで下る可能性もある。

63 は覆土下位出土、点取りNo.40 を主体とする。脇のNo.41 のうち2点とも接合した。口縁部は反 撚り縄文横走、胴部は反撚り縄文縦走。肩部には縄線が2本施される。64 は覆土下位出土、点取り No.41 である。口縁部には反撚り縄文を横走、胴部には反撚り縄文を縦走。口縁部には結束第一種羽 状縄文の原体と思われる縄線を押圧する。

65 は大きくは覆土下位の点取りNo. 42 とNo. 38 が接合した。そこに覆土下位出土遺物が散点的に接合した。結束第一種羽状縄文により口縁部を施文する。単軸絡条体地文である。

H40:磨滅した土器のみ出土。胎土、器壁の厚さから、いずれも円筒下層 b1式あるいはその直後の円筒下層 b式の古手のものと考える。1は覆土1層と覆土2層の遺物が接合した。2は床面出土である。点取り№3である。いずれも調整等は不明である。胎土に繊維・砂・海面骨針を含む。

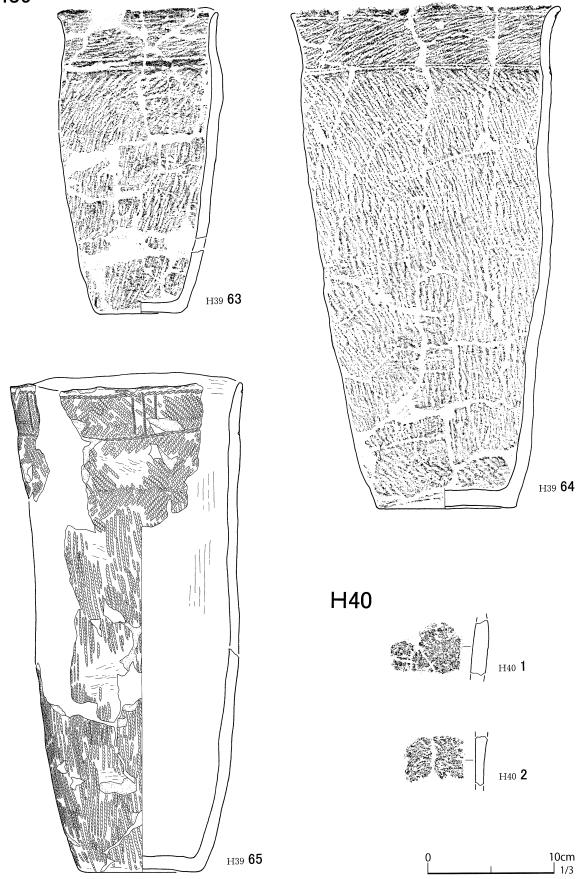
H41:  $1 \sim 7$  は復元個体である。 $1 \cdot 3 \sim 6$  はベルト覆土上位からの出土である。2 はトレンチから、7 はベルト覆土下位からの出土である。 $1 \sim 3 \cdot 5 \cdot 7$  は円筒下層 b 2 式の範疇と考える。 $4 \cdot 6$  は円筒下層 b  $2 \sim c$  式と考える。

1・2 は単軸絡条体地文。1 の口縁は斜行、胴部は縦回転。2 の口縁は横走、胴部は縦走。1 は外反する口縁部とすぼまる底部を持つ。2 は筒状の深鉢。3 の口縁は単軸絡条体第 4 類横回転、多軸絡条体地文。肩部から若干窄まる口縁部形態を持つ。器形と地文から、円筒下層 b 2 式でも新段階に近い要素を持つ。4 の口縁部には二種類の縄線を施し、隆帯上にはヘラによる連続刺突を施す。単軸絡条体地文である。底部から口縁部にかけてよく外反する器形である。5 は 1 に類似した器形である。口縁部に結束第一種羽状縄文を施し、胴部には単軸絡条体地文を持つ。6 は複節の縄線を 4 段施し、単軸絡条体地文を持つ。隆帯上には円形刺突が連続する。竹管によるものか、所々 C 字状の押圧になっている。7 は口縁部に単軸絡条体第 5 類横回転、胴部には単軸絡条体地文を施す。底部から外反して口縁部に至るが、4 よりは筒状に近い。

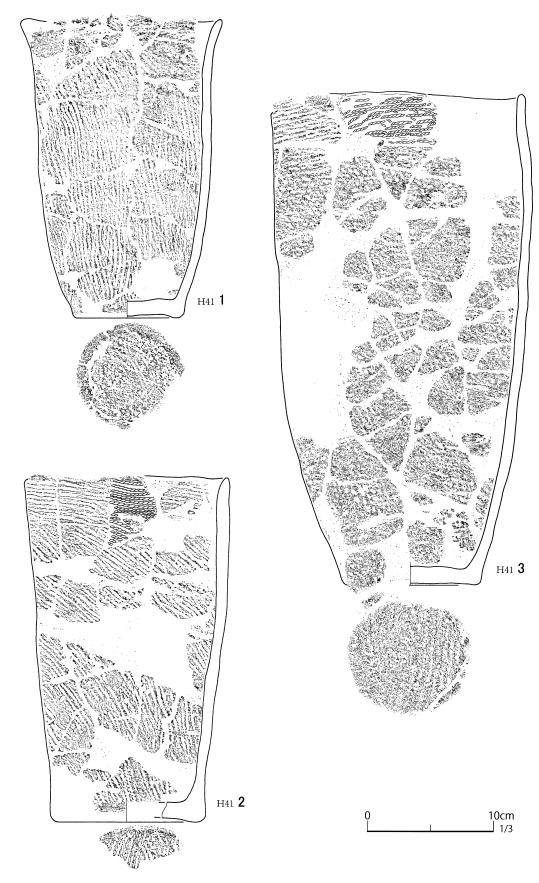
8・10~12 はトレンチからまとまって出土した。9 は覆土南側とベルト覆土下位から出土したものが接合した。8 は単軸絡条体地文で口縁は横方向、胴部は縦方向である。9 の口縁部は縄文施文、区画の隆帯には円形刺突が連続。単軸絡条体地文。10 の口縁部は結節回転と絡条体側面圧痕による。地文は単軸絡条体第5類回転。11・12 は絡条体地文の底部。11 は縦回転に近い斜行。12 は縦回転および底面際に横回転の帯。いずれも円筒下層 b 2 式である。9 は新段階。トレンチやベルトなど住居覆土の堆積中央に近いところにまとまっていた。廃絶後の竪穴住居の凹みに廃棄したものと考える。

13 はニシンの椎骨が原体と思われる、魚骨回転文のついた縄文時代早期の土器である。東釧路IV式とした。トレンチからの出土で盛土以前のものが掘りあがったものと考える。

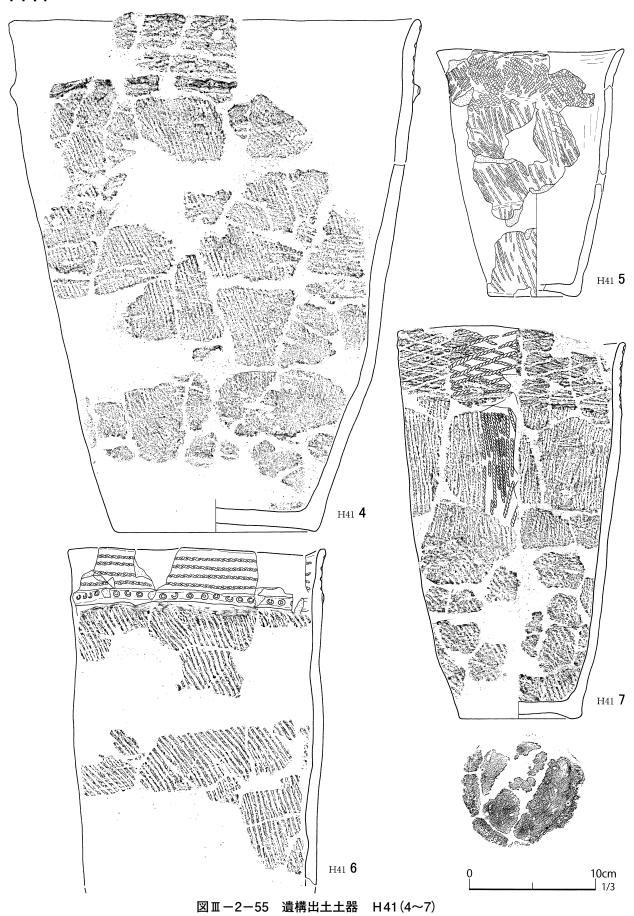


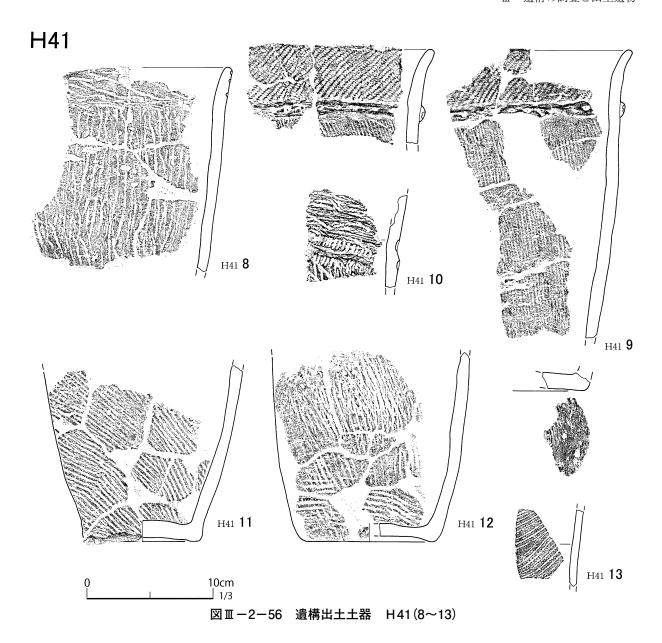


図Ⅲ-2-53 遺構出土土器 H39(63~65)・H40(1・2)



図Ⅲ-2-54 遺構出土土器 H41(1~3)





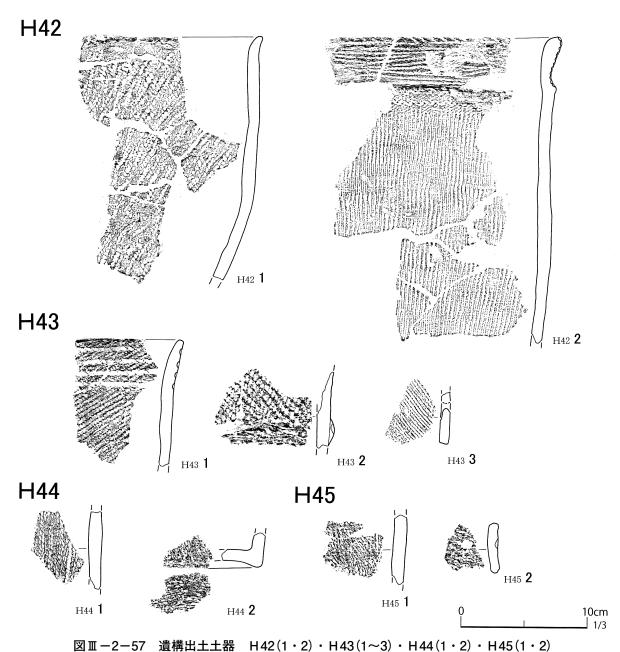
H42: 覆土から円筒下層 b 式と円筒下層 d 2 式の破片が出土している。大型の土器破片を点取りした。 No. 1 ~ 3 は円筒下層 d 2 式で、覆土下半の覆土 2 層から出土している。 No. 7 は円筒下層 b 2 式で、床面より上の黒色土、覆土 4 層から出土する。

1は覆土4層出土で点取りNo.7と覆土出土のものが接合した。円筒下層b2式である。

2 は覆土 2 層出土点取りNo.1  $\sim$  3 と覆土出土点取りNo.8 が接合したものである。円筒下層 d 2 式である。住居廃絶の後の廃棄である。

H43: 1 は覆土 2 層から出土した。口縁部には複数の縄線、そして縄文地文。円筒下層  $62 \sim c$  式である。2 は覆土 1 層から出土した。口縁部には縄文。区画には隆帯。円筒下層 6 式である。

3 は床面から出土した円筒下層 b 2 式である。点取り No. 6 である。単軸絡条体地文の胴部破片の縁辺をほぼ円形に打ち欠き、中央に穿孔する。



H44: 覆土および床面から円筒下層 b 式が出土する。床面遺物からのみ抽出した。

1と2は床面出土、1は点取りNo.25、絡条体回転地文。2は点取りNo.16、縄文地文で底部破片。いずれも磨滅著しいが、胎土、地文などから円筒下層b式の範疇と考える。

H45: 覆土、周溝、炉から磨滅した円筒下層b式が出土する。同一個体のまとまりは無い。

1は周溝覆土1層出土、点取り№11である。絡条体地文。2はHF-1覆土2層出土、点取り№18である。磨滅が著しく、穿孔途中らしき痕跡があるが判然としない。再生土製品の可能性もある。いずれも円筒下層b式の範疇である。

H46: 覆土でまとまっていた点取り番号No.14とM4並行の覆土上部からまとまって出土した土器片群(遺物番号31)が1である。円筒下層b2~c式である。同じくNo.14に混在していた土器片と覆土出土の土器片が接合して2となった。 $1\cdot2$  共にかなり近い時期と考える。いずれも円筒下層b2~c式段階とするのが妥当と判断した。

3は覆土壁際出土遺物と覆土下位出土遺物が接合した。単軸絡条体回転地文。指頭圧痕により口縁部を区画。円筒下層 b 2 ~ c 式と考える。

4・5 は覆土出土遺物と住居が立地する調査区の盛土出土遺物と接合した。4 はM 4-3,61 T区、5 はM 4-3,61 S 区出土遺物である。4 は縄文地文で隆帯が口縁部を区画する。5 は単軸絡条体第5 類地文である。6 は HP-7 出土遺物と覆土壁際、覆土下位出土遺物が接合した。複節縄文が縦走する。7 は床面出土、点取りNo.3 とNo.7 が接合した。単軸絡条体地文である。8 は覆土上位遺物である。絡条体回転地文。縁辺に成形の可能性がある。再生土製品と考える。9 は HP-5 覆土出土遺物である。縄文地文の底部破片である。7 が床面、9 が付属遺構 HP-5 出土。4~9 は円筒下層 b2 式の範疇である。

H47: 覆土から円筒下層 b 式が出土している。円筒下層 b 1 式から円筒下層 b 2 式古段階の流入と考える。1・2 は覆土から出土した。1 は口縁部に結節回転を施文。2 は縄文地文。

H48: 覆土から円筒下層 b 式が出土している。特に円筒下層 b 2 式の破片が目立つ。同一個体のまとまりは無い。床面のものと付属遺構 HP-2 出土のものを抽出した。1 は床面から出土した。点取り No.1 である。合撚りか。2 は HP-2 の覆土から出土した。結束回転か。いずれも不明瞭である。円 筒下層 b 1 式か円筒下層 b 2 式古段階である。

H49: 覆土から磨滅した円筒下層 b 式から下層 c 式と思われる土器破片が出土する。1 は覆土1層出土、複節縄文を地文とする。円筒下層 b 式とした。

H50: 覆土から円筒下層 b 式土器が出土する。いずれも磨滅しており同一個体のまとまりは無い。1 は覆土出土、縄文地文である。円筒下層 b 式である。

H51: 円筒下層 b 式から円筒下層 c 式までが出土する。床面からは円筒下層 b 式のみが出土する。覆土から円筒下層 c 式の同一個体がまとまっていたが、復元には至らなかった。円筒下層 b 式の同一個体のまとまりは無かった。

 $1\cdot 3\sim 5$  は円筒下層 c 式とした。 $1\cdot 3$  は覆土西側、 $4\cdot 5$  はベルト部分の覆土である。

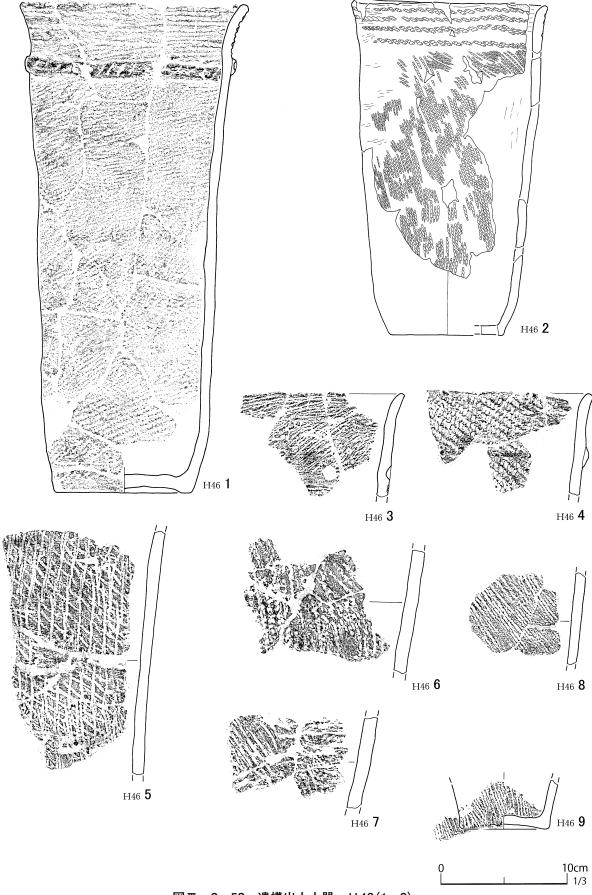
は絡条体側面圧痕による口縁部文様、直前段反撚り地文。3の口縁部は直前段反撚り地文を横走、 胴部は縦走、間に結束第一種羽状縄文を帯状に施す。口縁部には縦区画として結束第一種羽状縄文、 および縄線縦に押圧する。円筒下層 d1式に近いが口縁部文様帯の幅広さからc式とした。4は口縁 部に縄線を押圧し、縄文地文。5は直前段反撚り地文。口縁に屈曲を持つ。

2は覆土東側出土。口縁部は単軸絡条体第4類横回転である。隆帯上には円形刺突が連続する。直 前段反撚りRRL縄文地文。口縁部と隆帯に古い要素があるものとし、円筒下層b2~c式とした。

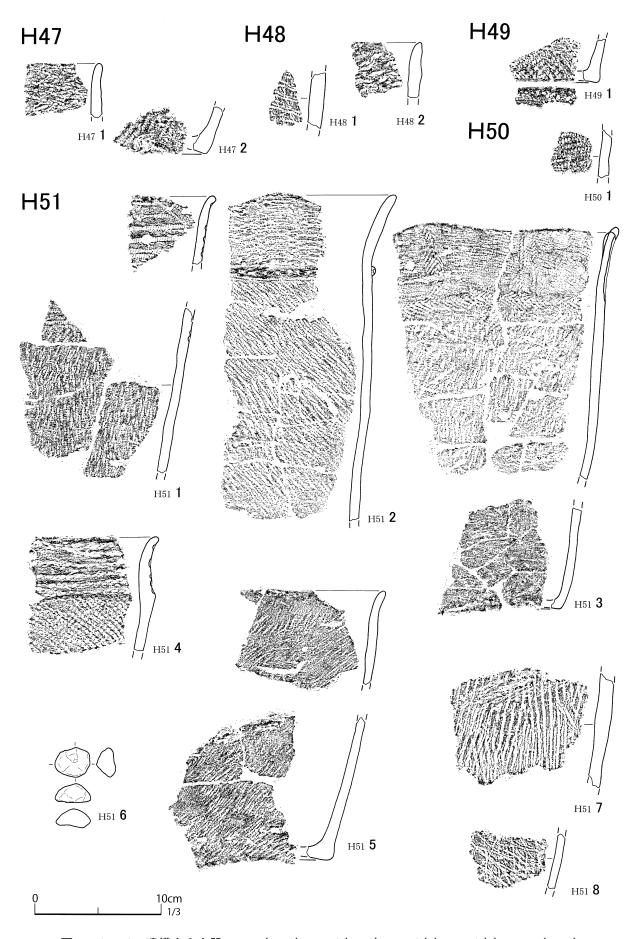
6 は覆土西側出土、焼成粘土塊である。繊維を含む。

7・8 は円筒下層 b 2 式の胴部破片と考える。7 は床面出土、点取り№ 13 である。単軸絡条体地文である。8 は HP-5 覆土から出土した。単軸絡条体による網目状地文である。

# H46



図Ⅲ-2-58 遺構出土土器 H46(1~9)



図Ⅲ-2-59 遺構出土土器 H47(1·2)·H48(1·2)·H49(1)·H50(1)·H51(1~8)

H52: 円筒下 d1式古段階である1が一個体分として復元できた。覆土1層と2層から出土した土器が接合した。覆土および床面から円筒下層b式から円筒下層c式のころと思われる破片が出土している。1は円筒下層d1式古段階である。ゆるやかな五単位の波頂部を持つ。全体に直前段反撚り地文を施した後、口縁部に、結束第一種羽状縄文を帯状に2段施す。地文から円筒下層c式に近い段階のものと考える。2は覆土1層から出土した。円筒下層d1式のまとまりに混在していた。口縁部には水平方向に複数段縄線が施される。単軸絡条体地文。文様構成から円筒下層c式と考える。口縁部文様帯の幅、および器壁の薄さ等は円筒下層d1式古段階に近い。

H53: HF -1 覆土 2 層出土の点取り土器については円筒下層 b 式から下層 c 式と思われる土器砕片である。 覆土からも下層 b 式から下層 c 式にかけての土器片が流入している。円筒下層 b 式が主体であり、円筒下層 c 式の可能性があるものについても円筒下層 b 2 式に近い古手のものである。

1~3は覆土1層から出土した。1・2は円筒下層b式、3は縄文時代早期の土器である。1は円筒下層b2式の底部である。単軸絡条体地文である。2は口縁部に隆帯を持つ。その上下に結節回転文を施す。単軸絡条体地文である。円筒下層b2式で古い要素を持つものと考える。3は縄文時代早期後半、コッタロ式相当の土器と考える。紐圧痕の連続、あるいは撚りの向きが異なる二種類の縄文を器面に施し、微隆起線を持つ。

H54:床面、覆土いずれからも円筒下層b式の砕片が出土している。

1・2 は覆土 2 層出土である。いずれも縄文地文が縦走する。隆帯上には連続刺突がある。胎土の粗さから円筒下層 b1式の可能性がある。3 は床面出土である。絡条体地文である。円筒下層 b2式で、胎土の粗さから古段階の可能性がある。

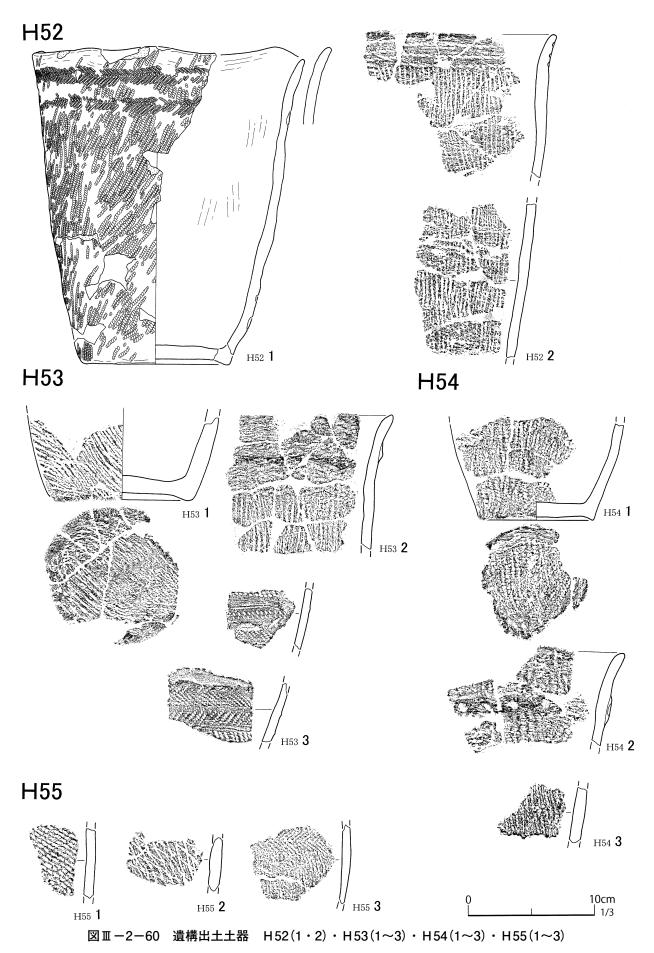
H55: 覆土から円筒下層 b 式から円筒下層 d1式にかけての砕片が出土している。同一個体のまとまりは無い。

1~3は覆土1層から出土、点取り№16である。1は円筒下層 b2式新段階である。多軸絡条体地 文である。2は円筒下層 b式である。単軸絡条体第5類、網目状地文である。3は円筒下層 d1式で ある。単軸絡条体地文と結束第一種羽状縄文で多段の帯。

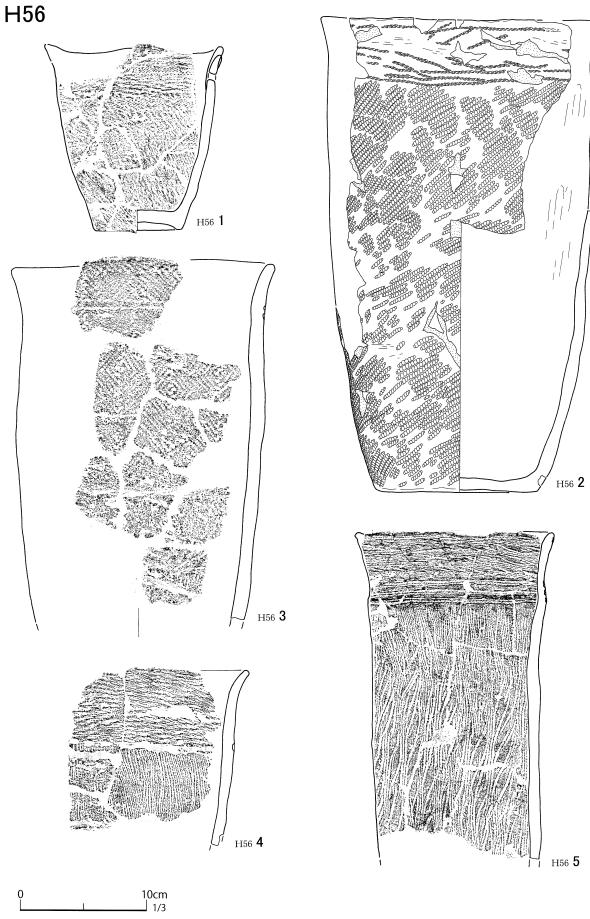
H56: 覆土最上部に円筒下層 c 式がまとまって廃棄されていた。 $1 \sim 3 \cdot 6$  の四個体が復元可能であった。床面近くで、底部が欠損した円筒下層 b 式の新段階のものが出土している。

最上部は円筒下層 d1式が出土している。復元個体としてH38-7がある。これにH56 覆土最上部遺物が1点出土している。

1 は覆土最上位出土、点取り№1 である。口縁部には直前段反撚り縄文横走。区画には結束第一種 羽状縄文、地文は直前段反撚り縄文と結束第一種羽状縄文で多段の帯。口縁部文様帯の幅が広い事と 器形から円筒下層 c 式としたが、文様的には、円筒下層 d1式古段階に近い。2 は覆土最上位出土、 点取り№4 である。口縁部には縄線によって菱形基調の文様を施す。地文は斜行縄文。3 は覆土最上 位出土、点取り№3 である。結束第一種羽状縄文横回転を口縁部に施す。粗い胎土の厚手の器壁であ るが、口縁部文様帯の下から胴上半部にかけて、羽状縄文を連続して縦回転させる。4 は覆土最上位 出土である、点取り№3 に混在していた口縁部破片である。口縁部には直前段反撚りを横走。胴部に は矢羽状の単軸絡条体回転を施す。区画には右に引くような連続刺突。5 は覆土下位出土、点取り№

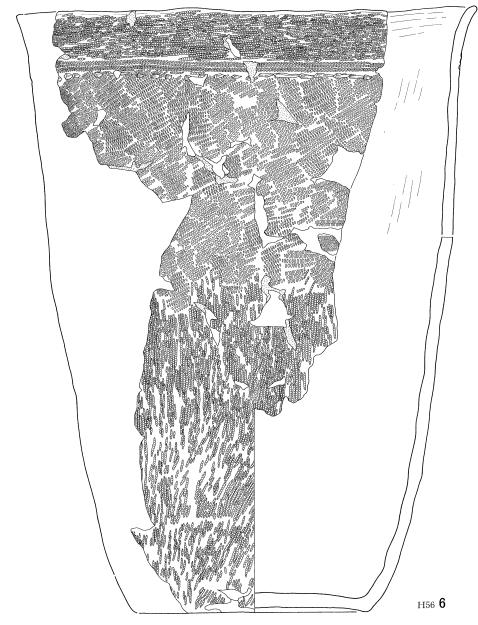


71

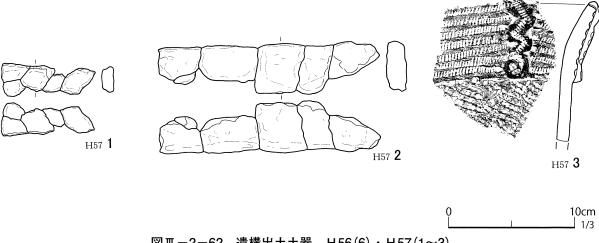


図II-2-61 遺構出土土器 H56(1~5)





H57



図Ⅲ-2-62 遺構出土土器 H56(6)・H57(1~3)

5である。住居の切りあい部分から出土したためか底部を見つけることが出来なかった。薄い器壁を持ち、造形が丁寧である。単軸絡条体第1類の原体について巻く間隔を途中から広げることで網目状に類する地文を呈する。口縁部横回転。胴部縦回転。隆帯には2本一組の縄線を三組押圧する。円筒下層 b 2 式で、新段階ないしは b 2 ~ c 式期と考えるが調査範囲内で類例が無い。6 は覆土最上位出土、点取りNo.2 である。大型の円筒下層 c 式である。底部の半分ほどは H 29 覆土北側 (H 56 と切り合う側)から出土遺物と接合。口縁部に直前段反撚り縄文を横走、胴部上半は多軸絡条体、下半は直前段反撚り縄文を縦走。区画には縄線と押し引き気味の刺突列。

H57: 付属遺構 HP-3から円筒下層 d2式の最新ないしは円筒上層 a 式最古段階の深鉢が出土し、 覆土下位から中位および周辺包含層の破片が接合、円筒上層 a 式最古段階の浅鉢となった。

1・2 は覆土から出土したものである。もとは一塊で、同じ板状の焼成粘土塊であったものである。破損が著しく、それ以上の情報は無かった。接合して図化に耐えうるもののみ図示した。胎土には海綿骨針と繊維を含む。

3 は覆土1層と覆土2層そして住居がある85P区のⅢ層から出土した。円筒上層a式である。口縁部文様帯は肥厚し、鋸歯状に垂下する隆帯を持つ。絡条体側面圧痕で加飾する。地文はLR縄文を縦回転。

4は付属遺構 HP-3から出土したものである。円筒上層 a 式最古段階のものである。四単位の波頂部を持つ。波頂部は双頭気味で、中央に突起を持つ。頸部より上には縄線が施される。胴部上半は R L 縄文、下半は L R 縄文地文である。

5と6は覆土から出土したもので、口縁部を持つ土器片の縁辺を擦り切って短冊状に成形したものである。5は円筒下層b式、6は円筒上層a式の口縁部から胴部にかけての破片である。6は石斧の正面観を思わせる形状である。

7 は覆土下位から出土したものである。把手が三単位の波頂部に対応する。肥厚する口縁部文様帯には縄線で加飾される。LR縄文地文。円筒上層 a 式最古段階の浅鉢である。

H58: 覆土中で視覚的にまとまっていた土器を一括土器① $\sim$ ⑥として取り上げた。まず一括土器それぞれの出土遺物状況・接合状況を述べる。

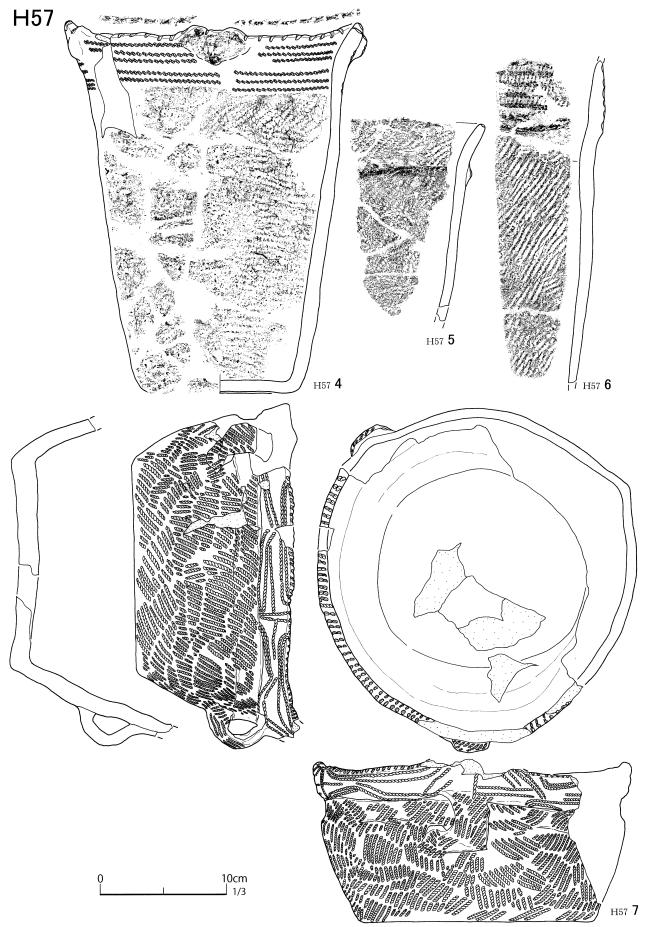
一括土器①は遺物番号 125 である。円筒上層 a 式の上半分のさらに半身で摩滅が著しく図化出来なかった。

一括土器②は遺物番号 124 である。サイベ沢Ψ式を思わせる、縄文地文に隆帯装飾の少ない円筒上層 a 式の小型深鉢である。23 となった。丸く膨らむ胴部と波頂部の中央に円形の貼り付けを持つ。

一括土器③は遺物番号 162 である。円筒上層 a 式が縦割りでおおよそ半分まとまっていた。底部は無かった。11 である。左右非対称の突起を持つ。縄文地文。

一括土器④は遺物番号 163 である。円筒上層 a 式の上半分のさらに半身が主である。覆土出土遺物 (主に遺物番号 2) と接合して 19 となった。波頂部から 2 本の隆帯を垂下し、口縁部区画の隆帯部分 にボタン状の突起を持つ。縄文地文である。もう一つは円筒上層 a 式新段階で、縦半分のみ残存して いたが、著しく破砕している。復元不可能であった。またもうひとつは円筒上層 a 式一個体分である。 13 である。小型の深鉢で、波頂部から 8 の字形の貼り付けを垂下するように貼り付ける。

一括土器⑤は遺物番号 167 である。円筒上層 a 式の一個体分である。8 である。波頂部から鋸歯状に垂下させた隆帯を持つ。口縁部区画と接する位置でこれを挟み込むようにボタン状貼り付けを二つ



図Ⅲ-2-63 遺構出土土器 H57(4~7)

配する。混在している破片には4と接合したものもある。4は一括土器⑯が主体で、⑬も一部接合した

一括土器⑥は遺物番号 238 である。円筒上層 a 式の破片について、大型の深鉢破片は 6 となった。被熱により、破砕著しい。一括土器⑧が主体である。同一個体であった。もう一つ、円筒上層 a 式の小型深鉢が復元できた。一部包含層Ⅲ層の遺物が接合した。7 である。底部は見つからなかった。

一括土器⑦は遺物番号 120 である。5 になった。一部、覆土上位一括土器⑫、Ⅲ層出土遺物が接合した。隆帯等、粘土紐貼付による飾りの無い地文のみの大型深鉢である。縄文地文。円筒上層 a 式である。

一括土器®は遺物番号 165 である。6 である。被熱による破砕が著しかった。大型の個体。一括土器⑥が一部接合した。線対称ではない装飾を持つ波頂部を持つ。中央にはボタン状貼り付けを持つ。円筒上層 a 式である。

一括土器⑨は遺物番号 237 である。円筒上層 a 式の深鉢を一個体復元できた。9 である。線対称の 文様構成である。波頂部から垂下した隆帯を口縁部区画部でふたつのボタン状突起で挟み込むように する。縄文地文。

一括土器⑩は遺物番号 235 である。主に円筒上層 a 式新段階一個体分である。1 である。出土破片中から一部が12 に接合した。1 は覆土上部から出土した。一括土器⑩がほとんどで、⑫とⅢ層のものが若干接合した。円筒上層 a 式最新段階である。1 と 2 は胎土に砂が多く、赤く発色しており、隆帯上および隆帯区画内の施文が細かい。円筒上層 a 式の範疇で周囲より新しい段階とした。12 は覆土上位出土一括土器⑫を主体とする。⑩が2点のみ接合した、円筒上層 a 式である。当初は口縁部文様が単純なため円筒下層 d 2 式の可能性を考えていたが、下層 d 2 式に平口縁に突起様の波頂部がつくものがない事と全体の縄押圧による文様構成からより新しいと判断した。

一括土器⑪は遺物番号 239~240 である。円筒上層 a 式の大型のものが縦半分あった。16 として復元した。16 は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。一点だけ一括土器⑫が接合した。大型の深鉢で、波頂部は線対称ではない。弯曲した突起を波頂部からの垂線上、口縁部文様帯区画と交差する部分に施す。結束を持つ縄文地文で、波頂部の垂線上に結束部を縦回転、文様を垂下する。掲載番号 3 に一部が接合した。円筒上層 a 式である。これは主に⑫が主体である。波頂部から 2 本の隆帯を平行して垂下させる。口縁部区画の隆帯部分でボタン状に隆起させる。

一括土器⑫は遺物番号 232~234 である。主体となったものは円筒上層 a 式のもので平口縁に突起が付く。12 である。一括土器⑭と接合した。他に、円筒上層 a 式古段階の口縁部があったが磨滅著しく図化出来なかった。さらに円筒上層 a 式最新段階、やや小型の深鉢が一個体混在していた。2 とした。1 と同様、胎土に砂が多く、赤く発色しており、隆帯上および隆帯区画内の施文が細かいため円筒上層 b 式を考えた。しかし、隆帯文様が横位のレンズ状貼り付け、例えば図Ⅲ - 2 - 78・F82 - 12 の様な円筒上層 b ~ d 式特有の施文となっていない。縦区画を基調とする口縁部文様のため、円筒上層 a 式の範疇で周囲より新しい段階とした。一括土器⑫遺物番号 234 のうち 7 点は 5 と接合した。これは一括土器⑦を主体とする。加えて円上層 a 式の砕片が混在している。これらのうち掲載土器に少量だが接合したものがある。1・3・5・10・16 である。1 は円筒上層 a 式最新段階である。覆土上部出土一括土器⑩を主体として⑫とⅢ層のものが接合した。3・5・10・16 は円筒上層 a 式である。3 は⑪を主体として⑫が少量接合した。5 は⑦を主体として⑫が少量接合した。10 は包含層で散点的に出土したものが接合した。そこに⑫が少量接合した。16 は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。1 点だけ一括土器⑫が接合した。円筒上層 a 式である。

一括土器③から、四分の一ほど残存する円筒上層 a 式が混在していた。4 である。4 は⑥が主体であり、ほぼ一個体分がまとまっていた。一括土器⑤と⑬も一部接合した。波頂部正面観の形状は線対称ではない。器壁は厚い。20 は覆土中位から上位にかけての遺物が散点的に接合した。そこに⑬と⑯が一部接合した。円筒上層 a 式小型深鉢である。三角形の突起様波頂部を持ち、対応する把手が対応して施されている。22 は⑬の遺物点数 115 点のうち 7 点である。混在していた小型深鉢である。底部は見つからなかった。残存する突起について、形状が異なっている。円筒上層 a 式小型深鉢である。

一括土器倒は遺物番号 169 である。接合後、一個体復元できた。14、円筒上層 a 式である。他に円 筒上層 a 式二個体分の破片があったが、復元、図化に至らなかった。

一括土器⑤は遺物番号7である。復元出来たのは小型深鉢で、18となった。円筒上層a式である。 底部は見つけられなかった。同時期で別個体の破片が3点入っていた。

一括土器®は遺物番号 168 である。まとまっていたのは白色味の強い器壁をした円筒上層 a 式である。これは 4 であり、一括土器⑤と⑬も一部接合した。円筒上層 a 式一個体分 20 が混在していた。20 は覆土中位から上位にかけての遺物が散点的に接合した。そこに⑬と⑯が一部接合した。加えて、円筒上層 a 式の土器破片が混在していた。

以上十六か所のまとまりは、覆土1層から2層にかけて出土した。1と2を円筒上層 a 式としたことで、復元個体については円筒上層 a 式古段階、同新段階、円筒上層 a 式最新時期にかけての土器が混ざった状態で出土した。H57-4や7のような円筒上層 a 式最古段階について出土が無かった事から、より後の廃棄場所と考えられる。

次に掲載遺物それぞれについて述べる。1・2 は円筒上層 a 式最新段階である。1 は覆土上部から出土した。一括土器⑩を主体として⑫とⅢ層のものが接合した。円筒上層 a 式最新時期である。2 は覆土上位出土一括土器⑫、円筒上層 a 式最新時期である。

3・8・9・14・19 は波頂部から垂下する隆帯と口縁部文様帯との接点においてボタン状貼り付けを 二組持つ、円筒上層 a 式である。

3は一括土器①と②をはじめとする覆土上位の遺物が接合した。8は覆土出土一括土器⑤が主体である。9は覆土中位出土一括土器⑨である。胎土・器壁は4に類する。14は覆土中位出土、一括土器④である。19は覆土の遺物が接合、復元されたものである。その中には一括土器③が含まれる。

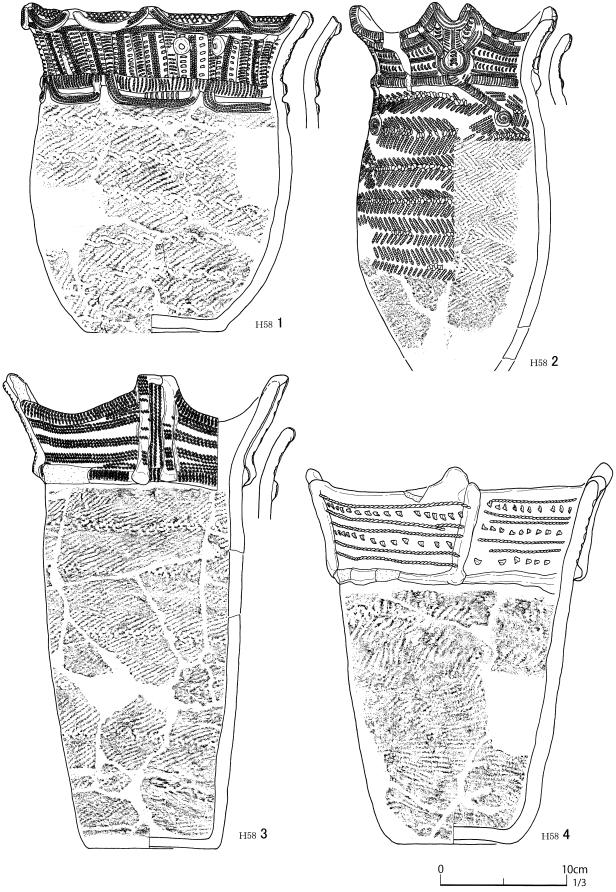
 $4 \cdot 6 \cdot 11 \cdot 16 \cdot 17 \cdot 22$  は正面観について線対称ではない形状を持つ円筒上層 a 式である。

4は一括土器⑥に一括土器⑤と⑬および覆土上位から下位にかけてのものが接合した。器面は白く発色する。6は覆土から出土した。一括土器⑧である。円形・ボタン状の貼り付けを波頂部中央に持つ。11は覆土から出土した。一括土器③である。16は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。1点だけ一括土器⑫が接合した。17は覆土からまとまって出土した。円筒上層 a 式である。22は覆土中位から出土した。一括土器⑬である。

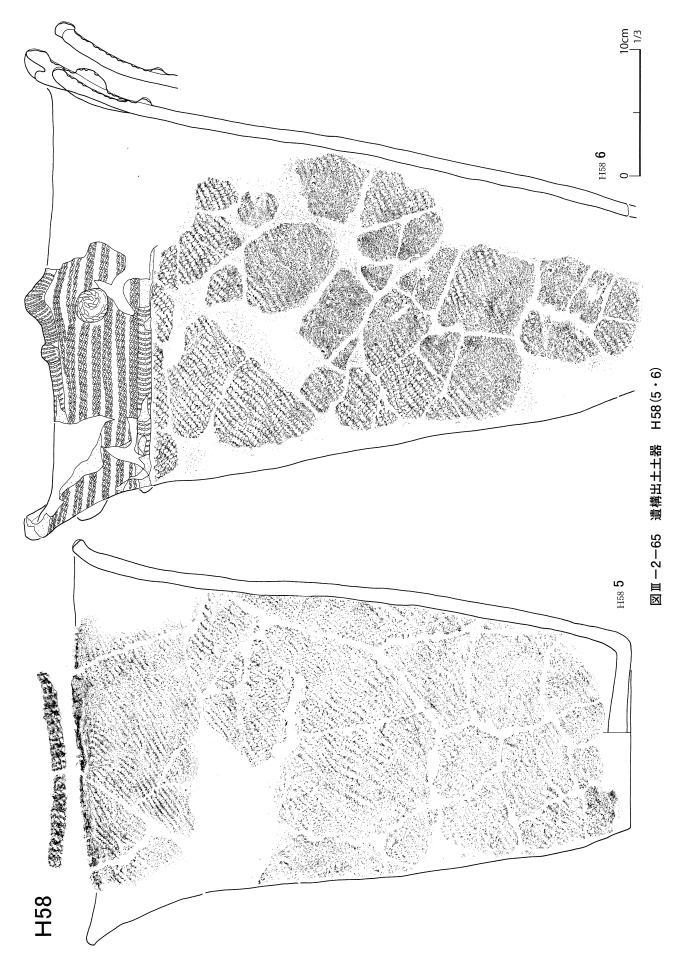
5・15 は円筒上層 a 式であるが隆帯・粘土紐貼り付けによる加飾が乏しいものである。

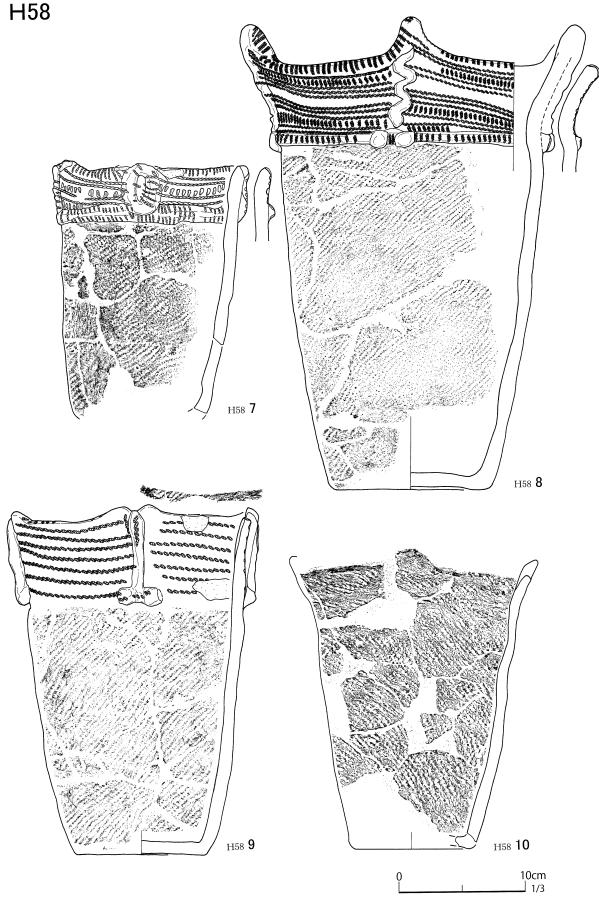
5 は覆土出土、一括土器⑦を主体とする。加えて覆土上位一括土器⑫、Ⅲ層出土遺物が接合した。 15 は覆土にまとまっていた小型深鉢である。23 は覆土出土一括土器②である。円環状の貼り付けを

## H58

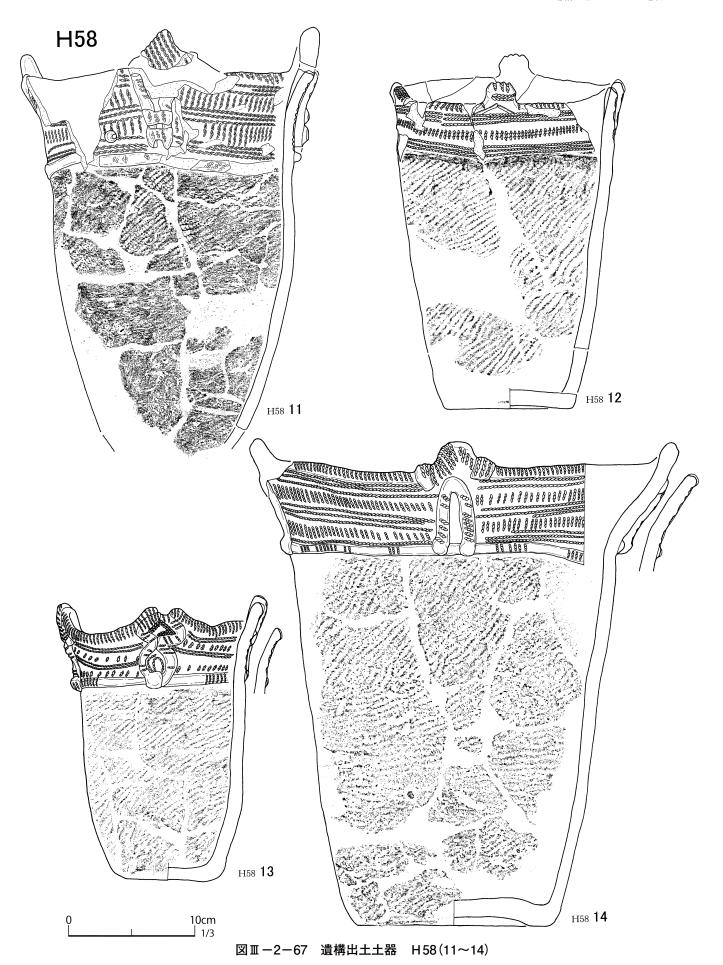


図Ⅲ-2-64 遺構出土土器 H58(1~4)

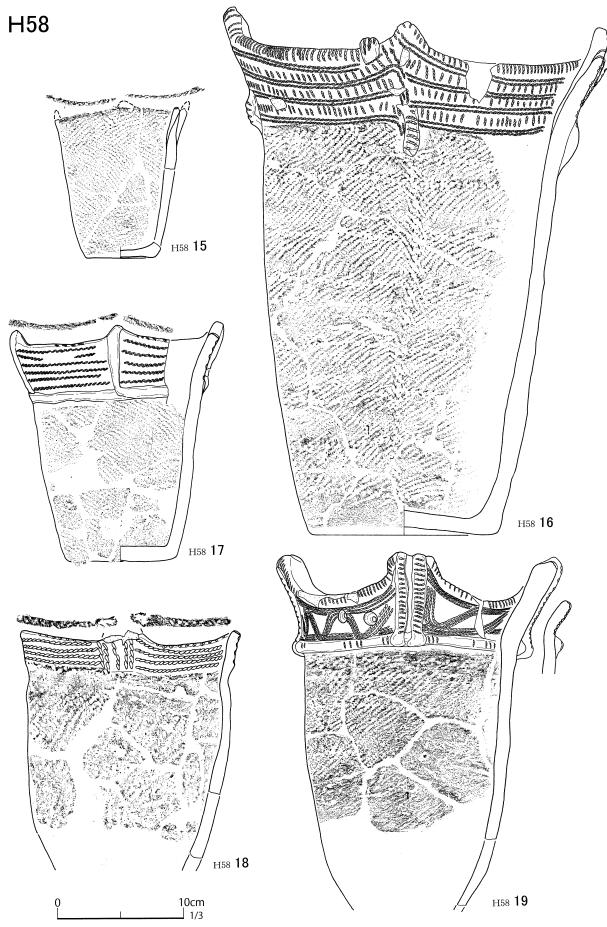




図Ⅲ-2-66 遺構出土土器 H58(7~10)



81



図Ⅲ-2-68 遺構出土土器 H58(15~19)

H58 H58 **20** H58 **21** H58 **22** H59 H58 23 10cm 1/3

図Ⅲ-2-69 遺構出土土器 H58(20~23)・H59(1)

持つ。7・13 は、隆帯および縄の押圧で口縁部文様帯を作り出し、そこに、波頂部と対応した環状あるいはそれに類した貼り付けを持つ円筒上層 a 式である。

7 は覆土出土、一括土器⑥を主体とする。加えてⅢ層の遺物が接合した。13 は一括土器④である。 8 の字状の貼り付けである。

10・21 は器壁が白色味が強く、胎土のきめが細かい円筒上層 a 式である。10 はⅢ層出土遺物が接合した。加えて、覆土上位出土、一括土器⑫である。21 は覆土上位出土。12・20 は平口縁に突起状の波頂部を持つ円筒上層 a 式である。12 は覆土上位出土一括土器⑫を主体として、⑩が接合した。20 は覆土中位から出土した。一括土器⑬や⑯も接合した。中央に把手を持つ。

18 は覆土中位からまとまって出土した、円筒上層 a 式で口縁部の文様要素から円筒下層 d 2 式に近いものである。

H59: 覆土から、磨滅した円筒下層 b 式が出土した。1 は覆土出土、円筒下層 b 式である。単軸絡条体地文で、底部際でも同一原体で帯状に横回転する。

H60: 円筒下層 c 式から下層 d1 式の出土が無い。1·2·4·5·6 は覆土から出土した。

1は口縁部が単軸絡条体横回転、胴部は縦回転。2は隆帯により口縁部を区画し、口縁部は単軸絡条体斜め回転、胴部は縦回転。4は胴部破片で単軸絡条体第1類縦回転を主とするが、底部際は単軸絡条体第5類回転により網目状。5は底部で、単軸絡条体第1類地文。底面も同じ原体で施文。6は隆帯による口縁部文様を区画。直下には結節回転が数段巡る。M2,M2-2,M4-3,M4-6から出土した遺物と接合あるいは同一個体である。

3は61Q区のM4-6が主体だが、H60覆土出土のものと接合した。口縁部には結節回転を施す。 地文は合撚地文で胴部上半と下半で異なる。単軸絡条体による回転が胴部中央に帯状に施される。

7は床面から出土した。点取りNo.26である。円筒下層 b2式古段階である。7は単軸絡条体地文。 全体に胴部の帯状文や口縁部区画直下の文様帯など古い要素を持ち、胎土も粗い。円筒下層 b2式 古段階の遺物が主に流れ込んでいると考える。

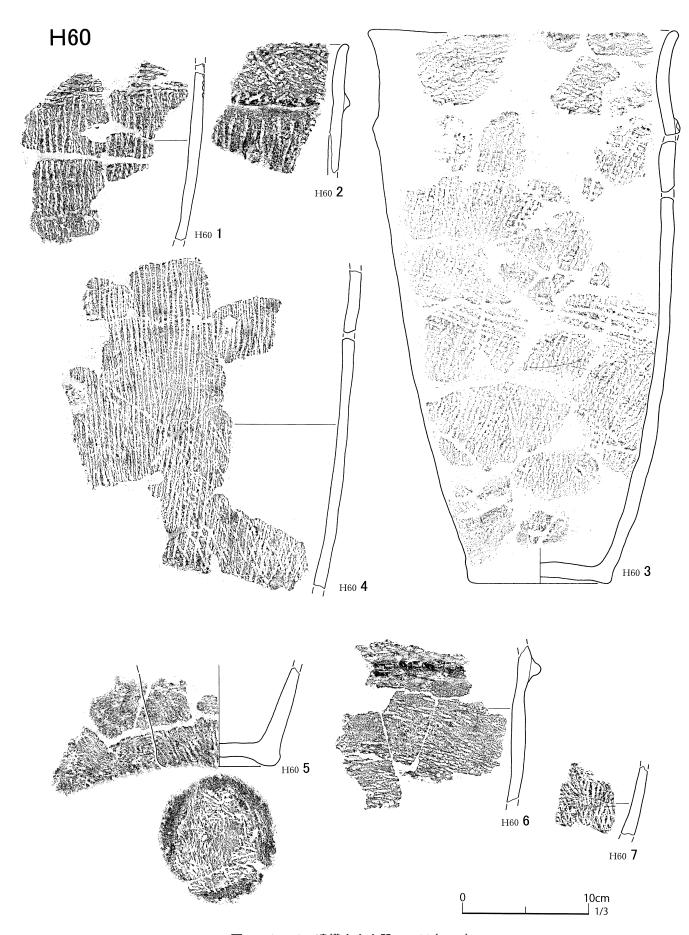
H61: 覆土から円筒下層 c 式から下層 d2式が混在して出土している。いずれも磨滅著しい。あるいは砕片のため、図化できなかった。

H62: 覆土から円筒下層 d2式新段階と円筒下層 b式が出土する。円筒下層 d2式は覆土上位からの出土で周囲の盛土出土遺物と接合する。床面からは円筒下層 b式が出土する。

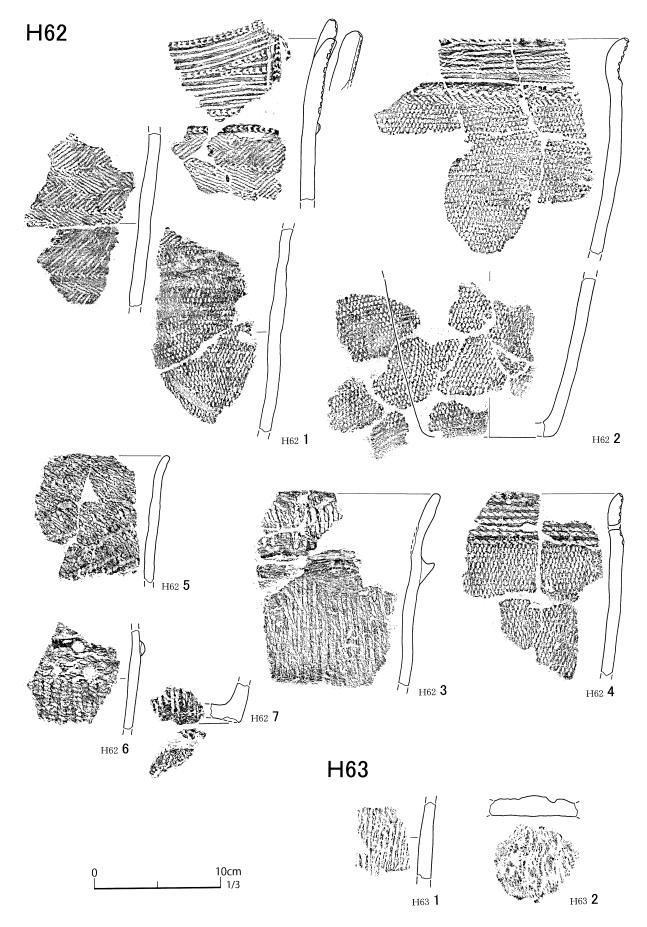
1 は覆土出土のものと住居が位置する調査区の包含層の遺物が接合した。円筒下層 d 2 式である。水平方向に並ぶ C 字状圧痕の連続によって口縁部文様帯が二段口縁風となる。胴部上半は結束第一種 羽状縄文が多段に施され、下半は多軸絡条体地文である。2 は覆土出土のものと住居が位置する調査 区の盛土と包含層の遺物が接合した。口縁部は縄線による直線構成の文様、多軸絡条体地文。いずれも円筒下層 d 2 式である。

3・4 は覆土出土である。3 は隆帯によって口縁部を区画される。口縁部胴部ともに単軸絡条体縦回転地文。円筒下層 b 2 式古段階とした。

4は口縁部に縄線文を施し、焼成前の穿孔を持つ。多軸絡条体地文。円筒下層 d 2 式とした。M 4 - 3 から類する遺物が出土した。



図Ⅲ-2-70 遺構出土土器 H60(1~7)



図Ⅲ-2-71 遺構出土土器 H62(1~7)・H63(1・2)

 $5 \sim 7$  は床面出土遺物である。5 は点取りNo.19 である。反撚りと合撚りを撚ったものか、複雑な地文を持つ。6 は点取りNo.16 である。隆帯上に指頭圧痕を連続、隆帯直下には結節回転が施される。7 は点取りNo.23 である。単軸絡条体地文を持つ底部破片である。いずれも円筒下層 b2 式古段階、6 などは円筒下層 b1 式の可能性がある。

H63: 1・2 は床面出土である。1 は点取りNo.27、単軸絡条体地文。2 はNo.13。上げ底の底面に単軸絡条体で施文する。いずれも円筒下層 b2 式とした。

H64:覆土や床面から円筒下層 b 式が出土する。円筒下層 b 式の時期。H64 はH63 よりも古い。

1・3 は床面出土で、点取りNo.50とNo.63である。2 は覆土1層出土である。1・2 は上げ底で、単軸絡条体地文。3 は口縁部に結節回転文を施す。いずれも円筒下層 b 2 式である。

H65: 床および覆土から円筒下層b式から下層d1式にかけてが出土している。

1 は床面出土、点取りNo.9である。多軸絡条体地文で、円筒下層 b 2 式新段階である。2 は覆土1 層出土である。口縁部に縄線を多段に施す。円筒下層 c 式である。3 の左側図は覆土出土である。口縁部には矢羽状縄線で加飾する。区画間には押し引きの連続を施す。胴部には結束第一種羽状縄文と単軸絡条体回転を施す。円筒下層 d 1 式である。3 の右側図は住居のある調査区 42W区の出土である。M 6-2 およびH66 床面出土の土器片と同一個体の可能性がある。42 Y 区出土遺物にも類例がある。

H66:覆土から円筒下層 b 式のみ出土し、床面からは円筒下層 b 式から円筒下層 d 1 式が出土している。そのうち円筒下層 d 1 式については H65 覆土中と M6-1,42 W区の土器片と同一個体の可能性が高い。円筒下層 d 1 式が出土しているが、M6 盛土より古いので混在の可能性がある。柱穴覆土から円筒下層 b 式が出土している。1 は床面出土、点取り No.7 である。 H65-3 と同一個体と考える。円筒下層 d 1 式である。2 は付属遺構 HP-1 覆土 2 層から出土した。複節縄文地文の胴部破片である。円筒下層 b 2 式である。

H67: 床面および付属遺構 HP-1 から出土した破片が接合し、円筒下層 b 式が一個体復元できた。 1 は床面と付属遺構から出土した土器が接合した。床面出土点取り No. 65 と No. 66、付属遺構 HP-1 覆土 1 層出土 No. 67 が接合した。口縁部および胴部中央に帯状に結節回転、地文は単軸絡条体地文である。胎土、器形から円筒下層 b 2 式段階だが胴部中央に帯を持つなど古い要素を併せ持つ。

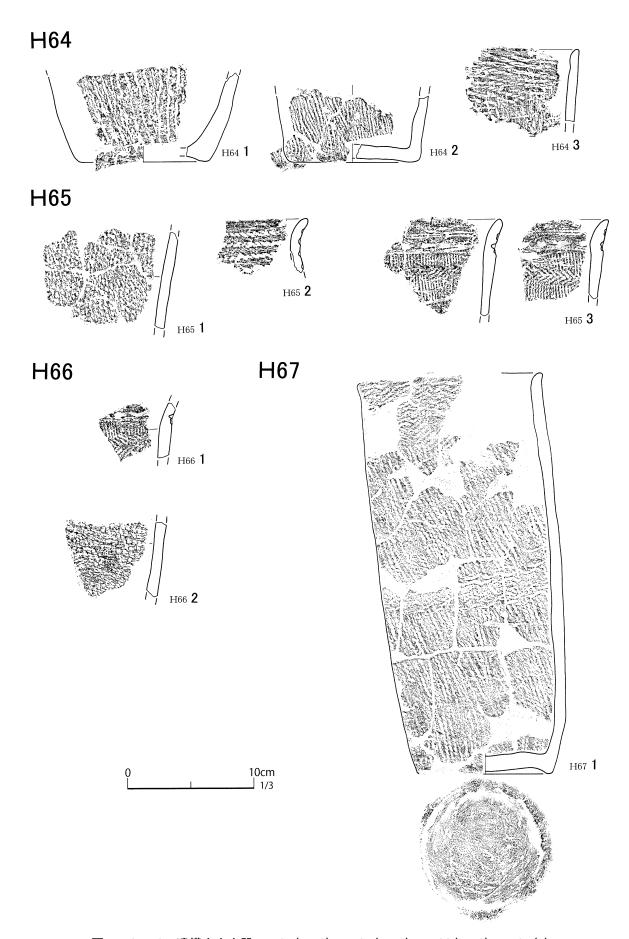


図 II - 2-72 遺構出土土器 H64(1~3)・H65(1~3)・H66(1・2)・H67(1)

### (2) 土坑

P45:1は覆土中の一破片に加えて、63R区M2-2が中心となって接合した。器壁は薄く焼成が良い。口縁には、二対で二種類の波頂部を持つと思われる。調査範囲内に類例が無い、異質な土器である。層位、文様要素等、出土状況から円筒下層d2式とした。

2 は覆土出土遺物 63 T 区と 63 Q 区のM 2 盛土出土遺物が接合した。口縁部には矢羽縄線で直線構成の文様を施す。単軸絡条体第 4 類を地文に持つ。円筒下層 d 2 式土器である。

P47:1は覆土2層から出土した、Ⅲ群 a 類、円筒上層 d 式である。波頂部中央に把手を持つ。器面を細い粘土紐で加飾する。

P54:1は底面から出土した。潰れたようにひとまとまりになっていた。口縁部には反撚り縄文、胴部地文は単軸絡条体回転、底面には縄文施文。円筒下層 b2式である。

P55:1は底面出土、点取りNo.6で示した点を中心として直径20cm範囲内に分散していた。この遺物を主体として、覆土出土遺物が他に7点接合した。口縁部には、単軸絡条体横回転、胴部は縦回転、底面にも同原体を回転させた痕跡。

P56:1は底面から出土した。点取りNo.9とNo.10である。底部で同一個体と考えるが、接点は無かった。意図的に土器を打ち欠いて、底部を外した可能性がある。口縁部には縄線と円形刺突列。胴部には単軸絡条体地文。口縁部の区画には円形刺突を連続した降帯。底面には縄文を施す。

P60:1は覆土のものと、遺構がある調査区の隣、81 P区、81 Q区出土遺物が接合した。隆帯・粘土 紐による加飾は無い。縄文地文。円筒上層 a 式と考える。

## (3) Tピット

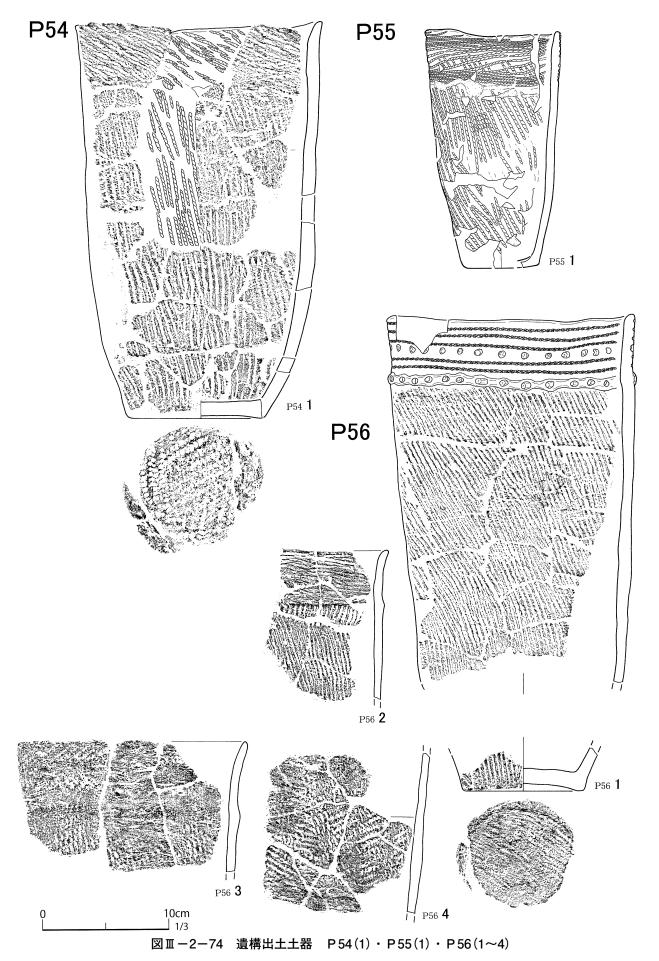
TP7:1~3のいずれも覆土出土遺物と遺構がある 82P区の遺物が接合した。1 は 82P区包含層、 $2\cdot3$  は H58 覆土出土遺物が接合した。1 は波頂部にボタン状の貼り付けを持つ。2 には突起様の波頂部から連続するボタン状の貼り付けがある。底部には意図的にあけられた穴がある。3 は R L R 縄文地文で L R 結節縦回転。いずれも円筒上層 a 式である。

#### (4) 燒土

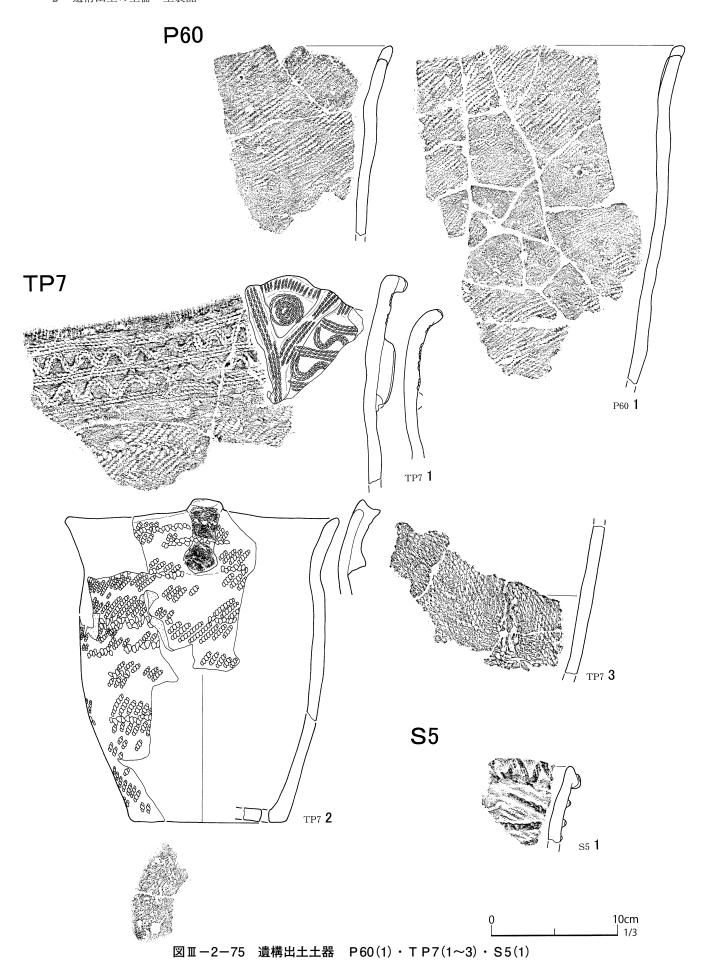
盛土のトレンチ調査で確認した焼土F66~78 については、検出面と遺物出土状況について、本文は第1分冊第Ⅲ章1項・図は第Ⅱ章に、遺物そのものの説明は第3分冊第Ⅳ章1項と表に記載した。

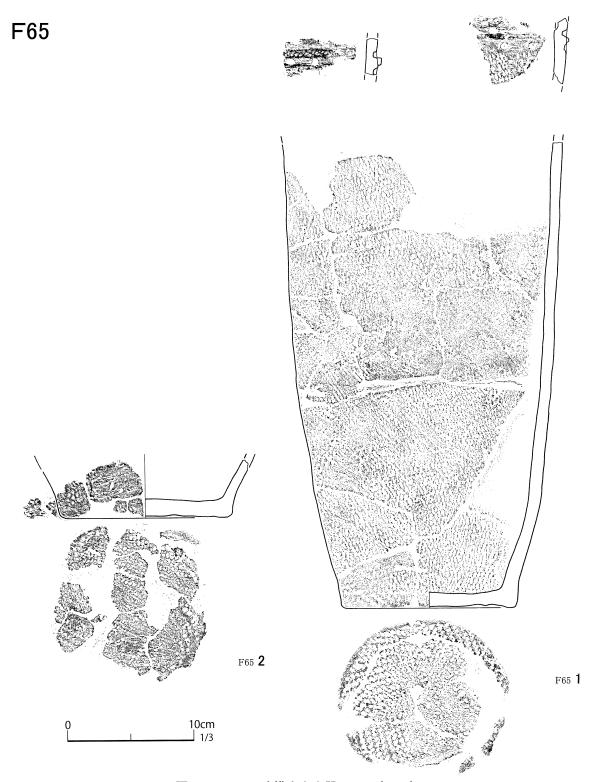


図Ⅲ-2-73 遺構出土土器 P45(1・2)・P47(1)



91





図Ⅲ-2-76 遺構出土土器 F65(1·2)

F69 はH21 竪穴住居廃絶後の窪み、F78 はH29 竪穴住居廃絶後の窪みに位置する焼土である。F69 は円筒下層 d1式新段階、F78 は円筒下層 d2式のまとまった廃棄を伴う。いずれも焼土の下位に円筒下層 d1式古段階、焼土の上に円筒下層 d2式のまとまった廃棄が確認された。F69 とH21、F78 とH29 の層位別出土遺物の変遷については第VI章 2項にまとめた。F69 とH21 については図VI - 2-5 ~ 6、F78 とH29 については図VI - 2-1 と図VI - 2-4 に示した。F77 は基底部の焼土M4-6相当である。この項ではそれ以外の焼土関連遺物について記載する。

F65:周辺から出土した遺物を図化した。1 は 76 R 区の風倒木と思われる攪乱から出土した土器である。風倒木に入り込んでいた土器である。据え置いた後に、木の根が入り込んだ可能性があった。口縁部が大きく欠損しており接合しなかった。残存する破片から、口縁部区画の隆帯があり、その上下に円形刺突を持つ。多軸絡条体地文の筒型をした深鉢である。底面にも同様の原体で施文する。円筒下層 b 2 -c 式と考える。取り上げ時に土器の下から礫が出土したが、使用痕などなく V 層より下位の礫層起源のものと考える。

2 は木の根に据えられて、あるいは入り込んでいた土器底部である。縄文地文で、底面にも同様の原体で施文する。76 Q 区の abcd(図 III-1-129)で囲んだ範囲から出土した。円筒下層 b 2  $\sim$  c 式と考える。

F82:  $1 \cdot 3 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 9 \cdot 11 \sim 14 \cdot 16 \cdot 26$  は覆土 1 層出土である。 $5 \cdot 8 \cdot 15 \cdot 17 \sim 19$  は覆土 2 層出土である。 $2 \cdot 9 \cdot 20 \sim 22 \cdot 24 \cdot 25 \cdot 27 \cdot 33$  は沢 1 層出土である。 $4 \cdot 10$  は沢 1 層と覆土 1 層の遺物が接合した。

 $1\sim11\cdot13\sim32$  はサイベ沢 $\mbox{VIII}$ 式と考える。規格がわかるものとして、口径  $9\sim22\mbox{cm}$ 、器高  $12\sim20\mbox{cm}$ 、底径  $4\sim9\mbox{cm}$ と小型の深鉢で構成される。また 6 のような中空の台付鉢や、29 のように丸底に成形した浅蜂に台をこしらえた痕跡がある。台部分は見つけられなかった。

12 はほぼ同時期の遺物と考えるが、円筒上層 c 式由来のレンズ状文様を細い隆帯で施すため、円筒上層 d 式とした。口唇部あるいは波頂部中央の貼付以外に粘土紐による加飾を持つ個体はない。また、3 や 6 のように沈線によって、レンズ文起源と思われる文様が直線化したものもあるが 12 とは異質のものである。また残存部分から口径は 30cm前後、器高は 40cmを大きく上回る大型深鉢と考えられる、意図的に割り、廃棄した可能性がある。

32 はサイベ沢Ⅲ式の胴部片の縁辺を丸く加工し、中央に穿孔したものである。33 は焼成粘土塊である。

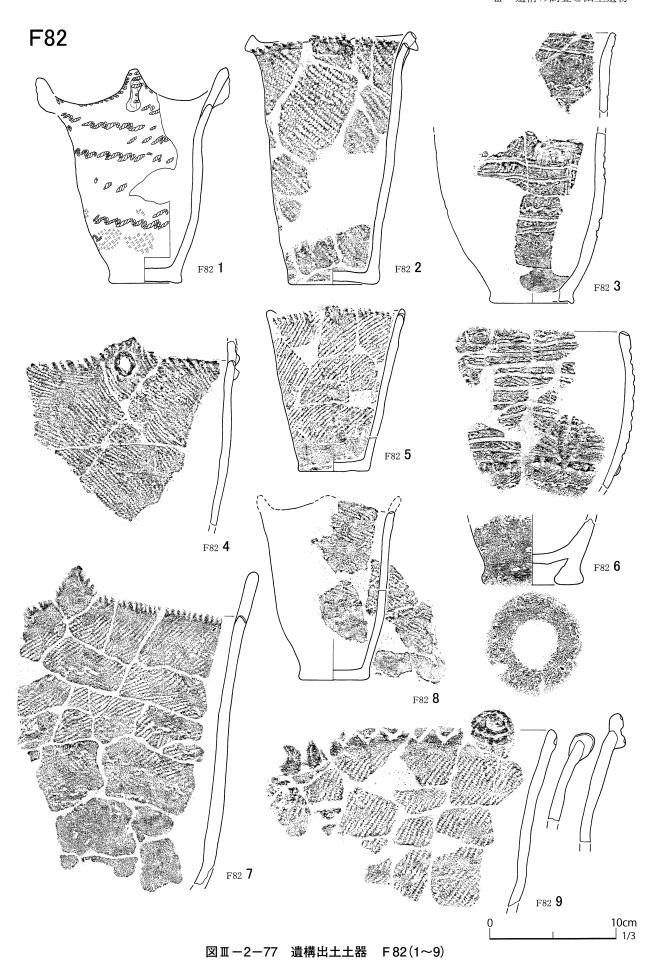
## (5) 集石

S5:1はS5と同一検出面から出土した。肥厚する口縁部を持つ。細い降帯で器面を加飾後、縄文施文。

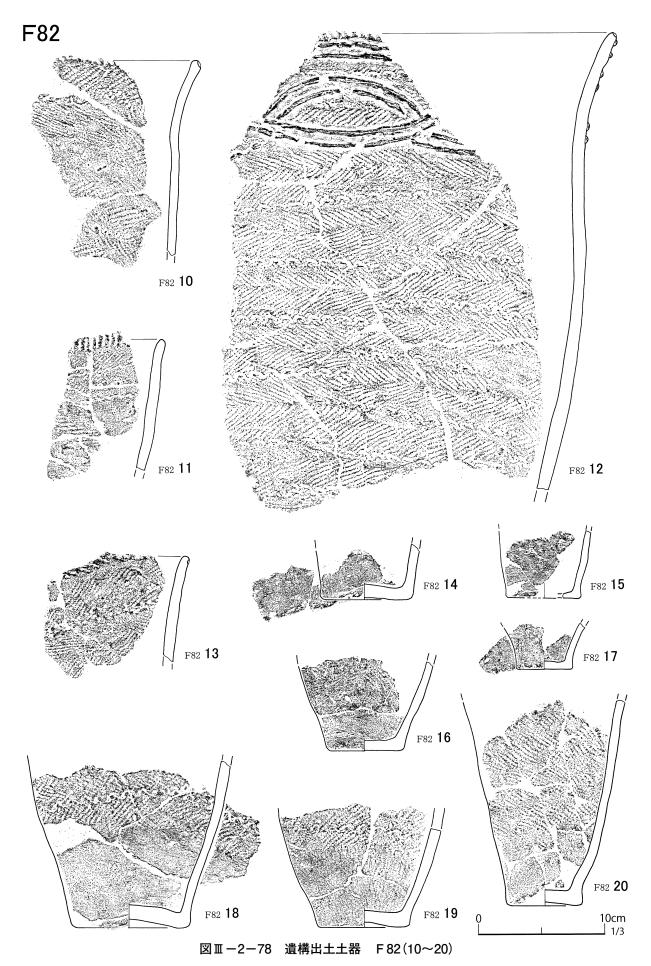
### (6) 遺物集中

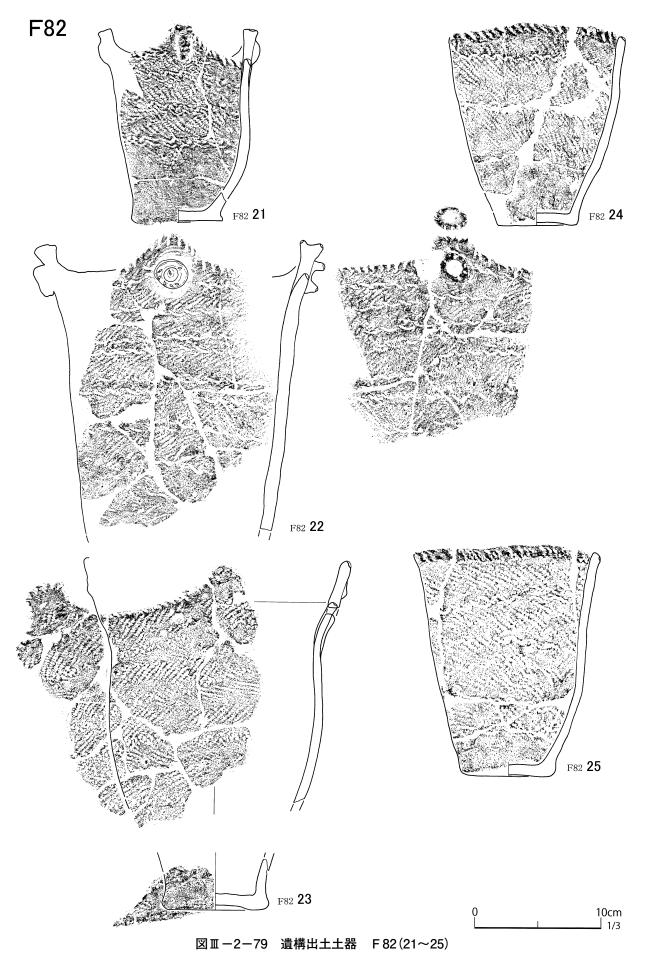
遺物集中について、抽出、図化した土器は無い。

(大泰司)

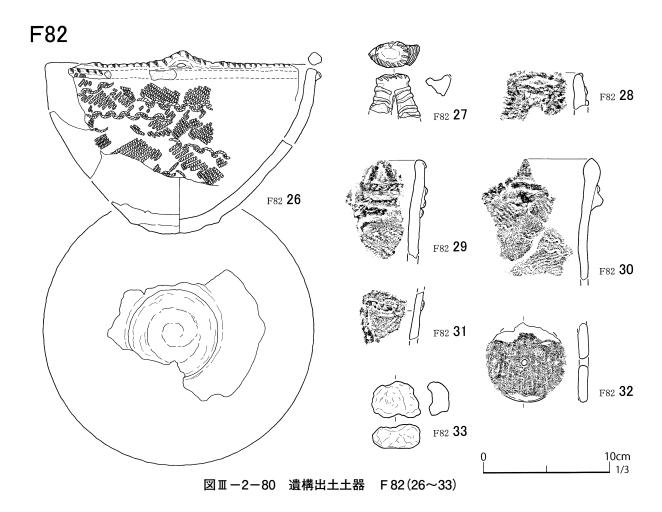


95





97

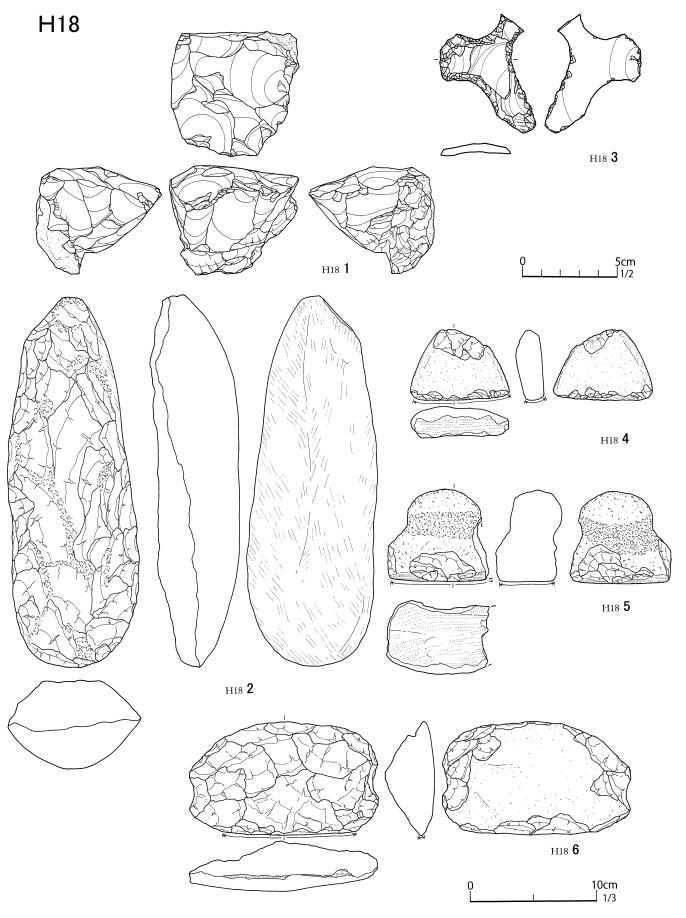


## 3 遺構出土の石器・石製品

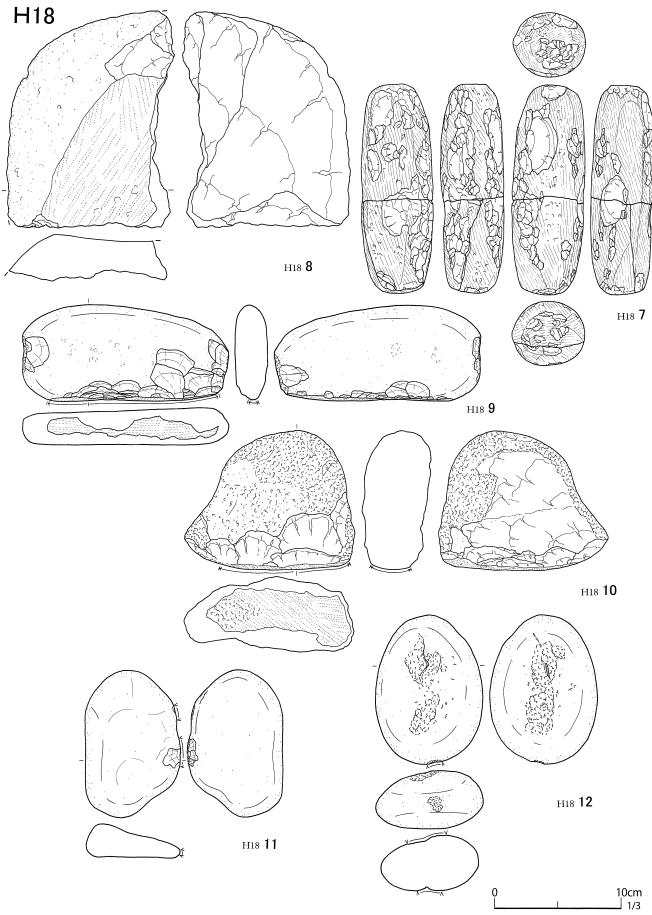
この項に掲載した石器はいずれも縄文時代のものという可能性がある。大きさ、材質、出土位置は(表 III - 7 遺構出土石器一覧) に記した。出土位置がわかるものについては第1分冊 III 章1 項の遺構図 で「掲載番号1の石器・石製品」ならば「石1」のように示した。

## (1) 竪穴住居

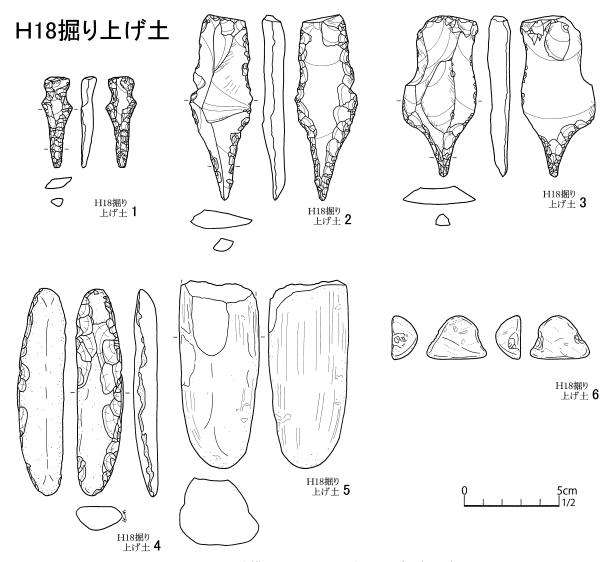
H18:1~7は覆土出土である。4・5・7は覆土1層、2は覆土2層、1・6は覆土3層、3はトレンチからの出土である。8・10は床面出土、9はHP-5、11はHP-11、12はHP-18のそれぞれ覆土中からの出土である。1は頁岩の石核である。2の正面は打ち欠きによる調整が全体におよび、裏面は礫面が残る砂岩である。石斧未成品と考える。3は頁岩の異形石器である。三か所の張り出し部分から構成される。4は流紋岩製の小型扁平打製石器である。頂部には両面からの打ち欠きによる成形がある。5は安山岩製の小型北海道式石冠である。全面に叩打成形がおよび持ち手は明瞭に作り出す。6は砂岩製の扁平打製石器である。縁辺には両面からの打ち欠きによる成形がおよび、両側縁はノッチ状になっている。7は凝灰岩製の石棒である。全面を叩打後ミガキにより、成形を施す。円柱状だが中央の径が太くなる。8は安山岩製の石皿片である。正面には皿状の凹み部があり滑らかになるまで使いこまれている。9は閃緑岩製の扁平打製石器である。両側縁に叩打による成形が加えられる。



図Ⅲ-3-1 遺構出土石器 H18(1~6)



図Ⅲ-3-2 遺構出土石器 H18(7~12)



図Ⅲ-3-3 遺構出土石器 H18掘り上げ土(1~6)

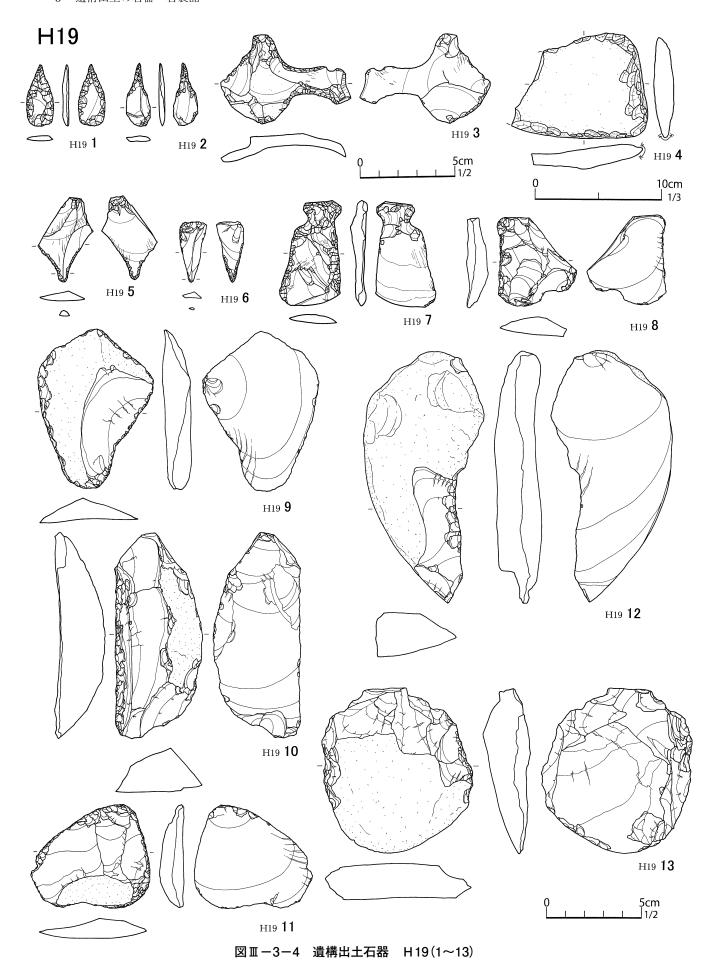
10 は砂岩製の北海道式石冠である。全面に叩打を施して持ち手部分を作り出す。機能部は平滑になるまで使い込まれる。11 は流紋岩のたたき石である。側縁の一部に叩打痕がある。12 は砂岩の凹み石である。表裏対応する凹みが長軸上に二か所ある。

H18 掘り上げ土: 土器は円筒下層 b 式から下層 d 1 式の磨滅した破片の出土があった。石器は特徴的なドリルと石製品の出土があった。そこで石器を抽出、図化した。

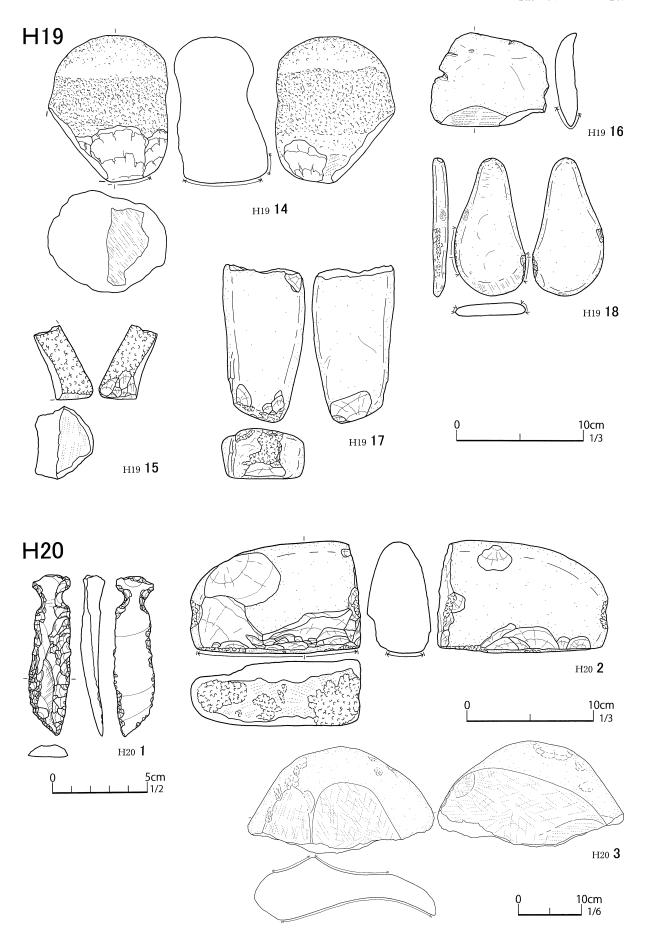
 $1 \sim 3$  は頁岩製のドリルである。いずれも長い錐部を両面調整によって作出し、基部は幅広く、線対称である。1 はつまみ部分も作出する。 $4 \sim 6$  は石製品である。4 は棒状の頁岩の片面を打ち欠き半対面の礫面を残す。側縁部は擦りによるものか磨滅している。5 は折損した棒状の凝灰岩である。残存部分表面には研磨の痕跡がある。6 は軽石の全面を研磨したものである。一面を平坦に作り出している。

H19:  $1 \sim 4$  は覆土 2 層からの出土、 $5 \cdot 6 \cdot 8 \sim 11 \cdot 13 \sim 15 \cdot 17 \cdot 18$  は床面出土、7 は周溝の覆土、12 は HP -15 の覆土、16 は HP -18 覆土 1 層からの出土である。

1・2 は頁岩製石鏃である。円~平基で先端を細長く作出する。基部形態が不整であることから、 尖基で同形の先端部を持つ型が典型的であるが、それに近いものと考える。3 は頁岩の異形石器であ



102



図Ⅲ-3-5 遺構出土石器 H19(14~18)·H20(1~3)

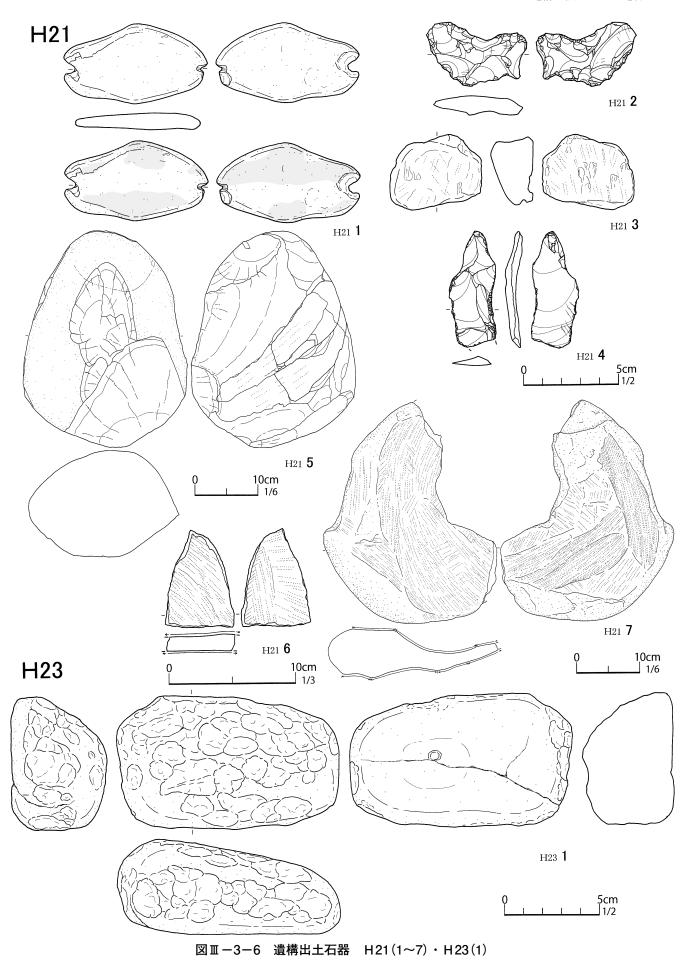
る。ふたつの張り出しを持ち、ひとつはつまみ様である。4 は砂岩の大型礫を打ち欠いた破片の縁辺を微細な打ち欠きで成形し、石鋸として用いたものである。5・6 は頁岩製のドリルである。もともと細長い張り出し部分を持つ剥片を選択し、微細な剥離で錐部に仕上げる。7 は頁岩製のつまみ付きナイフである。両側縁に刃部を持つ。8~12 は頁岩製のスクレイパーである。8 は一側縁に片面調整による刃部が作出される。9 は縁辺に浅い剥離が巡る。10 は肉厚の素材の一側縁に急角度の刃部を持つ。11 は縁辺に浅い剥離が巡るが、正面右下が素材の厚みを生かして掻器様になっている。12 は右側縁に深い剥離による刃部が作出される。13 はほぼ円形をした頁岩の剥片素材に両面からの深い剥離を施したものである。両面調整石器に分類した。14・15 は北海道式石冠である。14 は安山岩で全面を叩打し、持ち手部分を作出する。機能部は平滑になるまで使い込まれ、割れによる欠損が著しい。15 は閃緑岩で機能部側の破片と考えられる。全面に叩打調整があるものと考えられ、被熱した痕跡がある。16 は砂岩の大型礫を打ち欠いた破片の縁辺の薄い部分をそのまま石鋸として用いたものである。17 は棒状の砂岩の下端に叩打痕があるものである。18 は撥型で、縁辺に叩打痕がある薄い緑色泥岩である。小型石斧の未成品という可能性もある。

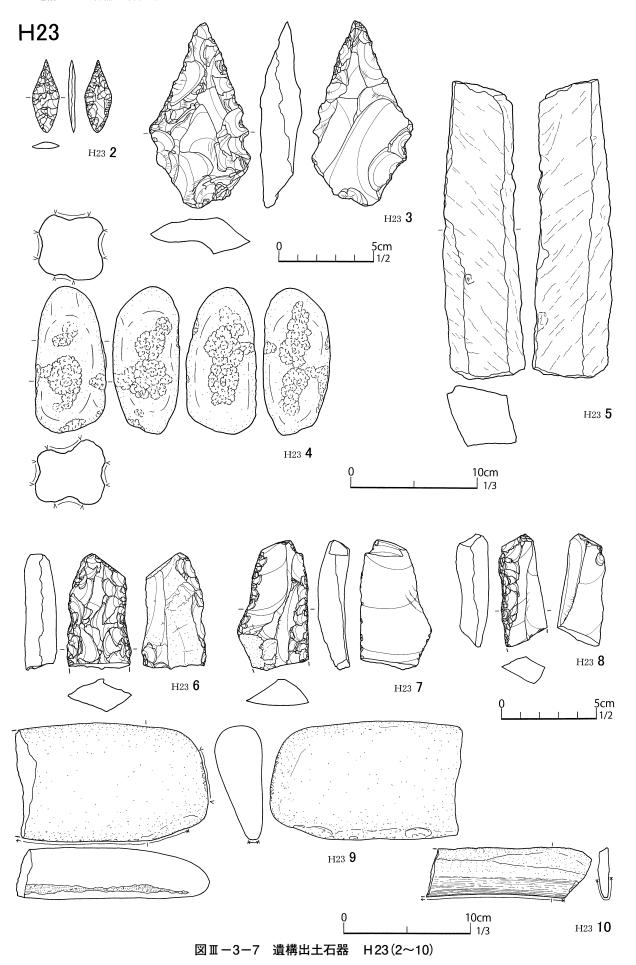
H20:1~3は床面からの出土である。1は頁岩のつまみ付きナイフである。先端は切り出し形で両側縁に刃部を持つ。2は砂岩で、打ち欠いて幅広の機能面を底面に作出し、そこには叩打痕が顕著である。また残存する側縁には叩打による溝状の持ち手が作り出された痕跡がある。その溝は反対側割面にも対応する叩打痕がある。不整な形状のため扁平打製石器に分類したが、北海道式石冠未成品の可能性もある。3は安山岩製の石皿片で皿状の凹みが表裏にある。表裏の凹み面の深い部分が対応する場所で割れている。

H21:  $1 \sim 3$  は覆土、 $4 \cdot 6 \cdot 7$  は床面、5 は HP-11 覆土からの出土である。

1は凝灰岩製の錘である。打ち欠きと擦り切りで対応する装着部分の凹部を作出する。これは素材の長軸上に対応する。ほぼ全面に赤彩された痕跡があるが、この装着部と対応する長軸部分のみ無い。これは赤彩時に長軸上になにかが巻いてあったその上から赤彩が施されていた可能性がある。赤彩部は下図に網掛けで示した。2・3 は石製品である。2 は頁岩製異形石器である。3 は軽石の全面を研磨したもので裏面には平坦面がとられている。4 は頁岩製スクレイパーとした。剥片の縁辺に細かい剥離が巡る。6 は砂質凝灰岩製の砥石片である。表裏に顕著な研磨痕跡がある。5 は砂岩の台石である。両裏面に叩打痕がある。7 は安山岩の石皿である。楕円形をした溝状の凹みが顕著なもので表面に大小1条ずつ。裏面に3条ある。表面の顕著な大型の溝の一番深い部分、石の一番浅い部分で割れている。

H23: 1~5 は覆土、6~10 は床面からの出土である。1 は安山岩製の石製品である。正面図とした側はほぼ全面に叩打が及ぶ。左側面図側には凹みが叩打で作られる。これに対応して、裏面図でわかるように、右側面にも小さな凹みが叩打で作出されている。底面とした側には溝状が叩打によって作出される。石冠様石器的な石製品の可能性がある。2 は頁岩製石鏃である。尖基で先端が細長く作り出されている。3 は頁岩の両面調整石器である。線対称の形状で縁辺は粗く打ち欠かれる。4 は安山岩製の凹み石である。断面は正方形に近い表裏二面ずつに対応する二か所の凹みが長軸上に並ぶ。5 は安山岩の棒状礫である。柱状節理を採取してきたものと考える。石棒的な意味合いを想定し、掲載した。6~8 は頁岩製のスクレイパーである。6 は正面について深い剥離が全面におよぶ裏面は右側縁のみ両面調整である。7 は両側縁、8 は片側縁に片面調整の刃部を作出する。9 は砂岩製の扁平打





106

製石器である。素材本来の形状を生かして利用しているが、残存する側縁には叩打痕が残る。成形痕跡か使用痕かは判然としない。10 は安山岩の石鋸である。板状節理の幅が狭い部分を生かして石鋸機能部を作出している。

H24:1~3は床面、4は覆土2層からの出土である。1は頁岩製のドリルである。先端は丸まり使い込まれている。2・3は頁岩製スクレイパーである。2は、先端が平刀型で、その端部と平行な両側縁には整然と刃部が作出されている。折損しているため不明だがつまみ付きナイフだった可能性がある。3は縁辺に刃部が巡る。4は凝灰岩で、両端が折損している両側縁は急角度に打ち欠かれている。割面である裏面中央には凹みがある。石棒や石冠に類する石製品の可能性を考える。

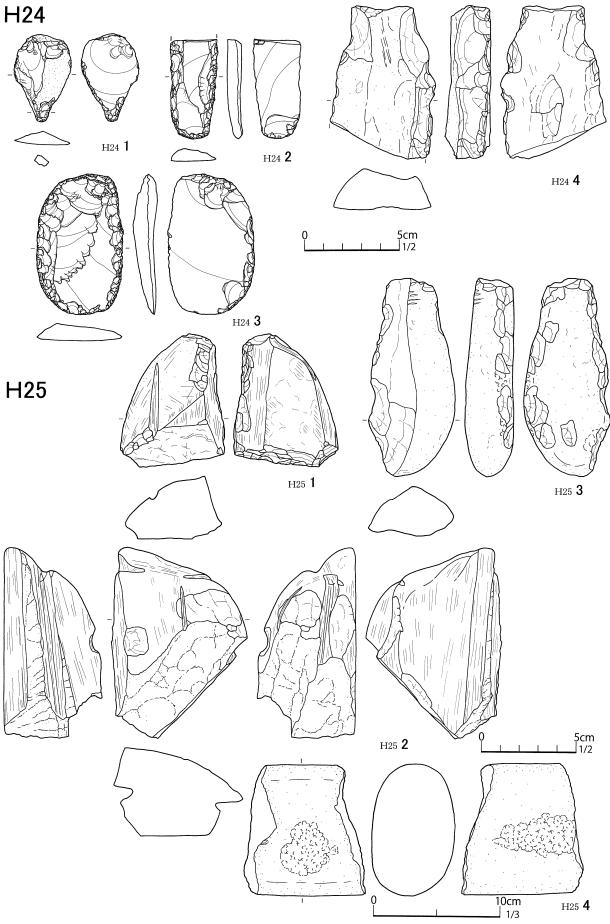
H25:  $1 \sim 4$  は覆土からの出土である。3 が覆土 1 層でほかは覆土 2 層。 $5 \sim 7$  は床面からの出土である。

1・2 は緑色泥岩の擦り切り残片である。いずれも四方向からの擦り切りが見受けられる。側縁の一部には連続する打ち欠きも認められる。3 は凝灰岩の棒状礫について両側縁を急角度に打ち欠いたものである。石棒的な石製品の可能性を考えた。4 は厚みのある楕円礫の長軸両端を打ち割って、表裏両面長軸上に叩打痕を持つ安山岩である。その大きさと形状から北海道式石冠未成品の可能性を考えた。5 は頁岩製石槍又はナイフの先端部片である。尖基木葉形の可能性がある。6 は頁岩製スクレイパーである。平行な両側縁には片面調整の刃部。端部には掻器様の刃部を持つ。7 は砂岩製石皿である。両面に研磨面を持つ、正面側の凹みが顕著である。残存部から大型だった可能性があり石皿としたが砥石という可能性もある。

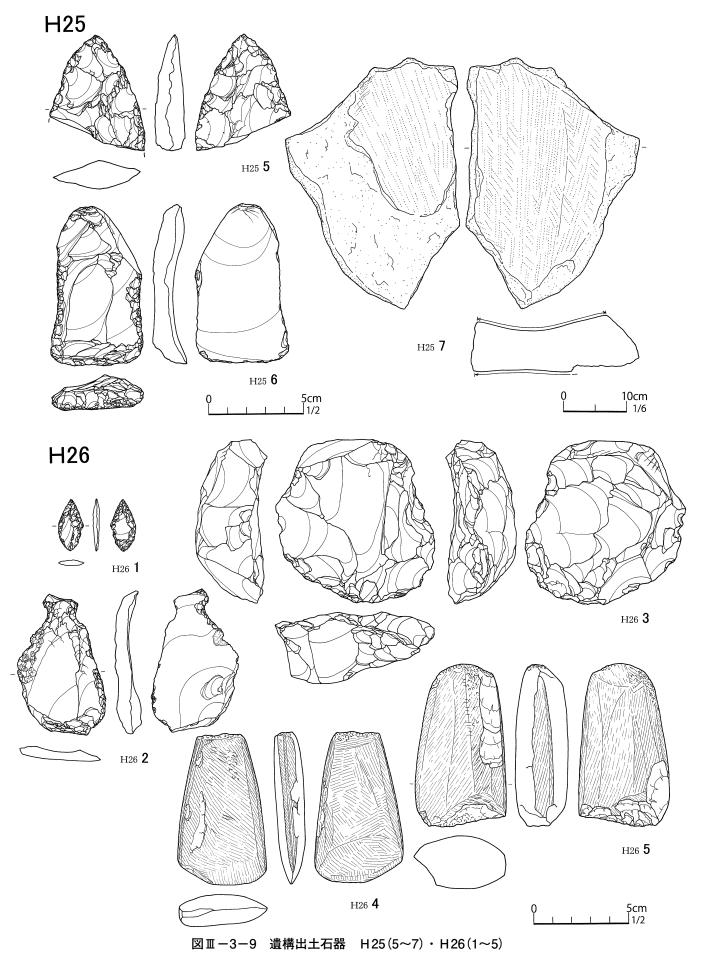
H26:1・2・4~7・9は床面からの出土、3はHP-16の覆土、8はHP-4の覆土からの出土である。 1は頁岩製石鏃である。尖基で先端を鋭角的に作り出す。2は頁岩製つまみ付きナイフである。正面右側縁に片面調整の刃部を作り出す。反対側面は礫面を残す。3は頁岩の石核である。4・5は緑色泥岩製の石斧である。4は片面のしのぎが顕著である。5は刃部が折損している。6は割れた安山岩礫片の頂部を打ち欠いて、下端両端を打ち欠いている。機能部が想定できる部分は未使用であるが、小型の扁平打製石器未成品の可能性がある。7は安山岩製の扁平打製石器である。残存する側縁がノッチ状に打ち欠かれる。機能部は平滑になるまで使い込まれている。8は砂岩のたたき石である。下端部に叩打痕がある。9は安山岩の石皿である。楕円形の凹み石が表裏面にある。両面とも滑らかになるまで使い込まれている。

H27: 1 は覆土 2 層からの出土である。 $2 \cdot 4 \cdot 6 \sim 8$  は床面からの遺物出土である。3 は周溝覆土からの出土である。5 は HP -1 覆土 1 層からの出土である。

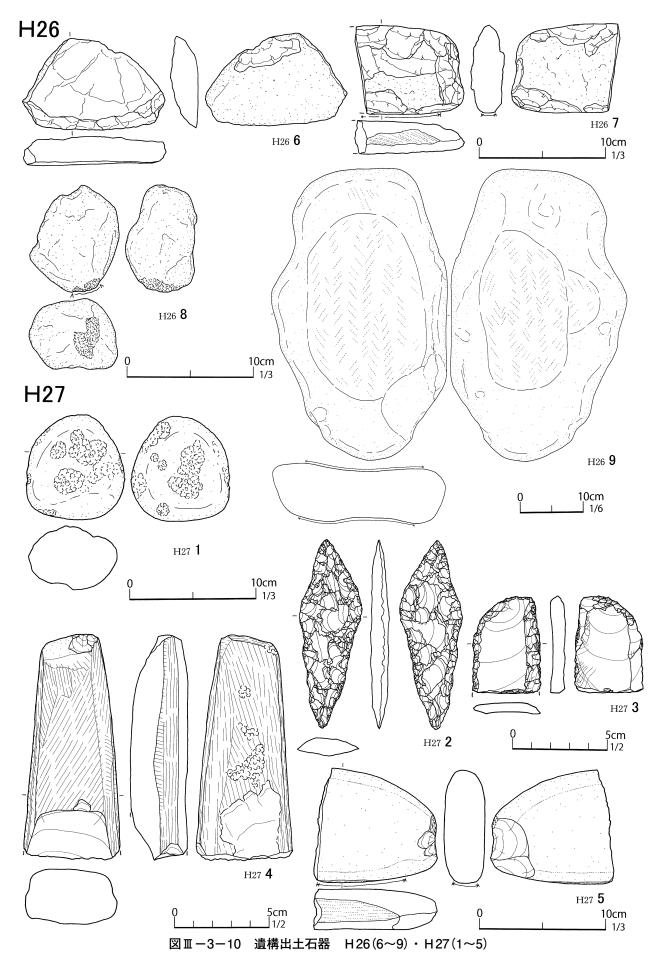
1は安山岩の凹み石である。亜円礫に表裏対応する二対の凹みを主としてまばらな凹み部を持つ。2は頁岩製の石槍又はナイフである。鋭い先端部を持つが、凸基有茎だが、正面観は線対称ではない。3は頁岩製スクレイパーである。両側縁に片面調整の刃部を持つ。4は緑色泥岩製の石斧である。刃部は折損する。擦り切りと研磨によって成形された痕跡がある。5~7は扁平打製石器である。5・6は砂岩製。5は残存する側縁に両面からの調整が加わる。機能面は平滑になるまで使い込まれている。6は側縁に両面からの調整が加わる。上面は石鋸、仮面は密な叩打痕がある。7は安山岩の楕円礫の両端に両側からの調整が加わる。機能部は平滑になるまで使いこまれる。8は砂岩の台石である。両

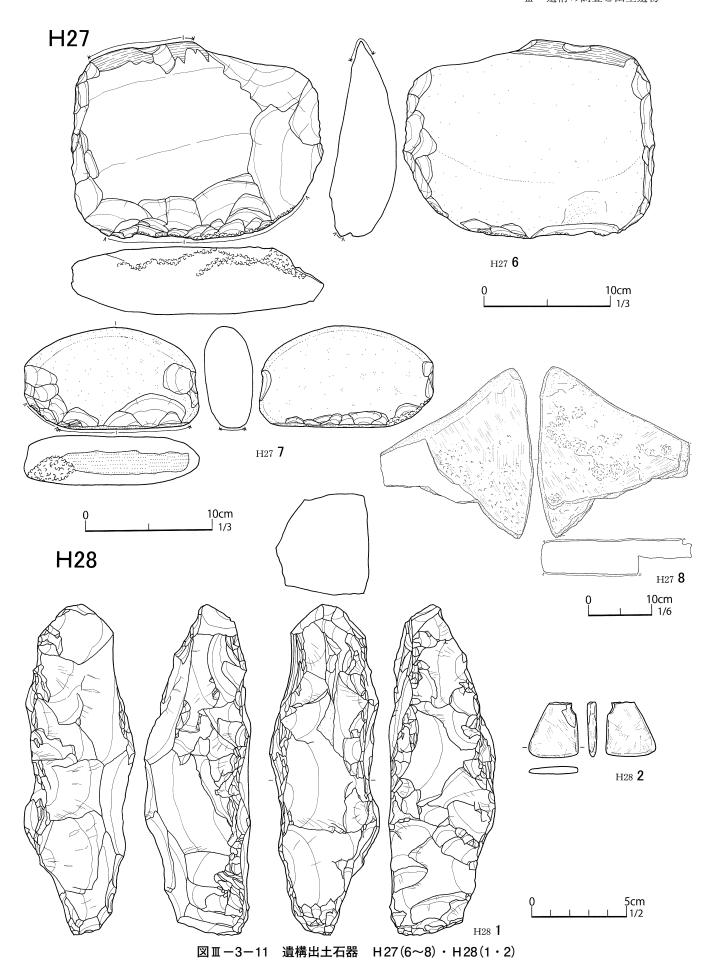


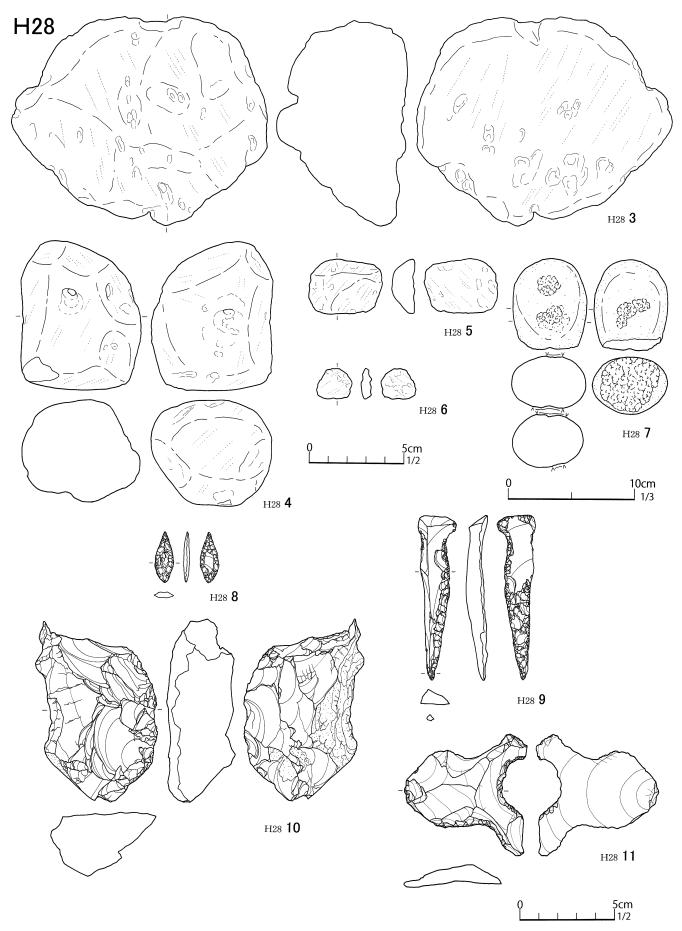
図Ⅲ-3-8 遺構出土石器 H24(1~4)·H25(1~4)



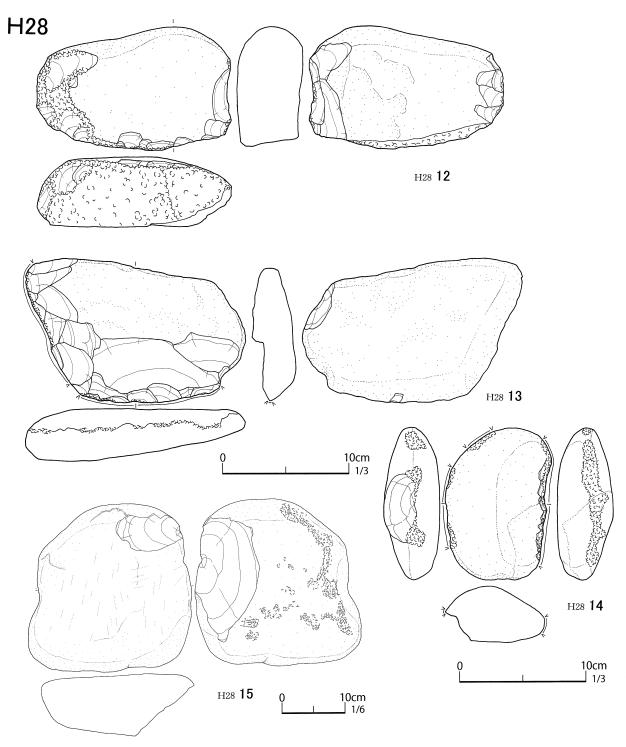
109







図Ⅲ-3-12 遺構出土石器 H28(3~11)



図Ⅲ-3-13 遺構出土石器 H28(12~15)

面に叩打痕が残る。

H28:  $1 \sim 7$  は覆土から、2 は覆土 1 層、 $1 \cdot 4 \sim 6$  は覆土 2 層、 $3 \cdot 7$  は覆土 3 層からの出土である。  $8 \sim 11 \cdot 14$  は床面、 $12 \cdot 13$  は周溝覆土、15 は HP -16 からの出土である。

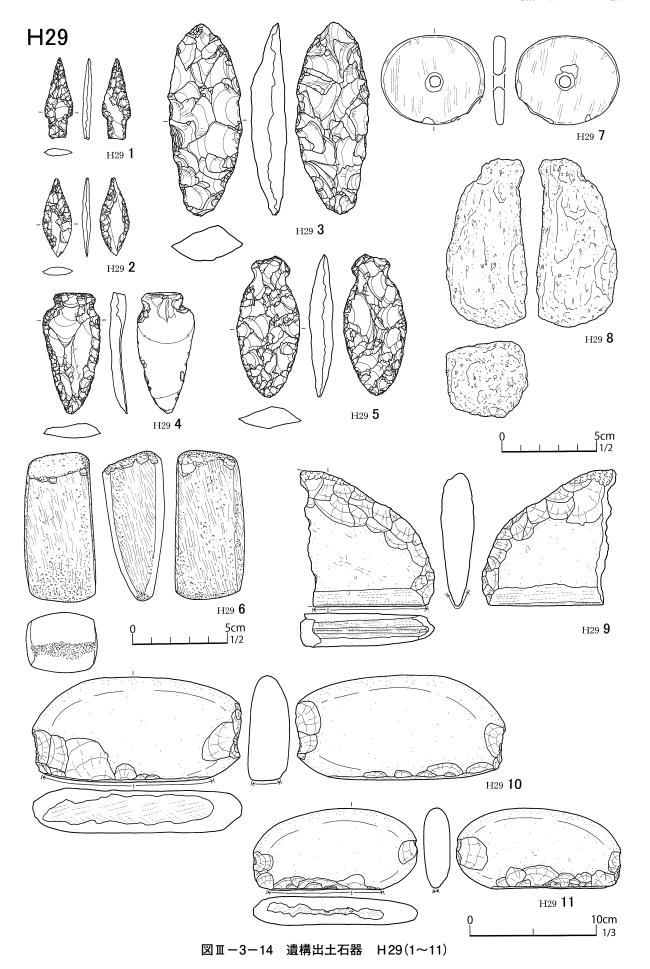
1は頁岩の石核である。船底型を思わせる。全面に調整がおよぶ。2は滑石製玦状耳飾りである。 三角形で溝部分から割れた片側である。 $3 \sim 6$ は軽石の一部ないしは全面に研磨を加えたものである。 石製品とした。7は安山岩の凹み石で表裏対応する一対の凹みとそれに付随する数個の凹みからなる。 8 は頁岩製石鏃である。尖基で先端を細長く作り出す。9 は頁岩製のドリルである。つまみ付きナイフの下端に刺突部を作出したものである。10 は両面調整石器である。頁岩の素材面を片側に残す。11 は頁岩製の異形石器である。翼状の突起を二か所作出する。12~15 はいずれも砂岩である。12 は両側縁と底面の潰れ痕、叩き痕、そして全体の形状から、北海道式石冠の未成品と考える。13 の正面観は機能部側がすぼまってみえるが機能部の形状等から扁平打製石器と考える。機能部は底面から側縁にかけて連続する。14 はたたき石で長軸に平行する両側縁に叩打痕を持つ。15 は台石としたが、使用痕が不明瞭である。

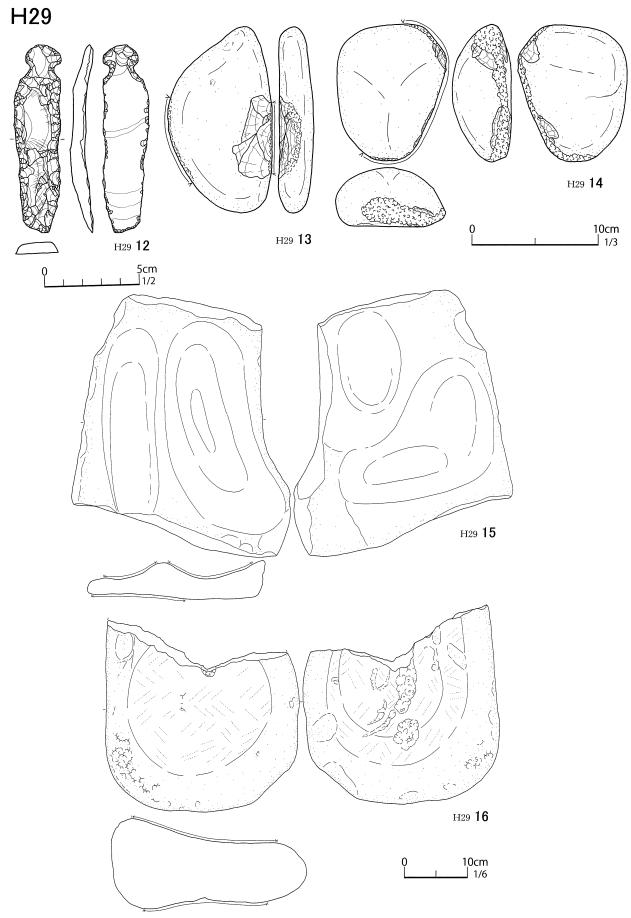
H29:  $1 \sim 8$  は覆土、 $9 \sim 11 \cdot 14 \sim 16$  は床面出土である。12 は HP - 29、13 は HP - 21 のそれぞれ覆土から出土した。

1・2 は頁岩製の石鏃である。1 は平基有茎、2 は尖基で先端を細長く作出するもの。3 は頁岩製の石槍又はナイフで、尖基木葉形で両面調整。先端は尖らない。4・5 は頁岩製つまみ付きナイフ。4 は幅広の装着部を持ち、5 は線対称だが先端が丸みをおびるので石槍とはしなかった。6 は緑色泥岩製の石斧である。基部は折れている。折損部と刃部先端はたたき痕跡によって潰れている。7 は凝灰岩製の石製品である。楕円形の環状で中央に円形の穿孔を持つ。表裏面はよく磨かれている。8 は軽石製の石製品である。上端の作出部分は浮子を思わせる。9 は安山岩製で扁平打石器を石鋸に転用している。10・11 は扁平打製石器で、両側縁端部に両面調整がある。10 は砂岩、11 は閃緑岩。12 は頁岩製つまみ付きナイフ、片面調整が両側縁および端部に及ぶ。13・14 は砂岩のたたき石で、いずれも一側縁が潰れている。14 はその側縁から端部にかけて潰れている。15 は凝灰岩の石皿である。表裏面に溝状の凹みが 2 条ずつある。凝灰岩は長期間埋没したことが影響したためか、もろく崩れやすくなっている。16 は安山岩の石皿である。表裏面に皿状の凹みを持つ。裏面とした側の凹み中央部には叩打痕がある。

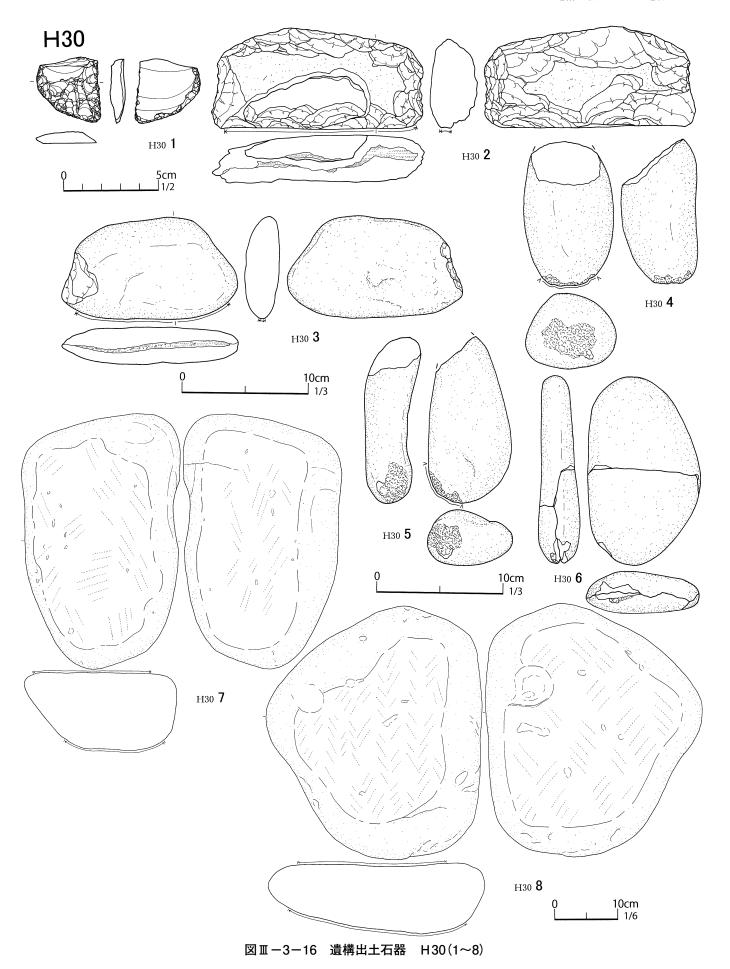
 $H30:1\sim8$  は床面出土である。1 は頁岩製スクレイパーの刃部。一部調整が両面に及ぶ。つまみ付きナイフの端部の可能性がある。 $1\cdot2$  は扁平打製石器である。安山岩製で両面調整が縁辺に及ぶ。3 は砂岩製で両面調整が片側縁のみで、使用頻度がわずかなためか擦り面を形成するに及ばない。 $4\cdot5$  はたたき石である。砂岩製で端部が潰れている。 $4\cdot5$  は下端。6 は上下端である。7 は砂岩の台石である。表裏面に擦痕と叩打痕がある。8 は安山岩の台石である。表面とした側の擦痕が顕著である。

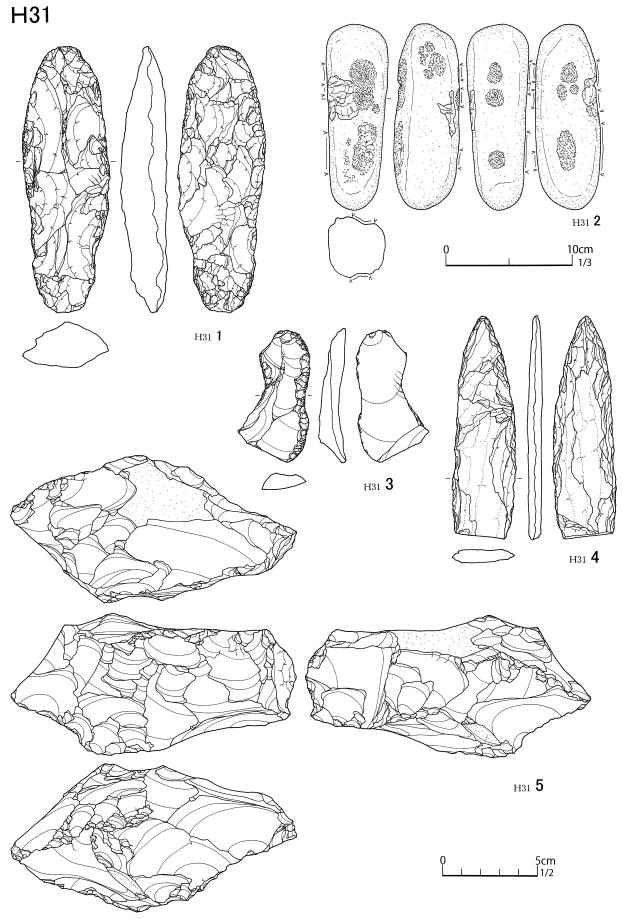
H31: 1・2 は覆土1層、3・4・8~10 は床面から、5~7 は周溝覆土から出土した。1 は頁岩の両面調整石器である。線対称な形状で先端は丸みをおびる。船底型を思わせる形状である。2 は頁岩製の凹み石である。四面を持つ棒状で、二面ずつ表裏対応する凹みとその他の凹みによって構成される。3 は頁岩製スクレイパーである。両側縁に片面調整のノッチ状の刃部を持つ。4 は片岩製の石槍又はナイフである。平基無茎で線対称の形状である。両面に打ち欠きによる調整を持つ。5 は頁岩の石核である。打面調整と思われる痕跡を縁辺に複数個所持つ。6 は閃緑岩製の扁平打製石器である。楕円礫の長軸両端を打ち欠く。機能部は叩打によるものか大きく打ち欠かれている。7 は安山岩の北海道式石冠である。楕円礫を短軸で割って、叩打によって持ち手の溝を成形する。機能部には叩打痕のみ見受けられ、未成品か、未使用の可能性がある。8 は砂岩の砥石である。皿状に凹んだ砥石面が両面にある。9・10 は砂岩のたたき石である。端部や側縁に叩打痕がある。9 は正面観にも叩打痕があり、台石的な使用法も想定できる。



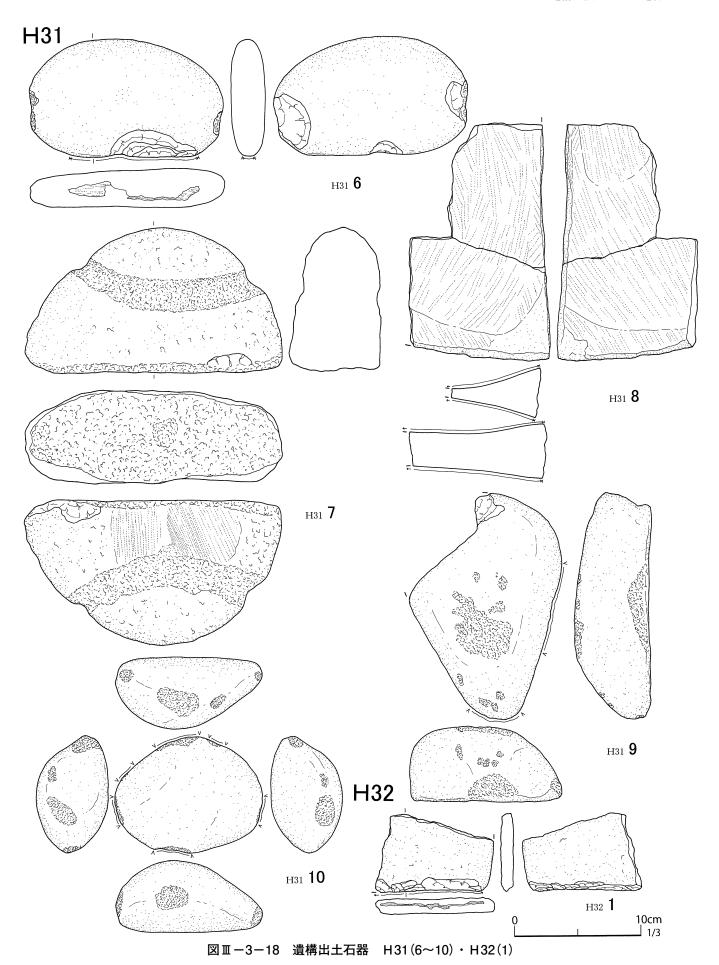


図Ⅲ-3-15 遺構出土石器 H29(12~16)

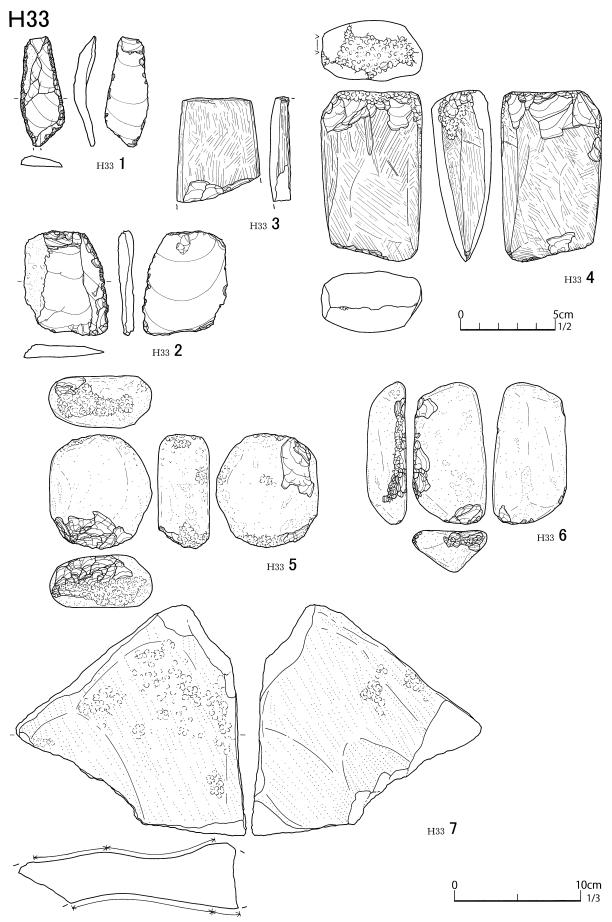




図Ⅲ-3-17 遺構出土石器 H31(1~5)



119



図Ⅲ-3-19 遺構出土石器 H33(1~7)

H32:1は床面からの出土である。1は安山岩の扁平打製石器である。相対的、比較的厚さが薄い。

H33: 4 は覆土 1 層、他は床面からの出土である。 $1\cdot 2$  は頁岩製スクレイパー。1 は周縁に浅い片面調整が巡る。2 は片側縁に片面調整がある。 $3\cdot 4$  は緑色泥岩の石斧である。3 は基部が割れた片面側。4 は刃部破片。割面は叩き潰されている。 $5\cdot 6$  はたたき石。5 はメノウで、両端が潰れている。6 は砂岩で下端と片側側縁が潰れている。7 は砂岩の砥石で、凹み面が両面にある。石皿片の可能性もある。

 $H34:1\sim6$  は覆土出土のものである。特に $1\cdot4\cdot6$  は覆土 4 層からの出土である。1 は頁岩製石鏃である。尖基で先端を細く作り出したものである。小型である。 $2\cdot3$  は頁岩製の両面調整石器である。先端は丸く、全体の形状は靴ベラのように湾曲する。4 は頁岩製のスクレイパーである。片側の側縁に片面調整の刃部がおよぶ。5 は安山岩製の北海道式石冠ないしは扁平打製石器である。両側縁にのみ成形がある。底面には微妙な叩打痕があるが明瞭な使用痕はない。正面裏面にも微妙な叩打痕がある。調整が側縁のみのため厚みのある扁平打製石器とした。

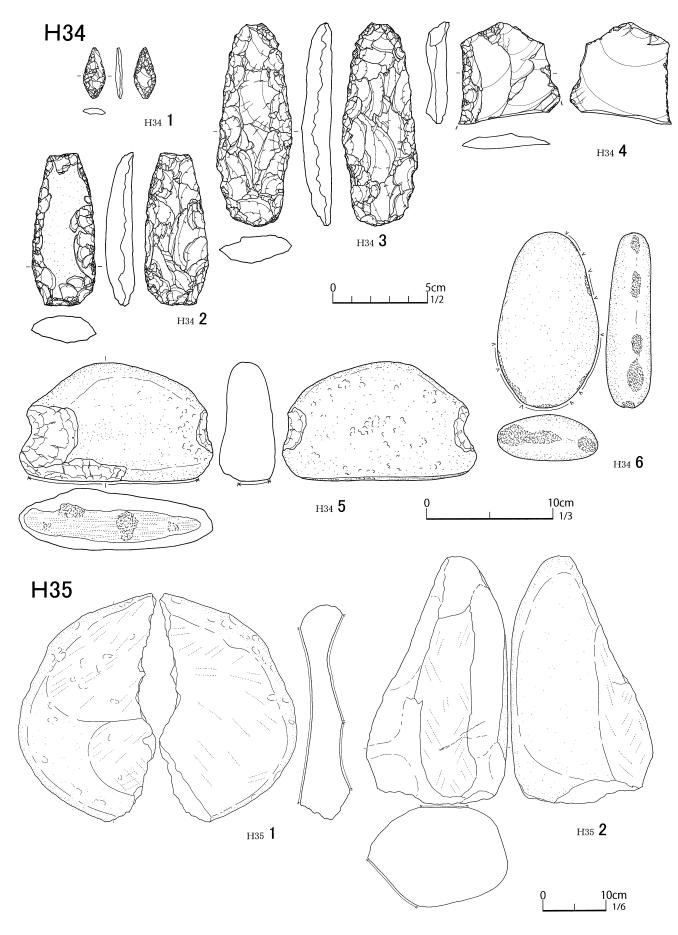
H35:  $1 \sim 3$  は覆土 1 層下位からの出土である。1 は安山岩の石皿である。残存部の表面には皿状の凹みがあり、滑らかになるまで使い込まれている。裏面には楕円形の溝状をした凹みが 2 条ある。2 は砂岩の石皿である。割れており、もとの形状は留めていない。擦痕があり、皿状の機能部を想定できたので石皿としたが、台石の可能性もある。3 は安山岩の台石である。叩打痕と擦痕がある。

 $H36:1 \sim 3$  は覆土からの出土である。3 は覆土 4 層のものである。

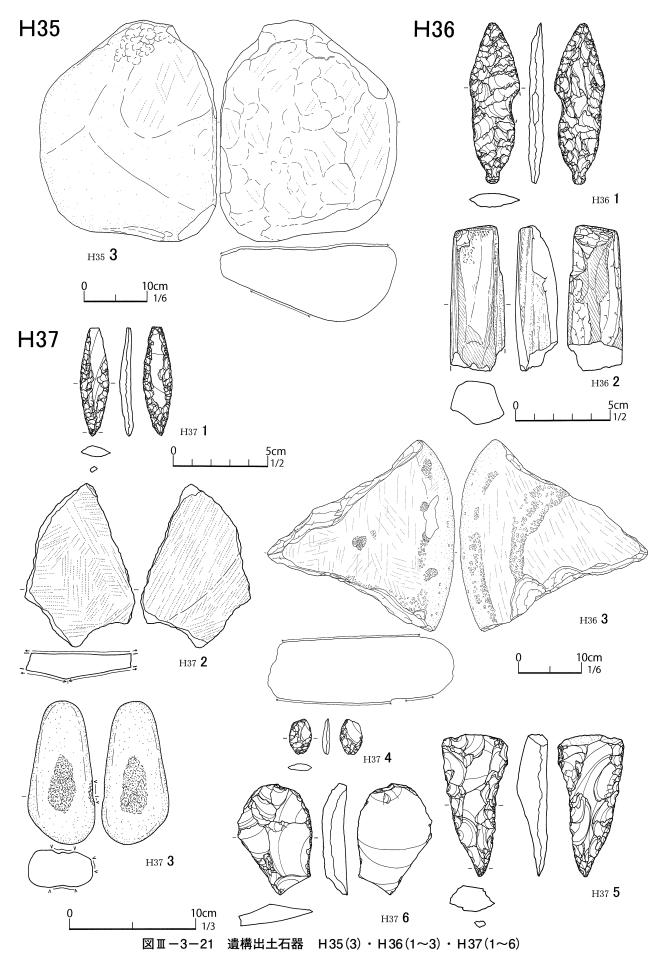
1は頁岩製石槍又はナイフである。基部先端に小型のつまみが付く。2は緑色泥岩製の石斧である。 基部片と考える。研磨部分には焼けて黒色化した油分が付着している。3は安山岩の石皿片である。 擦痕と叩打痕が顕著である。

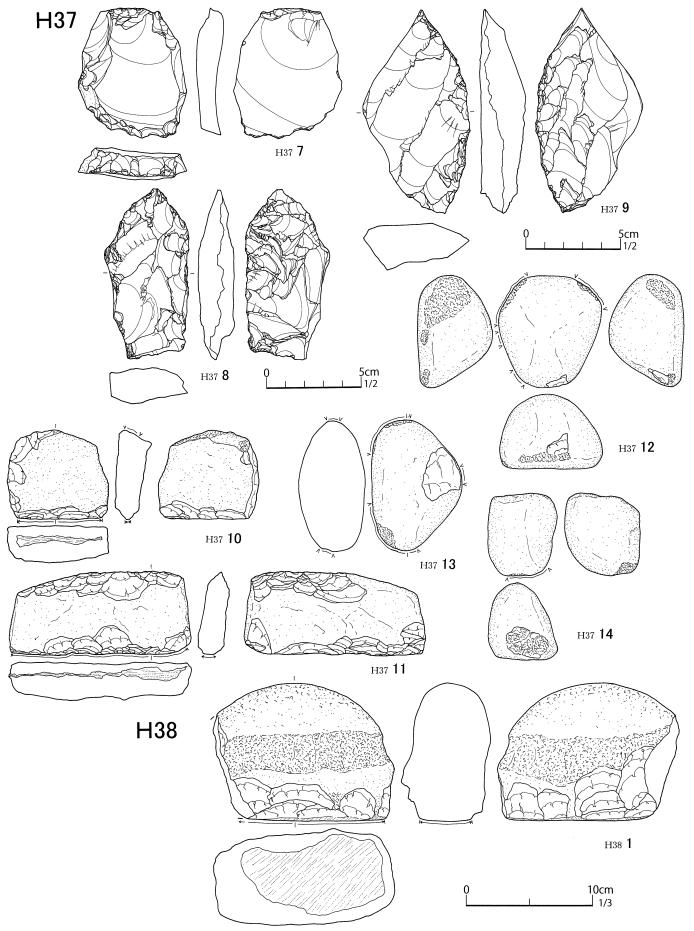
H37:  $1 \sim 3 \cdot 10$  は覆土出土である。 $1 \cdot 2$  は覆土 1 層  $3 \cdot 10$  は覆土 2 層である。 $4 \cdot 7 \cdot 12 \sim 14$  は周溝覆土 1 層、 $5 \cdot 6 \cdot 8 \cdot 9 \cdot 11$  は床面出土である。1 は頁岩製ドリルである。石鏃未成品からの転用なのか線対称である。平基無茎だが石鏃にしては全体に湾曲している。2 は砂岩の砥石である。凹み面が表裏にある。石皿片の可能性もある。3 は頁岩の凹み石である。表裏に凹みが対応する。4 は頁岩製石鏃である。先端、基部ともに折損する。残存部から尖基で先を細く作り出しているものの可能性がある。5 は頁岩製のドリルである。縁辺を深い剥離で調整する。 $6 \cdot 7$  は頁岩製のスクレイパーである。6 は片方の側縁に浅い剥離が巡る。7 は端部に急角度の刃部が巡る。8 は頁岩の両面調整石器である。9 は頁岩の両面調整石器片である。10 は安山岩の扁平打製石器である。比較的厚みがあるが、小型である。11 は凝灰岩製の扁平打製石器である。側縁は素材の礫の形状を生かす。上端に一部調整がある。 $12 \cdot 13 \cdot 14$  は砂岩のたたき石である。亜円礫の端部に叩打痕を持つ。

H38: 1・2 は床面、3~5 は覆土出土である。1 は北海道式石冠である。閃緑岩の楕円礫を割って機能面および持ち手部分の溝を成形する。機能部は平滑になるまで使いこまれている。2 は頁岩製の石鏃である。基部のみ残存する。その形状から尖基で先を細く尖らせたタイプの石鏃という可能性がある。3 は頁岩製のドリルである。つまみが付き、線対称の形状である。4 は砂岩の石鋸である。大型の円礫を打ち欠いた破片を利用している。5 は安山岩の石皿片である。凹み面が表裏にあり、対応する。

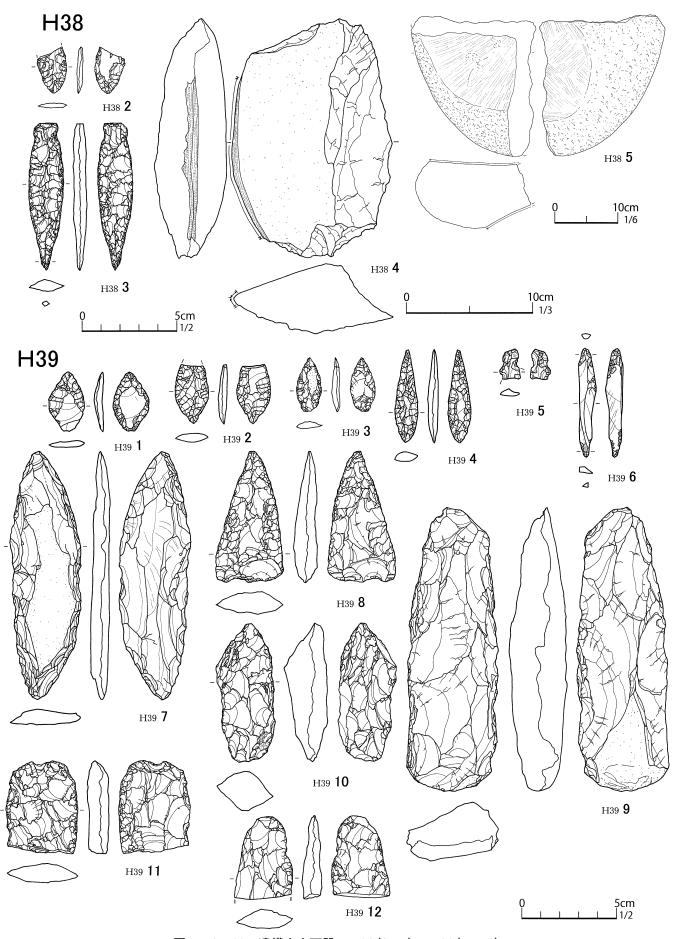


図Ⅲ-3-20 遺構出土石器 H34(1~6)・H35(1・2)

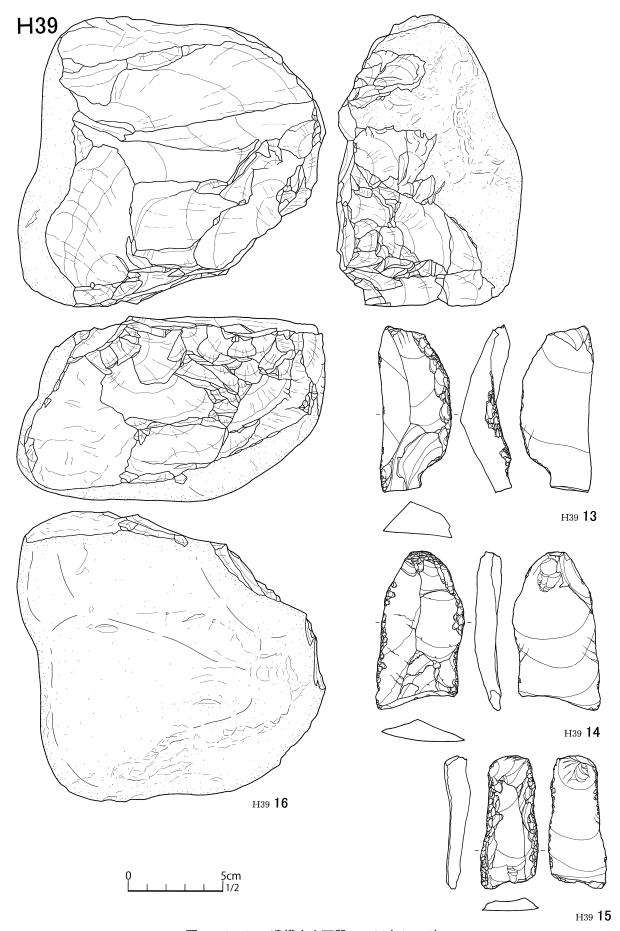




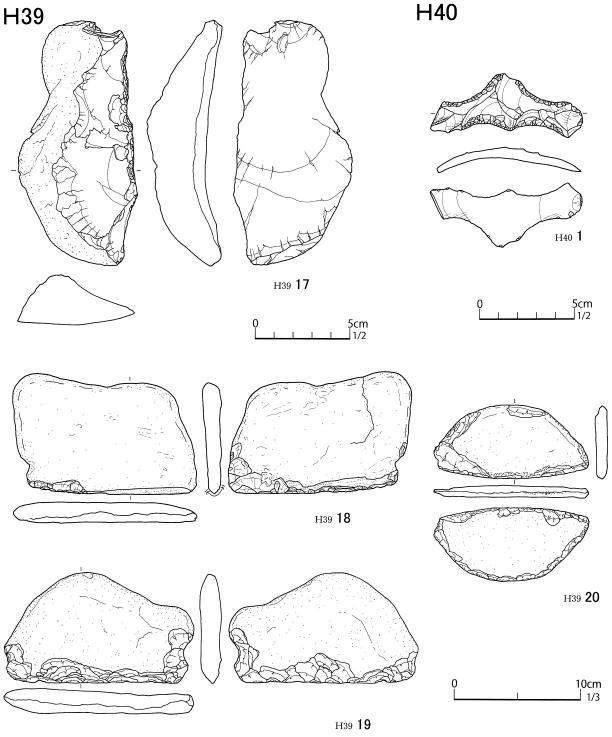
図Ⅲ-3-22 遺構出土石器 H37(7~14)・H38(1)



図Ⅲ-3-23 遺構出土石器 H38(2~5)・H39(1~12)



図Ⅲ-3-24 遺構出土石器 H39(13~16)



図Ⅲ-3-25 遺構出土石器 H39(17~20)・H40(1)

点取り№2である。

H39: 1 は床面、 $3\sim20$  は覆土からの出土である。 $1\sim4$  は頁岩製の石鏃である。1 は成形が全面におよんでいないことから未成品の可能性がある。2 の先端が折損しているものの、いずれも尖基で先端を細く作り出す形状のものに近い。5 は黒曜石製のつまみ付きナイフ等のつまみ部分である。小型であることから石鏃の可能性がある。6 は頁岩製のドリルである。棒状の素材の両端に錐を作出する。 $7\cdot8$  は石槍又はナイフである。7 は片岩製で両面打ち欠きによって成形される。尖基で木葉形で

## 3 遺構出土の石器・石製品

ある。8 は平基無茎で三角形をしている。頁岩で調整が両面全面におよぶ。9 は頁岩の両面調整石器である。裏面下端に礫面を残すがほぼ両面全面に調整がおよぶ。打製石斧を思わせる形状だが下端両面にそれらしい使用痕はない。10~15 は頁岩製のスクレイパーである。覆土南側から出土した。10~12 は両面全面調整のものである。10 は比較的厚みがある。11・12 は折損している。13~15 は片面調整である。13 は一側縁に、14・15 は両側縁に刃部を成形する。15 は両側縁がおよそ平行な素材に、急角度の刃部を成形する。16 は頁岩の石核である。大きく礫部分を残す。17 は頁岩のスクレイパーである。礫面を残す厚めの素材の一側縁に刃部を成形する。18 は安山岩製の扁平打製石器を石鋸に転用したものと考える。19 は安山岩の扁平打製石器である。両側縁はノッチ状に打ち欠いて成形する。20 は粘板岩製の扁平打製石器である。素材のもとの形状を生かして、半円形の形状に全体を成形し、機能部は直線的である。

H40:1は覆土からの出土である。1は頁岩製の異形石器である。つまみ様の張り出し部が二か所線 対称に展開する。

H41:  $1 \sim 5$  は覆土出土、 $6 \cdot 7$  は床面からの出土である。 $1 \cdot 2$  は頁岩製スクレイパーである。1 は 両側縁に急角度の刃部を持つ。2 は一側縁に片面調整の刃部を持つ。3 は黒曜石のつまみ付きナイフのつまみ部分である。明瞭な刃部はないが、刃部に相当する部分に潰れ痕がある。 $4 \cdot 5$  は同じ場所から出土した石核である。6 は頁岩製の両面調整石器である。肉厚の大型尖頭器が折損したかのような形状である。7 は安山岩製の石皿片である。表裏に皿面があり、被熱する。

H43: 1~3は床面出土である。1は頁岩製のドリルである。つまみを持ち、線対称な形状である。2は珪岩製のスクレイパーである。一側縁に剥離が並び、鈍い刃部を持つ。3は頁岩の石核である。

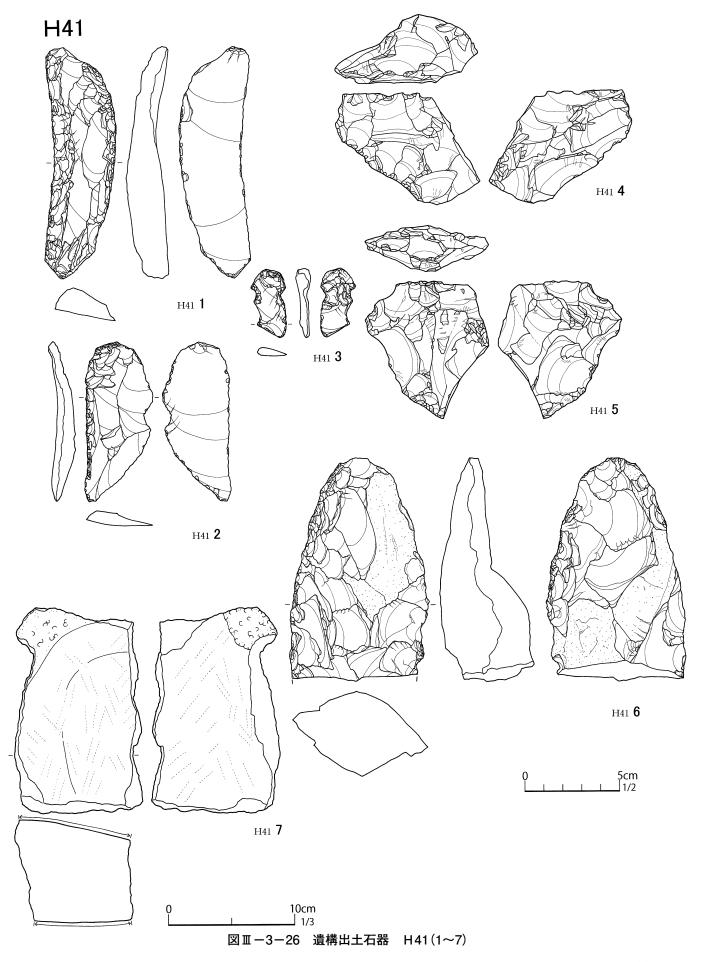
 $H44:1\sim3$  は床面出土である。1 は頁岩製の石槍又はナイフである。両方の先端が折損している。全面に調整が及ぶ。2 は頁岩の石核である。3 は砂岩製の扁平打製石器である。楕円礫の両端に打ち欠きがある。素材が肉厚なため幅広い機能面を持つ。

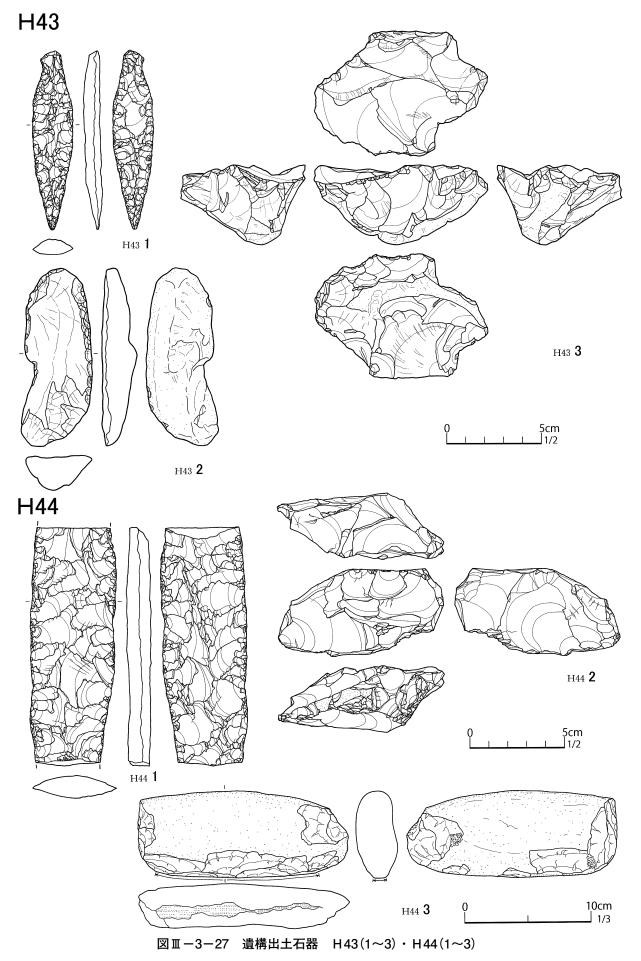
H45:  $1 \cdot 2$  は HF -1 覆土 2 層からの出土である。1 は緑色泥岩製の石斧である。刃部は折損して無い。2 は安山岩製の扁平打製石器である。残存する側縁と頂部について両面から調整がおよぶ。

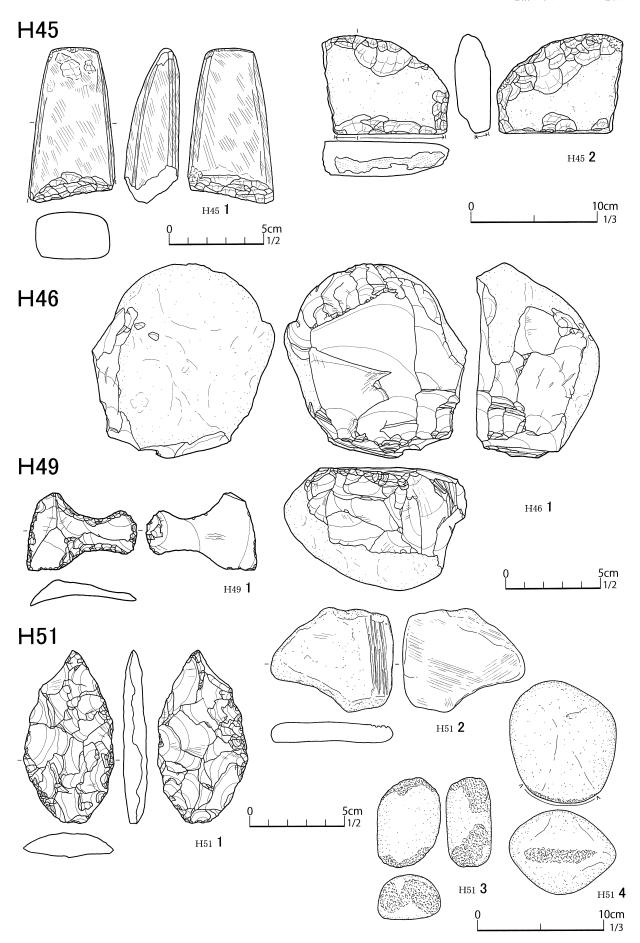
H46:1は床面からの出土である。1は頁岩の石核である。円礫の端を割りそこから剥片を打ち剥がす。打面の転移が見られる。

H49:1は覆土1層からの出土である。1は頁岩製の異形石器である。つまみ状の張り出しがある。

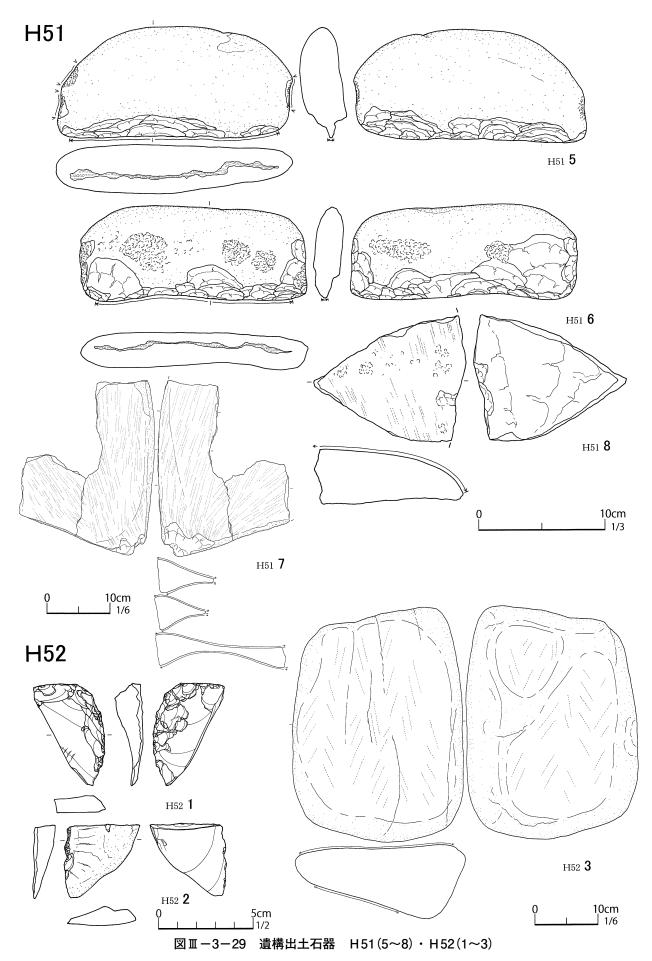
H51:  $1\cdot 2$  は覆土からの出土である。 $3\sim 8$  は床面からの出土である。1 は頁岩製の石槍又はナイフである。尖基で木の葉型である。調整は両面全面におよぶ。2 は線刻礫片である。正面図に示したのは割れる前、礫の形状に対しての正中線を施した可能性を考える。裏面の擦痕は洗浄時のブラシ痕の可能性がある。もろい凝灰岩である。 $3\cdot 4$  は砂岩のたたき石である。礫の端部に叩き痕を持つ。3 が上下端、4 が下端である。 $5\cdot 6$  は扁平打製石器である。5 は砂岩製で両側縁に叩打による成形がある。

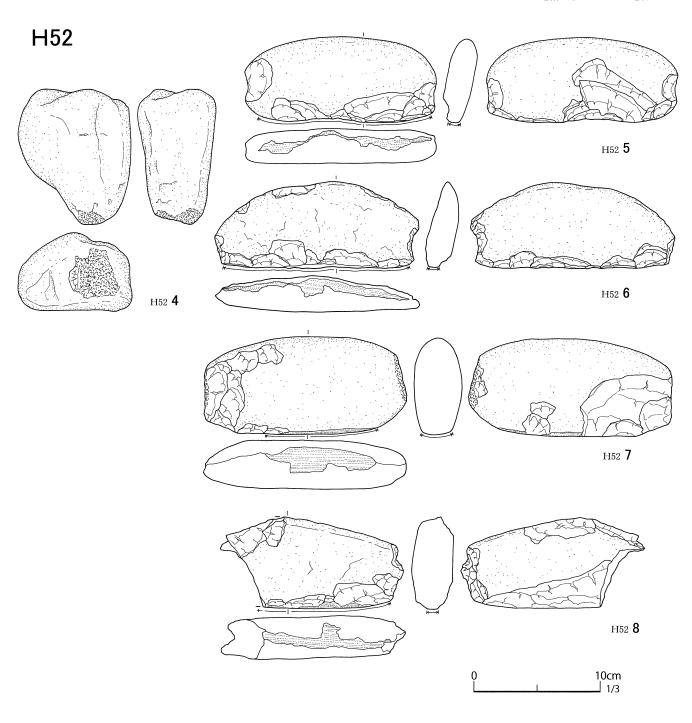


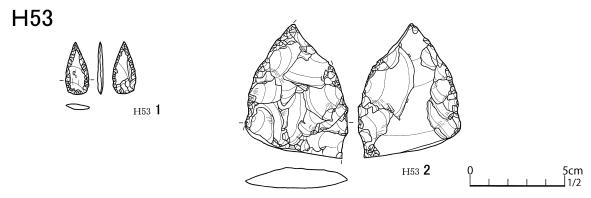




図Ⅲ-3-28 遺構出土石器 H45(1・2)・H46(1)・H49(1)・H51(1~4)







図Ⅲ-3-30 遺構出土石器 H52(4~8)・H53(1・2)

## 3 遺構出土の石器・石製品

6は凝灰岩製で両側縁に両面からの打ち欠き調整がある。表裏面に、ほぼ対応した敲打による凹みがある。7は安山岩製の石皿である。凹みのある皿面を両面に持つ。砥石的な使用も考えられる。8は砂岩の台石片である。縁辺の一か所に叩打痕がある。叩き石として破片を用いた可能性がある。

H52:  $1 \sim 8$  は床面からの出土である。 $1 \cdot 2$  は頁岩製のスクレイパーである。1 は両面調整、2 は片面調整である。3 は砂岩の台石である。表裏面に擦痕がある。4 は砂岩のたたき石である。下端に叩打痕を持つ。 $5 \sim 8$  は扁平打製石器である。 $5 \sim 7$  は閃緑岩製で、両側縁に両面からの打ち欠きによる成形がある。8 は砂岩製で、残存する側縁と頂部に両面からの打ち欠きによる成形がある。

H53:1は覆土1層、2は覆土2層からの出土である。1は頁岩製の石鏃である円~平基で先端を細く尖らせて作り出す。基部形態が不整であることから、尖基で同形の先端部を持つ型が典型的であるが、それに近いものと考える。2は頁岩製の石槍又はナイフである。尖基で残存部から木葉形のものと考える。

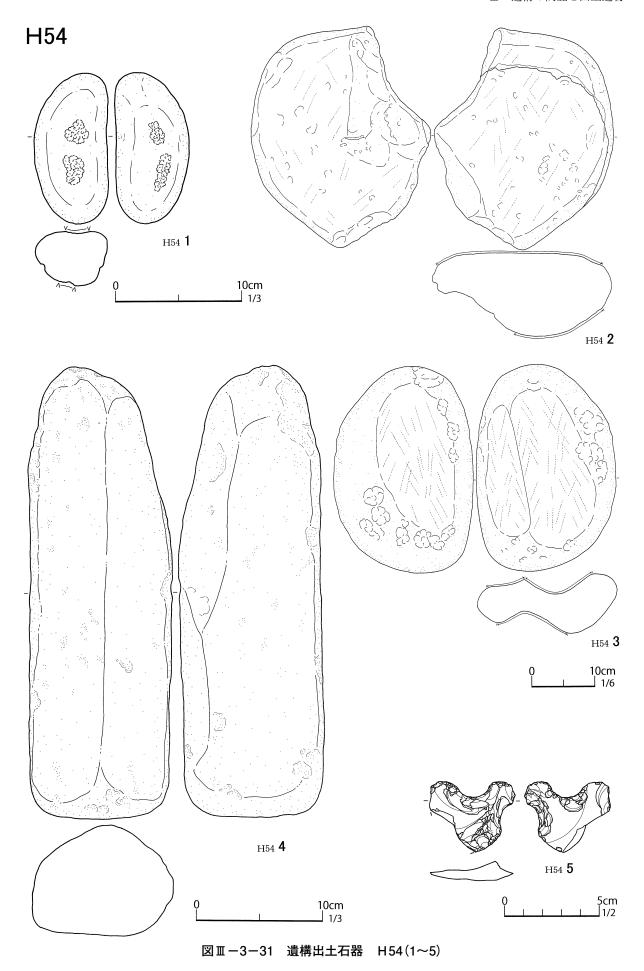
H54: 1~3は覆土2層からの出土。4は床面からの出土、5はHF1覆土2層からの出土である。1は安山岩製の凹み石。表裏対応する凹みが礫の長軸上に並んで二対ある。2は安山岩の石皿である。楕円形をした溝状の凹みが表面に1条、裏面2条ある。表面には叩打による顕著な凹みが複数個所観察できる。3は安山岩の台石である。表裏面に擦痕がある。4は断面五角形の棒状礫である。安山岩で、その形状から、礫選択時に石棒的意味合いを求めて持ってきた可能性がある。5は頁岩製の異形石器である。折損しているが、つまみが二対ついた形状を思わせる。

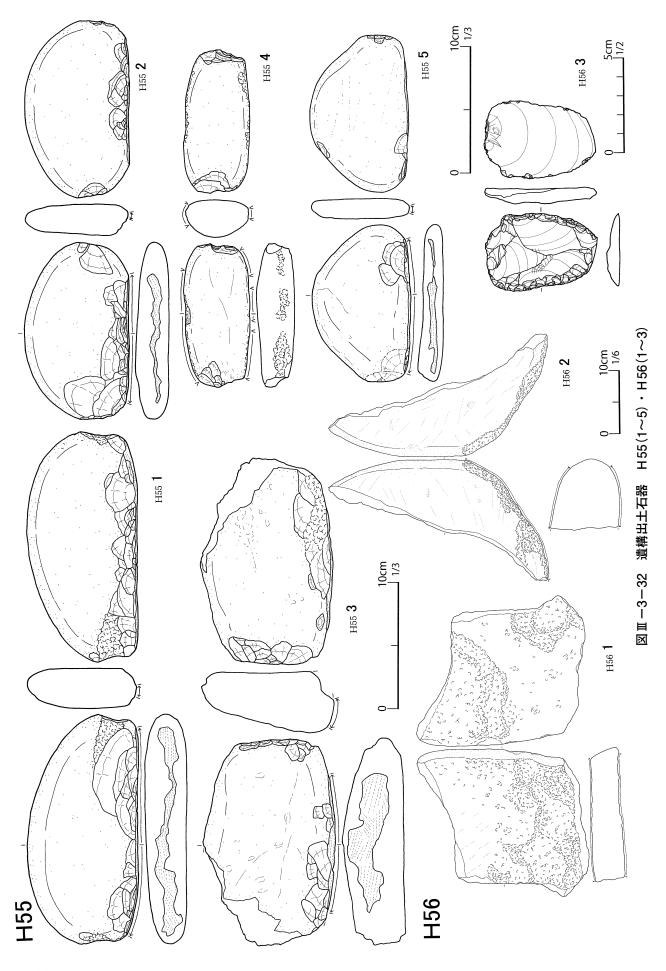
H55:  $1\sim5$  は覆土 1 層からの出土で扁平打製石器である。 $1\cdot2$  は閃緑岩。3 は安山岩、 $4\cdot5$  は流紋岩である。 $1\cdot2\cdot4$  は両側縁に、3 は両側縁の可能性があり、5 は片側縁に両面調整の成形がある。 3 は幅の厚みが顕著である。

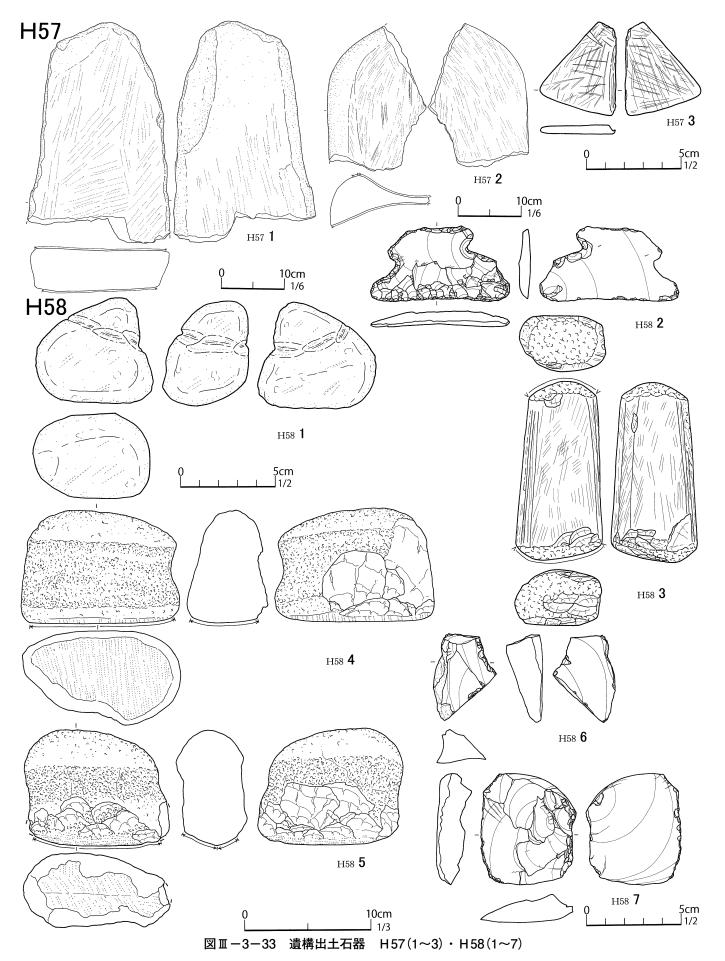
H56:  $1\cdot 2$  は覆土からの出土、3 は床面からの出土である。 $1\cdot 2$  は安山岩製の台石である。1 は両面に叩打痕がある。2 は被熱によるものか割れている。3 は頁岩製スクレイパーである。正面両側縁に片面調整の刃部がある。

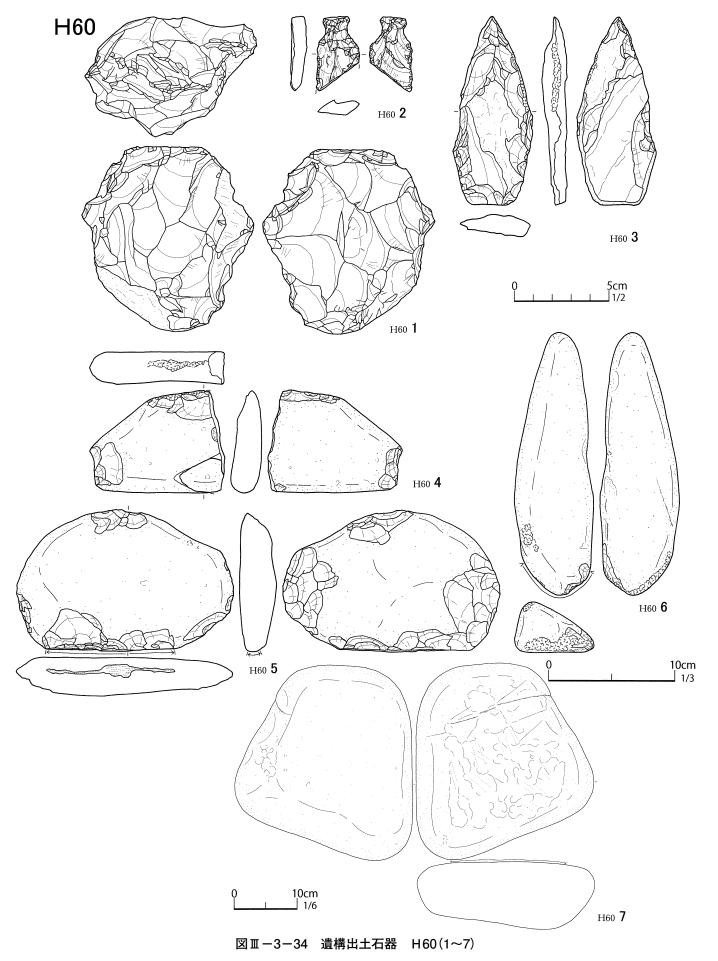
H57: 1·2 は床面、3 は覆土からの出土である。1 は安山岩の台石である。表面は平滑部分が顕著であり、裏面は被熱の為か赤色化している。2 は安山岩製の石皿で両面の凹部が顕著である。3 は滑石製の玦状耳飾りである。三角形のもので抉り部分から割れた片側である。

H58:  $1 \sim 3$  は覆土からの出土である。 $4 \cdot 6 \cdot 7$  は床面からの出土である。5 は HP -1 覆土 4 層からの出土である。1 は軽石製石製品。北海道式石冠の模造品の可能性もあるが、浮子を思わせる形状でもある。2 は頁岩製つまみ付きナイフ。横長で装着部の幅が広い。3 は緑色泥岩製の石斧を転用したたたき石である。両端にたたき痕がある。刃部は折損後潰れている。 $4 \cdot 5$  は北海道式石冠である。叩打調整が全面におよび、持ち手を形成する。4 は安山岩製で機能部は平滑になるまで使いこまれている。5 は閃緑岩製で、被熱により割れている。 $6 \cdot 7$  は頁岩製スクレイパーである。刃部は浅い調整で、潰れている









H60: 1·5·6 は周溝からの出土、2·3 は覆土からの出土、4 は中央砂部分、7 は床面からの出土である。1 は頁岩の石核。二回ほど打面の転移が見受けられる。2 は黒曜石製のつまみ付きナイフ。刃部の調整は浅く細かい。3 は片岩製の石槍又はナイフである。平基無茎。両面に打ち欠きによる調整がある。4·5 は扁平打製石器。4 は流紋岩製で残存する側縁と上端に潰れ痕ができるほどの両面調整。下面に機能部を想定したが割面と連続する剥離がある。未使用と考える。5 は流紋岩製。両側縁と上端に両面からの調整。6 は砂岩のたたき石。長い礫の下端に潰れ痕がある。7 は砂岩の台石である。叩打痕がある。

H62: 1・2・4 は覆土からの出土である。3 は床面からの出土である。5 は HP-4 覆土からの出土である。 1 は頁岩製の異形石器。翼形の張り出しが作出される。2 は片岩製の石槍又はナイフ。凹基無茎で打ち欠き調整が両面に及ぶ。3 は頁岩の石核である。打面を一か所持つ。4 は黒曜石製のつまみ付きナイフである。刃部は微妙な潰れ痕があるのみで不明瞭である。

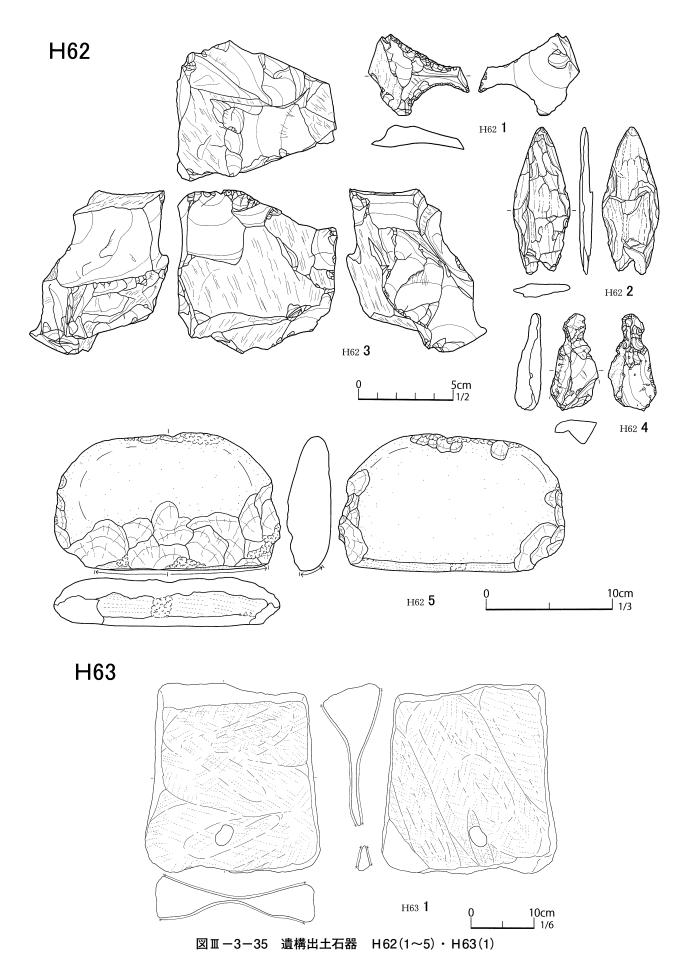
H63:1は床面からの出土で、安山岩製の石皿である。北海道式石冠によるものか、溝状の擦り面が 両面全面に及ぶ。一か所両面からの溝底面が重なっている部分が、貫通して孔となっている。

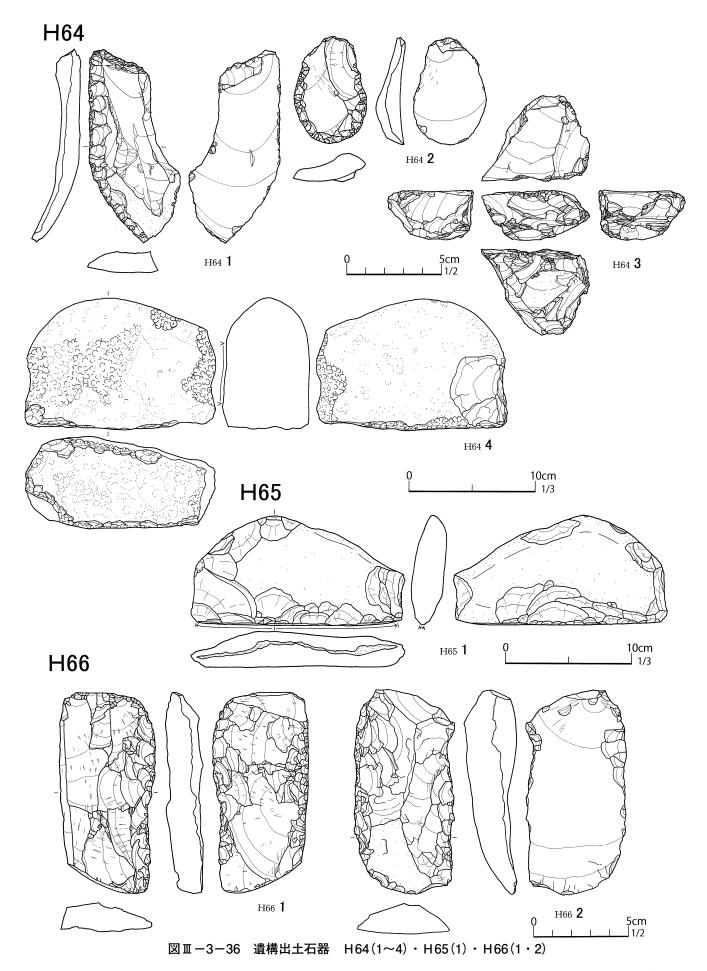
 $H64:1\sim3$  は床面からの出土である。4 は HP-5 覆土 1 層からの出土である。 $1\cdot2$  は頁岩製スクレイパーである。1 は一側縁に明瞭な片面調整の刃部を持つ。2 は端部が掻器となっている。3 は頁岩の石核である。4 は安山岩で、両側縁と底面の調整痕と全体的な形状から北海道式石冠の未成品と考える。

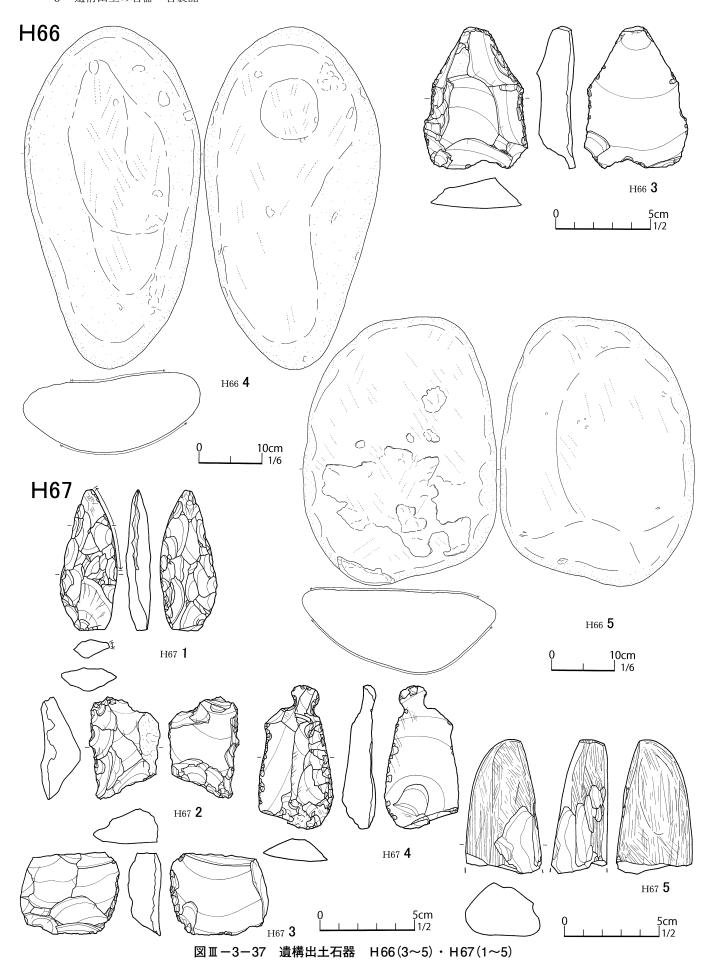
H65:1は床面からの出土で、砂岩製扁平打製石器である。両側縁と頂部に両面調整の成形がある。

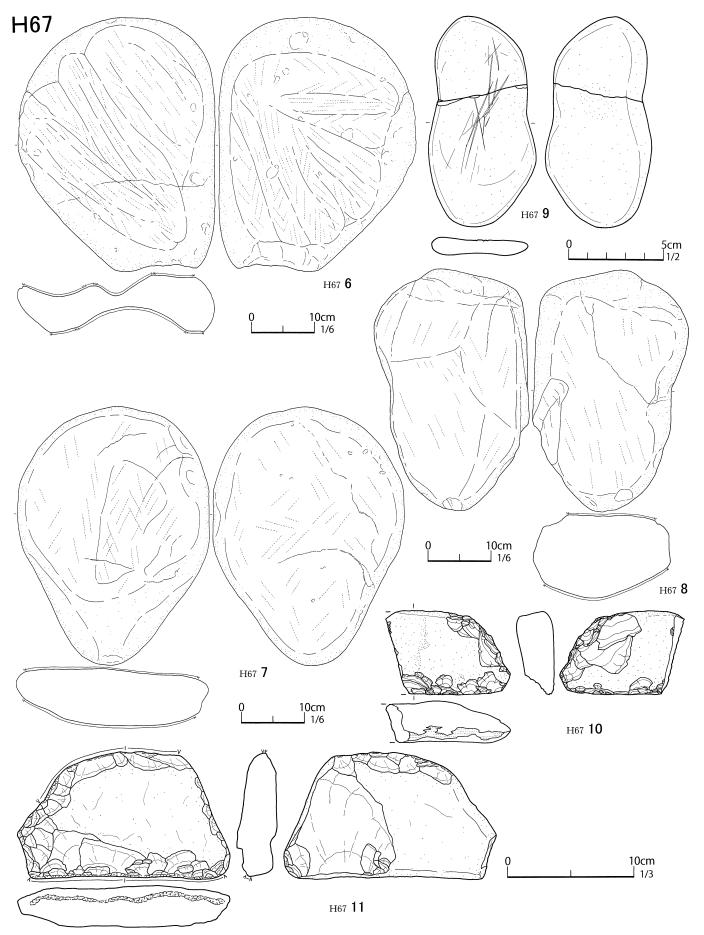
 $H66: 1 \sim 5$  は床面からの出土である。 $1 \sim 3$  は頁岩製のスレイパーである。1 は片側縁に両面調整の刃部を持つ。 $2 \cdot 3$  は両側縁に片面調整の刃部を持つ。 $1 \cdot 2$  は刃部を持つ面について調整が全面に及ぶ。4 は安山岩の台石である。片面に顕著な擦痕がある。5 は砂岩の台石である。叩打痕がある。

H67: 1~8・10・11 は床面からの出土である。9 は HF-1 覆土1 層からの出土である。1 は頁岩製の石鋸である。石槍又はナイフの片側側縁に石鋸特有の擦り面を持つ。2・3 は頁岩製スクレイパーである。いずれも短いながら両面調整の刃部を持つ。4 は頁岩製つまみ付きナイフである。両側縁に刃部を持つが片側の剥離が長い。5 は緑色泥岩製の石斧基部である。打ち欠きと研磨によって成形した痕跡がある。6 は顕著な使用痕が表裏面にある安山岩である。どちらの面にも不規則に3条ほど幅広く楕円形の凹みが溝状にある。研磨の際砥石として用いたか、北海道式石冠ないしは扁平打製石器に対応する石皿として用いたものと考える。7・8 は砂岩の台石である。叩打痕がある。9 は凝灰岩製の線刻礫である。片面にかすかだが正中線を意識した線の集中がある。10・11 は扁平打製石器である。10 は安山岩製である。残存する側縁に両面からの打ち欠き成形がある。11 は砂岩である。上端に両面からの成形があるが、機能部は片面のみの成形で叩打痕は礫の下面全面にはおよばず縁辺のみである。









図Ⅲ-3-38 遺構出土石器 H67(6~11)

#### (2) 土坑

P43:  $1 \sim 17$  はいずれも覆土 2 層下位出土の、頁岩製石鏃である。 $1 \cdot 2$  が凸基有茎。1 はあぐが特に張り出す。ほかは尖基で先端を細長く作り出すものである。 $8 \cdot 10 \cdot 14$  は菱形に近い。

P51:1~3は覆土から出土した。1は頁岩製ドリルである。石鏃未成品からの転用か、凸基有茎を思わせる。上下端に錐部を持つ。2は緑色泥岩製の石斧である。全面に研磨がおよび片側のしのぎが顕著である。3は頁岩の異形石器である。不整な張り出し部を三か所持つ。

P55: 1~4は土坑底面からの出土である。1は緑色泥岩製の石斧である。刃部は片面にしのぎが顕著で偏刃である。2は頁岩製の石槍又はナイフである。凸基有茎で先端はするどく線対称である。3・4は頁岩製つまみ付きナイフである。いずれも両側縁に刃部を持つ。4の剥離は長い。

P56: 1~14 は覆土出土、15~19 は土坑底面からの出土である。1・2 は石槍又はナイフである。1 は頁岩製、2 は片岩製である。1 は凹基無茎であり、あぐが非対称である。2 は両面に打ち欠きがおよび線対称ではない。3 は緑色泥岩製の石斧の刃部である。残存部全面研磨で成形され、刃部は叩打痕で潰れている。4 は緑色泥岩の擦り切り残片である。数面に顕著な擦り切り痕跡が残る。5 は頁岩の石製品である。全面に研磨がおよび面取りがなされている。6~11・16 は扁平打製石器である。11・16 が流紋岩で、側縁に打ち欠きによる成形を持つ。他は砂岩で縁辺に打ち欠きによる成形がある。11 は機能部が想定できる部分に使用痕が無く未成品である。12・15 はたたき石。12 は砂岩で、側縁に複数の使用痕がある。15 は珪岩で、端部に一か所使用痕がある。13 は凝灰岩製の砥石片である。砕片なので石皿の可能性もある。凹んだ皿部の破片である。14 は砂岩の砥石である。三面の砥石面を持つ。17 は頁岩製のスクレイパーである。円形にめぐる刃部正面観を持つ。18 と 19 は厚みのある長楕円礫、ないしは短い棒状礫である。いずれも石棒的意味合いを持つ可能性がある。18 は安山岩、19 は砂岩である。18 は正面とした側の中央に叩打痕がある。

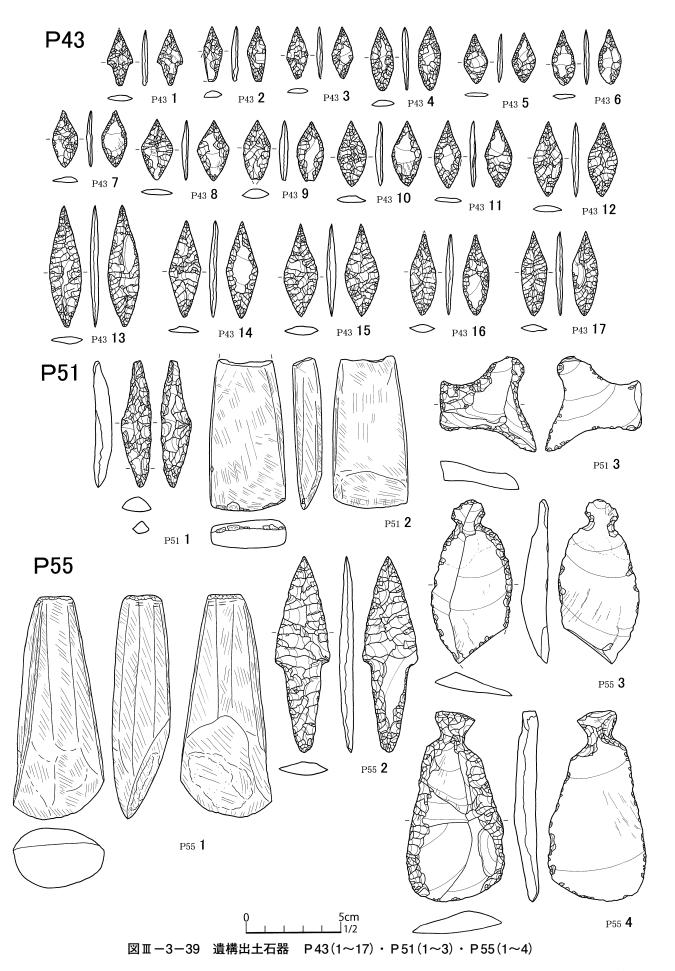
#### (3) Tピット

Tピットについて、抽出、図化した石器類は無い。

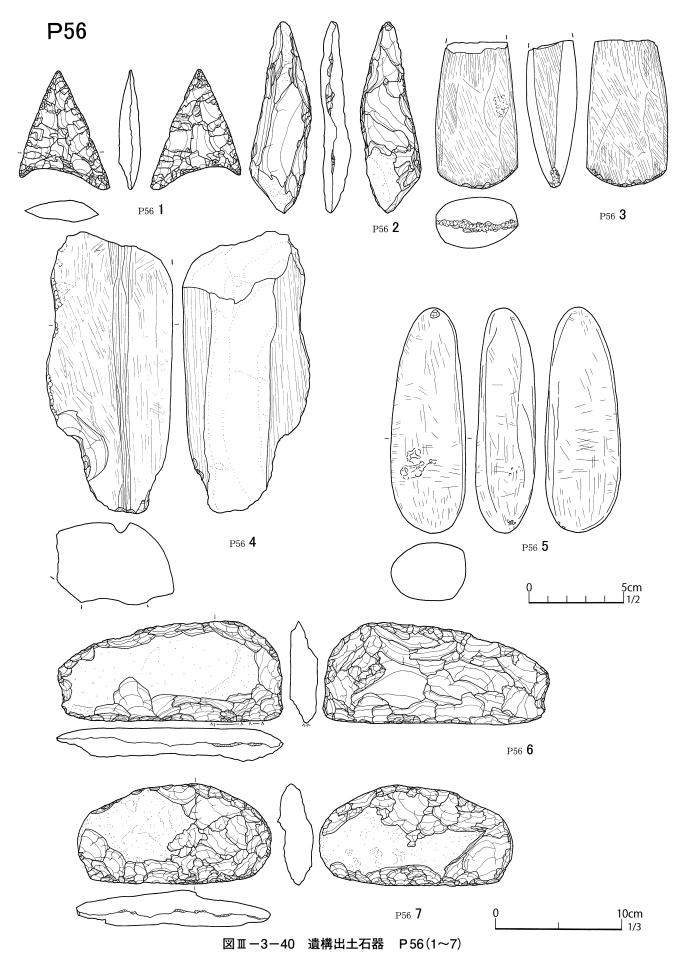
### (4) 燒土

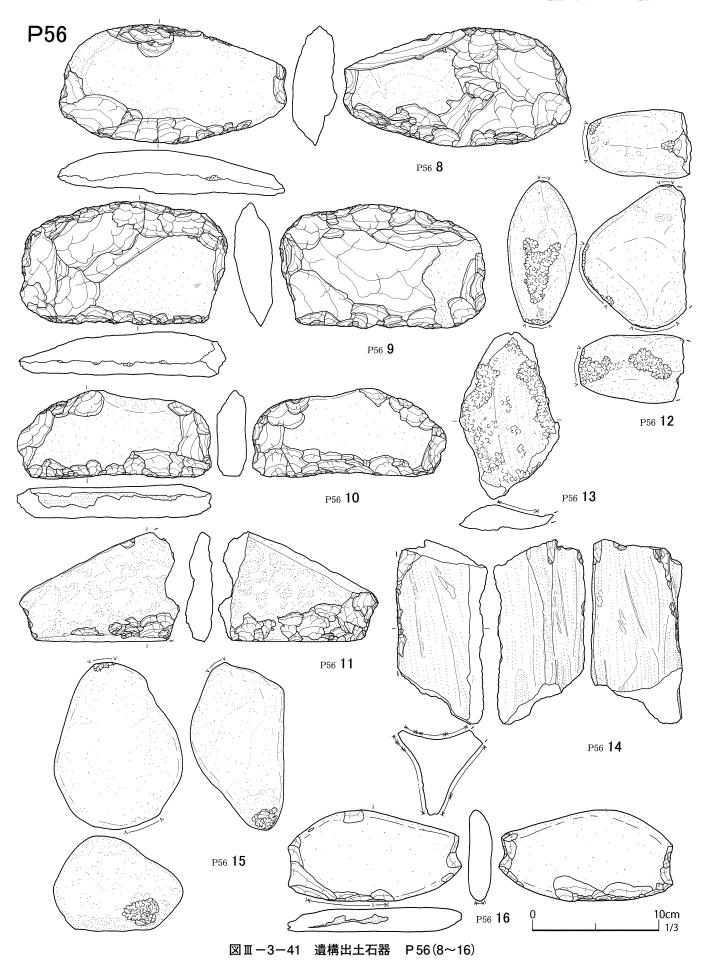
F79:  $1 \sim 3$  はF79と同一検出面であるH19 覆土からの出土である。1 は覆土1層、 $2 \cdot 3$  は覆土3 層からの出土である。1 は安山岩で、底面そして頂部にかけて残る叩打調整と大きさから北海道式石冠の未成品と考える。2 は閃緑岩製の北海道式石冠である。全面に叩打調整がおよび、平坦な頂部と溝状の持ち手を有する。3 は砂岩のたたき石である。一端が叩打によって潰れる。

F82:1・2は沢1層、3は覆土1層からの出土である。1は流紋岩製の扁平打製石器である。縁辺を両面から成形し、比較的小型である。H57、H58付近から出土しているものを思わせる。2は安山岩製の北海道式石冠である。叩打による溝を頂部と持ち手に施す。3は凹み石である表裏対応する一対の凹みを持つ。

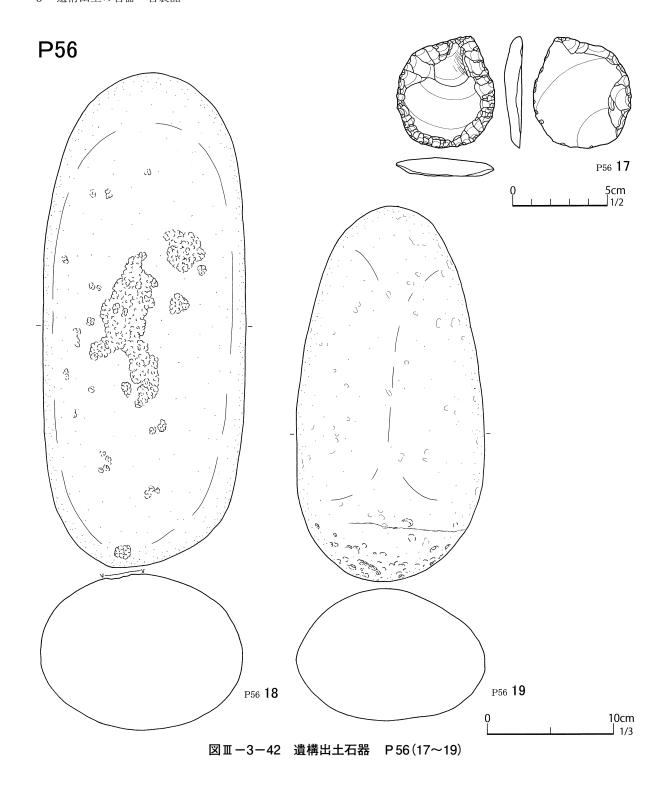


145





147



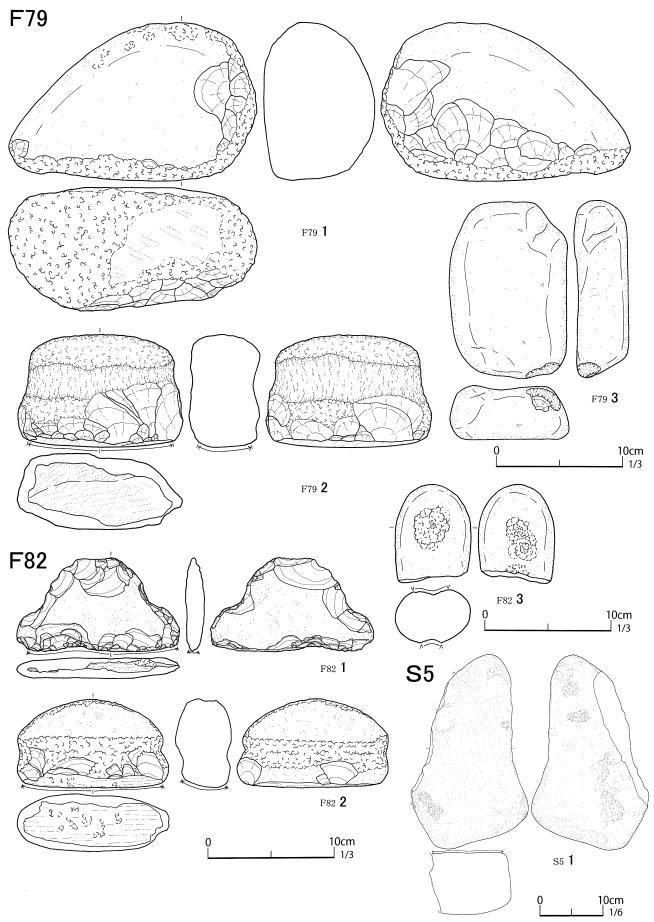
# (5) 集石

S5:1は覆土1層からの出土で、砂岩の台石である。叩打痕がある。

# (6) 遺物集中

遺物集中について、抽出、図化した石器類は無い。

(大泰司)



図Ⅲ-3-43 遺構出土石器 F79(1~3)・F82(1~3)・S5(1)

日義的   日義的   日義的   日義的   日報的   日報	C	新田町。 大労役の文土   (こなるように配がす。   結束第二編男技術文の結束   銀砂な   5.7キ   18   18   18   18   18   18   18   1	部分、4の問題、1業部区 上行係 雅文	R織自縛自卷を検走。 大坂	(株)	株実第一種 羽状綱文が開始 上半の所々にほどこされる。 上半の所々にほどこされる。	上げ底 静瀬により 不明	(報かな) 「Cr森田町路 路 瀬口 上で作 文と参える 下の線 アント アリア	数数な RLR議文 調 生げ底 おと同一原体 た	上げ底 無文無文	編集 大阪 (	磨滅によって 上げ底 不明瞭。 不明瞭。 不明瞭	口縁部文権帯 動成に かずかな と同原体を語 ポープ 上げ底 文している可 チョの 無性がある 予明縣	微妙な無文上げ底無文	磨滅によ 微妙な ミガキにより リ不明瞭 上げ底 無文	微妙な ミガキにより 上げ底 無文	機妙な 無文 よって 上げ底 無文 不り 所 不り 所	5 7 2 久損 久損	不整な上げ底	R籍文 口線 上げ底 部文様帯の編 線と同一か	台船	欠損 欠損
日本語   日本	C-   C-   C-   C-   C-   C-   C-   C-	新田町。 大労役の文土   (こなるように配がす。   結束第二編男技術文の結束   銀砂な   5.7キ   18   18   18   18   18   18   18   1	部分、4の問題、1業部区 上行係 雅文	R織自縛自卷を検走。 大坂		上げ底無文無文	御子	LR雑回 文と考え	RLR編3 部と同一 か	上げ原	上げ底		口線部文 かすかな と同原体 と可原体 上げ底 文してい 指性があ	微妙な無文上げ底無文	微妙な ミガキ 上げ底 無文		微妙な上げ底	女損	不整な上げ底		台船	
日義的   日報的   日報	CA製造を発回版。 伴っ (CA製造を発回版。 伴っ (CA製造) (B 製造 ) (A N M M M M M M M M M M M M M M M M M M	福岡和 - 大分報の文旦 - 「こなるように転がず。   「こなるように転がず。	部分・4cm国際。口業等区国庫下も合かて三段。	R議自議自総を検走。	世が五		上げ底	微妙な	機砂な			上げ底	かずか上げ底	微妙な上げ原	滅によ 微妙な不明瞭 上げ底	後移な上げ原				上げ底	鉄砂な上げ底上げ底	<b>火損</b>
日報部   日報部   日報部   日報部   日報   日報報   日報   日報報   日報報   日報報   日報報   日報   日報報   日報	40 松块第一	数回転。 大沙根が文旦 になるように転がす。	2006.69 (1142			純東第一種羽状輔文が開節 上半の所々にほどこされる。					口縁部文様 部文様帯と 第一種均状 年一種均状 ざれとぎれ ジamの 間隔 磨減着しく				製品			5 7 2				
日義的   大藤   大藤   大藤   大藤   大藤   大藤   大藤   大	40 松块第一	数回転。 大沙根が文旦 になるように転がす。	2006.69 (1142			結束第一種羽状綱文が開 上半の所々にほどこされる					日練部文				概 ラ	盛の	雑暦目の。	1 2	1	ا ا	1	$\dashv$
日本語   日本	40 松块第一	数回転。 大沙根が文旦 になるように転がす。	2006.69 (1142								格条体回転後、口線的文様 帯直下から1線的文様帯と 同一筒体で結束第一種均好 網文を機回転。帯状に一周 セゴ不規則にとぎかとぎが に被回転およぞ3のの問題 を上下に有する。魔迹者に、 不明瞭だが、能剖離にも同 所体の腹部がある。					結束第一種羽状縄文が口縁 部文様帯の6cm下に1段さら に5cm下に1段	口線部文様帯から6m下に結 東第一種羽状縄文が横回転 し、帯状に巡る。その下10cm にもう1段。さらに6cm下にもう 1段と同様の文様が3段ある。	区画直下のものも含 段。(8cm下)				
日義語   大年春   女子春   五韓   日義語   日報   日報   日報   日報   日報   日報   日報   日	40 松块第一	第 第 第 2 第 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	10 St 10 C																RL結節機 回転か。			
日義的   日報   日報   日報   日報   日報   日報   日報   日	0,4	が	# 5 0	ŭ					RLR編を縦走に近い斜 行で回転施文。	LR細自細自巻を縦走。			RL縄自縄自巻を縦走。				RL縄自縄自巻を縦走。		RL編自編自卷を縦走。			RL細文縱回転。
日義的   日義的   大麻神   大の方   (an)   10   0   0   0   0   0   0   0   0	0,4	の 無 の 形 部 元 第 元 第 元 第 元 第 元 第 元 第 元 第 元 第 元 第 元		Z PER																		
日義的   日本の   日本	0,4	λJ o Meel 6	黎回転。		千井 は R 総 第 1 額 後 回 転。 下半 は 回一 原 存 に より 参 位。	R着による 第1類 縦 回 覧。	R編第1整模 回転。編を 巻く国際が 密である。	LR編の第1 類をやや右 下がり気味 に繰回転。			r緒第155後 回転。	r編第1類縦 回転。		RL編第1版 縦回転を主 とする。	し 編 第1類 斜め回転。	R 誰 第1題。 誰の題逐の 盾が 広がっ たり帯 末っ たりする。		に 着 第1盤 猴回転。		R 編第1類 縱回転。	L 編 第1類 装回転。	
日本部 大井寺		横回転二段 構画転二段 結束第二年	対状緒文の 結束部分。 結束第一権															結束第一種 羽状結文。		二編 華 軸絡 条体第一類 縱回転。		
口禁部 文体帯 区画内文様 医帯で区画文様その内容・指統で終取り、半線		-	3.5 1.5	_	4.0	4.0	3.0	4.0	9:0	3.0	0.9	2.0	5.0	3.0	2.0	5.0	1.5	3.0 3.0	2.5	1.0 3.0	-	0.5
口線部 文様帯 区画内文様 隆帯で区画文様をの						口唇の外反部分 欠損。			四単位のゆるや かな波状口縁。	四単位のゆるや かな波状ロ縁。		日二ないし四単位 の突起様波頂 関部を持つ可能性 がある。		四単位のゆるや かな波状ロ縁。	帰減機しい				波状口線。四単位か五単位。頂 位か五単位。頂 部からR編線が 三本垂下する。			四単位の波状口縁。
	とに指摘で縁取り、半 で管刺突を連続。 下管刺突を連続。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の文様。 LR編線による直線構	文様。山形。三単位 RL編線による直線	成の文様。 結束第一種羽状絹文を2 段と口唇、維文間、区画 部の三か所に「維とR維2	本一組にした羽状の鵜織。 R編 単 軸 絡 条 体 第1 類	L縄とR編を組み合わせ た矢羽状編線を数段。	LR 絹線6本横走する。 平口線だが四単位に区 画される。区画には同 じ縄線で縦2本施す。	2本一組にしたLR縄線 を合計3段施文する。	サルボウと思われる貝 数条痕を横走させ文様 I 帯を充填後、R緒単軸 加 絡条体第1類側面圧痕	LR縄文横回転による斜 行縄文。	不明廢だが、結束第一 種羽状縄文樹回転3段。	残存率が悪いため不明 籐だが、L編線を横走さ せる。ゆるやかな曲線 構成の文様。	直前段反撚りRRL網を損 走の後、上端と指案と上網 を組み合わせた網線で開 部と区面する。口傷も同 様の施文をしているが、残 存率が低く、不明瞭。	結束第一種羽状縞文横 回転により段の帯状に 筋文。>向き。口縁部文 様帯区画部と口唇にそれ れぞれ一条のLR縞線。	LR編斜行縄文横回転	結束第一種 羽状絹文3 段	L組とR線を2本一組で矢 羽根状にした総線を2段 水平方向に走らせる。ロ 唇にRL縄文回転筋文。	結束第一種羽状縄文。	-編とR編2本一組の綱像。矢羽根状で3本横に並ぶ。	R組織を3本。	LR組織2本	LR稲鞣1本。波頂部では 同一原体2本で縦区画。
ロ 終部 文様帯 連続圧仮の 有無 隆帯上に結例面 田底、区画内	田儀、区画内 半載竹管刺染 が連続。 Ra編画面圧儀をL	口唇部に連続して維御田田銀	本口事と同部に登録している。	10世紀。 世界 11年 11年 11年 11年 11年 11年 11年 11年 11年 11	隆帯上に草本へ ラによる連続刺 突。	区画の編線画上に、右へ押し引くへう刺突。	#	#	<b>#</b>	mili	<b>继</b>	#	<b>斯</b>	#	#	#	#	<b>#</b>	ロ唇に爪状のキザミ。	#	LR編側面圧痕 を口唇に連続。	#
2 2 2 3 3 4 4 4 5 6 6 6 6 7 7 8 8 8 8 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	<b>隆井</b>		龍順	5尺約2本一組にし 状の細線。	<b>*</b>	L縄とR縄を組み合わせ た矢羽状縄線	口縁部文様帯を肥厚させる。	屏部に2本一組にしたL   R縄線	ゆるやかな肩部に、R 緒単軸絡条体第1類側 面圧痕	ゆるやかな阻曲部にL R縄文横回転による絆 行縄文。	結束第一種羽状網衣横 回転	屈曲部にい縄線を横走	ゆるやかな肩部にし緒 とR縄とL編にを矢羽状 に組み合わせた縄線	屈曲部にLR結線。	ゆるやかな肩部	ゆるやかな肩部	L縄とR縄を2本一組で 矢羽根状にした縄線	屈曲部に、L縄とR縄の 2本一組の縄線を2段。	- 計解	R組織	いな阻曲部	四田部
を を を を を を を の を の の の の の の の の の の の の の	出版により	不明瞭			審議により 不明職。			廳滅により 不明瞭だが、 調部上半機 ∄ ミガキ。調 部下半縫ミ ガキ。			・ 本語 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		職減着U 不明瞭。									
	井 端	_	_		+ # #	+ = ± ± ±	番だま	満大本	キ 三ガキ	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	= 17.4	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	* 禁だ	ıı.	キニガキ	茶ボボギ		# # # # # # # #	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #			キ 三ガキ
		キ = ボ <sup>3</sup>	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #		=	ミガキ ミガキ	横 縦 縦 ボガキ ミガキ	横 送ガキ ミガキ ミガキ	横 = がキ = がキ	横 ≤ガキ ミガキ	横 ::ガキ ::ガキ	横 縦 ミガキ	横 ※ ※ ※ ※ ※ ※ が きがき		横 縦 温がま	数 ミガキ ミガキ ミガ <sup>3</sup>		横 ≅ガキ ミガキ	横 編 ミガキ ミガキ	横 縦 ミガキ ミガキ	横 縦 三折キ 三ガキ	横 ミガキ ミガキ
	本		+ ***		= 17 = 17	#¥# = 1,	横	横 =:ガキ =:大	横 ≡ガキ ≡大			横 =ガキ = :大	横   ボガキ   ボオ   ボオ		横 神ミガキ ミナ	横った。		横 ミガキ ミナ		横 ねこがキ ミガキ	横	横 ボボボー また
他に対象も 他に必めの 発生を表の場合の	<ul><li>動 h</li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li><!--</td--><td>_</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>報 級</td><td>m,</td><td>白色小石粒</td><td></td><td>在在</td><td></td><td>小砂粒</td><td></td><td>-"</td><td></td><td></td><td>-"</td><td></td><td></td><td></td><td>離かい。</td></li></ul>	_					報 級	m,	白色小石粒		在在		小砂粒		-"			-"				離かい。
胎士に繊維の有無 胎士に海綿骨針の有無 か。胎 会 体 内	在	£ †	在 在 格	F 在 分間 多	F	在 在	作物	後曲	4年 4日 4日	在	4	在	作 -	有 数m	作	在在	佈	在	在 夕間	在	在	最渝
	3670と接合・1567と接合				20.66				**			**						-		201.46		新元式~トリサキ式
	50.7 50.8 50.8 50.8 50.8 50.8 50.8 50.8 50.8		4106 % ### ###		対機	<b>株</b>	数 账		45% 担工。	機	機然 個 7.	機	糕	<b>松</b> 版	松然	热	25	が業	捻胀		※ ※ ※	
出土地点	H18億土1層1567- H18億土1層3670 H18億土1層1568	H188 H188	H18個土1層4106		H20西ベルト覆土 242	H20東ベルト覆土 241	H20西ベルト優土 242	H21覆土7層上 南側159	H21覆土7層上 南側159	H21覆土7層上面 北側297	H21覆土7層上 北側297	H21覆土7層上面 南側159	H21覆土7層31	H21覆土7層上 北側296	H21週土9層34	H21覆土7層31	H21覆土7層31	H21覆土2層ベルト 中位298	H2遷土5曆2	H22覆土東側41	H23覆土256	H23覆土129
(四) (金)	— (21.0) — 26.0 9.0		18.0 8.5	(34.0)	28.0 9.0	35.0 11.0	36.5 10.0	18.0 10.0	25.5 9.5	13.5 8.0	26.0 11.0	31.0 11.5	36.0 11.0	38.5 11.0	20.5 10.5	28.0 11.0	37.5 13.5	(27.0) (12.5)	27.0 13.0	14.0 7.0	10.0 5.5	1.5) —
(cm)	28.8	0.02	14.0	24.0	(15.0)	23.0	21.0	16.5	18.5	13.5	21 2 19.5	19.0	19.0	22.5	17.0	21.0	24 24	19.0	(30.0)	11.5	11.5 10	372 12.0 (21.5)
	f段階 367		12 to 1588		£ 241	孫 381	~ c±t 163	展市 130	長古 116	端 古 115	21 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	展古 112	雅 口 113	都 古 114	展古 271	霜 古 284	階 古 110	階 古 267	196	đ 252		372
	円筒上層a式最新 円筒下層d2式		田園下園 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	Ē	円筒下層62式	円筒下層dl式古段階	円筒下層62	円筒下層d1式最古 (c式に近い)	円筒下層d1式最古 (c式に近い)	円筒下層dl式古段階	円筒下層dl式古段階	円筒下層d1 式最古 (c式に近い)	五節下屬d 式古效器	H.:	円筒下層41式最古 (c式に近い)	円筒下層dl式古段階	円筒下層dl式古段階	円筒下層dl式古段階	円筒下層41式	円筒下層d1式	E	IV群α類
-15.41		E   18   19	H18 1	H20-1	H20-2	H20-3	H20-4	1-1	-2	9	4	1 22	9	7-1	80	9-1	9	[7]	H22-1	7	H23-1	図皿-2-14 H23-2
版 图 邮 加 1-2-1	H 18 – 1		M II-2-1		図目-2-3	III-2-3 ⊢	図 II-2-3 H2	Ш-2-6 Н21	ш-2-е н21	図皿-2-6 H21	П-2-6 Н21-	図皿-2-6 H21-	図皿-2-7 H21-	区皿-2-7 H21-	ш-2-7 Н21	Ш-2-7 Н21	Ш-2-8 H21-10	図皿-2-8 H21-11	図Ⅲ-2-13 H22	図Ⅲ-2-13 H22-2	図Ⅲ-2-14 H23	븨

その音		職業にい													デガキ により 不明職							
底部文様		ME FR	ミガキにより 無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	iiガキにより 無文		直前段反撚り RRL縄文か	*	ミガキにより無文	直前段反撚り RRL編文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	RL編回転施 文後、ミガキに により無文 7		ミガキにより 無文	磨滅により 不明験だが 無文		≡ガキにより 無文		
	*Ø ≥ガキ	3. 不明	無大					女		と					l				- K #		が開び	# X
極	中付きの	徴移な上げ底	计	微砂な上げ両	上げ廊	上げ底	微妙な上げ底	女	微妙な上げ底	微妙な上げ底	上げ底	上げ底	微なた。上げ所	微妙な上げ原	上げ原	徴めな上げ底	上げ原	上げ底	かすかに 上げ底	上げ底	不整な上げ原	上げ底
事態その他	まがキ													盟		드룹 <u>독</u> 발	心臓が腰	施で約5万き向	第5間 Rあ			
開部多段の帯														所々に結束第一種羽状縄 文。		単軸格条体施文後、L編に よるふたつの結節を横回転 させる。口縁部区画の直下、 そしておよそ6cm関係で合計 5段施す。	口縁部文様帯区画直下から Lを二回結節したものを5段 検走させる。口縁部区画から下に60m間隔で、底部際 には無い。	単軸絡条体第1頭線回転能 大袋、口線部と同一原体で 4段機回版させる。およそ3 6m間隔で口線部も合かで5 段等間隔にあり、胴部最大 格より下位には無い。向き は入く面方あり一列で対向 する箇所もある。	上からLR組とR組の結束第一種 羽状網文を3段指す。 日線部区画から下L8.5cm間隔で、底部際には無い。R 網が下側つまりく方向である。			
間部帯の				国民に関係を国民に関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関								サルボウ 条痕が調 部の一部 に 巡 る。 その後編 文。										
順部組文						RLR編、LRL編をして RLR細が横回転。幅 はそれぞれ8cm、10cm、 20cm。		胴部上半LRL縄縦回転 と機走。		LLR編織回転。	直前段反撚りRRL綿織 回転。	直前段反撚りRRL網維 走。	RL端猴回転。	R縄の自縄自巻。			R縄自縄自巻を縦走。		R編自總自卷を縦走。	R縄自縄自巻を検走。		RL網文自縄自巻を縦走。
医多络 岩 香 杂		R L 編縦回転。編細い。	和 編 機		148、横回転。																	
医 基 条 基 条		L 40	LL NO	R 端 第1盛 秦回乾。				京	R編第6A類 縱回転。						RL編第1類 級回転。	R 維 第1類 後方向に指 す。		R 雑 第15章 ※回転施文				
区 文 禁 報 の 文 本 報 書 本 の 文 本 本 本 か の 文 本 本	欠損	結束第一種 羽状縄文。		結束第二種 羽状補文の 結束部を二 段。	R組の結節。		周部上半は 直町段反然 リRRL総後 走。下半は 反然リRR				欠損					に織っよる シたりの結 部を検回情 させる。				市		
ロ 文 総 様 (mg)	女 職 女職	4.0 2.0	2.0	4.5	3.0 1.5	5.0	5.0	0.0	4.0	0.4	人 最 人職	4.0	2.0	3.5	4.0	1.5		0,1	3.5	1.5	5.1	5.1
ロ 文本 本本 の の の の の の の の の の の の の	欠損										欠損	一部波頂部中央に垂直に擦 痕。四単位の 波頂部。		ゆるやかな四単 位の波状口線。								
日本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本	<b>火損</b>	結束第一種羽状縄文。	LRL編線7本。	RL編線により波型を基調とした文様。	LR編織による直線構成。	LRL組織にて鋸歯状文。	直前段反然りRRL縄縦走。	LR編文横回転の後、 半載竹管の表面と割面 で沈線間にRLR編線と LRL編線を交互に。 部LRL端線で館園の一	LR結節の回転か。	LLR結線4本。	欠損	直前段反撚りRRL縄斜 め回転。	LR編緞5本	結束第一種羽状縄文を 1段施す。所々対向す る。	結束第一種羽状絹文横 回転3段	様位のR編線を5段施 す。	区画内には上段にし織 しとR軸とR軸、下段にし た 舗とR軸とR軸により編 線を羽根状画に横走させる。	無節R稿とLR稿の結束 第一種羽状績文。Rが 上なので>向きが目立 つ。職項により不明録 なところが多い。かすか にLRが上で<向きも見	、区画内には1編線の組 もみ合わせで液状文様を 施す。	し編線を横位 [こ3列 施す。	RL組織区画帯を含めて 3本。	L組織5~7本横走。 ところどころ縦に区画
口線部 文様帯 連続圧痕の 有無	欠損	#	肩部と口唇部に LR結線側面圧 痕。	ロ唇にR側面圧 痕を連続	ロ唇と肩部にL R結側面圧痕連し 続。	隆帯上、編編か、 磨滅して不明瞭 に だが刺突が連続	#	隆帯上結 端田 痕連続。 に	#	#	女損	<b>#</b>	#	無	₩	#	右方向に押し引く列で口縁部文学様帯を区画。	<b>#</b>	電罐とおもわれ 5円形刺突列	#	#	無
禁禁	欠損	岩型	岩田	能数	岩區	推製	隆帯。直上直下および 口唇直下に2本一組の 沈粮。	<b>推</b>	ゆるやかな肩にLR縄 線2本	ゆるやかな肩部	欠損	海鹿	ゆるやかな肩部	2本一組のL編線。ロ 暦にも同様。	ゆるやかな肩部	兄輪級	ゆるやかな層部。	無節吊橋とLR縄の結束第一種羽状縄文。	横位のL編線と編端と おもわれる円形類突列 幹 で口線部を区画する。 隆帯風。	(李熙 \$榮	RL連載	肩部に指線
大 間 を を を を を の を の を の を の を の を の を の を																磨滅した 不明瞭。		磨滅して不 明際だが様 方向主体				口線部横三 ガキ、胴部 縦三ガキ
内爾圖下西鄉部第	まがキ	ボガキ	雑光キャ	雑だ。	#             	番だま	※ ボル キ		ボボ	素が	光	数にガキ	# # # # #	満げま	当ガキ	大本   M		光本	  ボル  -	※ が 十	番光	<b>紫光</b>
石		≒ガキ	ボボー	※元::	=17.4	経言がキ	<b>※</b> *	※元 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	業に	楽に	火損	森ミガキ	ボガキ	満にがキ	満にがキ			ニガキ			雑だボ	満井
石 篇 口 下 图 報 禁 非		<b>た</b> ≡ガキ	キョガキ	本	# ### #	禁 ニガキ	# 権力:: 十	本 表 大 十	<b>★</b> = ガキ	# □ガキ	人類	* **********************************	r ≡ガキ	<b>大三</b> 元本	井 三ガキ	# # # #	神 本 ニガー	# #\hat{Y}	#	キ ボボ キ	サニガキ	# # # # #
日線上半形型公区の場合O 内部 口上 田整線 第 田		○ まがキ	数によれ	様だニ	換ボキ	O 無がま	<b>養だ!!</b>	数 C	横ミガキ	海ボギ	久横	O ■ガキ	横にがキ	横方言	O 報光 本光	を サポン サナ	横 	ニガキ	類	権 ボニ	横川	横にガキ
本の他に 本の他に かの他に かはる のまれる なもの なもの なもの		無 砂粒・ 自色砂粒	橅	自由	作	年	年	年	作	橅	栣	在	栣	今岫	柾		黎岫		發	<b>梨</b> 念	年	ft.
胎士に繊維の有無	Ħ	桩	年	年	年	年	整 (E		佈	年	在	布	栣	作	Jan	おが地山 原来のな	体が有	商 存 在		#	年	作
備考・編年的 位置付け	新元式~ビルキ			円筒下層41式新段階 (42式への過渡期)		円筒下層c式古段階 (円筒下層b2~c式段階)	円筒下層c式古段路 (円筒下層b2~c式段階	円筒下層c式古段階 (円筒下層b2~c式段階)	円筒下層c式古段階 (円筒下層p2~c式段階)	円筒下層c式古段階 (円筒下層p2~c式段階)	円筒下層o式古段階 (円筒下層p5~o式段階)					H29億 土 上位30は1点 の円 下41別 個体が共 は 伴した。 不明瞭なもの 7 がもうにあり加算しな かった。	1点の円下d1別個体が 共伴した。	13点の日下41別個体が共伴した。				
蟾	おりを開発の整	業権	盤账	络账	捻账	2) 深跡	2) 深餘	故既	株账	雄账	樵账	が素	故既	株账	業権	民	株民	蛛	<b>益</b> 民	株民	世 株	糕账
<b>受報</b> 十五	H23億土255	H23覆土2	H23覆土3	H23週土3	H25週土1層112	M6-2 Nb2(44Y) (実際はH26覆土2)	M6-2 No.1(44Y) (実際はH26覆土2)	H26床面7 (実際は覆土2)	H26床面12 (実際は覆土2)	H26床面9 (実際は覆土2)	H26床面10 (実際は覆土2)	H27床面36	H27覆土2層111	H28億土3層200	H28億土1129	H29覆土上位30	H29優土上位4	H29覆土上位1	H29覆土上位14	H29覆土上位9	H29覆土上位5	H29覆土上位5
画 (cm)	(2.0) 8.0	12 9.0	.5 9.5	29.0 12.5	32.5 10.0	40.5 10.5	5. 14.5	1	44.0 10.5	0.93	14.5	18.0 7.0	15 8.5	0.01	15.5 6.5	10.0	30.0 12.3	26.0 10.0	36.5 10.5	35.5 14.0	14.0 6.0	1.5 8.5
(cm) (cm)	1	14.5 25.5	16.5 21.5	22.0	21.0	18.0	23.0 51.5	29.5 (48.0)	18.5	18.0 33.0	(12.0)	14.0	13.0 23.5	19.0 26.0	12.0	17.0 30.5	24.5 22	8 4 9 9 日 4 8 日 8 日 8 日 8 日 8 日 8 日 8 日 8 日 8 日	24 20 上面鏡 着円形	21.5 23	12.5	16.3 ~ 26.5
	375	(市 210	382	265	376	元 496	五 467	FE 508	式 427	五 431	式 502	348	cat 358	190	受階 218	- Se	# # #	告新 27	a 新 26	海 35	青 新 176	第 第
土器分類(正群6版-正群6版年並式名	IV群a類	円筒下層41式最2 (c式に近い)	円筒下層d2式	円筒下層dl式新段階	円筒下層d2式	円筒下層b2 ~c式	円筒下層b2~c式	円筒下層b2 ~c式	円筒下層b2 ~c式	円筒下層b2~c式	円筒下層b2 ~c式	円筒下層c式	円筒下層b2 ~ c	田館下層d1式	円筒下層d1式古段階	円筒下層dl式古段階	円筒下層dl式古段階	田館・田屋・田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	円筒下層di式古段階	田館下曜日式古段階	円筒下層dl式古段階	円筒下層dl式古段階
過 機 機 機 番 号	H23-3	H23-4	H23-5	H23-6	H25 1	H26-1	H26-2	H26 – 3	H26-4	H26-5	H26-6	H27—1	H27-2	H28-1	H28 —2	H29 —1	H29-2	H29-3	H29-4	H29 – 5	H29-6	H29-7
中華図集	図皿-2-14	図Ⅲ-2-14	図皿-2-14	図Ⅲ-2-14	図皿-2-17	図皿-2-18	図Ⅲ-2-18	図目-2-19	図皿-2-20	図皿-2-20	図皿-2-20	図皿-2-21	図皿-2-21	図皿-2-22	図皿-2-22	図Ⅲ-2-23	図Ⅲ-2-23	図Ⅱ-2-23	図Ⅲ-2-23	図Ⅲ-2-24	図Ⅲ-2-24	図皿-2-24

<b>編製</b>							Π						記っ藤		Т	1				
森・砂竜・かり春	泰	6:	3	93	9:			誘導くが部下		6:	93	部	でり よって 不思察	9	33	こが 総形			6:	93
・ 成	おき	ミガキにより 無文	磨滅者しい	ミガキにより無文	ミガキにより無文	/ 英	次 遊	編文の痕跡があるがな撮影 あるがな撮影 かが大きく不明	故	ミガキにより無文	ミガキにより無文	期部帯下部分 と同じ単軸絡条 体を回転施文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文無文	間部と同じ格 条体施文がある	#   		ミガキにより無文	ミガキにより無文
底部形態	上げ底	上げ底	上げ底	上げ底	サイチ		人	上げ原	次 職	世上コ	上げ底	微妙な上げ底	微妙な上げ底	微砂な上げ底	上げ底	業務をな上げ原本	徴めな上げ再	文	上げ底	上げ底
を から も の も			W 1117 - O	#K 10 #W 10 14 #W IPT			lur m				を を を を を を を を を を を を を を			TT 46 10		開業権しく予盟職のある。	Julian M. O	W 42 11		
間部多段の帯			ロ縁郎文様帯から1.5m下 「元.2 段ニコー組の横回転 の結節が並ぶ。同じものが そこからほぼ5m間隔にきる 「ご段、合わせて4段ある。	藤斌して不明藤だが、口縁 郷文様帯の医面部分から の問題でふたつの結節を検 回転させている可能性があ る。口縁部直下のものは不 関係だけぞれを含めると収 あると見受けられる。原面 際には無い。	所々、結束第一種羽状縄文。		結束第一種羽状編文。区画 直下を入れて4段。およそ3 cm、6cm、5cm間隔		結束第一種羽状縄文。区画 直下を含めると6cm間隔で4 段残存する。		務条体施文後に口縁部文様 帯といた一段の直下あたり から、阿特の効策が一種羽 着 状態文 がおおよぞらの間隔 で四段ほど帯状に施される。	結束第一種羽状縄文5段。 区画帯直下のものも含む。 4cm、5cm、6cm間隔。		口線部側から結束第一種羽 状緒文をおよそ3の間隔で帯 状に横回転させる。口縁部 文様帯も含めて6段。	結束第一種羽状細文がおよ そ5cm間隔で4段。	口線部文様帯区画直下およ びその下におよそ4の関係に 結束第一種羽状網文が帯状 に横回転する。	口線部文様帯と調部最大径のところに結束第一種羽状端文が横方向に一段ずつ施された。RLが上なので>方向。	口縁の3cm下に口縁節文様帯と同様の結束第一種羽状構なら、その他にもかすかに羽状がみてとれる。		
開発を																				
<b>阿部組文</b>	R縄自縄自巻を縦走。	R縄自縄自巻を縦走。	RL縄自縄自巻を縦走。	山縄自縄自巻を縦走。	R縄自縄自巻を縦走。	RL縄文を縦走させる。	R縄自縄自巻を模走。	R縄自縄自巻を縦走。	R縄自縄自巻を縦走。	上半はR編自編自巻を 縦走。		R絹自縄自巻を縦走。		LR縄文を縦走。	結束第一種羽状縄文	R縄自縄自巻を縦走。	R縄自縄自巻を縦走。	R縄自縄自巻を縦走。	直前段反燃RRL編横回 転斜行縄文。	
医多络 条 条 条																				
部 報 本 本 本										下半はR結 第1類機回 転。	L編第1額が 雑回転。加 えてし縄と R編が矢羽 根状になる ように配さ わたが繰回 配の高音が		ス 雑 第1類 数回転。		おいまない。					R 端 第1数の禁回転
ロ 条部 文 条 書 区 画 直 下 の 文 条	結束第一種 別状編文一 段			語談して不 国際だが、 かたりの結 節を横回転 させている 可能性があ	公損		結束第一種 羽状縮文		結束第一種 羽状縞文	結束第一種 羽状縄文	上の結束類 様回転。加一種羽 類が 一種羽状織 えて上籍と 文を口縁節 尺輪が矢羽 とするなな。 様対になる 下が電下とように配さ も考えられれたが縦回 も考えられれたが縦回 る。 商音が 網络からっ	結束第一種 羽状緒文。			結束第一種 羽状縄文	結束第一種 羽状細文が 帯状に横回 転する。			欠損	
日文 総様(の) 部帯(面) 部が排送(回)	1.5 1.5	1.5	3.1	3.5	久 讃 入 讃	4.0	2.0 1.5	3.5	20 20	1.0 1.5	3.0	1.5 1.5	被選等でで (1.5	2.0	1.5 2.0	5.0 1.0	5.1	3.5	久損 損	3.5
ロ文マ 様様の 中半地			四単位のゆるやかな波状口縁。	ゆるやかな五単 位の波頂部。	女損						四単位の緩や   がな波状口線で   ある。		四単位のゆるや かな波状ロ縁。		ゆるやかな四単 位の液頂部				欠損	
口	結束第一種羽状縄文施 文後その上にL編線3段 ほど。	R結模3本	ロ番店に指定を発展に配信を矢 回番に打定を発展がに配した構成を 押したものか個 投第で、口軽機の い解交が選択 「ロマバイは構造が着に区 る。 屈曲部には「即性が高いというだ」 右方向への押しころか、安邦技術維か 引きが選続する。 A.tam Fict 左方向 の押しばり	R舗と編の矢羽締線に よって直線的な山形の 連続を能す	文	結束第一種羽状縄文2 段。	L編機とR編線を2本一 組にした羽状の編線を3 段施す。	R緬自縄自巻を横回転。	L組とR組2本一組にした矢羽根状の組織により直線構成の文様。山形文様の連続。	R組織3本	純東第一種別状績文が P 連続して2段並ぶものを が それとした。	R縄L縄R絹を並べて絹 線を2段に施す	R結線2本一組にしたも のを2段横走させる。	矢羽根状端線間に結束 第一種羽状縄文横回転 を1段施文。	L縄とR網2本一組の編 線が区画と合わせで2 段。	磨滅により不明験だが 機走するL編とR編の編 線を密に施す。	L縄とR縄とR編のが失 羽根状風に緒線として 横方向に2段施される。	<b>結束第一種羽状縄文</b>	欠損 ::	口縁部文様帯内にはL 編とR編の矢羽編線とR 編が観察できる。
口練部 文様帯 連続圧痕の 右無	#	#	ロ唇には爪先を 5 押したものか細 い刺突が運続す る。 関曲部には 古方向への押し 引きが連続する。	#	欠損 //	#	#	#	#	#	W. T. T.	#	#	<b>斯</b>	#		#	100	欠損 /	薄い隆帯に刺突 を連続。
人 区 本 報 報 图 图 報 報	繰の肥厚部に、L縄	R結緩	ゆるやかな屈曲部	R縄と上縄の矢羽補線	盛	ゆるやかな肩部	ゆるやかな屈曲部	編田囮	L縄とR縄2本一組にした矢羽根状の縄線。	ゆるやかな屈曲部	<b>結束第一種羽状細文</b>	R縄L縄R縄を並べて縄 線を施す	R精線2本一組にしたもの	- R組とL組を模位矢羽根 、状緒線として区画。ロ : 唇にも同様に施文。	L組とR縄2本一組の縄 線	・ゆるやかな層部直上に 、矢羽根状に上縄とR舗 Iの組織を施して区画す あ。。	L編とR編とR編が矢羽 根状園に雑線	ゆるやかな肩部に、L 組と料2本一組にした 組線を2段施す。これを 間様に口唇に施す。	=	推出い数
内閣を開発を	磨減着しい。機	25	磨滅して 不明験だが、ゆ: 横ミガキ主 体。	磨滅により 不明験だが、R& ミガキ		Đ	₩	選	<u> 温力</u>	Đ	滅により 明瞭。上 横三ガキ。 様 = ガ か。	2.00	# G	上三分の一 R# 横 = ガ キ、状3 下縦 = ガキ 中	***	磨滅が着しゆく く不明だが、矢 ミガキの可の 能性がある。る。	ロ縁部ミガ キの前に横し 方向にサル根 ボウ条痕。	体・ 暗滅により 補 不明際 細		職業と株付 着により不明 雑し 業だがこがキ
内謂圖下面整部半面整部部	※ : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	当が本	= ガキ 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本	# # #	# 北 北	業が	※ + 元 + 元 + 元 + 元 + 元 + 元 + 元 + 元 + 元 +	※光本	※大き		※ ※ が 。 語下半下十	がボギ		※ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	※元:	不明縣	** ** **	= # H	ボボギャ	北半
内閣順上面整部半	湯光半	ボボキ	ミガキ	ニガキ	久損	が非	激光	※ 十	雑だ。	※ ボルキ	数 ボ キ	満井	満た。	横方言	※ ボボキ	不明瞭		ミガキ	数に対キ	#¥#
国校 国教 国教 工業 工業 工業 工業	横 まガキ まガキ まガキ	横 ≡ガキ ≡ガキ	ミガキ ミガキ	ニガキ ミガキ	欠損 欠損	横 ミガキ ミガキ	横 ≡ガキ ≡ガキ ≡ガキ	横横 横 ボカキ ミガキ	横 横 =:ガキ =:ガキ	横 まガキ まガキ まガキ		横横 横 三ガキ	横 まガキ まガキ まガキ	横 まがキ まがキ まがキ	横 横 ボラボキ ボガキ	不明瞭 不明瞭	横 まガキ まガキ まガキ	ミガキ ミガキ	欠損 欠損	ミガキ ミガキ
4の色に 部士に 4 4 数 4 3 4 5 4 5 4 5 6 9 9 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9					砂粒				包数色数				中中		砂粒				女職	4000
土に繊維の有無上に海綿骨針の有無		在在		在在	在	在	在在	作 袋峒	在 製品	在 在	在	在	作	在 在	在在	有 黎··	佈	在在	有	在
備考・編年的 位置付け			幅広の口縁部文株帯が 下olic近い。	器の強さは円筒下層 di : 式的だが器の形状は円 : 所層 c式的。		(旧拓本番号H29-5)	文庫		16と接合。							モチーフ的には下層di だが、器形と口縁部文 様帯の幅が下層e的で ある。	器形が内轄する		下っかそれに近い下62	
器	然既	4 版	3 滋幹	<b>益</b> 朕	雄 既	<b>総</b>	25 ※	が	48. 51	盤 账	燃	48.	松 账	<b>禁</b> 聚	<b>総</b>	糕	<b>益</b> 账	488 888	热	然
田十段	H29覆土上位13	H29覆土上位30	H29覆土上位3	H29覆土上位2	H29覆土上位10	H29覆土上位6	H29覆土下位18 M2-2 60G62と 半身ずつ	H29覆土下位17	H29覆土下位18	H29覆土下位20	H29覆土下位19	H29覆土下位17	H29覆土下位24	H29覆土下位26	H29覆土下位27	H29覆土下位22	H29週土下位15	) H29遷土最下位38	H29床面48	H34億土2層7
器高 底径 (cm) (cm)	26.1 9.5	24.0 9.5	35.0 12.5	36.5 14.0	- 10.0	(35.0)	30.5 12.0	17.0 7.0	(28.0)	27.0 8.0	36.0 12.0	36.5 11.0	20.0 8.5	20.5 7.0	25.7 12.0	28.0 11.0	25.5 10.5	(22.5) (13.0)	(11.0) 8.0	29.0 10.5
(EB)	18.0	18.0	24.5	23 V 28	1	22.0	22.5	14.5	26.4	12.5	21.0	17.5	14.5	12.0	22.5	17.0	8 4 7.5 17.5	18.0	-	17.0
上器分類 元 (正群5億・正群6億は型式名) 番	円筒下層dl式古段階 新 282	円筒下層d1式古 段階 新 354	円筒下層41式古段階 新 88		円筒下層d1式 323	円筒下層dl式古段階 新 366	円筒下層dl式古段階 古 294	円筒下層dl式古段階 古 298	円筒下層d1式古段階 古 324	円筒下層di式古段階 古 333	円頭下疆山 法姑娘豬 口 85	円筒下層dl式古段階 古 246	円筒下層dl式古段階 古 119	円備下層d1式古段階 古 98	円筒下層dl式古段階 古 171	円備下層d1式古段階 古 68	円筒下層d1式古段階 古 29	円筒下層dl式古段階 古 248	円筒下層。式 307	円筒下層d1式新段階 19
鑑田					-12		H29—25 P	-26	Н29—28	H29-29 P	H29—30 P	-31	H29-32 P	-33	H29-34	-35	Н29—36 Р	H29—37 P	9-43	ī
選構名 - 選構名 - 過報器 - 2 (12 (12 ) (13 ) (13 ) (13 )	区国-2-24 H29-8	図Ⅲ-2-25 H29-9	図正-2-25 H29-10	図Ⅲ-2-25 H29-11	図Ⅲ-2-25 H29-12	図Ⅲ-2-26 H29-13	図Ⅲ-2-28 H29	図Ⅲ-2-28 H29-	図Ⅱ-2-28 H2	図皿-2-28 H26	区Ⅲ-2-29 H26	図Ⅲ-2-29 H29-	図Ⅲ-2-29 H2:	図Ⅲ-2-29 H29-	図Ⅲ-2-30 H29	図Ⅲ-2-30 H29	図Ⅱ-2-30 H29	図Ⅱ-2-30 H29	図皿-2-31 H29	図目-2-33 H34

		1		松いた						ı	ı			r		ш	返出サックロ	1	1/		
からもある。		km6-	複節 語 う れ 回	新土組を 調発を して満す 成形法																	
底部文様	タ 増	国部と同一原 体施文	R単軸絡条体施 文があるが、顕 部のものより節 が大きく縄どうし の関係も広いた め、別原体の可 能性がある。	不明瞭だが嗣 部と同じか。	ミガキにより無文	ミガキにより 無文	<b>火損</b>	ミガキにより 無文	ミガキによる 無文	ミガキによる無文	ミガキにより無文	茶	ミガキにより 無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	=ガキにより 無文	次損	ミガキにより 無文	ミガキにより 無文	ミガキにより 無文
底部形態	残存部か ら上げ底 と考える	上げ底	微妙な上げ底	微妙な上げ底	上げ底	微妙な上げ底	欠損	微妙な 上げ底	かずかに 上げ底	微妙な上げ底	画 国が付く	微妙な上げ底	上げ底	微妙な上げ底	微妙な上げ底	微妙な上げ原	上げ廊	(本)	不整な 上げ底	微妙な 上げ底	かすかな 上げ底
電影										部よる本のできる。 またまた。 大下では、 大手を は、 大手を に、 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。			ルボウ よるも か、横 向に条	ルボウ条 を水平に した 後、 解体→羽 語文				地輌向ボを国数になる。 を持つのサインのは、 大力を保証に 大力をほぼる。 が、 は、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、			
国部多段の帯										単軸部条体施文後、結節を厚帯状に横回転させる。帯はる 開部分に二列そこから3cm下に に一列そしてさらに4cm下につー列・とこちになっています。 一列・さらに5cm下に一列と移り対決。	開部直下にLR線の結節。そ の2cm FLR線の結節。その3 cm FLRは線の結節、その3cm 下FLRは線の結節、その2cm 下FLR線域によって不明だが結 簡が兼状によって不明だが結	口縁部区画直下に結束第二種羽状縄文が帯状に横回転。ここからおよそ4cm間隔で下に5段連続する。	格条体を複回転後、口線制区 - 画庫下から結束第一種羽状端 文を横回転し帯状に施す。さ ジェ下へ向かっておよそ3m間 病で7段、合わせて8段施す。 最下段は底部際である。	結束第二種羽状網文。区画 直下をいれると六段。2~3 の間隔。上のほうが詰まっ ており、底部際側は無い。終				A THE C. N. III			絡条体織回転後、肩直下に RL織の結節を横回転。さら に下方へ4cm関隔で2段。合 計3段帯状に施す。
開発を																					
胴筋綿文	R編自編自巻を模走。	尺緒自緒自巻を縦走。		直前段反撚りRRL補斜 行が地紋。	下半はLR編文横回転後、絡条体施文。				RL縄文を縦走		LR縄自縄自巻を縦走。			R緬自緬自巻を縦走。	R細自縄自巻を縦走。		<b>显</b> 蒙				
医多络 部 条 条 条								日本   本   本   本   本   本   本   本   本   本									スト を を を を を を を を を を を を を を を を を を を		R網級回転	山縄縦回転。	(東 ) (東 ) (東 ) (東 ) (東 ) (東 ) (東 ) (東 )
海			R 編 第1級 の織回転		に 端 第1類 級回転。	RL編で第1 鰲猴回転。	R維第1 面転。 は に の を を を を を を を を を を を を の を の を の を			サルボウ条 魚を施した 後、山鯔第1 類を横回転 筋女する。		张 盖 第 2 章 四 章 3 章 4 章 4 章 4 章 4 章 4 章 4 章 4 章 4 章 4	条旗を施した後、LR 維第1類を 雑回転。			LR維第15 秦回転。		ま を を を を を を を の で の で の で の で り で り で り で り で り で り で			
口禁的 文様帯 区画庫下 の文様		結束第二種 羽状縄文を 指す。					LR組横回転。	結束第二種 羽状絹文二 段。			LR箱の結 節	結束第二種 羽状縄文。	結束第一種 羽伏縄文。	結束第二種 羽状縄文				結束第二種 羽状縄文の 結束部。	肩上の羽状編 文が一部層に かかっている。	欠損	RL縄の結 節
ロ 文 (C S) 本 (M S) (M S	5:	20 1.0	5.0	3.0	0.4	5.0	4.0 2.0	6.0 3.0 %	2.5	3.0	2.0 1.0	1.5	1.5	0.1	5:	Ŧ	5.0	0.1	4.0 1.5 %	欠損 損 ′	3.5 1.0
	-	2	io.	e .	か で で で で で で が し な が に は が が に は は は は は は は は は は は は は は	波頂部。5.	4	9	2.	e9	- 2		-			=	LO LO	4	4	K	· ·
マダウの発売の金米の日本を発売	存长品	# J	大公部に		残存部から六単 横位と推定できる 三角形をした突起を口唇に持つ。	大単位の波頂部。	新 <sup>15</sup> #	展り	や遺	<b>有談</b>	成巻の口	調 磨減者しく不明 療。	の指生物	格 位 を を を を を を を を を を を を を	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の口唇の外反音分々損。	66	<b>推</b> 品	66.5	<b>火損</b>	<b>三柴</b>
口線部 文様帯 区画内文様	L編線によって直線的な 菱形の連続を施す。不 明瞭だが、口唇にはL R編回転か。	L縄線による山形を基調 とした直線構成の文様。	RL網交を繰方向に施文後、単載された草本で2後、単載された草本で2本一組の沈線を区画部分に加えて同か2段施す。	周部と連続	L結単軸絡条体第1類横回転。	LR編文横回転。	LR結構回転の上から単 軸絡条体第1領横回転。 ところどころ絹文地のま ま。	これ機能による直線構成 の文様だが、折り返し による対向部あり。	3本一組L網線でゆるや かな山形を直線的に連 練させる。	LR機線による連絡した 山形を基調とした直線 構成の文様。	LR組織による直線構のの文様。山形の連続をの文様。山形の連続を基調とする。2本一組のLR組織を肩部直上と口唇部際に施す。	R編級により菱形を基制 とした直線構成の文様 を描く。	LR編線で山形基調の 直線構成の文様を施 す。三角形の区画が生 じた中にはRL縄の結節 を模方向に転がす。	こ編録により山形の連続を を基調とする直線構成 の文様。	し縄線による直線構成。	層に 円 形 の 工 具 を 押しつけ て L 結 線 により直接 構成 の 口 右 に 引 き 抜くよ 文 様。 シな 連 装 刺 突	区画内はRL編纂の、 数形基調の直報構成の 文様を施す。	RLR編纂により直線構 成の文様。山形を基調。	口唇にLR純側 LR純とRL純2本一組の 面圧痕 本様。二単位の山影文。	火損	肩部と口唇にR L結側面連続圧 形を基調とする直線構 痕を施す。 成の文様を施す。
口縁部 文様帯 連続圧痕の 有無	#	巣	#	業	#	無	降帯上へう。	肩部と口唇部に し 編 側 面 圧 痕。 し 編 線 区 画 内 に の 半 載 竹 管 に よる に て 字型 刺 突 か。 暗 滅で 不 明 翳。	#	ロ 晦 は 回 一 原 体 の 創 固 連 続 圧 痕 が 強 方 向 に 財 ぶ。	熊	業	#	#	#	属に田形の工具を押しつけて右に引き抜くような連続刺突。	機帯上には右に神 しびく田形刻染が 連続する。ロ聴制 はRL整画面田織 が連続する。一部 が連続する。一部 が関連なる。一部 を型突列が、維	口番と肩部にRLLR		欠損	肩部と口唇にF L絹側面連続圧 痕を施す。
部 禁 性 国 人 人	[編纂	1. 建模	(半数による草本と思われる2本一組の沈線の れる2本一組の沈線の 原体背側による沈線。	編田田	L編単軸絡条体第1類 横回転。	ゆるやかな肩部	<b>逐</b> 珠。	肩部。	<b>学験</b>	明瞭な肩部	箱庫	R\$唱\$袋	1. 化粗镍	龍	口端袋	箱庫	等い降神によって区画する。	龍	肩部。上に結束第二種 羽状縄文。	欠損	箱庫
石置か 圏内 手		上半横ミガキ、下半縦 ミガキ	禁術						磨滅が著し く不明瞭だが、まだま。	ト + + 横   ボ オ、 ト + * 接	ロ縁部横ミ ガキ。 嗣部 縦ミガキ。		ロ縁部横ミ ガキ、胴部  縦ミガキ。		発送者しい。						
内閣開下西遊節半	満光	雑光点	禁ボー	業がま	※ 光	まがキ	無がます。	<b>縱</b> ≡ガキ	=##=	禁だ 十	※ボニ	機が出	- 14.46	<b>※</b> 元 *	1.77.7 E	# ¥ #		######################################	業が当	縦ミガキ	がボギ
国國路国 主語 计 计 计 计 计 计 计 计 计 计	※	横にボキ	<b>※</b> *	業がま		ボボキ		横にボキガボ	ミガキ	権だ言	※ * * * *	横にがキ		※元::	=77.4	# ¥ #		# #	楽に	欠損	楽だニ
内閣口下	# 第24	# # # # # # #	# ※ ボボニ * * * * * * * * * * * * *	# 三ガキ	本に方本	キョガキ	本に近年	オーガギ	+ =: X +	* 表式:: +	キ を ボバニ キ	本にがキ			+ = 1,1,+	######################################	# 板// + 十	*	本にがキ	人類	キョガキ
口線上半形態外反の場合C 内 間 口 上 面 整 線 半	数だニ	数ミガキ	O 権元!!	数ボー		まがキ	数に	横ボボキ	ミガキ	数 + 大 +	<b>数</b> ポガキ	類 ボバキ キ			#¥#=	人	表	類	様だニ	<b>火損</b>	横にガキ
市 大の 単 本 の 中 は かかり は かかり なかり なかり なかり かんり かんり かんり かんり かんり かんり かんり かんり かんり か	<b>新山</b>	年	押	黎岫	作	柜	年	悔	黎明	黎···· 哲	魯		作	柾	桩	無 多 ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	÷ 4	在	<del>le</del>	年	怖
俗土と歳谁の首無	- Amr	-lm	午	作	佈	作	佈	年	佈	和	5.00~	佈	在	佈	桩	佈	権	ഫ	仁	年	佈
備考·編年的 位置付け	H34階±2-11だ50点ほど小砕片の同一個体。 ビ小砕片の同一個体。 H21より新段階、M3と 同じかわも新段階。M3と			胴部最大径 19.0cm						円筒下層41式新段 (42式への過渡期)	H38魔士上部31こ一点 合付きの合があるが、 別個体だった。					円筒下層d2式古段階					
器	<b>総</b>	账	燃胀	燃	が (金) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	雄	48.	雄 账	が	<b>益</b> 既	2000年	48.	<b>株</b> 版	数 既	大学業	48版		48.	7	2.2	<b>総</b> 92
田井井田	H34撥 土2曜1	H34覆土2層8	H35床面6	H35床面6	H36覆土2層5 (H36覆土2層4と接合	H36覆土2層5	H36週土2層6	H36覆土2曆4	H38ベルト覆土最」 位62	H38優土上位1	H38億土上位1	H38覆土上位7	H38覆土上位3 (M2-2 63R28が生)	H38億土上位3	H38ベルト樹土上4 64	H39億土上位337	H39覆土最上位22	H39圈土上位7	H39覆土上位2	H39覆土上位5	H39圈土上位16
m) (cm)	0.7	7 9.8	43.5 10.0	0.8.7	0.7 0.	.5 7.5	0) 11.0	.5 16.0	8.3	0.9.5	.0 6.5	0.6 0.	8. 9.0	7.5	11.5	7.5	12.0	- - - - -	0.01	0.71 (0.	.5 9.5
口俗 端則 (cm) (cm)	14.5 2 19.0 16.5	18 ~ 32.7		13.8 ~ 36.0 15.5	16.0 16.0	18.5 17.5	23.5 (36.0)	29.0 42.5	16.0 22.5	19.0 32.0	15.0 15.0	17 2 25.0 19	18.0 28.8	14.0 21.0	21.0 32.0	(19.0)	26.0 42.0	19.0 (15.0)	19.5 30.0	(16.0)	18.0 25.5
復元権号	53	21	50	31	£ 157	360	714	726	91 趣	都 28	134	[曜 62	100 編	394	439	392	7	422	168	399	92
工器分類 (工群b版·正群a類は型式名)	円筒下層dl式新設	円筒下層d1式新段階	円筒下層0式	円筒下層c式	円筒下層b2 ~c式	円筒下層b2 ~c式	円筒下層b2~c式	<b>万億下層d2式</b>	報發爆江IP屬土與田	円筒下層d1式新段階	円筒下層dl式新段階	円筒下層d1式新段	円筒下層dl式新段階	円筒下層dl式新段階	円筒下層d1式古段階	円筒下層d2式	円筒下層42式	円筒下層d2式	円筒下層d2式	円筒下層d2式	円筒下層d2式
過 機 機 一 一 中 半 中 中 一 中 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	H34-2	H34-3	H35-1	H35-2	H36-1	H36-2	H36 – 5	H36-6	H38-2	H38-4	H38 - 5	H38 – 6	H38-7	H38-9	H38-13	H39-2	H39 - 3	Н39—7	H39-11	H39-15	H39-16
中華図	図Ⅲ-2-33	図皿-2-33	図田-2-34	図Ⅲ-2-34	図Ⅲ-2-35	図皿-2-35	図皿-2-35	図皿-2-36	図皿-2-38	図Ⅲ-2-38	図Ⅲ-2-38	図皿-2-39	図Ⅲ-2-39	図Ⅲ-2-39	図皿-2-41	図皿-2-42	図Ⅲ-2-42	図Ⅲ-2-43	図Ⅲ-2-43	図皿-2-43	図皿-2-44
															-					_	

編製							また接片					買りが押っしてが出										
本の研究の		645		C.k.y	IC,ky	12,849	H39圏 土 I層407に 一点未後 合底部片 あり	L.k.y		649	645	文 撮 し ており	5 4 21 2 4 5	単層に対する	37	しより	しより	りおこ	9,	た なな ひずる		
修 底部文様	# *	ボギ	女	ボガキ 本文	ボボキ	ボガキ	無大本文	ミガキ無文	な業	ボガキ無文	#大本 女	第大本		R編による単軸 絡条体第1類回 転放射状に施 した後にミガキ			ボボキ	無大大	ニガキにより無文	胸部と同じと思われるRL編文を回転施文する	女債	¥ 4
底部形態	田下 名	徴めな上げ原	人	クも被条.。 後上 な所 な無	凹凸のある平底	後ない。	上げ底	上げ底	かずかな上げ底	数されている。	女条方女部 5. 上線 上流移 2. 上流移 2. 単元 1. 単数	か開発値に	着 かすかに 条上げ底	上げ底	数ななに正明	上げ原	上げ底	株 ちご い 祖 雑 後 上 な 数 形 が か 近	女方心真全。	上げ原	女債	条徴砂な上方げ底
半の書	開に 部に 全 全 を を で を で を が を を で を が を が を が を が を が		in/ o	サルボウ コ よるも め か、強 か か か が は か が が は か が が が が が が が が が が が が が が が が が が が							ト 大 本 本 な な な な な な な な な な な な な	サルボウか どうか不明 職だが、条 煮文が全面 に様走する。	格条体 大後、 たまった 一般を を を を を を を を を を を を の の の の の の の の					サルボウ条 画に全面に 画に全面に 活した後、 総条本を簡 対。 幸 韓	地間向 ない を を を を を を を を を の の の の の の の の の の の の の			全 ルポウ条 後を様分を 可に能文
開部多段の帯			結束第二種羽状縄文結束 部。区画直下も含める24段。 直下以外は4cm間隔。								結束第二種羽状網文を区画直下のものからおよそ4mおきに1段ずつ施し、6段ほど。			結束第二種羽状縄文。			LR維結節二段。4cm間隔。 区画直下を含めて四段。					
開きまり																						
<b>国部総文</b>	胴部全面にサルボウ条 痕を横走させ、格子目 を描くように、R細自細 自巻を縦走。	回 (集	R縄自縄自巻を縦走。	条痕施文後、R絹自絹 自巻を縦走。	坦滋						R縄自繕自巻を綫走。		AT G		電機	R編自編自卷を縦走。		R縄自縄自巻を縦走。	R編自織自卷を模走。	RL縄文横回転による斜行網文。	反禁リと正禁の合禁RLR/RRR報文をほぼ縦走。	
医多络 部 等 等 等		京 端 森 匠 精 。 華田多			R L 編 参 器 条 体 を 回転。				R結縱回転				X		LR 語多華密条存存物 回覧。							
医		LWK				L 編 第1類 縦回転。	。	L編第1A類 縦回転による木目状。		に 端 第1篇 縦回転。		条痕文能文 後上編第1A 類木目条禁 リ糸文養回 転筋文。	LL VIV say	R 編 第1類 縱回転。			LR維第1整 義回転。					サルボウ条 振横方向施 文後、RL編 第1類をやや 斜めだがおお よそ縦回転。
口 森 (水 (水 (水 (水 (水 (水 (水 (水 (水 (水 (水 (水 (水	肩部直下に はLを二回結 節したものを 横走させる。	結束第一種 羽状縄文。	結束第二種 羽状縄文結 東部二段。	結束第二種 羽状緒文二 段。	肩部直下にR L編による8の 字状の結節を 模回転する。	LR結節をI 二段。		1 *****		2 48	結束第二種 羽状網文2 段。			欠損		欠損	LR編結節 L 回転2段。	結束第二種 羽状縄文の 結 東部 を2 段水平に。	<b>次攝</b>		R 組とし組を 二本一組にし て矢羽状組線 をおよそ2段。	T WITH COLUMN TO
は 発 を を を を を の の の の の の の の の の の の の		6.0 3.0	3.0 2.5	30 20	5.0 1.5	4.0 1.5	4.5	5.0	3.0	2.5	2.5 1.5	2.5	1.5	放 職 人職	3.0	久損 損 人	4.0 1.0	3.0 2.0	次 職 文職	5.0	4.0 1.0	3.0
は株本の日本本語												磨滅して不明縣。			微妙な液状が連続する口線であり、 機する口線であり、 残存部からは菱形 と対応している可能性がうかがえる。							
口禁部及持带区国内文体	形基調の文様をLR 線で直線構成で施	2本一組のLR組織による直線構成の文様。	R編織による直線構成 の文様。菱形基調。	-R籍線直線構成。	LR組織によって山形文 の連続を基調とする直 線構成の文様を施す。	L編線による直線構成 の文様。菱形基調。	LR縄線による直線構成 の文様。	5 一組のR結線で施。	面内はし網単軸絡条体面 圧痕により菱形を基 とした直線文様を施す。	残存部分から3本一組 の1編線により1等辺三 角形を四山連続されて いると表えられる。	LR編織による直線構成 の文様	LR組織が1本機走する。明瞭な強部を持ち その結果よく外反する 日線部形態となる。	胴部から連続する地紋。	<b>文</b> 損 久損	徴収 区画内はLR組織による 続す : 直線構 成菱形基調の連	久損 欠損	LR組織による直線構成 の文様。くの字の連続。	L編線により直線構成の 文様。	久損 欠損	サルボウによる条痕文 が横走する。	R組とL編を2本一組に して矢羽状縄線をおよ そ7段。	LR編織によって連続する山形を直線構成で施 る山形を直線構成で施 文。
口線部 文様帯 連続圧度の 有無	ロ番にはLR端数 側面連続圧痕を結 施す。	肩部に半載竹 管によるC字型 5 の連続刺突。	口番に上編側面 RE低。の	#	ロ番と肩部にLLR R結側面連続圧の 痕。	し縄側面圧痕が しゅっちゅう ロ唇部に連続 の	肩には草本断面による刺突。UFロではてはRamの側面圧痕。	肩部に半載竹筒 によるC字型達2本 統刺突。口唇に 文。 R總側面圧痕。	兼	日唇にし側面にのよる連続圧痕角	#	口唇部にはLF 縄連続圧痕が 巡る。	口帰部にに雑	文操 次	解帯上は右側に乗し引くように 対象。	欠損 欠	口唇部にLR編側 LF 面圧痕を連続。 の	口唇にRL縄側面圧痕。	次 次	#	発帯上に右側に 田形(竹串状のに 簡文具か) 神し 引き。	# 
口禁部及持非	治皿	箱匠	最高	肩部	報順	編纂	肩部	銀座	非級い験	箱	箱順	頚部より口唇部までを 口縁部文様帯とした。	ゆるやかな肩部	<b>次</b> 擴	徴妙な隆帯によって成 形された肩部	欠損	岩町	肩部。直上に二縄線2本	<b>火</b> 掛	ゆるやかな声部	作器の散	微妙な肩部分
内閣を回避を					上三分の一 横 ≡ ガ キ。 下縦≡ガキ。					磨滅により不 明漿。横ミガ キ主体か。			上半横ミガ キ、下半縦 ミガキ		口線部横ミ ガキ。 顕部 縦ミガキ。					ロ縁部横≡ ガキ		
内置圖下 超鐵部計	※ ボボ キ	紫光 井	※元本	#Y." #	満光 オガト			満光半	数十	ポポー		※ 井	恭 十 十 十	満光半		ボボキ	             	<b>然</b> 光 +	※元 **	日来	禁 士 十	<b>激光</b> キ
国際を開発を開発を開発を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を		楽に		# # # #	· = ガキ	- 三方本		-		- =: ž	<b>※</b> だ… キだ…	※	· 三ガキ	欠損	※元::			<b>然</b> **	※元 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **		 	※
国 数	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	+	# # 三 元 并	            	キュガキ	*	+	   横   +	* 1.7.1 数十	+ = = = = = = = = = = = = = = = = = = =	表 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	#	# *	資 欠損	横 横 ボガキ ミガキ		+ 三ガキ	*		# # # # # #	# # # # # # #	# * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
による 日線上半部のの場合の 内部 日整線 部	i i		横ボボ	がます。	横にガキ	横上ボキ	高 横 回 まがき	数に	様だ!!	二九年	表 :	<b>養光!!</b>	数に	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /			§ ■ガキ	<b>複光!!</b> サガナ		数に	O 版 # # # # # # # # # # # # # # # # # # #	横にガキ
田田 田田 大田 大	# F F F F F F F F F F F F F F F F F F F	有有白色砂	権	在	在	本 本 小 古	有 有 凝灰岩 小石	在	作 袋峒	袋峒	作	作	袋峒	在	作	作	本 第 500000	布	布	権	作	布布
備地・編年的	円筒下層d2古段階 7		円筒下層41式新段階 (42式への過渡期)					R		展開写真に下下とある が下(直下)の間違い。	円筒下層d1式郵段階 (d2式への過速期)	· ·		関連拓本あり	円筒下層41式新段階 (42式への過渡期)		円筒下層41式新段階 (42式への過渡期)	円筒下層41式郵段階 (42式への過速期)	阿部最大径 19.0cm 7		R.	深鉢 円筒下層41式郵段階 (d2式への過速期)
器	故账	紘黙	<b>益</b> 账	故既	<b>益</b> 既	故账	故账	捻账	2 ※	<b>益</b> 账	裁账	裁账	<b>益</b> 民	<b>益</b> 账	樵账	盤账	雄账	糕账	捻账	故既	塩	
班 井井	H39種土最上位23	H39種土上位3	H39個土上位17	H39億土上位17- H39億土上位21	H39億土上位16	H39億土上位1	H39覆土上位11	H39個土上位9・ H39個土上位10	H39覆土北侧上位12	H39覆土2層直下25	H39個土上位14	H39覆土上位9 (H39覆土南側314が生)	H39覆土上位337	H39覆土北側上位12	H39億土上位13	H39億土上位20	H39ペルト樹土2層 直下188	H39ペルト衛士2層 直下187	H39覆土2層庫下186	H39覆土上位24 (H30覆土上位406が主)	H39億土上位19	H39覆土上位15
機動 (cm) (cm)	38.0 13.0	40.5 16.0	26.0 9.5	30.0 11.0	35.0 11.5	38.0 15.5	30.0 (8.0)	40.0 12.5	28.0 10.0	22.0 8.5	31.0 10.0	29.3 10.5	14.0 7.5	18.0) 9.0	32.0 10.0	(20.0) 9.5	28.0 7.5	37.0 11.0	(24.0) 9.0	26.0 11.0	18.0) —	21.5 8.0
日優 (cm)	24.0	28.0	18.5	20.0	21.5	23.0	19.0	26.0	ことの	16.5	25.0	8 7 18 18.4	13.0	Ī	21.0	1	13.0	19.0	I	20.0	17.0	5 v 4
本器分類 工器分類 工器の銀は型式名) 売	円筒下層d2式 52	円筒下層d2式 429	円筒下層d1式新段階 295	下層d2式 481	円筒下層42式 108	円筒下層d2式 401	円筒下層d2式 174	円筒下層d2式 442	円筒下層d2式 49	円筒下層d2式 50	田飾下層d1法新段階 317	円筒下層d2式 121	円筒下層42式 59	円筒下層d1式新段階 400	円筒下層d1式新段階 126	円筒下層d1式新段階 423	円筒下層d1式新段階 416	円筒下層引式郵段階 255	円飾下端d1対勢段階 413	円筒下層o式 122	円筒下層c式 281	円筒下層41式新段階 61
	-17		_	20 円筒下層の									-29 円隙.							-42 田副	-43 運	
59 遺構名- 掲載番号	-6E	P-44 H39-18	-44 H39-19	-45 H39-20	2-45 H39-21	-45 H39-22	-45 H39-23	-46 H39-24	-46 H39-25	2-46 H39-26	46 H3927	-47 H39—28	-6E	2-47 H39-31	-47 H39—32	P-47 H39-33	2-48 H39-34	1-48 H39—35	-48 H39-41	-6E I	-6E H	:-50 H3948
華図	図田-2-44	図田-2-44	図Ⅲ-2-44	図Ⅲ-2-45	図皿-2-45	図皿-2-45	図Ⅲ-2-45	図皿-2-46	図Ⅲ-2-46	図Ⅲ-2-46	図Ⅲ-2-46	図皿-2-47	図皿-2-47	図皿-2-47	図Ⅲ-2-47	図皿-2-47	図皿-2-48	図田-2-48	図田-2-48	図Ⅲ-2-49	図Ⅲ-2-49	図皿-2-50

The control of the	40 Raiss - 44 Biblio	日本日本の 日本の	- 単位に指す。 - 上午商 - 一番 - 一
	Rain American Ameri	日本国際 日本国際 日本国際 日本国際 日本国際 日本国際 日本国際 日本国際	- 単位に指す。 - 上午商 - 一番 - 一
	の 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	- 神仙に指す。
	R 端 数 め回転		一様白に指す。 一様白に指す。 車前段反戦リRに縁を 機固転斜行後、
1988	R 端 数 め回転		一様白に指す。 一様白に指す。 車前段反戦リRに縁を 機固転斜行後、
	R 端 数 め回転		
	R 端 数 め回転		
	R 端 数 め回転	め回転。	
	R 端 数 め回転	め回事在。	
			塔文旗
	0.4		第一種結束 羽状離次を 帯状に横回 転筋文、
		2 02	3.0 1.5
		ゆるやかな五単	位の液頂部 四単位のゆるや かな液状口線。
日業部 下	LR編織4本	羽状縄文をこものと合わ	はで2段能す。所々対位向する。 向する。 直前段反禁リRRL輔模 種類技術文を構図を指す。 種類技術文を使回転にか 1段帯状に落文。
日 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	₩		## ##
	ゆるやかな屈曲部	ひるやかな歴 垂患	ゆるやかな屈曲部ゆるやかな肩部
			ロ 縁 部 横 ミ ガキ、 嗣 部 縦 ミガキ
日報報報			
「		式	###
1	横 ※ =ガキ =ガキ		17.4 17.4 17.4 17.4 17.4 17.4
해 보고 보고 있는 경우 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전			0
Talling and part of   Talling and   Talli	作		有 有
(4.00年) (4.00年			
1	热胀		雄 雄 既
出土地島     日39億土下位35     日39億土下位35     日39億土下位35     日39億土下位35     日39億土下位25     日39億土下位25     日39億土下位25     日39億土下位25     日39億土下位25     日39億土下位25     日39億土下位25     日39億土下位25     日41トノルト億土上位6     日41トノルト億土上位6     日41トノルト億土上位6     日41トスルト億土上位6     日41トスルト億土上位6     日41トスルト億土上位6     日41トスルト億土上位6     日41トスルト億土上位6     日41トスルト億土上位6     日41トスルト億土上位6     日41トスルト億土上位6     日41トスルト億土上位4     日4日ストト億4土上位4     日4日ストト億4土上位4     日4日ストト億4土上位4     日4日ストト6日土上位4     日4日ストト6日土上位4     日4日ストト6日土上位4     日4日ストト6日土上位4     日4日ストト6日土上位4日ま上位4日ま上位4日ま上位4日ま上位4日ま上位4日ま上位4日ま上位4日ま	H46覆土上位14	H52端十2商55	H52覆土2層55 H56覆土最上位1
(事務) (30 01 171 171 171 170 08 88 170 00 170 171 171 171 170 071 170 170	9.0	11.5	7.0
現場 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	.5 27.0		0 24.5
118   129   127   129   12	359 16.5		181 21.0
日	1	1	円頭下層41式 円筒下層c式
1 m	]简下層b2~c式	.	H56-1
1 日	H46-2 円筒下層b2~c式	<u> </u>	

編製											荒ヶ瀬							
	31 55 55 55 56 56 56 56 56 56 56 57 57 57 57 57 57 57 57 57 57 57 57 57	H		640	243	ri)	か		17 18 18		磨み と と と の の の の の の の の の の の の の の の の	$\vdash$	5 th		5 4 2	_	Н	₩ ₩
	国部と同一原 体によるもの かLR舗文を結 した後、ナデ	<b>火損</b>	文	ミガキにより無文無文	ボガキに 無文	ミガキにより無文	無文ミガキか	女機	#ガキに #X	# X	無	/ 単	残存部から ミガキによる 無文か	# X	#ガキロ #X	沈線あり	女権	にがキによる 無文
底部形態	微妙な上げ底	<b>火損</b>	女職	上げ廊	微妙な上げ原	上げ底	上げ底	2000年   2000年	後移な一円にある	微妙な上げ底	微妙な上げ底		グ機	数数な上げ底	数ない。	上げ原	女権	かすかな 上げ底
半の名								液長部に 対応してロ 経部女様 帯から網 部に蕨形										
胴部多段の帯							12 ( 路) ( 日)	結束第一種羽状縄文地紋で 8段以上運続する。										
開発車							_											
胴部織文	LR編文を横回転により 斜行	RL縄とLR縄による結束 第一種羽状縄文横回転。		下半は直前段反撚りLL R縄を縦走させる。	間部上半がRL結縦回 転斜行縄文。下半がL R縄文を横走させる。				二本のLR組を結束した ものを横回転する。	開節上半ではLR稿文 が紹行し、下半節の計 (長まる部分では根志) る。同一原体かどうか は神然としない。	LR組機回転による斜行 縄文地紋。	LR組横回転。	LR組積回転。	LR編 横回転。	RL縄文織回転。	RLR編横回転。斜行網文。	LR編横回転斜行縄文。	- LR組織国際。
医多络 部 本 条				トキロス の多種溶験で 存を機回覧 に近い勢行。														
医垂 络			ス橋準1巻の路 の種の国際を 広げ機回転。 にれを並んれ 補すにた、 種すにない 題を続け、	1042		RL編第1類 縦回転を主 とする。												
語の 本本 人 報告 日			- クロリ塩皿器			E#-7												
大 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会	2.0	0.9	2.0	5.0	4.0	支頂部 ・把手部 分を除 いて2	7.0	波頂部 左條き、 立條部 文條書 幅4	波頂部 を除い で5	7.0	0.6	8.0	2.0	波頭部 を除い で6.5	7.5	2.0	₹ 8.5	0.4
口 文様帯 その他																	四単位の波頂 部に対応した区 画文様。	
口禁部 文様帯 区画内文技様	区画内にはし網線によって菱形基調の直線構成 の文様を施す。	RL組とLR網による結束 第一種羽状縄文横回転。	R編集権総条体第1題 についた結響の関係を にがする。これを並んて 指すことで、第日状に なた痕跡を施す。区画 かについて検回転。	直前段反撚りLLR縄を 横走させる。	2本一組のLR網線を3~4 段施す。液状口線に対応 LTボタン状突起を配する	三単位の波状口線と考えられ、対応して把手がつく。 られ、対応して把手がつく。 に網線によって文様を肥厚 した口線部文様帯に施す。	田本語によるに関係が 日本語によるに関係が構造が 日本語を指揮がある。 日本語を指揮がある。 日本語を表している。 日本語をましている。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語をましている。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語を表している。 日本語をましている。	隆帯による四単位の区面 交様。该頂部に対応する。 健帯上尺網・山網・路の 本の網線が矢羽相国に立 ぶ。不明瞭だが推定Rの 馬蹄形圧痕が横2列並ぶ。	四単位の波状口縁に対応 して縦区画の垂下文様を 隆帯で施す。区画内には 横位に配されたLR網線が 3本一組で4段施される。	無文の降帯によって4単位 に区画。安庭様の改訂部 終と前による馬蹄形丘 終と指する。区間印は新 終と指す医自からから いる。 いており圧痕に変明する。 には下で甲圧剤のユーボル に対す。 には下で甲圧剤のエーボル には間に第す。 とのたました。 には間に第す。 とののを には同に第す。 とののを とののを とののを とのを とのを とのを とのを とのを とのを	胴部地紋が連続する。	LR編線を2本一組で施文。波頂部に対応して円 及。波頂部に対応して円 形のポタン状貼り付け。	四単位の波頂部に対応する区 画を上縄とR編2本一名区 画を上縄とR編2本一組の網線で繰取る。間を草木の整によるものかへラで連続刺突を施す。	四単位の波状口線で区 画内の垂下文様と波頂 場が対応する。区画内 ドニー列あり、全計四列を る。間には様位のLR結 練が2、5本施される。	構方向のR網線が7~8本世ぶ。R網線を施した降帯を四単位の波頂部から腫下させる。口唇部には面をとりRL細をから腫をとりRL網交換を	胴部地紋と連続するRL R絹横回転。	し縄線にて文様を充填。	組たR稿とL稲の組録でロ を設立様帯を区匿。平口 別に付ぐ返は務存部から 即単位と考える。R稲を表 かい、軸に巻き付けたとき。 これる単軸絡条体第1類 にある単軸絡条体第1類
ロ縁部 文様帯 連続圧仮の 有無		-	#	編線を2段連続 し、その下に右回 方向に押し引く対 変列を添える。	ロ唇部にはLR 側面連続圧痕。	#	隆 帯状 Iこは縦 方向のR輪を連 続神圧する	隆帯区画 文様 内に、不明瞭だ が推定Rの馬蹄 形圧痕が 横二 列	隆帯上および口 帯にはLR編線 が密に連続して 施される。	区画内 はR編線形による馬蹄形圧度の 連続神圧	ロ暦に面をとり、 LR 鵜側面 連続 圧痕。	ロ唇と隆帯上に LR縄側面圧痕 を連続。	整帯上R編側面 圧痕	極帯と口曝そし て区画内にLR の側面圧痕が 横方向に連続する	- 単	#	₩	nma nma nma nma nma nma nma nma nma nma
口線部文様帯区画	ゆるやかな層部に、2 本の1編線。磨減着し、4 不明瞭だが、口暗部に も同様の施文をする。	ゆるやかな屈曲部ICR L縄線2本	薄い隆帯に、2本ー組 にした後位のR編線を3 段施す。	編とR編を組み合わ C 矢羽模状にした横 D編線を2段連続し、 の下に刺突列。	2本一組のLR結構	ロ縁部文様帯を肥厚 せる。	能樂	樂奏	米級	华	第甲田	推数	推繳	**************************************	横方向のR編線	毎田岡	推盟	し縄とR橋とL橋の編級 Pで でロ縁部文様帯を区 画。
を 関数 を のも も のも				口 繰 部 横 三 ガオ。 嗣 部 縦 三 ガキ。 嗣 部 縦 三 ガキ	頸 部とその 上が横ミガキ: 下は縦ミガキ		<b>顕</b> 部 より下 に禁がよべけ に禁がなべた 難し、不明 勝だが、執 ジガキ主体	頚部まで横 ミガキ 下は  縦ミガキ		ミガキ主	横言がキ。 下半に薄く 禁付着							
内爾爾下西鐵部半	※元:	ボボギ	<b>※</b> だ。 キ	株式:: 日女:: 日女::	※ キャル・	まガキ		横にがキャ	株 大	被	被元 + + か上 を	斜め 方向の ミガキ	# # #	※元 本 十	※ + 九二	※元	洪泰	   本   十
医	※元:	ボボキ	<b>※</b> 方:	禁 十	がま	まがキ	I	数にボキ	雑光半	横が、		製売	株 十	※ボル	紫光 井	満光本	ボボキ	<b>※光</b> 本
を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	キ ミガキ	# 権だ!! # # # # # # # # # # # # # # # # # # #	* * * * * * * * * * * * * *	# 三光本	キミガキ	キ 複ガ キ	本に光本	# # # # # # # # # # # # # #	キ 粒だ:: キ	横きがキ	# 報光 #	#	*	* * * * * *	# 被 # #	+ □ガキ	キ 被光 キ
日線上半部部分区の場合の国際により、日線上半部で区の場合の国際により、国際により、国際により、国際には、国際には、国際には、国際には、国際には、国際には、国際には、国際には	海ボボ	まがキ	横だミ	* * * * * * * *	O   表   本 	業がま	数 数 并	演奏・ガー・ガー・ガー・ガー・ガー・ガー・ガー・ガー・ガー・ガー・ガー・ガー・ガー・	<b>養が</b> キガキ	* 表述: +		数	数 ボ ナ			数ボー	がボル	三 被 方 +
計 その他に その他に 静 路 井 に 中	多	念	作	袋車 小車 袋	報金	年	無量	砂粒	午	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	發	無 由 中 中 中 中 中 中 中	栣	本 香	作	念	有砂合む。	
器形 ( 機等・ 機等 ) 機等 ( 機等 ) 機等 ( 機等 ) 機等 ( 機等 ) 機等 ( 機等 ) 機能 ( 付け ) ( の )		なな	探討 床面ともいえる位置か 有 : 5出土。	<b>松</b>	<b>益</b> 账	44.	H50億土上位80223314 145億土土地的1562314 深幹一社等的1263235 年上縣(1 開節幾大係18,0cm,	深鉢 一括土器① 量	H58週 土上位830231は 一括 土 郷 ① H58週 土 一括 土 郷 ① H58週 土 低5020391は一括土 有 : 戦 ① H58図 土上位830 240は一括土郷①	H58度土中位 94P1 681注 — 括土 4866、土位 20 48 — 1842 4866、土位 20 48 645 448 648 448 448 448 488 488 488 488 488	#58億士12014 - 括土 器の148億士140830 深体 23414 - 括土総(3)。サ が、民)、昭二、額点する が、民工、総元のに、額点する をおから上	H45	小型 — 括土器⑥ 有: 深幹	- 括土器(5) 別億株の - 括土器(5) 別億株の (ほど共伴した。	深 本 () () () () () () () () () ()	深鉢 円筒上層8式一括土器① 有 #	深鉢 一括土器③ 有:	HS優土上位830232 HS優工上位820231 HS優工上位820231 一括土器仍、HS優工 上位830235一括土器(0)
	上位4 3			上位2	2						86	一括士 6 6						
四、田土地県	H26個土施	- H56覆土最上位3	- H56覆土下位5	H56覆土最上位2 (H29覆土北側246 と接合)	.0 H57HP3埋設土器	.5 H57覆土下位89 一括土器	.5 235—括土器®	H58覆土上位83Q 233一括土器①	.5 H58覆土上位83Q 240一括土器①	.5 168—括土馨(B		H58覆土165一括土 器®·H58覆土238 一括土器⑥	.0) H58覆土238 一括土器⑥	.5 H58週土167	.0 H58覆土中位83Q 237一括土器③	.0 233一括土器®	H58覆土162 一括土器③	H58覆土上位83G 232一括土器①
器 底径 (cm) (cm)	37.5 13.0	(30.0)	(26.5)	48.0 18.0	29.0 12.0	12.5 16.5	25.0 10.5	29.0	37.0 10.5	30.0 10.5	44.0 15.0	(48.0)	21.0 (10.0)	36.5 11.5	27.5 11.0	21.5 10.0	(32.0)	26.0 9.5
後元権号 発 (ms)	92 推定 21	361 20.0	93 14.5	91 36.3	11 23.0	105 25.0	4 23.0	13.5 22 2 16	9 2	10 21 23	109 31.0	455 37.0	277 14.0	14 24.5 Ł	12 19.0	404 19.5	497 24.0	37 18.0
土器分類 (I群)頻·I群/頻(II群/頻(II	円筒下層c式	田館下層の式 30	円筒下層52式郵段階 9	円筒下層o式 9	円筒上層a式最古段階	円筒上層a式最古段階 10	日筒上層5大最新段階 、	円筒上層8式最新段階 2	円筒上層a式	円飾上層5式 1	円筒上層a式 110	円筒上層a式 44	円筒上層a式 2.	田館上層a式 1	円筒上層a式	円筒上層a式 4	円筒上層8式 44	円筒上層s式古 3
遺構名 掲載番号	H56-2	H56-3	H56-5	H56-6	H57-4	H57-7	H58-1	H58-2	H58-3	H58-4	H58-5	H58-6	H58-7	H58 - 8	H58 – 9	H58-10	H58-11	H58-12
華図中	Ш-2-60	図皿-2-60	図皿-2-60	図Ⅲ-2-61	図Ⅲ-2-61	図Ⅲ-2-61	図Ⅲ-2-63	図Ⅲ-2-63	図Ⅱ-2-63	岡田-2-63	図皿-2-64	国Ⅲ-2-64	図Ⅲ-2-65	図皿-2-65	図Ⅲ-2-65	図Ⅲ-2-65	国Ⅲ-2-66	Ш-2-66

みのも					産者不減し明め、験			残存むつない									底部は後 合してい ないとり あげ番号 同じで三 点が後合
底部文株	ĸ	ミガキにより 無文	<i>≡</i> ガキ	ミガキにより 無文	所々地紋と同 B じものがうか A がえる	102	nez	ミガキにより 新本	=ガキによる 無文	att.	ミガキにより 無文	縄文の痕跡が あるがナデに より不明瞭	ミガキにより無文	ミガキにより 無文	R L R 編文語 文後ナデ	R編単軸絡条体第1類回転 口縁部のもの と同じか	LR細文 数
底部形態	明 無	上げ底無が	かすかに 上げ底	微妙な ミカ 上げ底 無:	原の形式を	女損 欠損	久損 久損	微妙な ミガ 上げ底 無3	微妙な ミガ 上げ底 無3	<b>次揃</b>	微妙な三力上げ底無2	微妙な 補助 上げ底 おり	上げ底無	上げ底無が	微砂な 兄上げ房 文法	保験な 体 上げ底 口利	上げ底 LR
(金) 単一	計	4	선내	黎山	計	K	K	黎州	黎山	K	総十	黎山	4	4	黎州	黎山	4
国部参設の推	日報部にもほどこされた機 位内総単軸務条体圧低が9 cmほどの等関系に6段能さ れる。																
開き来の												商部 経 区 経 経 経 を を を を を を を を を を を を を	中央にL R結節四 段ほど幅 3cm.				
国部 編文	尺端接回転。	LR縄縦回転。	L縄の縦回転による斜 行縄文地紋。	LR縄のみ第一種結束した斜行縄文。波頂部と対して縦方向に回転。	兄結構回転。	無節R編文を緩方向に 施文斜行。	LR結構固転。	LR編横回転。	磨滅して不明瞭だが、 RL構文が紹行する。	口不能被回転。	LR編橫回転。斜行縄文。	事 と 大学ので 大学は反然・ で で 大学の 大学は 大学の 大学は 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学					
医多络 思轴条																	
													R 維第1類 接回転。	同じR編単軸 絡条体(LR編 軸)縦回転。 木田状風の仕 上がり。	元 諡 第1類 級回転	R 編第1類 繰回転。口 縁部のもの より太い編。	R L編第1鏡 縦 回 転 に 近い斜め回 転。
日本部文本書を 日本本文 日本本本 日本本本 日本本本 日本本本 日本本本 日本本本 日本本												20 合撚の結束 回転1段か。		6.0 羽状端文			
日本 業権 (ms)	波を 関係ら	0.8	20	7.0 85	東 を 単 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本	第三部 2.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3	排 (读证 等(式)	秦 七 97 5.0 4.0	液部除り面をいめ	5.0	4.0	B 6.0	4.0	6 II	0.9	4.0	5.0
マネ 本 会 発 会 手 会				四単位の波頂 部を持つ。その 左肩に突起がある。			四単位の 波頂部 から2本の 路神 を腫下させる。	四単位の突起様 液頂部と対応した 把手あり。大木6 ~ 7aの影響。				刺落により不明瞭。					
立 文 本 区 国 内 文 様	国業を制力の第七回業・「職業を制度を関する。」 「国産を制度を関する。」といる。 国産を制度をしてものでした。 国産を制度があった。 おいては自動が者にいては自動が者にいて にはなる。区間 内については自動が者にいた。 会を与けたとなる。という。 会を与けた者える。という。 会を与けた者える。という。 を発生的が表する。	調 口唇を含めると刺突列 こが3列あり、間を横位の 日本器 線を2ないし3列始 里す。四単位の波状口線 日は篠に購下する隆帯の 区面に対応する。	残存部分から、左右非対な変起が四単位を対称な変起が四単位を示している。 頚部より上が上縄の横回 転による 斜行縄文が能をなる。	端 R編側面圧痕連続列が 到 3列 並ぶ。波頂 部庫下 3。区画帯際には把手があ る。	R 監察 医量の 関係 医面。 波頂部と対応す 成る。 区画内 に5本の様 R きずる配舗線。	R組織4~5本。平口線にひとつ突起があった。 口のとつ突起があった。 口唇にLR網文回転。	本一組のR組で、区画 特直上にそわせたり、区 国内に波状文様を施す。	R結単軸絡条体側面圧 痕が6列	類突列による一般を基 関とした細いに発酵に より医面される。四単位 ロの波状に対抗に対応して、 ※国部から同様の雑様 可か所区切られて経 即か所区切られて口解 即文様帯区画内を 製工作用。 新工程を 新工程を のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	波頂部に対応した円形 貼り付け	R 王 合数の結節回転3段か。	LR編結節回転4段ほど 縄文を伴う。	の同じR編単軸絡条体(L 格 R結軸)側面結線圏I=6 ) 本。	反然リRR組文横回転	R編単軸絡条体第1缀 横回転。	カ LR綿線5本。下から2本 円 と3本 目 の 間 に円 形 刺 突を連続。
ロ 禁部 文様帯 連続圧痕の 有無	隆帯にRを連続 神圧	隆帯上はLR網ロ側面連続押圧。な 側面連続押圧。な 口唇および区画 F 内はR網側面連 3 続圧痕が 横方に 向に巡る。	#	2本一組のLi 線間にR編 面圧痕が連続 口唇にも連続。	ロ唇に面をとりR 織による連続圧弱 痕。隆帯上も磨滅 D して不明瞭だがR る の連続圧痕がかますかにうかがえる。	₩	し細側面圧痕を 口磨と波頂部か ら単下された際 帯に施す。	₩	華本の折れ口の あるいは補端に で刺突列を横方口 向に並べる。 開	● 個 と に 楽 に 北	#	隆帯上に合燃R R・RL結側面圧 痕を連続。	#	ロ際と肥厚帯の ド下端にR単軸絡 条体(LR結軸) 側面圧痕	₩	#	隆帯と、区画内 L の 編線 間に円 B 形刺突を連続。 3
口禁制 区 軍事	<b>非</b>	推繳	<b>ゆるやかな屈曲部</b>	屈曲部に、L縄線2本	推	第田田	推邀	編田田	推搬	推繳	ゆるやかな肩部	隆帯を貼付した肩部	ごくゆるやかな肩部	口縁部文様帯を肥厚さ せる。	ゆるやかな肩部。	ごくゆるやかな屈曲部	維茲
を 国 を を を を を を を の を の を の が り の も の も の も の も の も の も の も の も う も う も			煤により不 明瞭だが横( ミガキ主体		横ミガキ	媒により不 明瞭だが横 ミガキ主体			ロ 縁部 横ミガキ、 調部   機ミガキ						器減滞しく 不明際だが ニガキ	米に茶	
内閣開下西報部部		· 	ミガキ	満た。	蕔	ボギ	※ * * * *	= 57.4		# # # #	- 三方本	ミガキ	. =. # ±	※ ボル キガキ	1	海ボボキ	
日 編 編 日 編 日 編 日 編 日 編 日 編 日 編 日 日 編 日	# 数// # 大	キ ボガル キ	キョガキ	# = : : : : : : : : : : : : : : : : : :	*	# #\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	# 12.	+ = = = = = = = = = = = = = = = = = = =	キ ※ ボボ キ	# # #	キニガキ	* ニガネ	+ = #	#   :     : 	1	# # # # #	+
日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本		横 横 ボオキ ミガキ	ミガキ ミガキ	機 ≒ガキ ≒ガキ	横 まガキ まガキ まガキ	ミガキ ミガキ	横 = 近 + 三 ガ キ = ガキ	ミガキ ミガキ	横横	*************************************	横 ≒ガキ ≒ガキ ≒ガキ	横 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	横 ミガキ	横横横	1	横 =:ガキ =:ガキ	横 ※ガキ ミガキ ミガキ
口袋上上が切べ及の場合し		* 1		##		Ti)	****	Tij	***	***************************************	***	* 1	**	* 1	Ė	***	*1
田田 一部 第二十四 日本	<b>松</b> 岬	在	多数	在	黎明 古 教 教	作	作	在在	年	在 在 多	余平	在 在	作	作	牧曲	在在	在 夕峒
編考·編年的 位置付け	— 括土器④。扇部最大径21.5 ~ 22cm	一括土器®。当初⑪と 開逢えていた注記ミスか		- 括土器①と - 括土器①		括土器⑤ 神	一括土器④	# イの器工料ー イの器工料ー	74	() 器 干垛 —	一括土器②	74	M5-2点取り(653 ~ 662) より古い段階のもの	<del>//</del>	P54は土坑底面で潰れていた土器。		**
器	捻胀	捻账	<b>雄</b> 账	<b>益</b> 民	热胀	<b>益</b> 既	樵账	雄账	益 既	型 本 形	雄既	<b>益</b> 医	株账	株账	雄账	対数	為民
概 報 刊 丑	H58國士84P163 一流土曜④	H58覆土中位83Q 169一括土器③	H58優土84P119	H58覆土上位83Q 239一括土器⑪	H58覆土82P72	H58優土中位83Q7 一括土器⑤	H58優土2	H58覆土上位83G6 一括土器①	H58産士上位83G 127	H56層土上位8306 - 活土器(3)	H58覆土124 一括土器(2)	M4-661Q2 H60覆土49と接合	H67床面66	P45覆土2 (M2-2 63R31主体)	P54原图1	P55底面6	P56底面9
) 原保 (cm)	80	16.0	0 5.7	15.0	0.6	I	0) (9.5)	8.5	12.0	1	5 10.0	10.5	0 10.5	12.0	11.5 5 ~	0 5.5	0) 10:0
口径 器高 (cm) (cm)	15 21.5 ~ 7 22.5	29 29 33	10.5 12.0	30.0 40.0	15 ~ 19.0	17.5 ~ (19.0)	22.0 (28.0)	14.0 17.0	22 <del>2</del> 30.0	14.0 (18.3)	17.0 22.5	22.5 44.0	15.0 32.0	24.0 38.0	18.5 ~ 31.5 20		20.0 (31.0)
会式。 徹氏衛串	φ	± 55	34	270		32	566	447	51	452	260	段階 287	£ 519	£ 164	2	t 342	oxt 37.1
工器分類 	3 円筒上端a式	4 円筒上層a式古	5 円筒上層a式古	6 円筒上層a式	7 円筒上層a式	8 円筒上層a式古	9 円筋上層a式	0 円筒上層a式	1 田館上層8式	2 円断上端の式	3 円筒上層a式	3 円筒下層62式古段階	円筒下層b2式	円筒下層d2式	円筒下層62式	円筒下層b2式	円筒下層52~5式
造	6 H58-13	6 H58-14	7 H58-15	7 H58-16	7 H58-17	7 H58-18	7 H58-19	B H58-20	8 H58-21	B H58—22	8 H58-23	9 нео-з	1 H67-1	2 P45-1	3 P54 – 1	3 P55-1	3 P56-1
型	図Ⅲ-2-66	図皿-2-66	図皿-2-67	図皿-2-67	図皿-2-67	図Ⅲ-2-67	図皿-2-67	図Ⅲ-2-68	図田-2-68	図皿-2-68	図皿-2-68	図皿-2-69	図皿-2-71	図皿-2-72	図Ⅲ-2-73	図Ⅲ-2-73	国皿-2-73

その音	海南に					張が当 作の恵														台部分 欠損
	ミガキにより 加無文無文	LR細文	R は な の 気 筋 な の を に が の を に が り に が り に り り の り に り の り の り の り の り の り の り	ミガキにより無文	ミガキにより無文	K #	ミガキにより無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	ミガキにより 無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	ミガキにより無文	久損	ミガキにより無文	ミガキにより 無文	女損 [
当	2-6 446	微妙な上げ底	1	世 世	近に出	田凸のあ る上げ底 無	世出	iii 無	微妙な 三上げ底 無	iii 無	中原	世	上げ底無	正げ原 無川	上げ底舗	世	文損 次	正代原 御川工	微妙なに	台付き上 げ底の痕 タ
画 その在	84n -1	80n -1	40s -1	DI.		総後 を を を を を を を を を を を を を	底部際は ミガキ。	底部際は三式キ。	底部際は 参 ミガキ。 」	底部際はミガキ。	M	底部際はまがま。	_	底部際は ミガキ。		底部際はっ			80s -1	74 2 6
胴部多段の帯						WW 11 3 12						5, 11		, III						
開部帯の有無																				
厨部縄文	LR結構回転。	LR繩模回転。		結束を持つLR編の回転。結束端部のRも回転痕跡を残す。	LR結綫回転斜行縄文。	LR編とその結節の回転 が浅く入る。	L 結横回転。	結節を持つRL縄回転			R縄文のように見えるが ナデ消している。		结束第二種羽状縄文。	結節を持つLR縄回転	RLR縄横回転斜行縄文	結節を持つRL縄回転	結節を持つL縄を横回転	中央に結節のあるRL編。	中央に結節のあるRL縄。	結束第二種羽状縄文。
器 多 条 本 条			R組か磨滅 や媒で不明。 縦回転。																	
医垂 络 条 集 水 本 本																				
ロ 禁患   文様帯   区 画庫下   の 文様		欠損	日形刺突			久損			欠損	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	欠損		欠損	欠損	欠損					
日文 (m) (m) (m) (m) (m) (m) (m) (m)	4.5	欠損 須				女 職 文職			欠損 損	位 位 文章	欠損 損	次 最 文献	欠損 損	久 讃 類 入	女損 損					
数様をの事業を出ている。		欠損 ::			四単位の波頂 部を持ち、対応 した突起部分を 持つ。	<b>火操</b>		四単位の波頂部	欠損 ::	2 強	欠損 ::	24億	欠損 :	欠損 二	欠損 :		四単位の波頂 部を持ち、対応 した円形貼り付 けを持つ。			粘土組を口唇に 貼りつける。突 おが一個雑方
口綠部 文様帯 区画內文様	阿部地紋と連続するLR 結構回転。	欠損 久	R 結単軸絡条体第1類 横回転。		日報ご本	<b>火</b> 振		图	欠損 欠	文損 次	欠損 欠	文操 次	欠損 欠	欠損	欠損 欠		四部ごと			器 品 品
ロ縁部 文様帯 連続圧仮の 有無	#	欠損 ク	廃帯の上下に 円形型突。 特	R側面圧焦口唧筒に連続。	LR結倒面圧痕 を口唇に連続	大撮	し編側面圧痕が 口唇に連続。	RL編創用田儀が口奉に連続。		女撮 2	欠損	女損 2	欠損 9	欠損	欠損 2	RL編側面圧仮 を口唇に連続。	LR編側面圧痕 を口唇に連続	口唇RL編側面 圧痕連続	唇RL編側面 痕連続	LRL編側面圧 仮を口唇に連続
内面 口線部 調整 文様帯 その他 区画	四単位の波 頂部か。	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	隆帯(16R4と5から未接 合口縁破片が出土して おり、それを参照した。) 隆帯には縄文。	四単位の波 頂部とその無 中央に突起。	<b>#</b>	次機 ::	#	#	欠損 (	文揃 :	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	△横	欠損 ::	女排 :	次損	#	##			# 1
内護順下面整部半部部	※ 四 ミガキ 頂	がま	※光楽	ボルー	=	# ¥ #	ミガキ	=77.4	まがキ こがキ	ミガキ	まがキ	=7.4	ミガキ	禁ルボギ	ミガキ	ミガキ	24	ボボ	禁ニ	ミガキ
F9.	#がま	久損 "	※元 本 …	= 17.4	#### #################################	故 献 ""	ミガキョ	=##=		/			久損 三		=##=	= ##=	ミガキ			横言がキ
内置口下面整線半部	黄	<b>火損</b>	一	= 17.4	# # # # # # # # # # # # # # # # # # # #	- 単	= ##=	=##=		(本)			女損		久損 3	ミガキョ	= 17 = 1			横
1線上半形列区場合の場合の面盤 緑半	黄ミガキ	欠損	火機	ニガキ	ボボキ	文韻 文 讃	ミガキ	ミガキ		久			欠損		久損	ミガキ	ミガキ	様だま	黄ギ	横ミガキ
その他に 胎士に 含まれる 特徴的 なもの	日他の	白色小 石		發線	白粒色		愈	나 바 바	小石少 量		89	愈		小 中 中 中 中						
E土に繊維の有無E土に海綿骨針の有無	桖	有	作	#	柜	在 在	推	作	袋曲	在	袋岫	柾	中無	牧皇	有	在在	有	有少量	在少量	在
備考·編年的 位置付け						40 #K														
						点取り5, 8, 12と接合														
	<b>益</b>	ね账	益既	小型業	小 湖 湖 湖	小型 深鉢 点取り5,8,12と	はなる。	科為	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※		小型	デュナイング 雑雑	雄账	対数数	科機器	が開業	ね既	が な な な な な な な な な な な な な な な な な な な	単な	告付き 法算
		田 76Q3 深跡 (F65閩湖)	*	F82覆土1層37 深鉢	F82國土1層11 深幹		F82覆土2層36	F82覆土2層36	F82覆土1層37	== F82覆土2層38 チュア 深鉢	F82覆土1層37 深鉢	ミニ F82覆土2層36 チュア 深鉢	F82覆土2層36 深鉢	F82覆土2層36	F82沢1層46T1	F82沢1層46T2 深鉢	F82沢1層45T5 深鉢	F82沢1層3 小型 深鉢	F82沢1層6	沢1層 45T61 法体
應径 出土地点 器形(cm)	11.0 TP7覆土1	13.0 Ⅲ 76公3	13.0 II機乱 76R4 (F6S關鍵)	6.0 F82覆土1層37	6.5 F82覆土1層11	6.5 F82覆土1層37 小型 深鉢	5.5 F82覆土2層36	5.5 F82覆土2層36	7.0 F82覆土1層37	5.0 F82覆土2層38	6.0 F82覆土1層37	4.0 F82覆土2層36	9.0 F82覆土2層36	7.0 F82覆土2層36	5.5 F82沢1層46T1	7.0 F82沢1暦46T2	— F82沢1階45T5	6.0 F82沢1層3	7.0 F82沢1層6	(7.0) 沢1層 45T61
器高 底径 (cm) (cm) 出土地点 器形	24.0 11.0 TP7覆土1	(4.0) 13.0 II 76G3 (F65開建)	(37.0) 13.0	17.1 6.0 F82覆土1層37	20.0 6.5 F82覆土1層11	(14.0) 6.5 F82億土1層37 小型	12.0 5.5 F82遷土2層36	14.0 5.5 F82覆土2層36	F82覆土1層37	F82覆土2層38	F82覆土1層37	(3.5) 4.0 F82覆土2層36	F82覆土2層36	(9.0) 7.0 F82覆土2層36	(16.0) 5.5 F82沢1暦46T1	15.5 7.0 F82沢1暦46T2	(24.5) — F82;凡1曆45T5	15.5 6.0 F82沢1層3	17.0 7.0 F82沢1層6	(23.0) (7.0) 沢1層 45T61
(4) 口名	11.0 TP7覆土1	13.0 Ⅲ 76公3	13.0 II機乱 76R4 (F6S關鍵)	6.0 F82覆土1層37	6.5 F82覆土1層11	6.5 F82覆土1層37 小型 深鉢	5.5 F82覆土2層36	5.5 F82覆土2層36	(4.0) 7.0 F82覆土1層37	(5.5) 5.0 F82覆土2層38	(7.0) 6.0 F82覆土1層37	4.0 F82覆土2層36	(13.5) 9.0 F82覆土2層36	7.0 F82覆土2層36	5.5 F82沢1層46T1	7.0 F82沢1暦46T2	— F82沢1階45T5	6.0 F82沢1層3	7.0 F82沢1層6	(7.0) 沢1層 45T61
上級公司 (an) (an) (an) (是在地位 (an) (an) (an) (an) (an) (an) (an) (an)	19.0 24.0 11.0 TP7覆土1	— (4.0) 13.0 II 76G3 (F65開建)	(20.0) (37.0) 13.0 日機乱 76日4 (F65陽難)	14.0 17.1 6.0 F82覆土1層37	13.5 20.0 6.5 F82覆土1階11	— (14.0) 6.5 F82國土1圈37 沙型	9.5 12.0 5.5 F82覆土2層36	9.0 14.0 5.5 F82覆土2層36	— (4.0) 7.0 F82覆土1層37	- (5.5) 5.0 F82覆土2層38	— (7.0) 6.0 F82覆土1層37	— (3.5) 4,0 F82覆土2階36	— (13.5) 9.0 FB2覆土2層36	— (9.0) 7.0 F82覆土2層36	— (16.0) 5.5 F82沢1暦46T1	13.0 15.5 7.0 F82沢1階46T2	22.0 (24.5) — F82沢1曆45T5	13.5 15.5 6.0 F82沢1層3	14.0 17.0 7.0 F82沢1層6	21.0 (23.0) (7.0) 沢1階 45T61
(4) 口名	443 19.0 24.0 11.0 TP7選土1	313 — (4.0) 13.0 目 76公3	269 (20.0) (37.0) 13.0	330 14.0 17.1 6.0 F82週土1層37	352 13.5 20.0 6.5 F82國土1層11	350 — (14.0) 6.5 F82個上1周37 分階	340 9.5 12.0 5.5 F82覆土2層36	338 9.0 14.0 5.5 F82覆土2層36	336 — (4.0) 7.0 F82選土1層37	346 — (5.5) 5.0 F82覆土2層38	337 — (7.0) 6.0 F82覆土1層37	339 — (3.5) 4.0 F82覆土2層36	332 — (13.5) 9.0 F82覆土2層36	335 — (9.0) 7.0 F82覆土2層36	347 — (16.0) 5.5 F82沢1暦46T1	345 13.0 15.5 7.0 F82沢1階46T2	356 22.0 (24.5) — F82沢1暦45T5	201 13.5 15.5 6.0 F82;R1層3	202 14.0 17.0 7.0 F82沢1層6	351 21.0 (23.0) (7.0) 沢1暦 45T61

### 表Ⅲ-5 遺構出土掲載復元土器接合破片一覧

	復元 番号	出土地点	取り 上げ日	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計 点数	区分	備考
H18-1	367	H18覆土1層1567	805	6		10	住居覆土	3670と接合
H18-1	367	H18覆土1層3670	831	4		10	住居覆土	1567と接合
H18-3	236	H18覆土1層1568	805	59	16	75	住居覆土	
H18-4	568	H18覆土1層4106	914	45		45	住居覆土	
H19-4	499	H19覆土2 392	828	112	12	125	住居覆土	
H19-4	499	H19覆土2 314	831	1		125	住居覆土	
H20-1	409	H20北トレンチ194	909	55	51	119	住居覆土	
		H2033覆土206			31			
H20-1	409		914	8			住居覆土	
H20-1	409	H20北トレンチ83	911	1			住居覆土	
H20-1	409	H20③覆土51	911		4	119	住居覆土	
H20-2	241	H20西ベルト覆土242	918	76	2	78	住居覆土	
H20-3	381	H20東ベルト覆土241	918	69	7	122	住居覆土	
H20-3	381	H20北トレンチ83	911	2	2	122	住居覆土	
H20-3	381	H20北トレンチ194	909	34	8	122	住居覆土	
H20-4	163	H20西ベルト覆土242	918	78	24	133	住居覆土	
H20-4	163	H20③覆土166	915	12		133	住居覆土	
H20-4	163	H20③覆土132	916	19		133	住居覆土	
H21-1	130	H21覆土7層上面南側159	911	51	11		住居覆土	
H21-2	116	H21覆土7層上面南側159	911	54	3	80	住居覆土	
H21-2	116	H21覆土東側壁際83	911	22	1	80	住居覆土	
H21-3	115	H21覆土7層上面北側297	911	26		26		
H21-4	111	H21覆土7層上面北側297	911	55		57	住居覆土	
H21-4	111	H21覆土東側下位113	911	2		57	住居覆土	
H21-5	112	H21覆土7層上面南側159	911	116	8	124	住居覆土	
H21-6	113	H21覆土7層31	915	165	98	263	住居覆土	
H21-7	114	H21覆土7層上面北側296	911	107	6	127	住居覆土	
H21-7	114	H21覆土東側下位113	911	8		127	住居覆土	
H21-7	114	H21覆土東側壁際82	911	3		127	住居覆土	
H21-7	114	H21HP11覆土312	930	2		127	住居付属遺構	
H21-7	114	H21HP14覆土315	930	1		127	住居付属遺構	
	074		000				後土 -	
H21-8	271	H21覆土9層34	929	48	1	52	住居覆土	
H21-8	271	H21覆土下位ベルト部分 35	925	3		52	住居覆土	
H21-9	284	H21覆土7層31	915	52	10	87	住居覆土	
H21-9	284	H21覆土上位ベルト部分	925	4	1	87	住居覆土	
H21-9	284	H21覆土西側160	911	15		87	住居覆土	
				4			住居覆土	
H21-9	284	H21覆土西側161	911		1			
H21-10	110	H21覆土7層31	915	125	3		住居覆土	
H21-10	110	H21覆土東側下位113	911	7		138	住居覆土	
H21-10	110	H21覆土東側下位177	915	3		138	住居覆土	
H21-11	267	H21覆土東側上位163	911	2		100	住居覆土	
H21-11	267	H21覆土東側上位259	915	3		100	住居覆土	
H21-11	267	H21覆土7層上面北側297	911	4		100	住居覆土	
H21-11	267	H21覆土ベルト中位298	911	89	2	100	住居覆土	
H22-1		H22覆土5層2	911	122	43		住居覆土	
H22-1		H22Aトレンチ覆土44	806	27	14		住居覆土	
				41	1.4			
H22-2		H22覆土東側41	911	- "			住居覆土	
H23-1	334	H23覆土256	908	26			住居覆土	
H23-2	372	H23覆土129	901	42	4		住居覆土	
H23-2	372	H23覆土1	821	2		48	住居覆土	
H23-3	375	H23覆土255	903	1		4	住居覆土	
H23-3	375	H23覆土227	821	1		4	住居覆土	
	375	H23トレンチ覆土87	818	1		4	住居覆土	
H23-3			819	1		4	住居覆土	
H23-3 H23-3	375	H23トレンチ覆土72	010				-	
		H23トレンチ復土72 H23覆土2	908	63	68	131	住居覆土	
H23-3 H23-4	210	H23覆土2	908					
H23-3 H23-4 H23-5	210 382	H23覆土2 H23覆土3	908 908	64	68 4	68	住居覆土	
H23-3 H23-4 H23-5 H23-6	210 382 365	H23覆±2 H23覆±3 H23覆±3	908 908 908	64 89	4	68 89	住居覆土住居覆土	
H23-3 H23-4 H23-5 H23-6 H25-1	210 382 365 376	H23覆±2 H23覆±3 H23覆±3 H25覆±1 M6-2 No.2(44Y)	908 908 908 903	64 89 69	39	68 89 108	住居覆土 住居覆土	
H23-3 H23-4 H23-5 H23-6 H25-1 H26-1	210 382 365 376 496	H23覆土2 H23覆土3 H23覆土3 H25覆土1層112 M6-2 No.2(44Y) (実際はH26覆土2)	908 908 908 903 1028	64 89 69 148	39 120	68 89 108 268	住居覆土 住居覆土 住居覆土 盛土	
H23-3 H23-4 H23-5 H23-6 H25-1 H26-1	210 382 365 376 496 467	H23覆±2 H23覆±3 H23覆±3 H25覆±1届112 M6-2 N2(44Y) (実際はH26覆±2) M6-2 No.1(44Y) (実際はH26覆±2)	908 908 908 903 1028	64 89 69 148 238	39 120 49	68 89 108 268 287	住居覆土住居覆土住居覆土住居覆土盛土盛土	
H23-3 H23-4 H23-5 H23-6 H25-1 H26-1 H26-2	210 382 365 376 496 467 508	H23覆±2 H23覆±3 H23覆±1 M6-2 N2(44Y) (実際はH26覆±2) M6-2 N0(44Y) (実際はH26覆±2) H26床面7(実際は覆±2)	908 908 908 903 1028 1028	64 89 69 148 238	39 120 49	68 89 108 268 287 88	住居覆土 住居覆土 住居覆土 盛土 盛土 住居床面	
H23-3 H23-4 H23-5 H23-6 H25-1 H26-1	210 382 365 376 496 467 508	H23覆±2 H23覆±3 H23覆±3 H25覆±1届112 M6-2 N2(44Y) (実際はH26覆±2) M6-2 No.1(44Y) (実際はH26覆±2)	908 908 908 903 1028	64 89 69 148 238	39 120 49	68 89 108 268 287 88	住居覆土住居覆土住居覆土住居覆土盛土盛土	
H23-3 H23-4 H23-5 H23-6 H25-1 H26-1 H26-2	210 382 365 376 496 467 508	H23覆±2 H23覆±3 H23覆±1 M6-2 N2(44Y) (実際はH26覆±2) M6-2 N0(44Y) (実際はH26覆±2) H26床面7(実際は覆±2)	908 908 908 903 1028 1028	64 89 69 148 238	39 120 49	68 89 108 268 287 88 88	住居覆土 住居覆土 住居覆土 盛土 盛土 住居床面	
H23-3 H23-4 H23-5 H23-6 H25-1 H26-1 H26-2 H26-3 H26-3	210 382 365 376 496 467 508	H23覆±2 H23覆±3 H23覆±1 M6-2 N2(44Y) (実際はH26覆±2) M6-2 Nn(144Y) (実際はH26覆±2) H26床面7(実際は覆±2) H26床面7(実際は覆±2)	908 908 908 903 1028 1028 928	64 89 69 148 238 47	39 120 49	68 89 108 268 287 88 88	住居覆土 住居覆土 住居覆土 盛土 盛土 住居床面 住居床面	
H23-3 H23-4 H23-5 H23-6 H25-1 H26-1 H26-2 H26-3 H26-3 H26-3	210 382 365 376 496 467 508 508 508	H23覆±2 H23覆±3 H23覆±1 M6-2 Na2(44Y) (実際はH26覆±2) M6-2 Na1(44Y) (実際はH26覆±2) H26床面7(実際は覆±2) H26床面7(実際は覆±2) H26床面1(実際は覆±2) H26床面3(実際は覆±2)	908 908 908 903 1028 1028 928 928	64 89 69 148 238 47 3	39 120 49	68 89 108 268 287 88 88 88	住居覆土 住居覆土 住居覆土 盛土 盛土 住居床面 住居床面	

					同一			
遺構名- 掲載番号	復元 番号	出土地点	取り 上げ日	接合点数	個体か	合計 点数	区分	備考
		1,000年至57/中華(大東 1,0)			(未接合)		4-D	
H26-3	427	H26床面57(実際は覆土2)	928 928	105	7	115	住居床面	
H26-4	427	H26床面12(実際は覆土2) H26床面11(実際は覆土2)	928	100		115	住居床面	
H26-4	427	H26床面14(実際は覆土2)	928	2		115	住居床面	
H26-5	431	H26床面9(実際は覆土2)	928	117	69	186	住居床面	
H26-6	502	H26床面10(実際は覆土2)	928	23	10	38	住居床面	
H26-6	502	H26床面9(実際は覆土2)	928	5		38	住居床面	
H27-1	348	H27床面36	917	50			住居床面	
H27-2	358 358	H27覆土2層111	911	35	4	54 54	住居覆土	
H27-2	358	H27覆土2層160 H27覆土2層162	907	13	1	54	住居覆土	
H28-1	190	H28覆土3層 200	922	86	1	87	住居覆土	
H28-2	218	H28覆土1 129	922	27		39	住居覆土	
H28-2	218	H28覆土1 130	922	8		39	住居覆土	
H28-2	218	H28覆土2 137	922	4		39	住居覆土	
H29-1	30	H29覆土上位30	929	48	2	64	住居覆土	明らかに別個体の円 筒下層d1式が共伴した
H29-1	30	H29覆土上位135	928	9		64	住居覆土	
H29-1	30	H29覆土北側246	918	4		64	住居覆土	
H29-1	30	H29覆土南端88	929	1		64	住居覆土	
H29-2	28	H29覆土上位4	916	65	2	67	住居覆土	1点の円筒下層d1式別 個体が共伴した
H29-3	27	H29覆土上位1	916	72		72	住居覆土	13点の円筒下層d1式
H29-4	26	H29覆土上位14	916	69		69	住居覆土	別個体が共伴した
H29-5	35	H29覆土上位9	916	11		212	住居覆土	
H29-5	35	H29覆土上位11	916	15	10	212	住居覆土	
H29-5	35	H29覆土上位12	916	47	74	212	住居覆土	
H29-5	35	H29覆土下位28	918	41	14	212	住居覆土	
H29-6	176	H29覆土上位5	916	40	8	54	住居覆土	
H29-6 H29-6	176 176	H29覆土上位4 H29覆土上位158	916 916	1		54 54	住居覆土	
H29-6	176	H29覆土上位138	917		4	54	住居覆土	
H29-7	33	H29覆土上位5	916	64		68	住居覆土	
H29-7	33	H29覆土上位158	916		1	68	住居覆土	
H29-7	33	H29覆土上位285	917		1	68	住居覆土	
H29-7	33	H29覆土上位288	917		1	68	住居覆土	
H29-7	33	H29覆土北側246	918		1	68	住居覆土	
H29-8 H29-8	282	H29覆土上位13 H29覆土上位9	916 916	42 11		58 58	住居覆土	
H29-8	282	H29覆土工位9 H29覆土下位166	917	2		58	住居覆土	
		H29Sライントレンチ62S						
H29-8	282	243	908	1	2	58	住居覆土	
H29-9 H29-9	354 354	H29覆土上位30 H29覆土ベルト西端87	929 929	3		8	住居覆土	
H29-9	354	H29復土ベルド四端87 H29覆土上位135	929	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29覆土上位168	929	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29覆土北側245	918	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29覆土北側246	918	1		8	住居覆土	
H29-10	88	H29覆土上位3	916	182	50	232	住居覆土	
H29-11		H29覆土上位2	916	190	27	217	住居覆土	
H29-12	_	H29覆土上位10	916	48		48	住居覆土	
H29-13		H29覆土上位6 H29覆土上位286	916	14	4		住居覆土	
H29-13 H29-25		H29復工工位280 H29覆土下位18	917 918	18 28	3		住居覆土	
H29-25	_	M2-2 60Q62	922	47	2	81	江冶復工	
H29-26	-	H39覆土上位337	1013	1			住居覆土	
H29-26	298	H29覆土下位17	918	10	3	18	住居覆土	
H29-26		H29覆土上位158	916	3	1		住居覆土	
H29-26		H29覆土上位288	917	1			住居覆土	
H29-28	-	H29覆土下位15	918	18	3		住居覆土	
H29-28 H29-29		H29覆土下位16 H29覆土下位20	918 918	91	35		住居覆土	
H29-29		H29覆土上位158	916	6	33		住居覆土	
H29-30		H29覆土下位19	918	123	41		住居覆土	
H29-31	-	H29覆土下位17	918	45	5	225	住居覆土	
H29-31		H29覆土下位19	918	44	131		住居覆土	
H29-32		H29覆土下位24	918	19	6		住居覆土	
H29-32		H29覆土上位158	916	15	_		住居覆土	
H29-33 H29-33	_	H29覆土下位26 H29覆土下位27	918 918	52 1	3		住居覆土	
H29-33	-	H29復工下位27 H29覆土下位27	918	12	3		住居覆土	
H29-34	_	H29覆土下位29	918	3	"		住居覆土	
H29-34		H29覆土下位20	918	7			住居覆土	
H29-34	171	H29覆土下位169	929	4		33	住居覆土	
H29-34		H29HP12覆土359	1001	4			住居覆土	
H29-35		H29覆土下位22	918	110	42	152	盛土	
H29-36	29	H29覆土下位15	918	35	1	38	住居覆土 住居付属遺構	
H29-36	29	H29HP19覆土361	1001	2		38	任店行馬逗博 覆土	
H29-37		H29覆土最下位38	930	59	31		住居覆土	
H29-43	-	H29床面48	930	16	21		住居覆土	
H34-1	19	H34覆土2層7	910	71		71	住居覆土	

遺構名- 掲載番号	復元 番号	出土地点	取り 上げ日	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計 点数	区分	備考
H34-2	23	H34覆土2層1	909	73	3	77	住居覆土	50点ほど小砕片の同一 個体
H34-2	23	H34南北トレンチ南側50	904	1		77	住居覆土	
H34-3	17	H34覆土2層8	910	95			住居覆土	
H35-1	20	H35床面6	1014	141	15	168	住居床面	
H35-1	20	H35覆土東側50	1013	3			住居覆土	
H35-1	20	H35覆土西側57	1007	7			住居覆土	
H35-1	20	M2-2 64S7	903	1		168	M2盛土	
H35-1	20	M2-2 64S8	904	1			M2盛土	
H35-2	31	H35床面6	1014	91			住居床面	
H35-2 H36-1	31 157	H35覆土西側57 H36覆土2層5	1007 915	30	6		住居覆土	
	_				0		住居覆土	
H36-1	157	H36覆土2層4	915	49		49		
H36-2 H36-5	360 714	H36覆土2層5 H36覆土2層6	915 915	49			住居覆土	
	_						住居覆土	
H36-5	714	M4-3 58R12	1001	22	2	32	盛土	
H36-5	714	M4-6 58R106	1016		2		盛土	
H36-6	726	H36覆土2層4	915	35	14		住居覆土	
H36-6	726	H36覆土西側58	916	33	10		住居覆土	
H36-6	726	M2-3 58U17	907	7	2		盛土	
H36-6	726	H36覆土東側57	922		1	102	住居覆土	
H38-2	16	H38ベルト覆土最上位62	1014	21			住居覆土	-
H38-2	16	H38ベルト覆土最上位63	1014	16			住居覆土	
H38-4	18	H38覆土上位1	1005	70	13	83	住居覆土	
H38-5	134	H38覆土上位1	1005	22	3	31	住居覆土	H38覆土上部3に一点台付きの台があるが、 別個体だった。
H38-5	134	H38覆土下位東側77	1007	4		31	住居覆土	
H38-5	134	M2-2 63R26	902	1		31	盛土	
H38-5	134	M2-2 63R31	831	1		31	盛土	
H38-6	62	H38覆土上位7	1015	89			住居覆土	
H38-6	62	H38ベルト覆土上位59	1014	1		107	住居覆土	
H38-6	62	H38南北トレンチ106	915	9			住居覆土	
H38-6	62	M2-2 63Q2	911	8		107	盛土	
H38-7	100	H38覆土上位3	1005	1		69	住居覆土	
H38-7	100	H38覆土上位34	1005	1		69	住居覆土	
H38-7	100	H38覆土東側133	1013	9		69	住居覆土	
H38-7	100	H56覆土最上位50	1020	1		69	住居覆土	
H38-7	100	M2-2 62R5	827	5	4		盛土	
H38-7	100	M2-2 63R28 M2-2 63R31	902	16	2	69	盛土	
H38-7	100	M2-2 63R40	826	2	_		盛土	
H38-7	100	M2-2 62R45	902	4		69	盛土	
H38-7	100	M2-2下位 62R6	1019	1		69	盛土	
H38-7	100	M2-2下位 63R16	1013	1		69	盛土	
H38-9	394	H38覆土上位3	1005	4		28	住居覆土	
H38-9	394	H38ベルト覆土上位59	1014	2	1	28	住居覆土	
H38-9	394	H38東西トレンチ東側107	916	5		28	住居覆土	
H38-9	394	H38覆土下位東側170	1007		1	28	住居覆土	
H38-9	394	M2-2 63R26	902	10	3	28	盛土	
H38-9	394	M2-2 63Q5	902	1	1	28	盛土	
H38-13	439	H38ベルト覆土上位64	1014	56	20	100	住居覆土	
H38-13	439	H38ベルト覆土上位59	1014	9	11	100	住居覆土	
H39-2	392	H39覆土上位337	1013	37	5	392	住居覆土	
H39-2	392	H39東側覆土下位166	1014	1		392	住居覆土	
H39-2	392	H39ベルト覆土2層直下189	1014	10		392	住居覆土	
H39-2	392	H39覆土上位336	1013	17	1	392	住居覆土	
H39-2	392	H39覆土東側261	1014		1	392	住居覆土	
H39-3	71	H39覆土最上位22	1008	154	74	242	住居覆土	
H39-3	71	H39覆土上位337	1013	6		242	住居覆土	
H39-3	71	H39覆土上位365	1005	8		242	住居覆土	
	422	H39覆土上位7	918	21	15	40	住居覆土	
H39-7	422	H39覆土南側313	922	1	2	40	住居覆土	
H39-7		H39覆土上位337	1013		1	40	住居覆土	
	422		918	117	37		住居覆土	
H39-7	-	H39覆土上位2			15		住居覆土	
H39-7 H39-7	168	H39覆土上位2 H39覆土上位5	918	33	10			
H39-7 H39-7 H39-11	168		918 1014	33 1	13		住居覆土	
H39-7 H39-7 H39-11 H39-15	168 399 399	H39覆土上位5	_		13	50	住居覆土 住居覆土	
H39-7 H39-7 H39-11 H39-15 H39-15	168 399 399 399	H39覆土上位5 H39ベルト覆土上位155 H39ベルト覆土最上位150	1014 1015	1		50 50	住居覆土	
H39-7 H39-7 H39-11 H39-15 H39-15 H39-16	168 399 399 399 95	H39覆土上位5 H39ベルト覆土上位155 H39ベルト覆土最上位150 H39覆土上位16	1014 1015 1005	85	1 9	50 50 131	住居覆土 住居覆土	
H39-7 H39-7 H39-11 H39-15 H39-15 H39-16 H39-16	168 399 399 399 95 95	H39覆土上位5 H39ベルト覆土上位155 H39ベルト覆土最上位150 H39覆土上位16 H39覆土上位105	1014 1015 1005 1006	85 22	1 9 15	50 50 131 131	住居覆土 住居覆土 住居覆土	
H39-7 H39-7 H39-11 H39-15 H39-15 H39-16 H39-16 H39-17	168 399 399 399 95 95 52	H39覆土上位5 H39ベルト覆土上位155 H39ベルト覆土最上位150 H39覆土上位16 H39覆土上位105 H39覆土最上位23	1014 1015 1005 1006 1008	85 22 128	1 9	50 50 131 131 145	住居覆土 住居覆土 住居覆土 住居覆土	
H39-7 H39-7 H39-11 H39-15 H39-15 H39-16 H39-16	168 399 399 399 95 95	H39覆土上位5 H39ベルト覆土上位155 H39ベルト覆土最上位150 H39覆土上位16 H39覆土上位105	1014 1015 1005 1006	85 22	1 9 15	50 50 131 131 145 218	住居覆土 住居覆土 住居覆土	

遺構名- 掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計点数	区分	備考
H39-19	_	H39覆土上位21	1005	8			住居覆土	
H39-19 H39-19	295 295	H39覆土上位17 H39覆土上位18	1005	14		33	住居覆土 住居覆土	
H39-19	295	H39覆土工位16	1013	1		33	住居覆土	
H39-19	295	H39覆土下位東側366	1005	8		33	住居覆土	
H39-20	481	H39覆土上位17	1005	1	6	348	住居覆土	
H39-20	481	H39覆土上位21	1005	32	57	348	住居覆土	
H39-20	481	H39ベルト覆土2層直下189	1014	61	191	348	住居覆土	
H39-21	108	H39覆土上位16	1005	135	13	160	住居覆土	
H39-21	108	H39覆土1層407	1005	13		160	住居覆土	
H39-22	401	H39覆土上位1	918	56	26	85	住居覆土	
H39-22	401 401	H39覆土北側上位339	918	1	1	85 85	住居覆土 住居覆土	
H39-22 H39-23	174	H39覆土南側313 H39覆土上位11	922 918	93	40	144	住居覆土	
H39-23	174	H39覆土工位11	1005	93	9	144	住居覆土	
H39-23	174	H39覆土上位107	1006		1	144	住居覆土	
H39-23	174	M4-3 61R43	930		1	144	盛土	
H39-24	442	H39覆土上位9	918	10	4	101	住居覆土	
H39-24	442	H39覆土上位10	918	25	20	101	住居覆土	
H39-24	442	H39ベルト覆土上位260	1014	7	3	101	住居覆土	
H39-24	442	H39ベルト覆土最上位150	1015	1		101	住居覆土	
H39-24	442	H39ベルト覆土最上位262	1014	1		101	住居覆土	
H39-24	442	H39覆土南側313	922	2		101	住居覆土	
H39-24	442	H39覆土南側314	922	12	1	101	住居覆土	
H39-24 H39-24	442 442	M1 62U3 M1 62U5	826 819	1		101	盛土	
H39-24	442	M1 62U5 M2-2 62U2	831	9	2	101	盛土	
H39-24	442	M2-2 6202 H39覆土壁際288	1024	9	1	101	住居覆土	
H39-24	442	H39覆土室原200 H39覆土東側106	1024		1	101	住居覆土	
H39-25	49	H39覆土北側上位12	918	120		128	住居覆土	
H39-25	49	H39覆土北側上位339	918	8		128	住居覆土	
H39-26	50	H39覆土2層直下25	1014	76	17	93	住居覆土	展開写真に下下とある
								がT下(直下)の間違い
H39-27	317	H39覆土上位14	1005	56	8	75	住居覆土	
H39-27	317	H39覆土下位26	1014	3		75	住居覆土	
H39-27	317	H39覆土2層直下184 H39ベルト覆土2層直下187	1014	1		75 75	住居覆土	
H39-27	317	H39覆土上位17	1005		2	75	住居覆土	
H39-28	121	H39覆土上位17	918	3		49	住居覆土	
H39-28	121	H39ベルト覆土上位126	1014	4		49	住居覆土	
H39-28	121	H39ベルト覆土最上位262	1014	6		49	住居覆土	
H39-28	121	H39覆土南側313	922	1		49	住居覆土	
H39-28	121	H39覆土南側314	922	11	1	49	住居覆土	
H39-28	121	H39東西トレンチ西側408	1005	1		49	住居覆土	
H39-28	121	M1 61U6	828	6		49	盛土	
H39-28	121	M1 61U13	819	1		49	盛土	
H39-28	121	M2-2 62U2	831	9	1	49	盛土	
H39-28	121	M1 62U3	826	3		49 49	盛土	
H39-28 H39-28	121 121	M1 62U4 M2-2 63T3	825 821	1	1	49	盛土	
H39-29	59	H39覆土上位337	1013	35	4	39	住居覆土	
H39-31	400	H39覆土北側上位12	918	46	27	73	住居覆土	関連拓本あり
H39-32	126	H39覆土上位13	1005	23	45	123	住居覆土	
H39-32	126	H39ベルト覆土中位404	1015	14		123	住居覆土	
H39-32	126	H39覆土上位365	1005	17		123	住居覆土	
H39-32	126	H39覆土下位東側366	1005	7		123	住居覆土	
H39-32		H39覆土2層直下387	1015	11			住居覆土	
H39-32	_	H39覆土2層直下184	1014	6			住居覆土	
H39-33		H39覆土上位20	1005	48	11		住居覆土	
H39-34		H39ベルト覆土2層直下188	1014	65	18		住居覆土	
H39-34		H39覆土下位東側366 H39覆土下位152	1005		1		住居覆土 住居覆土	
H39-35		H39ベルト覆土2層直下187	1013	56	13		住居覆土	
H39-35		H39覆土北側上位339	918	33			住居覆土	
H39-35		H39覆土上位365	1005	5			住居覆土	
H39-35		H39覆土上位14	1005	3			住居覆土	
H39-41		H39覆土2層直下186	1014	59	1		住居覆土	
H39-41	_	H39覆土上位107	1006	5	1		住居覆土	
H39-41	_	H39覆土南側313	922		3		住居覆土	
H39-42	_	H39覆土上位24	1014	7			住居覆土	
H39-42		H39覆土ベルト覆土下位157	1014		1		住居覆土	
H39-42 H39-42	-	H39覆土ベルト覆土中位158	1016	1			住居覆土	
H39-42	-	H39南北トレンチ北側229 H39覆土東側261	918 1014	2	1		住居覆土 住居覆土	
H39-42		H39覆土朱丽201	1014	9	2		住居覆土	
H39-42		H39覆土上位406	1015	14			住居覆土	
H39-43		H39覆土上位19	1005	36	10		住居覆土	
H39-43	_	H39覆土上位107	1006	2	5		住居覆土	
H39-48		H39覆土上位15	1005	36			住居覆土	
H39-48	61	H39覆土上位365	1005	46	5	87	住居覆土	
H39-49	-	H39覆土下位35	1019	34	6		住居覆土	
H39-50	_	H39覆土下位31	1015	149	9		住居覆土	
H39-51	_	H39覆土中位32	1015	122	5		住居覆土	
H39-51		H39ベルト覆土上位405	1015	9			住居覆土	
H39-51 H39-52		H39ベルト覆土下位108 H39覆土下位26	1019 918	125	143		住居覆土	
H39-52		H39復工下位20	1015	125	143		住居覆土	
H39-53		H39覆土上位365	1005	2			住居覆土	
00	.,,		. 500					

遺構名- 掲載番号	復元 番号	出土地点	取り 上げ日	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計点数	区分	備考
H39-53	179	H39覆土下位33	1019	51	19	153	住居覆土	
H39-53	179	H39覆土下位27	1014	22	4	153	住居覆土	
H39-53	179	H39覆土下位35	1019	32	1	153	住居覆土	
H39-53	179	H21覆土7層上面中央157	911	1		153	住居覆土	
H39-53	179	H39覆土下位34	1019	17	2	153	住居覆土	
H39-53	179	H39覆土下位28	1014		1	153	住居覆土	
H39-55	482	H39覆土下位28	1014	13		15	住居覆土	
H39-55	482	H39覆土下位37	1019	2		15	住居覆土	
H39-56	257	H39覆土下位39	1019	69	8	82	住居覆土	
H39-56	257	H39覆土下位299	1020	3			住居覆土	
			922	2				
H39-56	257	M2-2 60T36			4.0		盛土	
H39-63	72	H39覆土最下位40	1020	77	16	95	住居覆土	
H39-63	72	H39覆土最下位41	1020	2			住居覆土	
H39-64	56	H39覆土最下位41	1020	112	9		住居覆土	
H39-64	56	H39覆土下位299	1020	1		122	住居覆土	
H39-65	309	H39覆土最下位42	1020	32	7	97	住居覆土	
H39-65	309	H39覆土下位38	1019	30		97	住居覆土	
H39-65	309	H39南北トレンチ北側229	918	12		97	住居覆土	
H39-65	309	H39覆土下位202	1019	2		97	住居覆土	
H39-65	309	H39覆土下位152	1015	8		97	住居覆土	
H39-65	309	H39ベルト覆土167	1016	1		97	住居覆土	
H39-65	309	H39覆土下位299	1020	5		97	住居覆土	
H41-1	362	H41ベルト覆土上位66	1020	100		100	盛土	
H41-2	434	H41トレンチ70	925	61	55	116	住居覆土	
H41-3	461	H41ベルト覆土上位68	1020	74	120	195	住居覆土	
H41-3	461	H41西トレンチ71	1005		1		住居覆土	
				27		27		
H41-3	462	M4-6 59S71	1007	27		27	盛土	
H41-4	390	H41ベルト覆土上位65	1020	98	192		住居覆土	
H41-5	373	H41ベルト覆土上位65	1020	29	14	43		
H41-6	444	H41ベルト覆土上位67	1020	55	6	64	住居覆土	
H41-6	444	H41覆土南側18	1005	2	1	64	住居覆土	
H41-7	374	H41ベルト覆土下位47	1021	95	42	137	住居覆土	
H46-1	118	H46覆土上位M4並行31	1024	58	1	99	住居覆土	
H46-1	118	H46覆土上位14	1024	38	1	99	住居覆土	
H46-1	118	H46覆土下位62	1026	1		99	住居覆土	
H46-2	359	H46覆土上位14	1024	24		35	住居覆土	
H46-2	359	H46覆土下位62	1026	8		35	住居覆土	
H46-2	359	H46覆土壁際63	1026	3		35	住居覆土	
H52-1	181	H52覆土2層55	1027	41	8	96	住居覆土	
H52-1		H52覆土1層56	1027	47			住居覆土	
H56-1		H56覆土最上位1	1020	50	7		住居覆土	
H56-2		H56覆土最上位4	1020	72	26		住居覆土	
H56-3		H56覆土最上位3	1020	55	33		住居覆土	
H56-3		H56覆土最上位50	1020	17	10		住居覆土	
H56-3	361	H56覆土最上位1	1020		1		住居覆土	
H56-5		H56覆土下位5	1020	43	1		住居覆土	
H56-6	91	H56覆土最上位2	1020	184	53	251	住居覆土	
H56-6	91	H29覆土北側246	918	14		251	住居覆土	
H57-4	11	H57HP3埋設土器13	1109	64	19	83	住居埋設土器	
H57-7	105	H57覆土下位89一括土器	1104	7	3	19	住居覆土	
H57-7	105	H57覆土85Q18	1020		1	19	住居覆土	
H57-7	105	H57覆土6	1110	5		19	住居覆土	
H57-7	105	Ⅲ 85P1	1019	2		19	包含層	
H57-7	105	III 82Q3	1013		1	19	包含層	
H58-1		H58覆土83P121	1022	2			住居覆土	
	4	H58覆土上位83Q233 一括土器®	1027	2			住居覆土	一括土器⑫
H58-1								
H58-1	4	H58覆土上位83Q235 一括土器⑩	1027	29		38	住居覆土	一括土器⑩
	4		1027	29			住居覆土 包含層	一括土器⑩

遺構名- 掲載番号	復元 番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計 点数	区分	備考
H58-2	22	H58覆土上位83Q232 一括土器①	1027	4	(本独口)	34	住居覆土	一括土器⑫
H58-2	22	H58覆土上位83Q233	1027	30		34	住居覆土	──括土器①
H58-3	9	一括土器® H58覆土上位83Q240	1027	26		42	住居覆土	一括土器①
H58-3	9	一括土器① H58覆土上位83Q233	1027	12			住居覆土	一括土器①
H58-3	9	一括土器① H58覆土上位83Q127	1023	1			住居覆土	10 THE G
H58-3	9	H58復土上位83Q127 H58覆土上位83Q166	1023	2			住居覆土	
H58-3	9	H58覆土上位83Q239	1027	1			住居覆土	一括土器①
H58-4	10	一括土器① H58覆土中位84P168 一括土器⑥	1028	43	11	62	住居覆土	ー括土器® 焼成粘土 塊2点が共伴
H58-4	10	H58覆土下位83Q12	1028	1		62	住居覆土	
H58-4	10	H58覆土上位83Q6 一括土器 <sup>(3)</sup>	1027	2		62	住居覆土	一括土器③
H58-4	10	H58覆土167一括土器⑤	1024	2		62	住居覆土	一括土器⑤
H58-4	10	H58覆土84P119	1026	3		62	住居覆土	
H58-5	109	H58覆土120一括土器⑦	1024	82	2	97	住居覆土	一括土器⑦
H58-5	109	H58覆土上位83Q234 一括土器⑫	1027	5	2	97	住居覆土	一括土器①
H58-5	109	H58覆土上位83Q127	1023	2		97	住居覆土	
H58-5	109	II 83P9	1007	2	1	97	包含層	
H58-5	109	III 83Q5	1008		2	97	包含層	
H58-6	455	H58覆土165一括土器⑧	1024	131	95	238	住居覆土	一括土器⑧
H58-6	455	H58覆土238一括土器⑥	1024	12		238	住居覆土	一括土器⑥
H58-7	277	H58覆土238一括土器⑥	1024	20		25	住居覆土	一括土器⑥
H58-7	277	Ⅲ 83P15	1019	4	1	25	包含層	
H58-8	14	H58覆土167一括土器⑤	1024	47		47	住居覆土	ー括土器⑤ 別個体の 磨滅したⅢa土器が60 点ほど共伴した。
H58-9	12	H58覆土中位83Q237 一括土器⑨	1027	56	4	60	住居覆土	一括土器⑨
H58-10	404	H58覆土上位83Q233 一括土器⑫	1027	2		36	住居覆土	一括土器①
H58-10	404	II 83P6	1019	1		36	包含層	
H58-10	404	Ⅲ 83P8	1006	4		36	包含層	
H58-10	404	Ⅲ 83P12	1016	16	2	36	包含層	
H58-10	404	Ⅲ 83P13	1016	2	2		包含層	
H58-10	404	III 83P14 III 83Q2	1019	2	1		包含層	
H58-10	404	III 83Q5	1008		3	_	包含層	
H58-11		H58覆土162一括土器③	1022	35	17		住居覆土	一括土器③
H58-12	37	H58覆土上位83Q232 一括土器®	1027	1			住居覆土	ー括土器① 円筒下層 d2式の最新または円筒 上層a式古段階。上層 とした。
H58-12	37	H58覆土上位83Q233 一括土器®	1027	46	24	73	住居覆土	ー括土器® 円筒下層 d2式の最新または円筒 上層a式古段階。上層 とした。
H58-12	37	H58覆土上位83Q235 一括土器⑩	1027	2		73	住居覆土	一括土器⑩
H58-13	6	H58覆土84P163 一括土器④	1022	28	3	31	住居覆土	一括土器④
H58-14	25	H58覆土中位83Q169 一括土器(4)	1028	82	36	119	住居覆土	一括土器(単当初(印と間) 違えていた注記ミスか
H58-15	34	H58覆土84P119	1026	22		22	住居覆土	円筒下層d2式の最新または円筒上層a式古段階。上層とした。
H58-16	270	H58覆土上位83Q239 一括土器①	1027	39	2	57	住居覆土	一括土器⑪
H58-16	270	H58覆土上位83Q240 一括土器①	1027	6	9	57	住居覆土	一括土器①
H58-16	270	H58覆土上位83Q234 一括土器①	1027	1		57	住居覆土	一括土器⑫
H58-17	7	H58覆土82P72	1102	37	3	40	住居覆土	
H58-18	32	H58覆土中位83Q7 一括土器⑤	1028	36		36	住居覆土	円筒下層d2式の最新または円筒上層a式古段階の別個体破片3点が混じっていた。一括土器15
H58-19	266	H58覆土84P163 一括土器④	1022	11	1	29	住居覆土	一括土器④
H58-19	266	H58覆土84P161	1022	1		29	住居覆土	
H58-19	266	H58覆土2	1110	15		29	住居覆土	
H58-19	266	H58覆土84P119	1026	1		29	住居覆土	
H58-20	447	H58覆土上位83Q6 一括土器⑬	1027	7		21	住居覆土	一括土器③
H58-20	447	H58覆土中位84Q9	1028	2	2	21	住居覆土	
		·						

遺構名- 掲載番号	復元 番号	出土地点	取り 上げ日	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計 点数	区分	備考
H58-20	447	H58覆土中位84P168 一括土器⑩	1028	1		21	住居覆土	一括土器16
H58-20	447	H58覆土中位84Q10	1028	2	7	21	住居覆土	
H58-21	13	H58覆土上位83Q127	1023	44		61	住居覆土と 包含層	
H58-21	13	H58覆土上位83Q166	1024	2		61	住居覆土と 包含層	
H58-21	13	III 83Q1	1023	1		61	住居覆土と 包含層	
H58-21	13	III 83Q5	1008	9		61	住居覆土と 包含層	
H58-21	13	Ⅲ 83Q6	1008	1		61	住居覆土と 包含層	
H58-21	13	Ⅲ 81Q7	1109	4		61	住居覆土と 包含層	
H58-22	452	H58覆土上位83Q6 一括土器 <sup>(3)</sup>	1027	7		7	盛土	一括土器③
H58-23	260	H58覆土124一括土器②	1022	25	9	34	住居覆土	一括土器②
H60-3	287	M4-6 61Q2 (H60覆土49と接合)	1022	71	38	164	盛土	
H60-3	287	M4-6 61Q12	1026	2		164	盛土	
H60-3	287	M4-3 61Q13	1021	2	2	164	盛土	
H60-3	287	M4-6 61Q28	1022	17	18	164	盛土	
H60-3	287	H60覆土49	1026	13	4	164	住居覆土	
H67-1	519 519	H67床面66 H67床面65	1106 1104	14	25	50 50	住居床面	
H67-1	519	H67HP1覆土1 67	1104	19	21	50	付属遺構	
P45-1	164	M2-2 63R28	902	8	2	37	盛土	
P45-1	164	M2-2 63R30	902	5		37	盛土	
P45-1	164	M2-2 63R33	831		1	37	盛土	
P45-1	164	M2-2 63R31	831	13		37	盛土	
P45-1	164	M2 62Q5	817	3		37	盛土	
P45-1	164	M1 62Q11	806	1		37	盛土	
P45-1	164	MT5 63S10	804	1		37	盛土	
P45-1	164	P45覆土2	904	1		37	土坑覆土	上せウェスキャインナ
P54-1	5	P54底面1 	1109	127		133	土抗底面	土抗底面で潰れていた土器
P54-1	5	P54覆土3	1104	6		133	土抗覆土	取上げ時に底面のもの が混じったものか
P55-1 P55-1	342	P55底面6 P55覆土7	1029 1028	71	9	85 85	土坑覆土	
P56-1	371	P56底面9	1028	92	56	160	土坑底面	
P56-1	371	P56底面10	1031		7	160	土坑底面	
P56-1	371	P56覆土14	1031	5		160	土坑覆土	
TP7-2	443	TP7覆土1	1028	10	3	25	Tピット覆土	
TP7-2	443	TP7覆土4	1023	5	1	25	Tピット覆土	
TP7-2	443	H58覆土82P171	1022	4	2	25	住居覆土	
F65-1	269	Ⅲ攪乱 76R4(F65関連)	609	37	16	86	攪乱	
F65-1	269	Ⅲ攪乱 76R5(F65関連) Ⅲ 76R2	619	2	16		攪乱 攪乱	
F65-1		II 76R1	618		1		包含層	
F65-2		Ⅲ 76Q3(F65関連)	624	23	5	28	包含層·黑色	
F82-1		F82覆土1層37	1102	2			土入り込み。 焼土	
F82-1		サ1 45T61	1031	8			沢地形	
F82-2		F82覆土1層11	1102	25	11		焼土	
F82-3	350	F82覆土1層37	1102	10	1	23	焼土	点取り5,8,12と接合
F82-3	350	F82沢1層45T5	1102	2		23	焼土	
F82-3	350	F82覆土1層8	1102	1	1	23	焼土	
F82-3		F82沢1層45T12	1102	1			焼土	
F82-3		沢1層 45T61	1031	4	2		沢地形	
F82-3 F82-5		沢1層 44S63 F82覆土2層36	1031	4			沢地形 焼土	
F82-5		F82覆土1層37	1102	4			焼土	
F82-5	340	サ1 45T61	1031	8			沢地形	
F82-8	338	F82覆土2層36	1102	13		13	焼土	
F82-14	336	F82覆土1層37	1102	4		4	焼土	
F82-15		F82覆土2層38	1102	5			焼土	
F82-15		F82覆土1層37	1102	1			焼土	
F82-16		F82覆土1層37	1102	2			焼土	
F82-17 F82-18		F82覆土2層36 F82覆土2層36	1102	3 6			焼土	
F82-18		サ1 45T61	1031	7			沢地形	
F82-19		F82覆土2層36	1102	1			焼土	
F82-19	335	F82覆土1層37	1102	2	1	4	焼土	

遺構名- 掲載番号			取り 上げ日	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計 点数	区分	備考
F82-20	347	F82沢1層46T1	1102	26		26	焼土	
F82-21	344	M4-3 58R100	1014	13	18	151	盛土	
F82-21	345	F82沢1層46T2	1102	7	3	10	焼土	
F82-22	356	F82沢1層45T5	1102	39	16	55	焼土	
F82-24	201	F82沢1層3	1102	29	1	30	焼土	
F82-25	202	F82沢1層6	1102	29		29	焼土	
F82-26	351	沢1層 45T61	1031	4		11	沢地形	
F82-26	351	F82覆土1層8	1102	1		11	焼土	
F82-26	351	F82覆土2層38	1102	3		11	焼土	
F82-26	351	沢1層 45S62	1031	3		11	沢地形	

表Ⅲ-6 遺構出土掲載土器破片拓影化一覧

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本 整理 番号	分類 (群と類 を略)	層位	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計 点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-1	H18	2	円筒上層a式	H18-3	Ша	H18覆土1層1569	57	44	101	住居覆土	28×28×10(口径×器高×底径cm)繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。磨滅著しく詳細 不明。曲線的な隆帯によって口縁節を区面。口線節区面内および口縁節文棒帯直下 には上縄とR縄により矢羽根状の縄線曲線構成。いずれも幅5cm。地紋はLR縄横回転 斜行縄文。胴部下半には無し。虚節は微妙な上げ底で、底面はまガキにより無文。
図Ⅲ-2-1	H18	5	円筒下層d2式	H18-4	Πb	H18覆土1層3311	1	0	1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はLR縄多軸絡条体縦回転。再生土製品円形中央穿孔。
図Ⅲ-2-1	H18	6	円筒下層d2式	H18-2	ΙΙb	H18床面4207	22	29	51	住居床面	口径18cm。繊維・海綿骨針合む。内面ミガキ。口線側は横。胴部は縦。肩部によって 口緒部を区面。肩部と口唇にはに飛側面圧痕が連続する。口緒部文梯帯は上R繊線 による直線構成の文様。幅4cm。区画直下には結束第二種の結束が巡る。幅1cm。地 紋はLR縄多軸絡条体縦回転。H18-1と同一個体か。
図Ⅲ-2-1	H18	7	円筒下層d2式	H18-1	Πb	H18ベンチ上4243	11	9	20	住居ベンチ上	口径18cm。繊維·海綿骨針含む。内面ミガキ。口線側は横。胴部は縦。肩部によって 口線部を区画。肩部と口唇にはにR線側面圧痕が連続する。口線部文梯帯はLR繊線 による直線構成の文様。個4cm。区面直下には結束第二種の結束が巡る。幅1cm。地 紋はLR縄多軸絡条体縦回転。H18-2と同一個体か。
図Ⅲ-2-2	H19	1	円筒上層a式	H19-1	Ша	H19覆土2層354	1	2	1	住居覆土	内面ミガキ 砂粒含む。海綿骨針少量含む。L縄線によって口縁部文様帯を加飾し、 区画内にはヘラによる刺突が並ぶ。
図Ⅲ-2-2	H19	2	円筒下層d式	H19-2	Ιb	H19覆土1層315	2	1	2	住居覆土	内面ミガキ 海綿骨針と繊維含む。地紋はサルボウ条痕を水平方向に施文後したのち に、R縄で、自縄自巻を縦走。円形再生土製品の破片か。
図Ⅲ-2-2	H19	3	円筒下層b式	H19-5	Πb	H19覆土2層355	1		1	住居覆土	内面ミガキ 海綿骨針と繊維、小石含む。RLR横回転斜行縄文。円形そして穿孔された再生土製品。
図Ⅲ-2-2	H19	5	円筒下層d2式	H19-3a	Ιь	H19覆土1層383	3	1	4	住居覆土	内面ミガキ 海綿骨針と繊維含む。肩部で口縁部文様帯を区画し、肩には半載竹管による連続刺突、口唇にはL縄側面圧痕が連続する。2本一組のL縄線で区画内を充填
図Ⅲ-2-2	H19	5	口间 I r l d d z 式	H19-3b	по	H19覆土2層328	1	'	-	住居覆土	する。地紋はR縄多軸絡条体縦回転。
図Ⅲ-2-2	H19	6	円筒下層d2式古段階	H19-4	Ιb	H19床面79	16		16	住居床面	内面正ガキ 海綿骨針と繊維含む。肩部で口縁部文棟帯を区画し、L縄線で区画内を充填する。区画直下には結束第一種羽状縄文を施す。幅はそれぞれ2.5cmと1.5cm。地紋はR縄多軸絡条体縦回転。
図Ⅲ-2-4	H20	5	円筒下層d1式	H20-8	Πb	H20西ベルト242 H20南トレンチ66 H20北トレンチ194	7	11 4 1	23	住居覆土 住居覆土 住居覆土	口径2cm。繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。口線横方向。胴部縦方向。 口線部区画は磨滅により不明。幅1cm。胴部はR縄単軸絡条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-4	H20	6	円筒下層d1式	H20-16	Πb	H20北側トレンチ194	26			住居覆土	口径16cm。内面ミガキ。口縁横方向。繊維-海絡骨針含む。口縁部には上縄による単 軸絡条体側面圧痕4段。幅1.5cm。反面直下にはLPとLの結束第一種。幅1.5cm。これ は多段の帯状に3cm間隔で施す。地紋は、上縄で単軸絡条体第1頻を縦回転。
図Ⅲ-2-4	H20	7	円筒下層b2 ~c式	H20-10	IБ	H20南トレンチ66	7	12	19	住居覆土	底径5cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、R縄で単軸絡条体第1類縦回転。 上げ底でミガキ無文。
図Ⅲ-2-4	H20	8	円筒下層c式	H20-15	Πb	H20③区覆土51	1		1	住居覆土	口径18cm。内面ミガキ。口線横方向、繊維・海綿骨針含む。L縄線で口線部を区画。 区画内にはサルボウ条痕その上に2本一組のL縄線。幅3cm。地紋は、L縄で単軸絡条 体第1類を縦回転。
図Ⅲ-2-4	H20	9	円筒下層d1式	H20-14	Πb	H20③区覆土51	4	1	5	住居覆土	内面正ガキ。口線機、胴部線方向、線維・海綿骨針含む。隆帯で口線部を区画し、右へ引くへうによる連続刺突。幅4cm。地紋は、L縄で、撚りのたった単軸絡条体第1類を 縦回転か、自網自巻を回転。
図Ⅲ-2-4	H20	10	円筒下層d1式	H20-12	Ιв	H20南トレンチ66	15		15	住居覆土	底径10cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、地紋はサルボウ条痕を水平方向に施文後したのちに、R縄で、自縄自巻を縦走。上げ底で地紋と同一原体を回転施文。
図Ⅲ-2-4	H20	11	円筒下層b2 ~c式	H20-4	II b	H20③区覆土166	2		6	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁上半横方向、その下縦方向。肩部に隆帯貼付。 その上に右へ引き抜く押し引き。口縁部はLR縄結節横回転の上にL縄とR縄の組み合
図Ⅲ-2-4	H20	12		H20 11	II b	H20③区覆土51 H20南ベルト覆土364	9	3	12	住居覆土住居覆土	わせによる矢羽根状綱線。 口径18cm。内面ミガキ。口線横方向。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。隆帯で口 線部を区画。隆帯上には緩側面による連続刺突。地紋と同一原体か。区画内には扇 部地数と同じ縄文の上から、直前段反撚URRL縄線5段。幅4cm。地紋は、直前段反 撚URRL線極回転。
図Ⅲ-2-4	H20	13	円筒下層b2 ~c式	H20-9	Ιb	H20南ベルト覆土364	12	13	25	住居覆土	底径5cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、RL縄で縦回転。微妙な上げ底でRL縄回転施文。
図Ⅲ-2-4	H20	14	円筒下層b2 ~c式	H20-13	Πb	H20④区覆土266	21		30	住居覆土	繊維含む、海綿骨針少量含む。内面ミガキ。口径 4cm、底径cm。口線横。胴は線。 肩部により口線部を区面に、区面には開部地紋と同じ直前段反燃り止足解之を横回転 させる。幅5cm。地紋は前述の縄文を横走させる。上げ底で底面はミガキにより無文。
図III-2-5 図III-2-5	H20 H20	15 16	コッタロ~東釧路IV式 東釧路IV式	H20-1 H20-3	I b	H20①区覆土37 H20②区覆土296	1		1	住居覆土 住居覆土	内面ミガキ 砂粒含む。地紋はR縄の組み紐圧痕が微隆起線に伴って施される。 内面ミガキ 砂粒含む。地紋は魚骨回転文ニシンタイプ。
図Ⅲ-2-5	H20	17	東釧路Ⅳ式	H20-2	Ιb	H20①区覆土117	1		1	住居覆土	内面ミガキ 砂粒含む。地紋はLR縄の単軸絡条体回転。
図Ⅲ-2-5	H20	18	中茶路式	H20-17	Ιb	H20床上446②	1	0	1	住居覆土	内面ミガキ。横方向。砂含む。地紋は、RL縄横回転後微隆起線貼付。 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄単軸絡条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-5	H20	19	円筒下層b2 ~c式	H20-7	Iв	H20③区床上447 H20③区覆土284	1	5	8	住居覆土 住居覆土	
図Ⅲ-2-5	H20	20	円筒下層b2 ~c式	H20-5	Ιb	H20床面8	2		2	住居床面	繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。地紋はR縄単軸絡条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-5	H20	21	円筒下層b式	H20-6	Ιb	H20床面6	3		3	住居床面	繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。地紋はLRL縄横回転。底部際はR縄単軸絡条体第1類縦回転。上げ底で無文。磨滅している。底径12cm。
図Ⅲ-2-9	H21	12	焼成粘土塊	H21-1	Ιb	H21覆土東側上半259	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。 口径23cm。底径9cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口線側は横、胴部側は縦。
図Ⅲ-2-9	H21	13	円筒下層d1式	H21-14	Iв	H21覆土東側上半162 H21覆土東側上半163	7 6	2	15	住居覆土 住居覆土	一陸帯で口縁部を区画。その上にはヘラによる右方向への押し引き。区画には上縄線2本一組を3段ほど。幅は2cm。R縄で、自縄自巻を縦走。
						H21覆土東側上半162	4			住居覆土	口径25cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側横、胴部縦。L縄とR縄2本一組
図Ⅲ-2-9	H21	14	円筒下層d1式	H21-13	II b	H21覆土東側上半163	8		12	住居覆土	によって口縁部を区画。口唇にも施す。区画内は結束第一種羽状縄文。区画直下にも 同様。幅は4cmと1.5cm。R縄で2本ー組の単軸絡条体第1類を縦回転。
図Ⅲ-2-9	H21	15	円筒下層d1式	H21-8	II ь	H21覆土東側壁82	1		18	住居覆土	口径16cm。繊維・砂含む。内面横ミガキ。L縄とR縄2本一組によって口縁部を区画。 区画内は2段の結節回転。幅は2cm。L縄で単軸絡条体第1類を縦回転。
図Ⅲ-2-9	H21	16	円筒下層d1式	H21-17	II Ь	H21覆土上部東側158	6		6	住居覆土	底径10cm。繊維・砂含む。海綿骨針少量含む。内面縦ミガキ。地紋は、R縄で、自縄 自巻を縦走。微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-9	H21	17	円筒下層d1式	H21-11	Πb	H21覆土東側上半162 H21覆土東側上半163	7		8	住居覆土	口径23cm、繊維・海綿膏針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胸部側は縦。口縁部区 画には、縄線を6段、幅は3cm。R縄で、自縄自巻を縦走。区画直下および帯状に結束 第一種羽状線女を2段・組で施す。
図Ⅲ-2-9	H21	18	円筒下層d1式	H21-4	II b	H21覆土東側壁83	2		2	住居覆土	70 12・70 VMA/C-LVA MILCINET 3 M
図Ⅲ-2-9	H21	19	円筒下層c式	H21-3	II b	H21覆土東側壁83	4		4	住居覆土	口径19cm、繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口線側は模、胴部側は縦。肩部によって区面する。L繩とR縄2本一組によって直線構成の文様。幅は4.5cm。地紋はRLとRR 縄による合脈
図Ⅲ-2-9	H21	20	円筒下層d1式	H21-5	II Ь	H21覆土東側下位113 H21覆土東側上位163	2		3	住居覆土 住居覆土	口径18cm。繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。 口縁部の区画は磨滅して不明瞭。幅は2cm。R縄で、自縄自巻を縦走。
						H21覆土9層33 H21覆土上位ベルト37	2	2		住居覆土住居覆土	口径20cm。砂含む。内面縦ミガキ。磨滅。L縄とR縄2本一組の矢羽根状縄線を口縁 部の区画と口唇に施す。区画内とその直下には結束第一種羽状縄文を施す。幅はそれぞれ2cm。地紋は、R縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-10	H21	21	円筒下層di式	H21-22	II b	H21覆土下位ベルト35 H21覆土東側下半113 H21覆土7層30 H21東西トレンチ西側136 H21覆土西側64	14	5 33 1 3	61	住居覆土住居覆土住居覆土住居覆土住居覆土住居覆土	繊維・海綿骨針・白色砂含む。
図Ⅲ-2-10	H21	23/ 24/ 25	焼成粘土塊	H21-26	Ιb	H21覆土東側下半113	4		4	住居覆土	THE PROPERTY OF THE PROPERTY O

図版番号	遺構 番号	掲載番号	型式名称	拓本 整理 番号	分類 (群と類 を略)	層位	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計点数	区分	特徵
						H21東西トレンチ東側270 H21覆土上部東側158	11	4	54	住居覆土 住居覆土	口径20cm。繊維・砂含む。海綿骨針少量含む。内面縦ミガキ。口縁横、胴部縦方向。 薄い肩部によって口縁部を区画。肩の直情には円形刺突が連続する。区画内には上縄
			四位工程 14 4		<b>.</b>	H21覆土工部来则136	2	14		住居覆土	- 線により菱形を基調とした直線構成の文様。所々縦方向の区画。幅は3cm。R縄単軸 - 絡条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-10	HZI	26	円筒下層d1式	H21-16	IIЬ	H21覆土上部中央157		5		住居覆土	- THE STATE OF THE
						H21覆土上部東側162 H21Aトレンチ269		8		住居覆土 住居覆土	-
						H21覆土7層30	13	59	117	住居覆土	繊維・砂含む。磨滅著しい。内面ミガキ。地紋はR縄単軸絡条体第1類を縦回転。帯状
図Ⅲ-2-10	H21	27	円筒下層d1式	H21-15	Iв	H21覆土上位ベルト36	14	29		住居覆土	↑に結束第一種羽状縄文が施される。肩部によって区切られた口縁部文様帯は磨滅によ →り施文等不明。底部は上げ底でミガキにより無文。
						H21覆土東側下位113 H21覆土7層28		1		住居覆土 住居覆土	-
⊠ш о 10	1101		円筒下層d1式古段階	1101 00	<b></b>	H21覆土東側下半177	20	8	29	住居覆土	口径22cm。底径11cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口線側は横。胴部は縦。
図Ⅲ-2-10	H21	28	古	H21-23	II b	H21東西トレンチ東側270	1			住居覆土	一ゆるい肩によって口縁部を区画する。口縁部区画内は直前段反撚りRRL縄文。地紋は LR縄単軸絡条体第1類縦回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。
図Ⅲ-2-11	H21	29	円筒下層b式	H21-25	Iв	H21覆土下位ベルト35	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。R縄単軸絡条体第1類縦回転。縁辺を調整。再 生土製品。
図Ⅲ-2-11	H21	30	円筒下層b2~c式	H21-7	II Ь	H21覆土7層上部北側297	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。R単軸絡条体第1類縦回転。ほぼ中央に穿孔。 縁辺円形に打ち欠きと擦り切りによって成形。
図Ⅲ-2-11	H21	31	円筒下層d1式	H21-21	II ь	H21覆土上部南側159	6		6	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。地紋は、自縄自巻を縦走。口縁部に結束第一種 羽状縄文、幅3cm。
						H21覆土下位ベルト35	4	8	58	住居覆土	口径21cm。底径11cm。砂含む。内面ミガキ。磨滅著しい。口縁部区画内はL縄とR縄
図Ⅲ-2-11	H21	32	円筒下層d1式	H21-2	Iв	H21覆土9層32	18	19		住居覆土	一の矢羽根状にした2本一組によって直線構成の文様。地紋はL縄単軸絡条体第1類縦回 一転。微妙な上げ底でミガキにより無文。
図Ⅲ-2-11	H21	33	円筒下層d1式	H21-27	Πb	H21覆土Aトレンチ269 H21覆土7層上部中央157	42	138	180	住居覆土	口径15cm,底径12cm。器高33cm。繊維・白色砂含む。内面ミガキ。口線側は横、胴部側は縦、口線部区画内は上縄と尺縄2本一組によって直線構成の文様。地紋はR縄単軸総条体第1頻縦回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。多段の帯状に結束第一程羽状策之、
図Ⅲ-2-11	H21	34	円筒下層d1式	H21-24	Ιb	H21覆土上位ベルト178	3		3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。RL縄文を縦走。微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-11	H21	35	円筒下層d1式	H21-18	II b	H21覆土上部南側159	5		5	住居覆土	胴回り36cm。繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。単軸絡条体第1類縦回転。磨滅により撚りは不明。
						H21覆土9層 28	4	10	33	住居覆土	口径20cm。繊維·海綿骨針含む。内面ミガキ。隆帯によって口縁部を区画。区画内は
図Ⅲ-2-12	H21	36	円筒下層b式	H21-9	Iв	H21覆土西側160 H21覆土9層 29	3	12		住居覆土 住居覆土	一胴部地紋と連続するLRL縄横回転。幅は5.5cm。 - -
図Ⅲ-2-12	H21	37	円筒下層d1式	H21-19	Пb	H21Aトレンチ269	2	12	2	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。帯状に結束第一種羽 状縄文。
図Ⅲ-2-12	H21	38	円筒下層d1式	H21-10	Iв	H21覆土西側156	14	14	28	住居覆土	口径20cm。繊維·海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。磨滅。口縁部区画には結束第 一種羽状縄文を2段。幅は4cm。R縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-12	H21	39	円筒下層d1式	H21-20	Ιb	H21Aトレンチ269	1		1	住居覆土	繊維・白色砂含む。内面ミガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-12	H21	40	円筒下層c式	H21-6	Ιb	H21床面2	1		1	住居床面	口径17cm。繊維·海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。口縁部の区画はLR縄線 2本一組を多段。
図Ⅲ-2-13	H22	3	円筒下層b式	H22-1	Пb	H22覆土6-8	1	1	4	住居覆土	LATMUC PRO RLL 単軸絡条体第1類縦回転LR結節2段帯状
図Ⅲ-2-13	H22	4	円筒下層d1式	H22-3	II b	H22覆土E10 H22覆土W11	2	2	2	住居覆土	R縄で、自縄自巻を縦走。口縁部にはLとR縄で矢羽根状の単軸絡条体を横回転。そ
図Ⅲ-2-13	H22	5	円筒下層b式	H22-2	II b	H22覆土W11	1		1	住居覆土	の直下に結束第一種羽状縄文。   R縄単軸絡条体第1類縦回転その上から単軸絡条体第5類を帯状に施す。
図Ⅲ-2-13	H22	6	円筒下層d1式	H22-4	Ιb	H22HP-2覆土87	1		1	住居覆土	R縄で、自縄自巻を縦走。加えて結束第一種羽状縄文
図Ⅲ-2-15	H23	7	円筒下層d1式	H23-8	II Ь	H23覆土1	3		3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁~胴上半横。下は縦。LとR縄による矢羽根状 繊維紀辞と口線部に施し直下にはL縄か結節を2段施す。幅はそれぞれ1cmと1.5cm。地 数は反撚りLLR縄を横回転。
図Ⅲ-2-15	H23	8	円筒下層d1式	H23-9	Πb	H23覆土2	1		1	住居覆土	繊維、海綿骨針含む。内面ミガキ。 口縁〜胴上半横。下は縦。L縄線7段ほどを口縁 部に施し、同一縄線で縦区画も施す。幅は1.5cmほど。地紋はR縄単軸絡条体第1類を 縦回転。
図Ⅲ-2-15		9	円筒下層d1式	H23-2	Ιb	H23覆土3	3		3	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。R縄で、自縄自巻を縦走。 繊維・白色砂含む。
凶皿-2-15	HZ3	10	焼成粘土塊	H23-15	II b	H23覆土トレンチ87④ H23覆土1	3	7	28	住居覆土 住居覆土	機維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁~胴上部は横。胴下部は縦。結束第一種羽
						H23覆土71	4	3		住居覆土	大縄文2段を口縁部に施す。幅は3cm。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-15	H23	11	円筒下層d1式	H23-12	Ιb	H23覆土2 H23覆土トレンチ72		8		住居覆土 住居覆土	_
						H23復土10フテ72 H23覆土227		1		住居覆土	-
						H23覆土191		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-15	H23	12	円筒下層d2式	H23-1	Πb	H23覆土3	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。小石少量含む。内面ミガキ。 口縁~胴上半横。波頂部に対応 して穿孔あり。 L縄線で直線構成の文様を口縁部に施す。幅は3cmlまど。地紋はL縄単 軸絡条体第1 類を縦回転。
図Ⅲ-2-15	H23	13	円筒下層d2式	H23-3	II b	H23覆土3	5		5	住居覆土	底径8cm。内面ミガキ。縦方向。繊維・海綿骨針含む。L縄で、単軸絡条体第4類を縦回転。 微妙な上げ底でミガキにより無文。
ल्याम ० ४-	LICO		田等工屋 :: -	LI00 10	<b></b>	H23覆土4	4		9	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。R縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-15	H23	14	円筒下層d1式	H23-10	Iв	H23覆土トレンチ72 H23覆土トレンチ86	1	3		住居覆土 住居覆土	-
図Ⅲ-2-15	H23	15	円筒下層d1式	H23-5	II b	H23覆土228	2		2	住居覆土	口径20cm。内面ミガキ。口線横、胴部縦方向。繊維含む。口線にはL縄線3本を施す。 区画直下にはお結節を回転。幅はそれぞれ1cmと1cm。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。 下に羽状織文か。
図Ⅲ-2-15	H23	16	円筒下層d1式	H23-11	II b	H23覆土4	14		16	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。胴は縦。L縄線による山形文を口縁部に - 施し直下にはL縄か結束第一種羽状縄文を施す。幅はそれぞれ3cmと1cm。山形文は双
						H23覆土トレンチ86	2			住居覆土	頭の波頂部に対応する。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-15		17		H23-7	Ιb	H23覆土229	1		1	住居覆土	砂粒含む。内面ミガキ。地紋はR縄圧痕を微隆起線の間に連続。 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はL縄で、単軸絡条体第1類を縦回転。再生
図Ⅲ-2-15	H23	18	円筒下層b式	H23-13	Πb	H23覆土129 H23覆土229	2		3	住居覆土	土製品。 口径28cm。内面ミガキ。口縁横、胴部縦方向。繊維・海綿骨針・砂粒含む。隆帯で口
図Ⅲ-2-15	H23	19	円筒下層d1式	H23-4	Ιь	H23覆土255	1			住居覆土	縁部を区画し、口縁には紅縄線3本を施す。区画直下には結束第一種羽状縄文幅はそれぞれ2.5cmと1.5cm。地紋はL縄で、単軸絡条体第1類を縦回転。4cm間隔で結束第一種羽状縄文。 戸暦にR縄文。結束と同一原体か。
図Ⅲ-2-15	H23	20	—————————————————————————————————————	H23-6	Ιь	H23覆土256	11		12	住居覆土	底径10cm。内面ミガキ。口縁横、胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。地紋はL縄で、
_						H23覆土227	1		-	住居覆土	■軸絡条体第1類を縦回転。微妙な上げ底で、ミガキにより無文。 繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。結束第一種羽状縄
図Ⅲ-2-15	H23	21	円筒下層d1式	H23-14	II b	H23HP2覆土259	1		1	付属遺構覆土	文と組み合う。 内面ミガキ。口唇にL縄圧痕。隆帯上にL縄線。 突起の上面観三角形。
図Ⅲ-2-16		1	サイベ沢Ⅷ式	H24-5	III a	H24床面32	1		1	住居床面	繊維・砂含む。隆帯上に上縄線。 突起の上面観三角形。隆帯上に指頭圧痕。LR縄結
図Ⅲ-2-16		3	サイベ沢VII式 サイベ沢VII式	H24-6 H24-7	IIa IIa	H24覆土2層98 H24覆土2層98	1		1	住居覆土	一般に表現る。 一般に表現る。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一述。 「一
図Ⅲ-2-16		4	サイベ沢WI式	H24-9	Ша	H24覆土2層98	2		2	住居覆土	海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。 RL縄結節あり。
図Ⅲ-2-16 図Ⅲ-2-16	H24	5	円筒上層d式	H24-4	Iв	H24覆土1層176 H24覆土2層148	1	1	3	住居覆土 住居覆土	砂含む。内面ミガキ。地紋はL縄で、隆帯上にL縄線。地紋はRL縄横回転。
1101 TZ 1101		6	サイベ沢Ⅷ式	H24-8	Ша	H24復工2層148 H24覆土2層98	1		1	住居覆土	海綿骨針微量含む。内面ミガキ。沈線文。結束第二種羽状縄文地紋か。

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本 整理 番号	分類 (群と類 を略)	層位	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計点数	区分	特徵
図Ⅲ-2-16						H24覆土2層147	4	5	19	住居覆土	白色小石含む。内面ミガキ調整。LR縄文横走。沈線と刺突によって加飾。隆帯上、 Rample 刺染剤
図Ⅲ-2-16	H24	7	大安在B式	H24-10	Шь	H24覆土2層134 H24覆土1層176	2	4		住居覆土 住居覆土	区画内に刺突列。
図Ⅲ-2-16	H24a	8	円筒下層d1式	H24-2	Iь	H24覆土2層98	9		10	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。底径11cm。内面ミガキ。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。微妙 な上げ底。ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-16						H24覆土2層148	1			住居覆土	は上り底。ミガヤにより無义。 は継・砂含む。海綿骨針少量含む。底径13cm。内面ミガキ。地紋はR縄で、自縄自巻
図Ⅲ-2-16		9	円筒下層d1式	H24-3	Iв	H24覆土2層98	1		1	住居覆土	を回転。上げ底。ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-16	H24	10	円筒下層b式~下層c式	H24-11	Iв	H24覆土2層98 H24覆土2層98	2		3	住居覆土 住居覆土	海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。 底面地紋直前段反撚りLLR縄。微妙な上げ底。 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はL縄単軸絡条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-16	H24	11	円筒下層b式	H24-1	Ιb	H24床面34	1			住居床面	THE THE PARTY OF T
図Ⅲ-2-17	H25	2	円筒下層c式	H25-1	Iв	H25覆土2層86	5		6	住居覆土	口径36cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。胴部は縦。隆帯によって 口縁部を区画。区画内にはL縄側面圧痕の連続により鋸歯状の文様が施される。幅5cm。
2 II	1120	_	1 110 1 16 020	1120 1	10	H25覆土1層88	1			住居覆土	地紋は直前段反撚りRRL縄文。
図Ⅲ-2-17	H25	3	円筒下層c式	H25-2	Iв	H25覆土1層88	3		3	住居覆土	口径15cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。肩部によって口縁部を区画。 区画内にはRL縄線により菱形基調直線構成の文様。幅4cm。地紋はRL縄文縦回転。
図Ⅲ-2-17	H25	4	円筒下層c式	H25-3	Ιb	H25覆土1層89	2		2	住居覆土	口径24cm。繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。磨滅著しい。口縁部には直前段反撚りRRL縄文を横走させる。その上にR縄とL縄2本一組による縄線施文。
図Ⅲ-2-17	H25	5	サイベ沢Ⅷ式	H25-9	Ша	H25覆土1層85	1		1	住居覆土	砂含む。内面ミガキ。隆帯上にはRL縄線。
図Ⅲ-2-17	H25	6	円筒下層c式	H25-4	Iв	H25覆土2層86	21	6	27	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。地紋は直前段反撚りRRL縄文。H25-1と同一個体の可能性高い。
図Ⅲ-2-17	H25	7	円筒下層b式~下層c式	H25-5	Ιь	H25覆土2層87	2		2	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はRLR縄文縦走。再生土製品。ほぼ円形で
											中央に穿孔。 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はRLR縄文縦走。再生土製品。ほぼ円形で
図Ⅲ-2-17	H25	8	円筒下層b式	H25-6	Iв	H25HP2覆土1層1	2		2	付属遺構覆土	中央に穿孔。
図Ⅲ-2-17	H25	9	円筒下層d1式又はか Ⅲ群a類土器	H25-8	Ιb	H25HF-1覆土3層28	1		1	石囲い炉の石の   掘り方中	砂含む。磨滅著しい。Ⅱbとしたが形状から円筒下層d1式の特殊器形かⅢaの小型深 鉢の可能性がある。底径6cmで平底無文。
図Ⅲ-2-17	H25	10	円筒下層d1式	H25-7	Iв	H25床面18	1		1	住居床面	繊維含む。内面ミガキ。口縁部文様帯には3本のR縄線。口縁部直下にはR縄の結束
		$\vdash$									回転。それぞれ幅1cm。R縄単軸絡条体第1類縦回転。磨滅著しい。 繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。L縄線2本一組と草本の断面のようなヘラ先での
図Ⅲ-2-21	H27	3	円筒上層a式	H27-5	Шa	H27覆土2層111	1		1	住居覆土	刺突列で文様構成。
図Ⅲ-2-21	H27	4	円筒下層d1式最古 (c式に近い)	H27-2	II ь	H27覆土2層111	3		3	住居覆土	旧径12cm。繊維・海絡骨針含む。内面ミガキ。 反り返る口縁で口縁上半横ミガキ、その下は縦ミガキ。 隆帯によって口縁部を区画する。 隆帯上には刺突列。 隆帯直上直下 および口唇部に紅縄線。 口唇にはなぶ。 区画内は結束第一種羽状網文。 その幅4cm。
図Ⅲ-2-21	H27	5	焼成粘土塊	H27-6	Ιb	H27覆土1層161	1		1	住居覆土	砂粒含む。
図皿-2-21	H27	6	円筒下層b2式新段階	H27-3	Iв	H27覆土2層160	23		23	住居覆土	繊維と少量の海綿骨針含む。内面ミガキ。隆帯で、口縁部を区画し、隆帯上には円形 刺突列。口縁部にはLR縄横回転。幅6cm。胴部には細いR縄単軸絡条体第1類を斜め
図Ⅲ-2-21	H27	7	円筒下層c式	H27-4	Ιb	H27覆土2層111	5		5	住居覆土	回転。全体的に磨滅して不明瞭。 繊維と少量の海綿骨針含む。内面5ガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。摺り切りにより割っ た可能性がある。全体的に磨滅して不明瞭。
図Ⅲ-2-21	H27	8	円筒下層d1式	H27-1	Ιb	H27覆土1層163	5		5	住居覆土	口径25cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。結束第一種羽状縄文2段で口縁部文様 帯を構成、その幅2cm。多段の帯も同羽状縄文で、5cm間隔。地紋はL縄の単軸絡条 体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-22	H28	3	焼成粘土塊	H28 -7	Ιb	H28覆土1層139	1		1	住居覆土	繊維・砂含む。
図Ⅲ-2-22	H28	4	円筒下層c式	H28-9	Ιь	H28床面80	17	7	26	住居床面	口径23cm。底径9cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横方向、胴部縦方向。 緩やかな肩部で口縁部を区画。区画内は直前段反撚りRRL縄横回転。幅2.5cm。地紋
M 2 22	1120	_	1101116020	1120 3	10	H28床面94		2		住居床面	はR縄単軸絡条体第1類縦回転。上げ底でミガキにより無文。
図Ⅲ-2-22	H28	5	円筒下層b2式新段階	H28 -6	Iв	H28覆土1層129 H28覆土1層139	13	1	19	住居覆土 住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。LRL縄縦走。微妙な上げ底でミガキ無文。 
図Ⅲ-2-22	H28	6	円筒下層b2式新段階	H28-5	Ιь	H28覆土1層129	8	1	13	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄多軸絡条体縦回転。微妙な上げ底でミガキ無文。
Мш 2 22	1120	l o	门间下滑02式剃段阻	1120 3	по	H28覆土1層130	4			住居覆土	
図Ⅲ-2-22	H28	7	円筒下層d1式	H28-2	Iв	H28覆土3層201	18		18	住居覆土	底径は18cm。繊維・白色砂含む。海綿骨針微量含む。内面縦方向にミガキ。L縄単軸 絡条体第1類縦回転。微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-22	H28	8	東釧路Ⅳ式	H28-8 H28-4	Ib	H28覆土2層137	1		1	住居覆土 住居覆土	砂含む(輝石混じりか)。内面ミガキ。L縄とR縄の回転と微隆起組み合わせる。 繊維・砂含む。内面ミガキ。LR縄線。円形連続刺突。
図Ⅲ-2-22		10	円筒下層d1式 円筒下層b式から下層c式	H28-3	II b	H28覆土3層161 H28覆土1層129	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。微妙な上げ底で磨滅する。
図Ⅲ-2-22	H28	11	円筒下層c式	H28-1	Iь	H28覆土3層161	2	3	5	住居覆土	口径は22cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。肩部によって口縁部を区画。肩部には 右に引き抜く連続刺突。区画内はL縄線3本。地紋はL縄で、単軸絡条体第1類を斜め回転。
						H29覆土上位8	24	11	38	住居覆土	繊維含む。海綿骨針微量含む。内面はミガキ調整で、口縁部は横、胴部は縦である。
図Ⅲ-2-26	H29	14	円筒下層d1式古段階 新	H29-4	Ιb	H29覆土下位21		1 2		住居覆土 住居覆土	「口縁部文様帯はL縄線6本による曲線構成の文様が施される。幅1.5cmである。地紋は、 「R縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-26	H29	15	円筒下層d1式	H29-20	Iв	H29覆トレンチ62S243 H29覆土上位32	15	1	16	住居覆土	底径9cm。繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。胴部にはR縄で自縄自巻を縦走。
M 2 20	П29	13		1129 20	по		13		10		底面は微妙な上げ底で、ミガキにより無文。 内面縦ミガキ。繊維・海綿骨針含む。R縄単軸絡条体第一種縦回転。底部は上げ底で、、
図Ⅲ-2-26	H29	16	円筒下層d1式	H29-2	Ιb	H29覆土上位7	3	3	6	住居覆土	胴部と同じ原体を回転。
図Ⅲ-2-27	H29	17	円筒下層d1式古段階 新	H29-3	Ιb	H29覆土上位9	12		12	住居覆土	H29南トレンチ63S242が一点同一個体力、繊維、海綿骨針含む。内面は志が主調整口線部 上半は横ミガキ、下半以下は縦ミガキ。口線部な技帯には、結束第一種羽状縄変でIom幅 で施す。区画直下にはIom幅で、結束第一種羽状縄文で口線都と逆向き。尺端で、自縛自 巻を縦走。結束第一種羽状縄文をおよそ4cm間隔で区画直下を含めて6段ほど帯状に施す。
図Ⅲ-2-27	H29	18	円筒下層d1式	H29-19	Ιb	H29覆土上位32	9	3	12	住居覆土	旧径16cm、繊維・海綿骨針・白色砂含さ。内面をガナ。口線横、開部縦。上縄足R縄の 羽状縄線で口線部を区画。同郷を口唇部にも施す。区画には結束第一種羽状縄文。 その直下にも結束羽状縄文第一種を施す。それぞれの幅2cm。同羽状縄文により多段 の帯を4cm間隔。胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。
Шш 2 6-	1.100	1.	四位工品 ::	1,100.0	<b>.</b>	MT3 63S7口縁部側	1		2	盛土	口径8cm、底径5cm。繊維・海綿骨針・砂粒含む。内面ミガキ。口縁~胴上部横、胴下部縦。 一部に胴部と同じR縄単軸絡条体第1類。LR縄線で2~3本で口縁部文様帯。その幅0.7cm。
図Ⅲ-2-27	H29	19	円筒下層d1式	H29-8	Ib	H29覆トレンチ62S243	1			住居覆土	ロ唇にはRL縄側面圧痕。胴部にはR縄単軸絡条体第1類縦回転。台付き上げ底。ミガキ により無文。
図Ⅲ-2-27	H29	20	円筒下層d1式	H29-7	Ιb	H29覆トレンチ62S242	2		2	住居覆土	1-6-7m 10種14cm. 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横、胴部縦。R縄線で口縁部を区画。 同鵝線2~3本を区画に施す。その幅1.5cm。口唇にはRL縄文回転。胴部にはR縄で、 自織自巻を縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	21	円筒下層d1式	H29-12	Iв	H29覆土338	8	8	16	住居覆土	口径22cm。繊維と微量の海綿骨針含む。内面ミガキ。L縄とR縄の羽状縄線で口縁部
図Ⅲ-2-27		22	円筒下層d1式	H29-11	II b	H29覆土上位288	1		1	住居覆土	を区画。同純線二組を区画に施す。その幅2cm。開部にはR4概で、自縄自巻を模走。 口径18cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口緑横、胴部縦。L4機とR4側の羽状細 線で口線部を区画。同純線四組を区画に施す。その直下には結束羽状縄文第一種を 施す。それぞれの幅1.5cm。同羽状縄文により多段の帯を4cm間隔。胴部にはR4種で、 自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	23	円筒下層d1式	H29-13	Ιb	H29覆土上位135	10	9	19	住居覆土	口径23cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横、胴部縦。上縄線で口線部を区 画。同繊線で菱形と縦区画を基調とする直線構成の文様を施す。その直下には結束羽 状線文第一程を施す。それぞれの幅25cmと1.5cm。同羽状縄文により多段の帯を5cm間 隔。胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	24	円筒下層d2式	H29-10	Ιb	H29覆土上位284	3		3	住居覆土	口径24cm。繊維・白色砂含む。内面横ミガキ。肩部で口縁部を区画し、そこには円形刺突が連続する。RL縄線を区画に施す。その幅4cm。胴部はLR縄の多軸絡条体縦回転。
					Iв	H29覆土下位16	2		5	住居覆土	H29-26(復元番号298)と共伴。口径13cm、内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。R縄線
図Ⅲ-2-28	H29	27	円筒下層d1式古段階 古	H29-1	Ιb	H29覆土下位17	3		5	住居覆土	- による直線構成の口縁部文様帯。幅1.3cm。区画直下には結束第一種羽状縄文。幅1.2 cm。R縄単軸絡条体第一種縦回転。帯状に結束第一種羽状縄文が3cm間隔で施される。
図Ⅲ-2-31	H29	30	円筒下層d1式古段階 古	H29-6	Ιь	H29覆土下位20	17		18	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面調整は口線部横ミガキ、胴部縦ミガキ。 L縄線により直線構成・の文様。菱形を基調とする。 L縄線3本により縦方向の区画を持つ。幅3km。 地紋はL縄単
ıсı ш−Z−3 I	1129	30	1.10111月111月11月11月11日	1125-0	по	H29覆土337		1		住居覆土	一の文体。変形を基調とする。 に網線3本により報力同の区画を持つ。幅35回。地級は12編単 軸絡条体第1類を縦回転。結束第一種羽状縄文を4cm間隔で5段施す。区画直下にはない。

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本 整理 番号	分類 (群と類 を略)	層位	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計点数	区分	特徵
	الموال		田筒下屋パチ			H29覆土上位31	1	1	24	住居覆土住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部にはR縄の自縄自巻を縦走。帯状にRL縄の 結節を2段横回転させる。
図Ⅲ-2-31	H29	39	円筒下層d1式	H29-15	IЬ	H29覆土下位19 H29覆土最下位38		23		住居覆土	-
						H29覆土下位23	18		25	住居覆土	口径28cm。繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。口緑横、胴部縦。L縄とR縄の
☑ Ⅲ-2-31	H29	40	円筒下層d1式古段階 古	H29-16	IΙb	H29覆土下位25	7		20	住居覆土	羽状縄線で口線部を区画。同縄を口唇部にも施す。区画には結束第一種羽状縄文。 その直下にも結束羽状縄文第一種を施す。それぞれの幅2cm。同羽状縄文により多段 の帯を4cm間隔。胴部には大縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-31	H29	41	円筒下層d1式	H29-14	Ιb	H29覆土最下位39	7	3	10	住居覆土	底径10cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。下半には煤付着。L縄の単軸絡条体第
図Ⅲ-2-31	H29	42	円筒下層d1式	H29-9	Ιb	H29HP-12覆土359	1		1	付属遺構覆土	1類縦回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。 繊維・海綿骨針と少量の小石含む。内面ミガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。
E I E O I	1120	72	171517/10120		10	1120111 12後上000					内面ミガキ。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。胴部にはR縄の自縄自巻を縦走。縁
図Ⅲ-2-31	H29	44	円筒下層d1式	H29-18	IΙb	H29覆土上位135	6		6	住居覆土	辺は接り切りにより短冊状に全体を成形する。 被熱。 4546のほかに磨滅著しいが同じ 遠物番号のものが5点接合し、同様のものとなった。 内面ミガキ。 口線横、胴部縦方向。 繊維・海綿骨針含む。 口径は24cm。 口線部にはし
図Ⅲ-2-31	H29	45	円筒下層d1式	H29-17	Ιb	H29覆土上位158	2		2	住居覆土	機とR縄で矢羽根状にした繊維を4段施す。胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。縁辺は 擦り切りにより短冊状に全体を成形する。被熱。 内面ごガキ。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-31	H29	46	円筒下層d1式	H29-21	Ιb	H29覆土上位135	1		1	住居覆土	縁辺は擦り切りにより短冊状に全体を成形する。被熱。
図Ⅲ-2-31	H29	47	円筒下層b式	H29-23	Ιb	H29覆土179	1		1	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。R縄単軸絡条体第1類縦回転。 内面ミガキ。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。R縄単軸絡条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-31	H29	48	円筒下層b式	H29-22	II b	H29覆土179	1		1	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。結束第一種羽状縄文とR縄で、自縄
図Ⅲ-2-31	H29	49	円筒下層d1式	H29-24	II b	H29覆土179	1		1	住居覆土	自巻を縦走。
図Ⅲ-2-31	H29	50	焼成粘土塊	H29-25	Ιb	H29覆土上158②	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。竹管曲面による押し引きの痕跡あり。3.2×2.2×1.3cm 繊維・海綿骨針含む。磨滅著しい。内面ミガキ。R縄痕跡が表面に残る。縁辺を丸く打
図Ⅲ-2-32	H30	1	円筒下層b式	H30-1	Ιb	H30床面40	1		1	住居床面	ち欠いており、再生土製品の可能性がある。
図Ⅲ-2-32	H31	1	円筒上層d式	H31-1	III a	H31覆土1層50	1	2	3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面横ミガキ。R縄文施文後隆帯貼り付け、隆帯上R縄側面圧痕。
図III-2-32 図III-2-32	H31	3	円筒上層d式 円筒下層d2式	H31-2 H31-5	IIIa IIb	H31覆土1層75 H31覆土1層75	1		1	住居覆土住居覆土	繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。微妙な上げ底。網代の上からミガキか。 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-32	H31	4	円筒下層d2式 円筒下層d1式	H31-3	Ib	H31復工1層75	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面横5ガキ。L縄とR縄2本一組で複数段の縄線を施す。
図Ⅲ-2-32	H31	5	円筒下層d1式	H31-4	Ιb	H31覆土1層75	6		6	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。結束第一種羽状縄文を
			円筒下層b式					3		住居覆土	帯状に施す。 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縄文横回転。上げ底で底面もRL縄文回転。
図Ⅲ-2-32	H31	6		H31-6	Iв	H31覆土1層42	1	3	4		繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。RLR縄文縦走。上げ底で底面もRLR縄文
図Ⅲ-2-32	H31	7	円筒下層b式	H31-7	Ιb	H32床面17	3		3	住居覆土	回転。
図Ⅲ-2-32	H32	1	円筒下層b1式	H32-1	Ιb	H32床面6	1		1	住居床面	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。直前段合撚RLR縄RRL縄横回転斜行。 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。LR縄文横回転。
図Ⅲ-2-32	H32	3	円筒下層b式 円筒下層b式	H32-2 H32-3	Ib Ib	H32床面5 H32HF-1覆土1層13	1		1	住居床面 付属遺構覆土	機維・海綿骨針含む。内面ミガキ。L裸単軸絡条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-32	H33	1	円筒下層b式	H33-1	Ib	H33覆土1層50	2		2	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縄文縦走。
図Ⅲ-2-32	H33	2	円筒下層b式	H33-2	Ιb	H33HF-1覆土3層28	1		1	付属遺構覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。表面磨滅により不明。器壁の薄さとミガキの丁寧さ
図Ⅲ-2-32	H33	3	円筒下層b式	H33-3	Ιb	H33床面16	1		1	住居床面	から下cの可能性あり。 繊維 海綿骨針含む。内面ミガキ。上げ底。地紋はR縄単軸絡条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-33	H34	4	円筒下層d1式	H34-2	Iв	H34覆土2層6	67	169	237	住居覆土	底径14cm。繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。サルボウ条痕を横走させた後、L縄で、 - 撚りのたった単軸絡条体第1類を縦回転か、自縄自巻を縦走。微妙な上げ底で、ミガ
						H34覆土西側91	_	1	450	住居覆土	キにより無文。
図Ⅲ-2-33	H34	5	円筒下層d1式新段階	H34-1	Ιb	H34覆土2層1 H34覆土1層2	16	69 36	153	住居覆土住居覆土	口径34cm、底径20cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部横方向、胴部縦方向。 口縁部文様帯を肩部で区画。L縄線による直線構成の文様。幅2.5cm。サルボウによる
E E E	1104	ľ	11011/2012(3)(2)(2)	1104 1	15	H34覆土西側91	2	24		住居覆土	」水平方向の条痕施文後、胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-34	H35	3	円筒下層b2 ~c式	H35-3	Ιb	H35床面2	1		1	住居床面	内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、R単軸絡条体第1類縦回転。再生土製品穿孔。
図Ⅲ-2-34	H35	4	円筒下層b式	H35-4	Πb	H35覆土西側57	1		1	住居覆土	内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、RL縄回転。再生土製品穿孔未完。 内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、RL縄回転。上げ底で、LR縄回転。再生
図Ⅲ-2-34	H35	5	円筒下層c式	H35-5	Ιb	H35覆土北側52	1		1	住居覆土	内国にルチンの機能・海豚育町音む。地数は、RL機凹転。上げ店で、LR機凹転。丹土  土製品穿孔未完。  底径750m。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地数は、LR縄横回転。上げ底で、LR
図Ⅲ-2-34	H35	6	円筒下層b2~c式	H35-2	Ιb	H35覆土1層下位22 H35覆土1層下位18	14		14 6	住居覆土住居覆土	縄回転。 底径6.5cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、RL縄で単軸絡条体第1類を縦
図Ⅲ-2-34	H35	7	円筒下層b2 ~c式	H35-1	Iв	H35覆土西側57	2			住居覆土	一〜斜め回転。上げ底で、LR縄回転。
						H35覆土1層下20	7		25	住居覆土	底径10cm。繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。胴部にはRLR縄を横走。斜 一行縄文。底面は上げ底で、胴部と同一原体を回転か。
						H35覆土1層下19	9	2		住居覆土	11 MRYS BRIDGET 1/ BR C MATHERIN WAS ENTRY S
図Ⅲ-2-34	LISE	8	円筒下層b2 ~c式	H35-6	Πь	H35覆土北側52 M1 63S14		2		住居覆土 盛土	-
⊠ш-2-34	поо	l°	口同下層DZ ~C式	H35-0	пр	MT10 63S14		1		盛土	
						MT11 63S27		1		盛土	-
						MT12 63S36		1		盛土	
図Ⅲ-2-35	H36	3	円筒下層b2 ~c式	H36-3	IБ	H36覆土西側59	15	21	36	住居覆土	口径18cm、繊維・海絡骨針含む。内面ミガキ。口縁部横方向、胴部総方向。口縁部 文様帯を肩部で区画。サルボウによる水平方向の条痕施文。幅5cm。胴部にはRL織 で単軸絡条体斜め回転。
図Ⅲ-2-35	H36	4	円筒下層b2 ~c式	H36-1	Ιb	H36覆土4層西側106	15	3	21	住居覆土	繊維・砂含む。内面縦ミガキ。地紋はR縄の単軸絡条体第1類を縦回転。穿孔あり。上  げ底で底面にLR縄回転。
	. 100	Ľ				H36覆土西側トレンチ151	1	2		住居覆土	
図Ⅲ-2-36	H36	7	円筒下層d1式	H36-7	II Ь	H36覆土東側57	5	13	18	住居覆土	底径[Oom, 繊維 海綿骨針含む。内面ミガキ、胸部にはは縄で、撚りのたった単軸絡条 体第 開落機回転か、自織自巻を縦走。多段の帯状にLR縄の結節を施すと思われる。 底面は微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-36	H36	8	円筒下層b2式	H36-6	Ιb	H36覆土西側76	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針合む。内面ミガキ。胴部には直前段合撚りRLR・RLL・RRR・RRL縄文。 意図的に縁辺を成形した可能性あり。
図Ⅲ-2-36	H36	9	円筒下層b2式	H36-5	Πb	H36覆土西側トレンチ151	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部には反撚りRR縄文。意図的に縁辺を成形した可能性あり。
図Ⅲ-2-36	H36	10	円筒下層b2式	H36-4	Ιb	H36覆土西側105	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部にはLRL縄文。意図的に縁辺を成形した可能性あり。
図Ⅲ-2-36	H36	11	円筒下層b2式	H36-2	Ιb	H36覆土4層西側106	1		1	住居覆土	繊維、海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。地紋はRLR縄文を縦走。全面磨滅。再生 土製品。   口径2/gm   底径1/gm   繊維・塩線骨針含む。内面ミガキ。口線部維方向   即部縦方向
図Ⅲ-2-35	H36	12	円筒下層b2 ~c式	H36-8	IБ	H36西側トレンチ151	2	1	34	住居覆土	口径24cm、底径13cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部横方向、胴部縦方向。 - 口縁部文様帯を肩部で区画。LR縄文を縦回転と横回転することで羽状縄文をにより充
		H				H36覆土西側ト76	7	24		住居覆土	填する。RL縄単軸絡条体第1類縦回転地紋。上げ底で、ミガキにより無文とする。 ###、海線景針会か、内面ミガモ ### トギは1 P縄文鎌回転で斜行 下半け1 郷田
図Ⅲ-2-37	H37	1	円筒下層b式	H37-1	Ιb	H37床面24	50	93	143	住居床面	繊維・海綿骨針合む。内面ミガキ。 地紋上半はLR縄文様回転で斜行。下半はL縄単軸絡条体第5類を機回転。底部は微妙な上げ底で、RL縄とRR縄の合燃。
						H37覆土1-124	1	1	8	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。 地紋上半はR多軸絡条体縦回転。底部は上げ底で、 一胴部と同一原体を回転。
図Ⅲ-2-37	H37	2	円筒下層b2式	H37-2	IБ	H37覆土2-125 H37床面81	2	1		住居覆土住居床面	-
						H37床面83		1		住居床面	
-		_									

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本 整理 番号	分類 (群と類 を略)	層位	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計 点数	区分	特徵
		75				H38ベルト覆土上位34	3	4	10	住居覆土	口径26cm。繊維·海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横方向、胴部縦方向。肩部で口
図Ⅲ-2-38	H38	1	円筒下層d2式	H38-12	Ιb	H38ベルト覆土最上位60	2			住居覆土	→縁部を区画。区画内はL縄とR縄2本一組で直線構成の文様構成。区画直下はLR縄の →結節が2段。それぞれ幅5cmと3cm。地紋はL縄の多軸軸絡条体縦回転。
						H38ベルト覆土最上位65		- 1		住居覆土	
図Ⅲ-2-38	H38	3	円筒下層d2式	H38-11	Ιb	H38ベルト覆土最上位61	11	5	21	住居覆土	底径13cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄の多軸絡条体縦回転。
						H38ベルト覆土最上位65	1	5		住居覆土	口径24cm。繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。口縁から胴上半まで縦方向。肩で口
図Ⅲ-2-39	H38		円筒下層d1式新段階	H38-13	II b	H38覆土上部3	7		9	住居覆土	■縁部文様帯を区画。肩部に右に引く押し引き。区画内はL縄線で直線構成の文様。区
<u>ыш 2 39</u>	ПЗО	ľ	门间下后UI式刺权阻	130 13	по	H38覆土上部34	2			住居覆土	画直下には結束第一種羽状縄文。幅はそれぞれ2cm、1.5cm。地紋には条痕施文後に、 R縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-40	H38	10	円筒下層d1式古段階	H38-1	Пb	H38覆土上位5	29		29	住居覆土	□径32cm。繊維 海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部と胴上部横方向、それより下は 縦方向、口縁部文棟帯を上縄線で区画。口縁部区画内は結束第一種羽状縄文横回転 と縄線で充填。区画直下は結束第一種羽状縄文を模回転。幅それぞれ1cmずつ。地紋 にはた縄で、自縄自巻を縦走。
			D#TR 44			H38覆土上位6	55	14	70	住居覆土	胴回り径約20cm。繊維含む。海綿骨針・白色砂少量含む。内面ミガキ。胴部にはR縄で、
図Ⅲ-2-40	H38	11	円筒下層d1式	H38-8	II Ь	MT13 63S28		1		盛土	一自縄自巻を縦走。多段の帯状にLR縄の結節を4cm間隔で施す。
図Ⅲ-2-40	H38	12	円筒下層d1式	H38-9	II b	H38覆土上位4	7	47	55	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。地紋はR縄で、自縄自巻を回転。
		ļ. <u>-</u>	11121112			H38覆土下位東側77	_	1	40	住居覆土	
図Ⅲ-2-41	H38	14	円筒下層d1式古段階	H38-2	II b	H38床面9 H38覆土東側79	6		10	住居床面 住居覆土	□ 1住280回。機構・海綿育町・砂含む。 内面ミカキ。 口縁部と剛上部傾力向、てれより下一は縦方向。 口縁部文様帯をL縄絡条体側面圧痕で区画。 口縁部区画内はLR縄線3本。
<u>ыш 2 41</u>	ПЗО	'*	门间IT信UI式口段阻	1136 2	по	H38ベルト覆土上位59	3	1		住居覆土	— 縦区画あり。幅1.5cm。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。
						H38覆土下位東側77	6		11	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部横方向、胴部縦方向。口縁部文様帯をL縄
図Ⅲ-2-41	H38	15	円筒下層d1式古段階	H38-3	II ь	H38ベルト覆土上位59	3			住居覆土	─ 線で区画。L縄線による直線構成の文様。区画直下にはLR縄の結節が2段。それぞれ   幅3㎝、1㎝。サルボウによる水平方向の条痕施文後、胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。
		ĺ				H38覆土上位34	2			住居覆土	型が切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	16	円筒下層d1式古段階	H38-4	Πb	H38覆土下位東側77	1		1	住居覆土	1と同一個体か。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	17	円筒下層d1式古段階	H38-5	Ιb	H38ベルト覆土下位西側171	1		1	住居覆土	1と地紋が似る。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	18	円筒下層d1式	H38-6	Πb	H38南北トレンチ106	1		1	住居覆土	1と地紋が似る。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	19	円筒下層b式	H38-10	II ь	H38覆土下位西側168	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。表面は磨滅し、地紋は不明。穿孔されており再生  土製品。
	1100	00	田笠工屋以子	1100 7	т.	1100悪土上仕04	-		4	4. 日東上	繊維・砂含む。地紋にはL縄単軸絡条体第1類を縦回転。帯状にLR縄の結節を横回転。
図Ⅲ-2-41	H38	20	円筒下層d1式	H38-7	Iв	H38覆土上位34	1		1	住居覆土	摺り切りによって意図的に円形に成形した可能性が高い。
図Ⅲ-2-42	H39	1	円筒下層d2式	H39-26	Iв	H39覆土最上部22	10	34	44	住居覆土	口径14cm。底径6cm。繊維・海線骨針含む。内面ミガキ、口線側は横、その下は磨滅著しい。肩によって口線部を区画する。そこには半竹を右側へ押り引き。口線部区画内はに縄によって直線構成の文様。地紋は細いR縄による多軸絡条体回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。
						H39ベルト覆土最上位262	3	3	10	住居覆土	砂含む。内面ミガキ。地紋はR縄により単軸軸絡条体第4類縦回転。
図Ⅲ-2-42	H39	4	円筒下層d2式	H39-24	Iв	H39ベルト覆土最上位150	1	1		住居覆土	
			1710,1760224	1.00 2.		H39覆土南側314		1		住居覆土	
		-				M2-2 62U2	-	1	40	盛土	   口径18cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。肩によって
						H39覆土上位8 H39覆土南側314	5	6	43	住居覆土 住居覆土	□口径 lotili。機能が解析すると。内面ミガイ。口縁側は横、胸部側は縦。肩にようと □口縁部を区画する。肩部にはLR縄側面圧痕による側面圧痕を連続。区画内はLR縄
						H39覆土南側313	1	0		住居覆土	一線とL縄絡条体側面圧痕による直線構成の文様。幅は6cm。地紋はL縄の単軸絡条体 第1巻を経見転、波頂型に対応して四つの変孔
						M1 62U3	2			盛土	第1類を縦回転。波頂部に対応して四つの穿孔。 
						H39ベルト覆土最上位262		4		住居覆土	_
図Ⅲ-2-42	H39	5	円筒下層d2式	H39-1	II b	H39ベルト覆土上位260		1		住居覆土	
<u>ыш 2 42</u>	Поэ	"	门间 I 后UZ式	1139-1	по	M1 62U5		4		盛土	
						H39ベルト覆土上位126		1		住居覆土	
						H62南北トレンチ覆土54		1		住居覆土	
						III 60∨6 M1 60U13		1		包含層 盛土	-
						M2-2 62U2		7		盛土	-
						H39覆土上位18	10	1	15	住居覆土	口径33cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。肩によって
図Ⅲ-2-43	H39	6	円筒下層d1式新段階	H39-2	Ιь	H39覆土最上位337		4		住居覆土	口線部を区画する。区画内は、編線による直線構成の文様。区画直下に結束第一種羽状編2、幅はそれぞれ3cmと1.5cm。後者は多段の帯状となる。地紋は保縄で、自編自巻を回転。
図Ⅲ-2-43	H39	8	円筒下層d2式	H39-13	Ιb	H39ベルト覆土上位260	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄の多軸絡条体回転。意図的に円形に成形した可能性が高い。
図Ⅲ-2-43	H39	9	円筒下層d2式	H39-23	Iв	H39覆土上位8	2		2	住居覆土	口径26cm、繊維・海綿骨針含む。内面横ミガキ、肩部で口線部を区画、肩部はLR縄側面圧痕で連続刺突。区画内はLR縄線4条。区画直下にはLR結節の模回転2段。地紋は多軸軸絡条体縦回転。RL網によるものか。
図Ⅲ-2-43	H39	10	焼成粘土塊	H39-3	Ιb	H39覆土上位13②		1	1	住居覆土	繊維・砂含む。
図Ⅲ-2-43	H39	12	円筒下層d2式	H39-6	Ιb	H39覆土上位2	2		2	住居覆土	底径8cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋はL縄で、多軸絡条体を縦回転。微 妙な上げ底で、ミガキにより無文。
						H39南北トレンチ北側229	3		8	住居覆土	口径22cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RLR縄線側面圧痕2条で口縁部を区画。
_						H39覆土上位107		1		住居覆土	──区画内もRLR縄線側面圧痕で直線構成の文様構成。地紋はL縄の多軸軸絡条体縦回 ──転。
図Ⅲ-2-43	H39	13	円筒下層d2式	H39-22	II ь	H39覆土1層407		2		住居覆土	4
						M2 62T13 M2 62T14	1	1		盛土 盛土	-
			m#=== : :								│ │繊維・砂含む。内面横ミガキ。地紋はR縄の縦回転。微妙な上げ底で底面はミガキに
図Ⅲ-2-43	H39	14	円筒下層d2式	H39-15	Ιb	H39覆土上位6	28	61	89	住居覆土	より無文。
図Ⅲ-2-47	H39	30	円筒下層d2式	H39-27	Iв	H39覆土北側上位12	8		8	住居覆土	繊維:海綿骨針含む。内面ミガキ。肩によって口縁部を区画する。区画直下には結束 第2種羽状縄文。地紋はL縄による単軸絡条体第1類縦回転。H39-31(復元番号400)と 共伴。
図Ⅲ-2-48	H39	36	円筒下層d1式	H39-9	Ιb	H39覆土南側313	1		1	住居覆土	繊維含む。内面ミガキ。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-48	H39	37	円筒下層d1式	H39-10	II b	H39覆土南側313	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄で、単軸絡条体第1類を回転。摺り切り
図Ⅲ-2-48		38	円筒下層d1式	H39-12	IIb	H39覆土片例313	1		1	住居覆土	によって意図的に割った可能性が高い。 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部文様帯をL縄線で区画。L縄線を3本。地紋
		$\vdash$							-		はR縄で、自縄自巻を縦走。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はL縄で、単軸絡条体第1類を回転。摺り切り
図Ⅲ-2-48	H39	39	円筒下層d1式	H39-11	IЬ	H39覆土1層407	1	111	1 125	住居覆土	によって意図的に割った可能性が高い。 内面ミガキ。繊維・砂含む。口縁部は肩部で区画する。区画内はL縄線により菱形基
図Ⅲ-2-48	H39	40	円筒下層d1式新段階	H39-4	II b	H39覆土上位13	14	111	135	住居覆土	──調の直線構成の文様。縦区画に二つ一組の円形刺突。区画直下には結束第二種羽状 一縄文。多段の帯状にも用いる。幅はそれぞれ3cm、1cm。地紋はL縄の単軸絡条体第1
						H39覆土下位東側366		10		住居覆土	類縦回転。
図Ⅲ-2-49	H39	44	円筒下層c式	H39-7	II ь	H39覆土南側313	6		6	住居覆土	口径20cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部横方向、胴部縦方向。口縁部 文様帯を直前段反撚りRRL縄線で区画。直前段反撚りRRL縄文を横走させる。幅6cm。
図Ⅲ-2-49	H39	45	円筒下層c式	H39-8	II ь	H39覆土南側313	4		4	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。縦方向。口縁部文様帯をLR縄線で区画しLR縄文で充填。地紋はL縄単軸絡条体第1類縦回転。
						H39覆土上位18	8		17	住居覆土	底径8cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部にはR縄の自縄自巻を縦走。多段
図Ⅲ-2-49	H39	46	円筒下層d1式最古 (c式に近い)	H39-5	II b	H39覆土上位17	4			住居覆土	一の帯状にLR縄の結節を4cm間隔で施す。底面は上げ底で、ミガキにより無文。
			(0241-110-)			H39覆土上位21	5			住居覆土	

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本 整理 番号	分類 (群と類 を略)	層位	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計点数	区分	特徵
		7				H39覆土上位24	6		33	住居覆土	口径22cm。繊維·海綿骨針含む。内面ミガキ。磨滅著しい。口縁横、胴部縦方向。直
						H39覆土下位東側366		1		住居覆土	前段反撚りRRL縄線によって口縁部を区画する。区画内には直前段反撚りRRL縄を回
						H39ベルト覆土最上位150		1		住居覆土	- 転、横走させる。幅は6cm。地紋はR縄単軸絡条体第1類縦回転。
						H29覆土下位19		1		住居覆土	
						H39覆土151		1		住居覆土 住居覆土	-
図Ⅲ-2-49	H39	47	円筒下層c式	H39-14	IΙb	H39ベルト覆土2層直下189 H39覆土東側261		2		住居覆土	-
						M2 62T8		2		盛土	
						H39覆土東側106		11		住居覆土	
						H39覆土上位21		2		住居覆土	
						H39覆土下位152		4		住居覆土	
						H39覆土201		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-51	H39	54	円筒下層d1式	H39-16	Iв	H39覆土下位152	8		11	住居覆土	底径10cm。繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。地紋はL縄の単軸絡条体縦回転。  微妙な上げ底。 ミガキ無文。
						H39覆土下位41		3		住居覆土	
図Ⅲ-2-52	H39	57	円筒下層c式	H39-25	Πb	H39覆土下位30	26	2	28	住居覆土	口径24cm、器高40cm、底径13cm、繊維・海綿骨針含む、小石少量含む。内面5扩末、口線側14推、開始14維万両、滑い陸帯で口線部を区面に、除帯上には左側への押し312-6が連続する。幅が5cmの口線部7文標率には、開部から連続する石線単軸線条体第1振線で斜め回転。加えて結束第一種羽状縄文。区面の3cm下に2cm帽で、結束第一種羽状縄文施文。地数は、R極単軸絡条体第1張線~斜め回転。底部は微妙な上げ座で、5方千により無文。
図Ⅲ-2-52	H39	58	円筒下層c式	H39-18	Πb	H39覆土下位東側366	1		1	住居覆土	口径16cm。繊維・海絡骨針含む。内面ミガキ。R繊線2段で口線部を区画。2本段の間には円形の施文具を右へ引く押し引きが連続。区画内はRL結節が3段。地紋は単軸絡条体第6名類縦回転。R縄か。
図Ⅲ-2-52	H39	59	円筒下層c式	H39-20	Ιb	H39覆土下位156	3		3	住居覆土	口径20cm。繊維・海綿骨針含む。ハ石少量含む。内面ミガキ。口縁横方向。胴部縦方向。 RL網線2本で口線部を区画。区画内にはLR縄文横回転。幅4cm。地紋はR縄単軸絡 条体第.類擬回転。
図Ⅲ-2-52	H39	60	円筒下層d1式最古 (c式に近い)	H39-19	Ιb	H39覆土東側261	1		1	住居覆土	口径17cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキロ縁上半横方向。下は縦方向。L縄線2段一組で口縁部区画内を施文。
図Ⅲ-2-52	H39	61	円筒下層c式	H39-17	Ιb	H39覆土東側261	1		1	住居覆土	口径20cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄単軸絡条体側面圧痕2段で口縁部 を区画。区画内は同一原体によって直線構成の文様。菱形基調。地紋は直前段反撚 URRL縄を縦回転か。
						H39覆土上位18	1		4	住居覆土	口径15cm。繊維·海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横方向。胴部縦方向。なだらかな
図Ⅲ-2-52	H39	62	円筒下層c式	H39-21	Ιb	H39覆土上位338	2			住居覆土	肩部で口縁部を区画。区画内には直前段反撚りLLR縄文横回転。幅4cm。地紋は直
						H39覆土下位東側366		1		住居覆土	一前段反撚りRRL縄文縦回転。
図Ⅲ-2-53	H40	1	円筒下層b式	H40-1	Ιb	H40覆土1層6	1		3	住居覆土	繊維・砂含む。海綿骨針少量含む。内外面とも磨滅著しく調整等不明。
		ļ.				H40覆土2層7	2			住居覆土	
図Ⅲ-2-53	H40	2	円筒下層b式	H40-2	Iв	H40床面3	2		2	住居床面	繊維・砂含む。海綿骨針少量含む。内外面とも磨滅著しく調整等不明。 繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。口縁横方向、胴部縦方向。口縁部区画はR単
図Ⅲ-2-55	H41	8	円筒下層b2式	H41-4	IΙb	H41トレンチ70	5		5	住居覆土	軸絡条体第1類横回転。胴部は同じものの縦回転の可能性がある、口縁部区画内はR 縄線もしくは前述のものより太い単軸絡条体の斜め回転。
図Ⅲ-2-55	H41	9	円筒下層b2式新段階	H41-6	IБ	H41覆土南側18 H41ベルト覆土下位46 H41ベルト覆土下位47	2	9 6 60	87	住居覆土 住居覆土 住居覆土	口径20cm。底径9cm。繊維:海綿骨針含む。内面ミガキ。口線側は模、胴部側は縦。 陸帯によって口線部を区画する。陸帯上円形刺突が連続。区画内にはLR縄文。幅は 5cm。地紋はR縄単軸絡条体第1類縦回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。
図Ⅲ-2-55	H41	10	円筒下層b2式	H41-3	Ιb	H41トレンチ70	1	2	3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。小石少量含む。内面ミガキ。口縁部区画はR単軸絡条体第1類 の側面圧痕2条による。区画内はLR結節2段。胴部はR縄単軸絡条体第5類斜め回転。
図Ⅲ-2-55		11	円筒下層b2式	H41-2	Ιb	H41トレンチ70	25	2	27	住居覆土	底径90m, 内面ミガキ。繊維含む。海綿骨針少量含む。地紋は、R縄で単軸絡条体第1類 を斜め回転。底部際には同一原体で横方向に帯状の施文。幅40m。上げ底でミガキ無文。 底径10m, 内面三ガキ。繊維・海綿骨針含む、地紋は、RL縄で単軸絡条体第1類を縦回転。
図Ⅲ-2-55	H41	12	円筒下層b2式	H41-1	IΙb	H41トレンチ70	23		23	住居覆土	底部際には同一原体で横方向に帯状の施文。幅4cm。上げ底で、胴部と同一原体で施文。
図Ⅲ-2-55	H41	13	東釧路Ⅳ式	H41-5	Ιb	H41西トレンチ71	1		1	住居覆土	内面ミガキ 砂粒含む。地紋は魚骨回転文ニシンタイプ。一部にRLR縄回転。
図Ⅲ-2-56	H42	1	円筒下層b2式	H42-1	Ιb	H42覆土8	9	15	25	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁上半は横、口縁下半から胴部にかけては縦方
E III 2 00	1172	Ľ	1 101 1 10224	1172 1	Ιb	H42覆土4-7	1			住居覆土	向。地紋は口縁から胴部へと連続するRL縄縦回転。
					II b	H42覆土8	5	23	47	住居覆土住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁から胴部上半は横、胴部下半にかけては縦方向。 │肩部で口縁部文様帯を区画、幅4cm。R縄側面圧痕を口唇に連続。区画内には、LR
図Ⅲ-2-56	H/12	2	円筒下層d2式	H42-2	II b	H42覆土2-1 H42覆土2-2	1	11		住居覆土	─縄線による直線構成の文様。区画直下には幅2cmで、結束第二種羽状縄文2段。地紋
四皿 2 50	1172	_	1 101 1 160220	1172 2	Пb	H42覆土2-3	7	1		住居覆土	- はR縄で、自縄自巻を縦走。
					IIb	III 59V6		2		包含層	
図Ⅲ-2-56	H43	1	円筒下層b2 ~c式	H43-1	Ιb	H43覆土2層27	3		3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。LR縄文施文後、口縁部にLR縄線4本。
図Ⅲ-2-56	H43	2	円筒下層b式	H43-2	Ιb	H43覆土1層26	- 1		- 1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部を隆帯で区画し、RL縄文横回転。
図Ⅲ-2-56		3	円筒下層b2式	H43-3	Ιb	H43床面6	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。再生土製品。縁辺楕円形に成形。中央穿孔。
図Ⅲ-2-56	H44	1	円筒下層b式	H44-1	Ιb	H44床面25	1		1	住居床面	繊維・小石含む。内面ミガキ。RL縄単軸絡条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-56	H44	2	円筒下層b式	H44-2	IБ	H44床面16	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縄文縦回転。上げ底。縄目がある。RL縄か。 底径12㎝。
図Ⅲ-2-56	H45	1	円筒下層b式	H45-1	Ιb	H45周溝覆土1層11	1		1	付属遺構覆土	
図Ⅲ-2-56		2	円筒下層b式	H45-2	Ιb	H45HF-1覆土2層18	1		1		繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。表面磨滅により不明。
図Ⅲ-2-57	H46	3	円筒下層b2 ~c式	H46-4	Ιb	H46覆土下位62	3	2	6	住居覆土	口径25㎝。繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。口縁部は横。胴部は縦。指頭圧痕による口縁部原変。口縁部原変。口縁部原変を
Z J/		Ļ	1 1 m 1 / m DZ - C.C.	1170 7		H46覆土壁63	1			住居覆土	る口縁部区画。口縁部・地紋ともにはR縄単軸絡条体第1類横〜斜め回転。口縁部区画幅7cm。
						H46覆土39	1	21	29	住居覆土	口径21cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は横。胴部は縦。隆帯による口    繰部区画。口縁部・地紋ともにはRL縄文。口縁部区画幅5cm。
図Ⅲ-2-57	H46	4	円筒下層b2式	H46-1	Iв	M4-3 61T37 M4-3 61T38	2	21		盛土盛土	
						M4-3 61R37		3		盛土	-
図Ⅲ-2-57	H46	5	円筒下層b2式	H46-5	Ιb	H46覆土32 M4-3 61S89	3		4	住居覆土 盛土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄単軸絡条体第5類縦回転。
図Ⅲ-2-57	H46	6	円筒下層b2式	H46-3	Пь	H46覆土壁63 H46覆土下位62 H46HP-7覆土82	1 2	4	10	住居覆土 住居覆土 付属遺構覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はLRL縄文縦走。
	1110	<u> </u>	□ <del>佐 = □ · - □</del>	1140 -	<b></b>	H46HP-7覆土上位70 H46床面3	6	1 3	11	付属遺構覆土住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ、煤付着。地紋はR縄単軸絡条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-57	H46	8	円筒下層b2式 円筒下層b2式	H46-6 H46-2	II b	H46床面7	3	2	3	住居床面盛土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄による単軸絡条体第1類縦に近い斜め回
図Ⅲ-2-57	H46	9	円筒下層b2式	H46-7	Iь	H46HP-5覆土74	1		1	付属遺構覆土	転。繰辺を打ち欠いて成形。再生土製品。 繊維・海綿骨計合む。内面ミガキ。地紋はR縄第1類縦回転。底部は上げ底で、ミガキ により無文。
図Ⅲ-2-58	H47	1	円筒下層b式	H47-1	Ιb	H47覆土1	1		1	住居覆土	口縁RL結節を施文。繊維・海綿骨針・小石を含む。
図Ⅲ-2-58		2	円筒下層b式	H47-2	Ιb	H47覆土1	1		1	住居覆土	底部上げ底でLR縄文を施文。繊維・海綿骨針含む。
図Ⅲ-2-58		1	円筒下層b式	H48-1	Ιb	H48床面1	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は合撚りか。
図Ⅲ-2-58		2	円筒下層b式	H48-2	Πb	H48HP-2覆土16	1		1	付属遺構覆土	
図Ⅲ-2-58		1	円筒下層b式	H49-1	Ιb	H49覆土1層1	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RLR縄文横回転。上げ底で、底面にも地紋と同じ施文。
図Ⅲ-2-58		1	円筒下層b式 円筒下層c式	H50-1 H51-2	Ib	H50覆土4	6		6	住居覆土住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。LR縄文横回転。 繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口線横。胴は縦。肩部により口線部を区画し、区 画にはR縄単軸絡条体側面圧により直線構成の文様を施文。幅は5cm。地紋は直前段
図Ⅲ-2-58		2	円筒下層b2~c式	H51-5	Пь	H51覆土東側29	12	19	31	住居覆土	反撚りLLR縄文を緩走。 繊維 海綿骨針含む。内面ミガキ。口線横。胴は縦。隆帯により口縁部を区画し、区 画にはに縄による単軸絡条体第4類回転。幅は6cm。隆帯上に円形刺突。その直上直
			. 7 10 1 /8 02 10 20			夜上不閃~~	'-		01	上/口接上	下に単軸絡条体側面圧痕。地紋は直前段反撚りRRL縄を横回転。

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本 整理 番号	分類 (群と類 を略)	層位	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計	区分	特徵
図Ⅲ-2-58	H51	3	円筒下層c式	H51-3	Пь	H51覆土西側28	19	7	26	住居覆土	機維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口径28cm、底径12cm、口線構、胴は縦。頸部により口線部を区画し、区画には直前段反撚りRRL縄文を横走させる。区画直下には結束 第一種羽状類文。幅はそれぞれ5cm、2cm。地紋は直前段反撚りRRL縄文を縦走させる。 上げ底で底面は磨滅。
図Ⅲ-2-58	H51	4	円筒下層c式	H51-1	IΙ b	H51ベルト覆土33	1	2	3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。胴は縦。地紋を無文にすることにより口縁 節を区面し、区画には末橋絡条体側面圧痕で直縁構成の文様を施す。 地紋は直前段 反振りLLR網を縦回転。
図Ⅲ-2-58	H51	5	円筒下層c式	H51-4	Ιь	H51ベルト覆土33	5	9	14	住居覆土	機維 海綿骨針含む。内面ミガキ。口径15cm、底径13cm。口縁模。胴は縦。頸部により口縁部を区画し、区画には胴部地紋と連続して直前段反撚りLLR縄文を横回転させる。幅はそれぞれ3cm。上げ底で底面は磨滅。
図Ⅲ-2-58	H51	6	焼成粘土塊	H51-8	Ιb	H51覆土西側28②	1		- 1	住居覆土	繊維含む。
図Ⅲ-2-58	H51	7	円筒下層b2式	H51-7	IΙb	H51床面13	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針・砂粒含む。内面ミガキ。地紋はL縄による単軸絡条体第1類を縦回転。
図Ⅲ-2-58	H51	8	円筒下層b2式	H51-6	II ь	H51HP-5覆土81	1		1	住居付属遺構覆土	
図Ⅲ-2-59	H52 H53	2	円筒下層c式 円筒下層b2式	H52-1 H53-3	Ib	H52覆土1層56	14	21	35 10	住居覆土住居覆土	□径17cm。繊維·海線骨針含む。内面ミガキ。□線側は機、胴部は縦、回縁部文様帯はLR縄線に3本施される。幅3cm。地紋はLR縄単軸絡条体第1類縦回転。 繊維·海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄単軸絡条体第1類回転。底面にも同様
図Ⅲ-2-59	H53	2	円筒下層b2式 円筒下層b2式古段階	H53-2	Iь	H53覆土1-21	13	21	34	住居覆土	の文様を施し、上げ底。 繊維:海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。胴は縦。隆帯により口縁部を区画し、区 画にはに線結節を2段ほど回転させる。区画直下にも同様の施文。幅はそれぞれ3.5cm
図Ⅲ-2-59	H53	3	コッタロ式	H53-1	Ιb	H53覆土1-22	2		2	住居覆土	と2.50m。地紋はR縄単軸絡条体第1類縦回転。 角閃石含む。内面思力キ。微隆起線を持つ。地紋はR縄とL縄を交互に横回転、又は 組砂圧振を連続する。
図Ⅲ-2-59	H54	1	円筒下層b1式	H54-2	Ιb	H54覆土2-43	6	1	6	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。微妙な上げ底で、R縄文縦走。
図Ⅲ-2-59	H54	2	円筒下層b1式	H54-1	Iв	H54覆土2-43	4	3	7	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。隆帯を区画帯としその上に縄端によるものか連続刺 突がある。区画内、胴部ともにLR縄文の縦走。区画の幅5cm
図Ⅲ-2-59	H54	3	円筒下層b2式古段階	H54-3	II ь	H54床面-7	1		1	住居床面	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。L縄単軸i絡条体を縦回転。
図Ⅲ-2-59	H55	1	円筒下層b2 ~c式	H55-1	Ιb	H55覆土1-16	1		1	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。 R網多軸絡条体
図Ⅲ-2-59	H55	2	円筒下層b式	H55-2	IΙb	H55覆土1-16	3		3	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。L縄単軸i絡条体5類
図Ⅲ-2-59	H55	4	円筒下層d1式 円筒下層c式	H55-3 H56-1	IЬ	H55覆土1-16 H56覆土最上位3	5		5	住居覆土住居覆土	内面:ガキ 繊維 海綿骨針合む。 熱束第一種羽状郷文とR縄単軸絡条体 7類。 口径16cm。 繊維 海綿骨針含む。 内面ミガキ。 口縁横、胴部縦。 肩部で口縁部を区画 右に引き及(連続刺突。 区画には直前段反燃りRRL網を模定。 保縄とL縄を羽状に組
						1157至十十六10	12	20	34	<b>分尺要上</b>	み合わせた単軸絡条体第1類を縦回転。 3aは17.5×4×1.3cm、3bは7×2.5×1cm。胎土には海綿骨針と繊維を含む。3bはaの
図Ⅲ-2-62	H57	1.2	焼成粘土塊	H57-3	Шa	H57覆土中位18 H57覆土85P区49	2	20	34	住居覆土	表面が剥落したもの。胎土から上a並行と判断した。
						H57覆土1	1	1	6	住居覆土	  胎土には繊維、砂を含む。内面は横ミガキ。口縁部文様帯全体が肥厚。口唇にR縄
図Ⅲ-2-62	H57	3	円筒上層a式	H57-4	Ша	H57覆土2		1	_	住居覆土	単軸絡条体側面圧痕が連続。口縁には同様の原体により縄線風に7段の線を施す。四
		-				Ⅲ85P1		3		包含層	」単位の波頂部からは浪打ながら垂下する隆帯があしらわれ末端はボタン状である。隆  帯上にもR縄単軸絡条体側面圧痕。胴部はLR縄文縦回転。
図Ⅲ-2-62	H57	5	円筒下層b式	H57-2	II ь	H57覆土86P区17	5		5	住居覆土	機維・海絡骨針含む。内面ミガキ。隆帯で口縁部を区画。隆帯上には爪型刺突が連続。 口唇には磨滅して不明瞭だがへう先によるものか、連続圧痕が残る。幅4cm。口縁部 から胴部に保縄交。縄文施交後降帯貼げ。斧型風再生土製品。被熱
図Ⅲ-2-62	H57	6	円筒上層a式	H57-1	Ша	H57覆土86P区17	6		6	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。肥厚部で口縁部を区画。区画にはRL縄側面圧痕。 幅6cm。胴部LR縄文。斧型風再生土製品。被熱。
図Ⅲ-2-68	H59	1	円筒下層b式	H59-1	Iв	H59覆土1	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縄単軸絡条体第1類縦回転。底部際は帯状に横  回転。底径10cm。
		t.			_	H60覆土49	1		6	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部はR縄単軸絡条体第1類横回転。、幅2cm以上。
図Ⅲ-2-69	H60	1	円筒下層b2式古段階	H60-4	Ιb	M4-3 62R21	5			盛土	世紋はR縄単軸絡条体第1類縦回転。
						H60覆土49	1	3	15	住居覆土	繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。磨滅著しい。隆帯による口縁部区画。口
図Ⅲ-2-69	H60	2	円筒下層b2式古段階	H60-3	II ь	M2-2 62R45	10			盛土	縁部はR縄単軸絡条体第1類斜め回転。幅5cm。地紋はR縄単軸絡条体第1類縦回転。 
		-				M2-2下位 62R6 H60覆土49	1	1	19	盛土 住居覆土	  繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄第1類縦回転を主とするが、下部はR縄
図Ⅲ-2-69	H60	4	円筒下層b2式古段階	H60-2	Πb	M2 62R43	8	9	19	盛土	第5類縦回転。
図Ⅲ-2-69	H60	5	円筒下層b2式古段階	H60-6	Ιь	H60覆土43	8		8	住居覆土	機総合む。海綿骨針少量含む。内面磨滅。地紋はL縄単軸絡条体第1類縦回転。底部は上げ底で、地紋と同一原体にて回転施文。
						M4-6 61Q1	5		11	盛土	
図Ⅲ-2-69	H60	6	円筒下層b2式古段階	H60-5	II ь	H60覆土49	<u> </u>	6		住居覆土	にはL縄の結節が数段巡る。
図Ⅲ-2-69	H60	7	円筒下層b2式古段階	H60-1	Πb	H60床面26	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄単軸絡条体第1類縦回転。
						H62南北トレンチ覆土54	1	4	33	住居覆土	口径26cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。隆帯によって口縁部を区面まる。 内面ミガキ の神経 (1) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
						H62覆土37	3	6		住居覆土	↑画する。区画内はL縄線とR縄線による文様。四単位の波頂部と2段口縁風の文様構 - 成が考えられる。半截竹管による連続刺突が、隆帯上と縄線間、および口唇に連続す
						Ⅲ 61V1	4	3		包含層	る。地紋は上半分が結束第一種羽状縄文。下半がL縄による多軸絡条体。 
						Ⅲ 61V2		4		包含層	
図Ⅲ-2-70	H62	1	円筒下層d2式	H62-6	ПЬ	Ⅲ 61V3 Ⅲ 60R175	-	1		包含層	_
⊠ш-2-70	H02	Ι'	门间下層GZ式	H02-0	пь	III 61V5		6		包含層	
						M1 61Q20		1		盛土	
						M1 60R177	1	1		盛土	-
						M1 61U13		2		盛土	-
						M1 61U20		2		盛土	1
						H62覆土37	1	6	61	住居覆土	口径20cm。底径7.5cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。
						H62 南北トレンチ覆土54	11	24		住居覆土	肩によって口縁部を区画する。肩部には結束第二種羽状縄文。口唇にはLR縄側面圧 痕による側面圧痕を連続。区画内はLR縄線による直線構成の文様。幅は3cm。地紋
						M2-2 61U11	1	1		盛土	-現による側面圧限を連続。区画内はLR純緑による直線構成の又様。幅は30m。地紋  はR縄の多軸絡条体を縦回転。上げ底でミガキにより無文。
図Ⅲ-2-70	H62	2	円筒下層d2式	H62-7	Ιь	M2-2 61U18		1		盛土	
ыш−∠−/0	1702	_	1月尚下層(12五)	1102-/	по	<b>Ⅲ</b> 61V1	2	3		包含層	_
						<b>Ⅲ</b> 61U16	2	1		包含層	
						<b>Ⅲ</b> 61∨6	1			包含層	
Питера	1100	1	四位工品 2十二四十	1100 1	т.	Ⅲ61V5	_	7		包含層	繊維・海綿骨針・砂含む。 内面ミガキ。 隆帯によって口縁部を区画する。 区画内および
図Ⅲ-2-70	H62	3	円筒下層b2式古段階	H62-1	Іь	H62覆土113	6		6	住居覆土	地紋はR縄単軸絡条体第一種縦回転。
図Ⅲ-2-70	H62	4	円筒下層d2式	H62-2	II ь	H62覆土55 M4-3 61S7	6	6	15	住居覆土 盛土	繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。肩によって口緩部を区画する。区画内にはLR 結線6本。および焼成前の穿孔あり。地紋はR編多軸絡条体縦回転。 世級・海袋県を込金さ、中西ミガモ・地紋のト光は12個本機回転。 下半は東京が圧倒
図Ⅲ-2-70	H62	5	円筒下層b2式古段階	H62-5	IБ	H62床面19	7		7	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋の上半はLR縄文横回転。下半は直前段反撚  り前々段合撚り。RLRとRLL縄とRRRとRRL縄を撚る。
図皿-2-70	H62	6	円筒下層b2式古段階	H62-3	Ιь	H62床面16	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。隆帯によって口縁部を区画する。隆帯上には指頭 圧壌の連続。区画直下にはRL縄結節が幅2cm。地紋はLR縄縦回転。
図Ⅲ-2-70	H62	7	円筒下層b2式古段階	H62-4	II ь	H62床面23	2		2	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR単軸絡条体第1類縦回転。上げ底でLR縄  文回転。
図Ⅲ-2-70	H63	1	円筒下層b2式	H63-1	Ιb	H63床面27	1		1	住居床面	内面ミガキ 繊維・海綿骨針・砂含む。R縄単軸絡条体1類縦回転。
図Ⅲ-2-70	H63	2	円筒下層b2式	H63-2	Ιb	H63床面13	1		1	住居床面	内面指頭圧痕調整 繊維·海綿骨針含む。微妙な上げ底でR縄単軸絡条体1類回転。
図Ⅲ-2-71	H64	1	円筒下層b2式	H64-3	Ιb	H64床面50	2		2	住居床面	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。R縄単軸絡条体I類。上げ底ミガキ無文。

20 元   10   1   1   1   1   1   1   1   1	図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本 整理 番号	分類 (群と類 を略)	層位	接合点数	同一 個体か (未接合)	合計	区分	特徵
20   19   19   19   19   19   19   19   1	図Ⅲ-2-71	H64	-	円筒下層b2式			H64覆土1-86	6		12	住居覆土	
22 - 7   195   2   所謂下極に	$\vdash$		_									
関ロ・フィ Ped 2 Peg Table 2 Ped - 1 Peg Table 2 Ped - 1 Ped - 2			+-					8				
1987-27   1967   1977	図Ⅲ-2-71	H65	2	円筒下層c式	H65-3	II b	H65覆土1-21	1	1	2	住居覆土	
### 2-77 PM 1   円面下面は、	図Ⅲ-2-71	H65	3左	円筒下層d1式	H65-2a	II b	H65覆土1-21	3		3	住居覆土	
第2 - 27   140   1   円面下掃に式 140   1   1   1   1   1   1   1   1   1	図Ⅲ-2-71	H65	3右	円筒下層d1式	H65-2b		M6-2 42W2	1		1	盛土	れぞれ3cmと2cm。地紋はL縄の単軸絡条体を縦回転。
PM型	図Ⅲ-2-71	H66	1	円筒下層d1式	H66-1	II Ь	H66床面7	1		1	住居床面	部を区画する。2本一組のL縄とR縄で肩部直上と口唇部直下に施文し、間にヘラ刺突 列を施す。区画直下には結束第一種羽状縄文を施す。区画とその直下の文様幅はそ
App	図Ⅲ-2-71	H66	2	円筒下層b2式	H66-2	Ιb	104-	1				
MR 2 577									2	36		口径22cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。隆帯によっ   プロ経典な区画する  除帯トには1月側面圧症が連続  区画内は1網線と日網線による
回出 - 17 PM 2 PM 7 PM 7 PM 7 PM 1 PM 7 PM 1 PM 1 PM 1									1			
照用・2・72 P45 2 丹南下層の式 P45-1 E												-
May 1953 년   1						l Ì		6	4			
May 1995   1	⊠ π_2_72	D/15	,	田筒下層d2 <del>ず</del>	D/5-1	π [	H39覆土南側313		1		住居覆土	
MS 6002 S	M 2 /2	1-40	_	1 1 101 1 7 16 02 24		1 10						
Mile Gold 1 1 2 第五						}						_
						}						
P47番注 2   4 39 位置電子   中47番注 3   1												-
日本語画							III 63S37		1		包含層	
日本語画										39		
日本								_				
PAT			1					2				-
図画 - 2-72 P47 1 円葉上層 dx						l }		2				-
図皿 - 7-72 P47									1			
日本語画学						[	P47覆土2 7		1			
			١.					1				
P47度 22 14 5 5 位居度土   P47度 22 15 1 5 位居度土   P47度 22 15 2 1 5 位居度土   P47度 22 15 1 5 0 6 0 6 0 6 0 6 0 6 0 6 0 6 0 6 0 6 0	図Ⅲ-2-/2	P4/	1	円筒上僧d式	P4/-1	Ша		1				_
P47度 22 14   5   位用層土   P47度 22 15   1   位用層土   P47度 22 15   1   位用層土   P47度 22 17   2   位用層土   P47度 22 18   4   位用層土   P47度 22 18   P47E 22 18								'	1			-
Pri						İ			5			
Promise						[						
P1												
四回 - 2-73   P56   円筒下層b2 ~ cc式   P56-1   Ib   P56度土14   5   5   土坑産土   本枝産土では最終があった。   日本の   P56-1   Ib   P56度土14   5   5   土坑産土   本枝産土では最終があった。   日本の   P56-1   Ib   P56度土14   5   5   土坑産土   本枝産土では最終があった。   日本の   P56-1   Ib   P56度面10   0   46   83   土坑産土   土坑産土   工坑産土   日本の   P56-1   Ib   P56度面10   20   土坑産土   土坑産土   工坑産土   日本の   P56-1   Ib   P56度面10   20   土坑産土   土坑産土   工坑産土   日本の   P56-1   Ib   P56度面10   4   5   土坑産土   土坑産土   日本の   P56-2   Ib   P56度面10   4   5   土坑産土   上坑産土   日本の   P56-2   Ib   P56度面10   4   5   土坑産土   日本の   P56-2   Ib   P56度面10   4   5   土坑産土   上坑産土   日本の   P56-2   Ib   P56度面10   1   土坑産土   上坑産土   日本の   P56-2   Ib   P56度面10   1   土坑産土   日本の   P56-2   Ib   P56度面10   1   上坑産土   日本の   P56-2   Ib   P56度面10   1   P56度面10								4	2			-
図□ 2-73 P56 1 円筒下層b2 ~ cct P56-1 II b P56億亩10 8 46 83 土坑底面 P56億亩9 20 土坑底面												-
日本の	図Ⅲ-2-73	P56	1	円筒下層b2 ~c式	P56-1	II Ь		5		5		て口縁部を区画する。区画内にはLR縄線がめぐるほか、隆帯上と区画内に円形刺突
P8-2   P8-2   P8-2   P8-3   円筒下層b2~c式   P8-3   円筒下層b2~c式   P8-3   円筒下層b2~c式   P8-3   円筒下層b2~c式   P8-3   円筒下層b2~c式   P8-3   P	図Ⅲ-2-73	P56	2	円筒下層b2 ~c式	P56-2	IIЬ		8		83		- て口縁部を区画する。区画内にはサルボウ条痕を横走させる。幅は4cm。地紋はR縄
図田 - 2-73   P96 - 3   円筒下層b2 ~ c式   P96 - 3   円向下層b2 ~ c式   P96 - 4   P96									29			
図田-2-74   Po 6   4   円筒下層b2~c式   Po 6   田	図Ⅲ-2-73	P56 3	3	円筒下層b2 ~c式	P56-3	Iв				5		
P60-1	図Ⅲ-2-73	P56 4	4	円筒下層b2 ~c式	P56-4	Ιb	P56底面9	13		13	土坑底面	
図田-2-74 P60 1 1 円筒上層a式 P60-1 III							P60覆土1	4		32	土坑覆土	
四番112-7-7-1   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日												の波貝部は四単位と考えられる。LR純横回転。
図田-2-74   TP 7   1   円筒上層   円 7   円筒上層   TP 7   日	図Ⅲ-2-74	P60 1	1	円筒上層a式	P60-1	IIIa -			3			-
図Ⅲ 2-74									4			-
図Ⅲ-2-74   TP 7   日前上層点式									5			
図皿-2-74 下P7 2 円筒上層点式 TP7-2 II b	図Ⅲ-2-74	TP 7	1	円筒上層a式	TP7-1	πа	TP7覆土5	4		7	遺構覆土	
図皿-2-74 F8 2 円筒上層点式 F8-2 II	2 m 2 / 4	'' '	l'	门间工作以	,.	mu .	<b>Ⅲ</b> 82P8	3			包含層	一種羽状縄文。
図田-2-74   S5 1   円筒上層d式   S5-1   田   S5屋土1層7   1   1   集石銀円かた   次	図Ⅲ-2-74	TP 7	2	円筒上層a式	TP7-2	Ιь				6		砂含む。内面ミガキ。地紋はRLR縄文。LR結節縦回転。
図田-2-75 F65 1 円筒下層b2 ~ c式 269b II b 田授乱 76R4 1 1 1 包含層 269の肩部。円形刺突がある。269b II b 田76R2 1 1 1 包含層 269の肩部。円形刺突がある。269b II b 田76R2 1 1 1 包含層 269の肩部。円形刺突がある。269c II b 田76R2 1 1 1 1 2 2 II 25 II 2 II 2 II 2 II 2			╙		S5-1				1	1		砂、海綿骨針含む。内面機ミガキ、口径26cm、細い除帯で加飾後 I R縄文同軒
図皿-2-75 F65 1 円筒下層b2~c式 269c Ⅱ b Ⅲ 76R2 1 1 1 1 包含層 269の開節。円形刺突がある。269c 図皿-2-76 F82 4 サイベ沢収式 F82 14 Ⅲ a F82 覆土1 37 4 6 F82 万 円筒上層は 14 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	_		+ -		_		DA - 14	_				
図皿-2-76 F82 4 サイベ沢収式 F82 14 Ⅲa 沢1層 45T61 2 沢地形F82周辺 圧痕。円形貼付付。 図皿-2-76 F82 6 サイベ沢収式 F82 15 Ⅲa F82 覆土1 11 14 57 71 F82 面を回転。口唇には上縄側面連続圧痕。胴部までおよぶ文様帯は降帯と次線で施文される。隆帯上には、圧縄の面連続圧痕。胴部までおよぶ文様帯は降帯と次線で施文される。隆帯上には、圧縄の値に上縄を口でおったが、大規で変が、大力では、上縄では、上縄では、上縄では、上縄では、上縄では、上縄では、上縄では、上縄			_									269の肩部。円形刺突がある。269c
図Ⅲ-2-76   F82   6	図Ⅲ-2-76	F82	4	サイベ沢Ⅷ式	F82 14	Ша		_		6	F82	内面ミガキ 繊維・海綿骨針・砂粒含む。地紋はRL縄を回転。口唇にはRL縄側面連続 下痕、円形貼り付け
図Ⅲ-2-76   F82   7			$\vdash$						57	71		口径20cm。底径7.5cm。内面ミガキ 砂粒含む。地紋はLR縄とRL縄そしてそれぞれ結節を回転。口唇にはL縄側面連続圧痕。胴部までおよぶ文様帯は隆帯と沈線で施文さ
図皿-2-77 F82 10 サイベ沢収式 F82-12 Ⅲ a F82 覆土1 12 17 56 73 F82 内面ミガキ 砂粒含む。地紋上R縄攻横回転。口唇には隆帯上R縄線。 図皿-2-77 F82 10 サイベ沢収式 F82-12 Ⅲ a F82 覆土1 37 1 3 F82 内面ミガキ 砂粒含む。地紋上R縄収両結束第一種羽状綱文横回転。口唇には隆帯上縄線の回車線圧痕。 図皿-2-77 F82 11 サイベ沢収式 F82-2 Ⅲ a F82 覆土1 6 3 66 F82 内面ミガキ 砂粒含む。地紋上黒部の精束第一種羽状綱文横回転。口唇には隆帯上縄側面連続圧痕。 図皿-2-77 F82 12 円筒上層d式 F82-4 Ⅲ a F82 覆土1 10 6 57 F82 機側面連続圧痕。 図皿-2-77 F82 13 サイベ沢収式 F82-1 Ⅲ a F82 覆土1 37 5 8 13 F82 内面ミガキ 砂粒含む。地紋上黒部線文横回転とその縄端回転痕。口唇には隆帯上縄線の回車・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番上縄線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組織の車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組線の回車・日唇には隆番上組織の車・日唇に関連・日唇には隆番上組織の車・日唇には隆帯上組織の車・日唇には隆番上組織の車・日唇には隆番上組織の車・日唇には隆帯上組織の車・日唇に関連・日唇に関連・日唇には隆帯上組織の車・日唇には降車・日唇には降帯上組織の車・日唇には降車・日唇に関連・日唇には降車・日唇には降車・日唇には降車・日唇に関連・日唇には降車・日唇に関連・日唇には降車・日唇	図Ⅲ-2-76	F82	7	サイベ沢Ⅷ式	F82 16	Ша	F82 覆土1 10	21	82	103	F82	内面ミガキ 海綿骨針・砂粒含む。地紋はLR縄とRL縄そしてそれぞれ結節を回転。L
図Ⅲ-2-77   F82   10	図Ⅲ-2-76	F82	9	サイベ沢Ⅷ式	F82 3	Ша	F82 覆土1 12		56			内面ミガキ 砂粒含む。地紋LR縄文横回転。口唇には隆帯LR縄線。
図Ⅲ-2-77 F82 11 サイベ沢呱式 F82-2 Ⅲ a F82 覆土 1 6 3 66 F82 内面三ガキ 砂粒含む。地紋上無節縄文積回転とその縄端回転痕。口唇には隆帯上縄 解側面連続圧痕。 図Ⅲ-2-77 F82 12 円筒上層付式 F82-4 Ⅲ a F82 覆土 1 10 6 57 F82 機側面連続圧痕。 図Ⅲ-2-77 F82 13 サイベ沢呱式 F82-13 Ⅲ a F82 覆土 1 37 5 8 13 F82 内面三ガキ 砂粒含む。地紋上保縄の結束第一種羽状縄文良 医常上縄線側面連続圧痕。 図Ⅲ-2-78 F82 3 サイベ沢呱式 F82-13 Ⅲ a F82 覆土 1 37 5 8 13 F82 内面三ガキ 砂粒含む。地紋上保縄の結束第一種羽状縄文良 医常上縄線側面連続圧痕。 図Ⅲ-2-78 F82 27 サイベ沢呱式 F82-1 Ⅲ a 沢1層 45T61 17 71 88 沢地形F82周辺 内面三ガキ 砂粒含む。地紋結束第一種羽状縄文、口唇には隆帯上縄線側面連続圧痕。 図Ⅲ-2-79 F82 28 サイベ沢呱式 F82-7 Ⅲ a 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面三ガキ 砂粒 海綿骨針含む。 座帯上無文。 緑辺十寸により無文の平底。 図Ⅲ-2-79 F82 29 サイベ沢呱式 F82-8 Ⅲ a 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面三ガキ 砂粒 海綿骨針含む。 座帯上無文。 経津上縄線。 図Ⅲ-2-79 F82 29 サイベ沢呱式 F82-5 Ⅲ a 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面三ガキ 砂粒 海綿骨針含む。 座帯上無文。 隆帯上組網の転放文。 隆帯上に綱回転放文。 隆帯上に綱回転放文。 隆帯上に綱回転放文。 隆田-2-79 F82 30 サイベ沢呱式 F82-5 Ⅲ a 沢1層 45T61 2 3 5 沢地形F82周辺 内面三ガキ 砂粒 海綿骨針含む。 陸帯上は縄線。 世イベ沢呱式 F82-6 Ⅲ a 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面三ガキ 砂粒含む。 地紋に視緩回転放文。 隆帯上甲系文。 図Ⅲ-2-79 F82 32 サイベ沢呱式 F82-9 Ⅲ a 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面三ガキ 砂粒含む。 地紋に視緩回転放文。 隆帯上甲系文。 図Ⅲ-2-79 F82 32 サイベ沢呱式 F82-9 Ⅲ a 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面三ガキ 砂粒含む。 地紋に飛艇回転放文。 隆帯上甲系文。 図Ⅲ-2-79 F82 32 サイベ沢呱式 F82-9 Ⅲ a 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面三ガキ 総積合針含む。 陸帯上甲系文。 Ⅲ a 沢1層 47V60 1 1 1 沢地形F82周辺 内面三ガキ 繊維・海綿骨針含む。 陸木上縄の地紋 大田大田 東東地 東北地 東北地 東北地 東北地 東北地 東北地 東北地 東北地 東北地	図Ⅲ-2-77	F82	10	サイベ沢Ⅷ式	F82-12	Ша		_	3	7		
図皿-2-77 F82 11 サイベ水切式 F82-2 Ⅲa F82 優生1 10 6 57 F82 線側面連続圧痕。 図皿-2-77 F82 12 円筒上層式 F82-4 Ⅲa F82 覆生1 8 11 11 F82 内面5ガキ 砂粒含む。地紋結束第二種羽状縄文。隆帯上L縄線。 図皿-2-77 F82 13 サイベ沢収式 F82-1 Ⅲa 沢1層 45T61 17 71 88 沢地形F82周辺 内面5ガキ 砂粒含む。地紋結束第一種羽状縄文。口唇には隆帯上縄線側面連続圧痕。 図皿-2-79 F82 27 サイベ沢収式 F82-1 Ⅲa 沢1層 45T61 2 2 沢地形F82周辺 内面5ガキ 砂粒 海綿骨針含む。隆帯上尾縄線の画域に変。 図皿-2-79 F82 29 サイベ沢収式 F82-8 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面5ガキ 砂粒 海綿骨針含む。隆帯上尾縄線の画域に変。 図皿-2-79 F82 29 サイベ沢収式 F82-8 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面5ガキ 砂粒 海綿骨針含む。隆帯上尾縄の転転文。隆帯上尾縄回転施文。 図皿-2-79 F82 29 サイベ沢収式 F82-8 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面5ガキ 砂粒 海綿骨針含む。隆帯上尾縄回転施文。隆帯上尾縄回転施文。 図皿-2-79 F82 30 サイベ沢収式 F82-5 Ⅲa 沢1層 45T61 2 3 5 沢地形F82周辺 内面5ガキ 砂粒 繊維 海綿骨針含む。隆帯上尾縄回転施文。隆帯上尾縄回転施文。 図皿-2-79 F82 31 サイベ沢収式 F82-6 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 1 沢地形F82周辺 内面5ガキ 砂粒 繊維 海綿骨針含む。隆帯上R末。 図皿-2-79 F82 31 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 1 沢地形F82周辺 内面5ガキ 砂粒 海綿骨針含む。隆帯上R末。 図皿-2-79 F82 31 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面5ガキ 神経令比 恋様に表る地紋か。再生製品。円形。中央穿孔。												
図皿-2-77 F82 12 円筒上層d式 F82-4 Ⅲa F82 覆土1 8 11 11 F82 内面ミガキ 砂粒含む。地紋枯束第二種羽状縄文。隆帯上縄線。 図皿-2-77 F82 13 サイベ沢収式 F82-1 Ⅲa F82 覆土1 37 5 8 13 F82 内面ミガキ 砂粒含む。地紋比R縄の結束第一種羽状縄文模回転。口唇には隆 図皿-2-78 F82 23 サイベ沢収式 F82-1 Ⅲa 沢1層 45T61 17 71 88 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒含む。地紋比R縄の結束第一種羽状縄文。中唇には隆帯上縄線側面連続圧痕。 図皿-2-79 F82 27 サイベ沢収式 F82-7 Ⅲa 沢1層 45T61 2 2 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 海綿骨針含む。隆帯上馬文。線辺キザミ。 図皿-2-79 F82 29 サイベ沢収式 F82-8 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 海綿骨針含む。隆帯上上縄線。 図皿-2-79 F82 29 サイベ沢収式 F82-8 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 海綿骨針含む。隆帯上田文。線辺キザミ。 図皿-2-79 F82 29 サイベ沢収式 F82-5 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 海綿骨針含む。隆帯上は縄線。 図皿-2-79 F82 30 サイベ沢収式 F82-5 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 海綿骨針含む。陸帯上中文。 図皿-2-79 F82 30 サイベ沢収式 F82-5 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 繊維・海綿骨針含む。陸帯上中文。 図皿-2-79 F82 30 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒含む。 世帯上中文・ 世界・上縄線の転旋文。 隆帯上中文・ 図面-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒含む。 世帯上中系文・ 医帯上中系文・ 図面-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 神綿骨針含む。 陸帯上中形和文連様・ 絶称・上線を、 経・土地紋 図面-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 雑様・海綿骨針含む。 医帯上甲形刺交連続・ 紅地紋 図面-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 47V60 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。 ヒ帯上中形和交連様・ 細胞・土地紋 図面-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 47V60 1 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。 ヒ帯上・北線。 円形。 中央穿孔。	図Ⅲ-2-77	F82	11	サイベ沢Ⅷ式	F82-2				57	66		
図Ⅲ-2-77 F82 13 サイベ沢呱式 F82-13 Ⅲa F82 覆土1 37 5 8 13 F82 内面まガキ 砂粒含む。地紋LR縄の結束第一種羽状網文模回転。口唇には隆 関□ 2-78 F82 23 サイベ沢呱式 F82-1 Ⅲa 沢1層 45T61 17 71 88 沢地形F82周辺 内面まガキ 砂粒含む。地紋柱束第一種羽状網文、口唇には降帯L縄線側面連続圧痕。 契止はて穿孔。 ジャイベ沢呱式 F82-7 Ⅲa 沢1層 45T61 2 2 沢地形F82周辺 内面まガキ 砂粒 海綿骨針含む。 医帯上無文。 縁辺キザミ。 図Ⅲ-2-79 F82 29 サイベ沢呱式 F82-8 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面まガキ 砂粒 海綿骨針含む。 医帯上無文。 縁辺キザミ。 図Ⅲ-2-79 F82 29 サイベ沢呱式 F82-5 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面まガキ 砂粒 海綿骨針含む。 医帯上縄線。 医帯上保線・医帯上保線・医型ロー2-79 F82 30 サイベ沢呱式 F82-5 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面まガキ 砂粒 海綿骨針含む。 医帯上線線・医帯上保線・医帯上に線回転除文。 図Ⅲ-2-79 F82 30 サイベ沢呱式 F82-5 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面まガキ 砂粒 海綿骨針含む。 医帯上線線・医療・上保線回転除文。 図Ⅲ-2-79 F82 30 サイベ沢呱式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面まガキ 砂粒含む。 地紋LR縄級回転除文。 隆帯上解文。 図Ⅲ-2-79 F82 31 サイベ沢呱式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面まガキ 砂粒含む。 地紋LR縄級回転除文。 隆帯上附末、 図Ⅲ-2-79 F82 32 サイベ沢呱式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面まガキ 総積・海綿骨針含む。 医赤上P1を発達は、 純文地紋 図 図 ロー2-79 F82 32 サイベ沢呱式 F82-11 Ⅲa 沢1層 47V60 1 1 1 沢地形F82周辺 内面まガキ 純線・海綿骨針含む。 医赤上甲科刺菜連絡。 純文地紋	図Ⅲ-2-77	F82	12	円筒上層d式	F82-4	_			31	11		
図Ⅲ-2-78 F82 23 サイベ沢呱式 F82-1 Ⅲa 沢1層 45T61 17 71 88 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒含む。地紋結束第一種羽状縄文。口唇には陸帯上縄線側面連続圧痕。 図Ⅲ-2-79 F82 27 サイベ沢呱式 F82-7 Ⅲa 沢1層 45T61 2 2 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 海綿骨針含む。 陸帯上無文、 緑辺キザミ。 図Ⅲ-2-79 F82 29 サイベ沢呱式 F82-8 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 海綿骨針含む。 陸帯上無文、 緑辺キザミ。 図Ⅲ-2-79 F82 29 サイベ沢呱式 F82-8 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 海綿骨針含む。 陸帯上は緯線。 図Ⅲ-2-79 F82 30 サイベ沢呱式 F82-6 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 繊維 海綿骨針含む。 陸帯上は緯線。 図Ⅲ-2-79 F82 7 サイベ沢呱式 F82-6 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 松北 海綿骨針含む。 陸帯上隔文。 図Ⅲ-2-79 F82 31 サイベ沢呱式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒含む。 地紋和に織回転施文。 隆帯上用域回転施文。 隆帯上R4両回転施文。 図Ⅲ-2-79 F82 31 サイベ沢呱式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 海綿骨針含む。 陸帯上P7和東連線。 編文地紋 図Ⅲ-2-79 F82 32 サイベ沢呱式 F82-9 Ⅲa 沢1層 47V60 1 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 海綿骨針含む。 陸帯上P7和東連線。 編文地紋 図Ⅲ-2-79 F82 32 サイベ沢呱式 F82-11 Ⅲa 沢1層 47V60 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。 陸帯上P7和東連線。 編文地紋									8			内面ミガキ 砂粒含む。地紋LR縄とR縄の結束第一種羽状縄文横回転。口唇には隆
図皿-2-79 F82 27 サイベ沢収式 F82-7 Ⅲa 沢1層 45T61 2 2 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒・海綿骨針含む。隆帯上無文。縁辺キザミ。 図皿-2-79 F82 29 サイベ沢収式 F82-8 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 海綿骨針含む。隆帯上は縄線。 図皿-2-79 F82 29 サイベ沢収式 F82-5 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 繊維・海綿骨針含む。隆帯上は縄線。 図皿-2-79 F82 30 サイベ沢収式 F82-6 Ⅲa 沢1層 45T61 2 3 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 会と。地紋に縄回転施文。隆帯上に縄回転施文。隆帯上に縄回転施文。 図皿-2-79 F82 31 サイベ沢収式 F82-6 Ⅲa 沢1層 45T61 2 3 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒含む。地紋に縄回転施文。隆帯上無文。 図皿-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 海綿骨針含む。 医帯上円形刺突連続。 縄文地紋 図皿-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 47V60 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。 医帯上円形刺突連続・ 縄文地紋 図皿-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 47V60 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。 と稀による地紋か。 再生土製品。 円形。 中央穿孔。	図Ⅲ-2-78	F82	23	サイベ沢Ⅷ式	F82-1	Ша	沢1層 45T61	17	71	88	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒含む。地紋結束第一種羽状縄文。口唇には隆帯L縄線側面連続圧痕。
図皿-2-79 F82 29 サイベ沢収式 F82-5 Ⅲa 沢1層 45T61 1 4 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒 繊維・海綿骨針含む。 陸帯上LR綱回転施文。 隆帯上LR綱回転施文。 図皿-2-79 F82 30 サイベ沢収式 F82-6 Ⅲa 沢1層 45T61 2 3 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒含む。 地域LR編版回転施文。 隆帯上無文。 図皿-2-79 F82 31 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒合む。 地域LR編版回転施文。 隆帯上無文。 図皿-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 海綿骨針含む。 陸帯上日和東連続。 紅地地紋 図面・2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-11 Ⅲa 沢1層 47V60 1 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 海綿骨針含む。 陸帯上日和東連続。 紅地地紋			_		F82-7	Ша		2		2		内面ミガキ 砂粒・海綿骨針含む。隆帯上無文。縁辺キザミ。
図皿-2-79 F82 30 サイベ沢収式 F82-6 Ⅲa 沢1層 45T61 2 3 5 沢地形F82周辺 内面ミガキ 砂粒合む。地紋LR縄縦回転施文。隆帯上無文。 図皿-2-79 F82 31 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 海綿骨針合む。隆帯上円形刺突連続。L縄文地紋 図皿-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-11 Ⅲa 沢1層 47V60 1 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 繊維・海綿骨針合む。 L縄による地紋か。 再生土製品。 円形。 中央穿孔。												
図皿-2-79 F82 31 サイベ沢収式 F82-9 Ⅲa 沢1層 45T61 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 海綿骨針含む。隆帯上円形刺突連続。L縄文地紋 図皿-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-11 Ⅲa 沢1層 47V60 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。L縄による地紋か。再生土製品。円形。中央穿孔。			-						-			
図Ⅲ-2-79 F82 32 サイベ沢収式 F82-11 Ⅲa 沢1層 47∨60 1 1 沢地形F82周辺 内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。 L縄による地紋か。 再生土製品。 円形。 中央穿孔。			-		_				3			
			-					_				
			-					-				

表Ⅲ-7 遺構出土石器一覧

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-1	H18	1	覆土3層	石核	頁岩	4169	5.80	6.80	6.60	260.00
図Ⅲ-3-1	H18	2	覆土2層	石斧未成品	砂岩	2956	19.60	6.90	4.65	750.50
図Ⅲ-3-1	H18	3	覆土49Vトレンチ	石製品	異形石器 頁岩	4459	6.29	5.10	0.52	10.40
図Ⅲ-3-1	H18	4	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	1155	5.60	7.80	2.00	114.70
図Ⅲ-3-1	H18	5	覆土1層	北海道式石冠	小型 安山岩	1043	7.25	8.00	4.70	398.60
図Ⅲ-3-1	H18	6	覆土3層	扁平打製石器	砂岩	4229	8.90	14.90	3.95	542.70
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒 凝灰岩	438	5.60	16.60	5.05	538.10
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒 凝灰岩	407	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒 凝灰岩	408	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-2	H18	8	床	石皿片	安山岩	4304	(17.00)	(13.30)	(3.60)	(1340.00)
図Ⅲ-3-2	H18	9	HP-5覆土	扁平打製石器	閃緑岩	4385	7.60	16.30	2.90	597.70
図Ⅲ-3-2	H18	10	床	北海道式石冠	被熱 砂岩	4306	10.90	13.50	5.20	1090.30
図Ⅲ-3-2	H18	11	HP11覆土	たたき石	流紋岩	4418	11.60	7.60	2.60	312.50
図Ⅲ-3-2	H18	12	HP8覆土	たたき石	砂岩	4412	11.80	8.50	4.60	620.70
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	1	ホリアゲ土-49V	ドリル	頁岩	167	4.80	1.60	0.60	3.00
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	2	ホリアゲ土-52S	ドリル	頁岩	34①	9.80	3.30	1.15	28.90
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	3	ホリアゲ土-52S	ドリル	頁岩	34②	8.50	3.84	1.13	31.40
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	4	ホリアゲ土	石製品	打ち欠きあり 頁岩	100	10.95	2.45	1.25	34.00
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	5	ホリアゲ土-53T	石製品	凝灰岩	131	(9.95)	(4.25)	(3.80)	(173.00)
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	6	ホリアゲ土-52R	石製品	軽石	19⑤	2.30	3.15	1.33	1.50
図Ⅲ-3-4	H19	1	覆土2層	石鏃	頁岩	346	3.24	1.40	0.32	1.40
図Ⅲ-3-4	H19	2	覆土2層	石鏃未成品	頁岩	347	3.28	1.23	0.28	1.10
図Ⅲ-3-4	H19	3	覆土2層	石製品	異形石器 頁岩	398	4.70	6.90	0.98	18.70
図Ⅲ-3-4	H19	4	覆土2層	石鋸	砂岩	370	(8.25)	(10.70)	1.65	(171.00)
図Ⅲ-3-4	H19	5	床面	ドリル	頁岩	146	4.45	2.90	0.50	6.00
図Ⅲ-3-4	H19	6	床面	ドリル	頁岩	94	3.20	1.50	0.30	1.40
図Ⅲ-3-4	H19	7	周溝覆土1層	つまみ付きナイフ	頁岩	182	5.55	3.20	0.80	11.70
図Ⅲ-3-4	H19	8	床面	スクレイパー	頁岩	96	4.80	4.20	1.10	15.60
図Ⅲ-3-4	H19	9	床面	スクレイパー	頁岩	92	8.50	6.20	1.55	43.70
図Ⅲ-3-4	H19	10	床面	スクレイパー	頁岩	84	10.90	4.70	2.40	120.80
図Ⅲ-3-4	H19	11	床面	スクレイパー	頁岩	93	5.50	6.30	1.35	35.30
図Ⅲ-3-4	H19	12	HP15覆土1層	スクレイパー	頁岩	143	13.30	6.40	2.40	179.70
図Ⅲ-3-4	H19	13	床面	両面調整石器	頁岩	26	8.70	8.00	2.40	165.80
図Ⅲ-3-5	H19	14	床面	北海道式石冠	安山岩	67	(11.60)	(9.50)	7.80	1041.90
図Ⅲ-3-5	H19	15	床面	北海道式石冠片	閃緑岩	16	(5.90)	(4.60)	(5.50)	(116.80)
図Ⅲ-3-5	H19	16	—————————————————————————————————————	石鋸	砂岩	240	7.40	9.35	1.55	139.30
図Ⅲ-3-5	H19	17	床面	たたき石	砂岩	66	12.50	6.50	3.95	527.90
図Ⅲ-3-5	H19	18	床面	たたき石	緑色泥岩	18	10.90	5.63	1.15	101.00
図Ⅲ-3-5	H20	1	 床面	つまみ付きナイフ	頁岩	11	8.50	2.20	1.10	16.40
図Ⅲ-3-5	H20	2	床面	扁平打製石器	本州的北海道式石冠 砂岩	4	8.90	13.45	5.10	951.00
図Ⅲ-3-5	H20	3	床面	石皿	安山岩	12	16.80	29.50	8.60	4200.00
	H20-2→±器H20の17へ		床上	  再生土製品→土器H20の17へ		446②	6.10	6.55	0.67	30.50

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-6	H21	1	覆土	石錘	凝灰岩	276	4.21	7.55	0.85	28.10
図Ⅲ-3-6	H21	2	覆土西側	石製品	異形石器 頁岩	68	3.40	5.30	1.00	15.70
図Ⅲ-3-6	H21	3	覆土東側下位	石製品	軽石	113⑤	4.00	4.85	2.20	7.40
図Ⅲ-3-6	H21	4	床面	スクレイパー	頁岩	1	(6.20)	2.50	0.65	6.80
図Ⅲ-3-6	H21	5	HP-11覆土	台石	砂岩	327	34.10	26.00	16.70	17500.00
図Ⅲ-3-6	H21	6	床面	砥石	砂質凝灰岩	11	(7.70)	(5.50)	1.35	66.20
図Ⅲ-3-6	H21	7	床面	石皿	安山岩	27	34.80	(27.40)	7.50	6000.00
図Ⅲ-3-6	H23	1	覆土	石製品	安山岩	61	7.10	11.80	5.00	586.90
図Ⅲ-3-7	H23	2	覆土	石鏃	頁岩	97	3.84	1.39	0.35	1.40
図Ⅲ-3-7	H23	3	覆土	両面調整石器	頁岩	76	9.80	5.35	2.15	72.20
図Ⅲ-3-7	H23	4	覆土	たたき石	凹み石 安山岩	176	11.60	5.60	5.30	388.70
図Ⅲ-3-7	H23	5	覆土	石製品	棒状礫 安山岩	213	23.50	6.50	4.65	861.10
図Ⅲ-3-7	H23	6	床面	両面調整石器	頁岩	20	(6.60)	3.40	1.70	38.60
図Ⅲ-3-7	H23	7	床面	スクレイパー	頁岩	39	(6.90)	3.80	1.45	30.50
図Ⅲ-3-7	H23	8	床面	スクレイパー	頁岩	44	(6.00)	2.60	1.70	19.70
図Ⅲ-3-7	H23	9	床面	扁平打製石器	砂岩	51	9.30	(15.30)	4.00	850.60
図Ⅲ-3-7	H23	10	床面	石鋸	安山岩	30	3.90	13.00	0.95	74.60
図Ⅲ-3-8	H24	1	床面	ドリル	頁岩	82	4.65	3.05	0.70	10.80
図Ⅲ-3-8	H24	2	床面	スクレイパー	頁岩	65	(5.30)	2.60	0.70	12.20
☑Ⅲ-3-8	H24	3	床面	スクレイパー	頁岩	17	7.40	4.60	1.15	37.70
図Ⅲ-3-8	H24	4	覆土2層	石製品	凝灰岩	126	(8.10)	(5.60)	(2.35)	(109.90)
図Ⅲ-3-8	H25	1		石斧未成品	——————————— 緑色泥岩	140	7.05	5.50	3.10	144.00
☑Ⅲ-3-8	H25	2	覆土2層	石斧未成品	———— 緑色泥岩	111	10.10	7.20	5.20	402.40
図Ⅲ-3-8	H25	3		石製品	凝灰岩	75	10.50	4.60	2.60	110.90
図Ⅲ-3-8	H25	4	 覆土2層	北海道式石冠未成品		138	10.40	9.60	6.60	1005.00
図Ⅲ-3-9	H25	5	床面	石槍又はナイフ	頁岩	24	(6.10)	5.10	1.60	34.10
図Ⅲ-3-9	H25	6	床面	スクレイパー	 頁岩	9	8.45	4.90	1.85	55.20
図Ⅲ-3-9	H25	7	床面	石皿	砂岩	21	19.80	13.80	4.10	1320.00
図Ⅲ-3-9	H26	1	床面	石鏃	 頁岩	47	2.80	1.40	0.40	1.00
図Ⅲ-3-9	H26	2	床面	つまみ付きナイフ	 頁岩	55	7.55	4.70	1.30	29.60
図Ⅲ-3-9	H26	3	HP-16覆土1層	石核	 頁岩	68	8.60	8.50	3.70	266.00
図Ⅲ-3-9	H26	4	床面	石斧	———— 緑色泥岩	50	8.00	4.70	1.65	93.50
図Ⅲ-3-9	H26	5	床面	石斧	———— 緑色泥岩	21	8.60	4.80	2.85	191.60
図Ⅲ-3-10	H26	6	床面	扁平打製石器未成品		43	7.30	11.20	2.20	205.70
図Ⅲ-3-10	H26	7	床面	扁平打製石器	安山岩	31	7.00	(8.65)	2.70	215.20
図Ⅲ-3-10	H26	8	HP-4覆土1層	たたき石	砂岩	69	8.40	7.00	5.60	389.00
図Ⅲ-3-10	H26	9	床面	石皿	安山岩	13	45.90	27.80	8.60	19500.00
図Ⅲ-3-10	H27	1	 覆土2層	たたき石	 凹み石 安山岩	156	8.30	7.80	4.95	395.80
図Ⅲ-3-10	H27	2	床面	石槍又はナイフ	頁岩	9	10.00	3.40	1.00	27.80
図Ⅲ-3-10	H27	3	周溝覆土1層	スクレイパー	頁岩	39	(5.10)	(4.60)	(0.80)	15.10
図Ⅲ-3-10	H27	4	床面	石斧	 緑色泥岩	32	(11.90)	(5.10)	(3.00)	314.70
図Ⅲ-3-10	H27	5	 HP-1覆土1層	扁平打製石器	砂岩	47	(9.00)	(9.70)	3.20	458.20
図Ⅲ-3-11	H27	6	床面	扁平打製石器	 砂岩	6	15.70	19.90	5.30	2090.00

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-11	H27	7	床面	扁平打製石器	安山岩	5	8.00	13.80	3.90	675.00
図Ⅲ-3-11	H27	8	床面	台石	砂岩	21	(27.00)	(25.20)	5.40	3298.00
図Ⅲ-3-11	H28	1	覆土2層	石核	頁岩	123	17.50	5.85	5.55	613.40
図Ⅲ-3-11	H28	2	覆土1層	石製品	玦状耳飾 滑石	170	2.90	2.60	0.50	5.70
図Ⅲ-3-12	H28	3	覆土3層	石製品	軽石	187	11.10	13.50	6.70	260.50
図Ⅲ-3-12	H28	4	覆土2層	石製品	軽石	153	7.90	6.40	5.60	90.70
図Ⅲ-3-12	H28	5	覆土2層	石製品	軽石	141①	2.90	3.90	1.20	3.70
図Ⅲ-3-12	H28	6	覆土2層	石製品	軽石	141②	1.60	1.87	0.50	0.40
図Ⅲ-3-12	H28	7	覆土3層	たたき石	凹み石 安山岩	158	7.20	5.90	4.50	219.90
図Ⅲ-3-12	H28	8	床面	石鏃	頁岩	111	2.70	1.05	0.40	0.70
図Ⅲ-3-12	H28	9	床面	つまみ付きナイフ+ドリル	頁岩	91	8.70	2.05	1.00	11.80
図Ⅲ-3-12	H28	10	床面	両面調整石器	頁岩	84	9.55	6.50	3.50	196.80
図Ⅲ-3-12	H28	11	床面	石製品	異形石器 頁岩	66	6.40	6.50	1.20	22.10
図Ⅲ-3-13	H28	12	周溝覆土1層	北海道式石冠未成品	砂岩	34	9.70	15.30	5.50	1240.00
図Ⅲ-3-13	H28	13	周溝覆土1層	扁平打製石器	砂岩	26	11.40	17.40	4.10	885.00
図Ⅲ-3-13	H28	14	床面	たたき石	砂岩	75	12.00	8.30	5.40	566.20
図Ⅲ-3-13	H28	15	HP6覆土1層	台石	砂岩	106	26.40	26.00	10.50	10500.00
図Ⅲ-3-14	H29	1	覆土上位	石鏃	 頁岩	152	4.30	1.55	0.40	2.20
図Ⅲ-3-14	H29	2	覆土下位		 頁岩	161	4.15	1.60	0.45	2.40
図Ⅲ-3-14	H29	3	覆土北側	石槍又はナイフ		253	10.15	3.90	1.85	66.50
図Ⅲ-3-14	H29	4	覆土	つまみ付きナイフ	線対称 頁岩	297	6.45	3.05	0.85	15.20
図Ⅲ-3-14	H29	5	覆土上位	つまみ付きナイフ	線対称 頁岩	148	7.50	3.40	1.25	26.50
図Ⅲ-3-14	H29	6	覆土	石斧	 両端潰れる 緑色泥岩	299	7.90	3.70	3.20	158.20
図Ⅲ-3-14	H29	7	覆土南端	石製品	環 凝灰岩	117	4.70	5.50	0.65	22.10
図Ⅲ-3-14	H29	8	覆土北トレンチ	石製品	軽石	186	9.00	4.30	4.00	134.40
☑Ⅲ-3-14	H29	9	床面	石鋸	安山岩	37	(10.75)	(10.60)	(2.65)	(353.80)
☑Ⅲ-3-14	H29	10	床面	扁平打製石器		40	8.30	16.55	3.45	800.70
☑Ⅲ-3-14	H29	11	床面	扁平打製石器		46	6.40	13.00	2.30	306.10
図Ⅲ-3-15	H29	12	HP-29覆土	つまみ付きナイフ	頁岩	385	9.95	2.50	0.80	20.80
図Ⅲ-3-15	H29	13	HP-21覆土	たたき石	砂岩	375	14.70	8.25	2.70	480.20
図Ⅲ-3-15	H29	14	床面	たたき石		55	10.80	8.70	4.65	585.00
図Ⅲ-3-15	H29	15	床面	台石		49	41.70	34.50	5.20	5500.00
図Ⅲ-3-15	H29	16	床面	石皿	輝石安山岩	50	(30.80)	30.90	14.00	16000.00
図Ⅲ-3-16	H30	1	床面	スクレイパー		33	3.50	3.50	0.85	9.20
図Ⅲ-3-16	H30	2	床面	扁平打製石器	安山岩	2829	8.00	16.80	3.70	548.50
図Ⅲ-3-16	H30	3	床面	扁平打製石器		1	8.15	13.90	2.95	458.40
図Ⅲ-3-16	H30	4	床面	たたき石	砂岩	27	(11.40)	7.20	6.00	680.10
図Ⅲ-3-16	H30	5	床面	たたき石	砂岩	35	(13.10)	6.70	4.40	442.70
図Ⅲ-3-16	H30	6	床面	たたき石	砂岩	36237	14.90	8.90	3.30	591.50
図Ⅲ-3-16	H30	7	床面	台石	砂岩	19	40.10	25.00	12.20	21000.00
図Ⅲ-3-16	H30	8	床面	台石	安山岩	25	39.90	34.20	10.80	22000.00
図Ⅲ-3-16	H31	1		両面調整石器			14.10	4.60	2.40	139.90
-			覆土1層			92				
図Ⅲ-3-17	H31	2	覆土1層	たたき石	頁岩	45	14.70	4.90	5.15	470.30

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-17	H31	3	床面	スクレイパー	頁岩	26	7.10	3.90	1.30	19.00
図Ⅲ-3-17	H31	4	床面	石槍又はナイフ	片岩	5	11.90	3.40	0.75	41.00
図Ⅲ-3-17	H31	5	周溝覆土1層	石核	頁岩	38	7.50	15.10	7.80	703.20
図Ⅲ-3-18	H31	6	周溝覆土1層	扁平打製石器	閃緑岩	37	9.30	15.40	3.10	706.70
図Ⅲ-3-18	H31	7	周溝覆土1層	北海道式石冠未成品	安山岩	39	11.60	20.40	7.35	2155.00
図Ⅲ-3-18	H31	8	床面	砥石	砂岩	4	(18.75)	(11.10)	4.20	920.00
図Ⅲ-3-18	H31	8	床面	砥石	砂岩	31	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-18	H31	9	床面	たたき石	砂岩	7	(17.90)	(12.00)	6.00	1450.00
図Ⅲ-3-18	H31	10	床面	たたき石	砂岩	32	11.70	9.20	5.70	733.80
図Ⅲ-3-18	H32	1	床面	扁平打製石器片	安山岩	4	(6.20)	(9.45)	1.20	90.40
図Ⅲ-3-19	H33	1	床面	スクレイパー	頁岩	49	5.80	2.30	0.90	8.80
図Ⅲ-3-19	H33	2	床面	スクレイパー	頁岩	48	5.50	4.50	0.80	19.50
図Ⅲ-3-19	H33	3	床面	石斧	緑色泥岩	7	(5.50)	(4.40)	(1.10)	(47.90)
図Ⅲ-3-19	H33	4	覆土1層	石斧	緑色泥岩	53	9.00	5.30	3.10	253.70
図Ⅲ-3-19	H33	5	床面	たたき石	メノウ	12	9.00	8.10	4.10	481.70
図Ⅲ-3-19	H33	6	床面	たたき石	砂岩	17	11.10	5.80	3.20	274.00
図Ⅲ-3-19	H33	7	床面	砥石	砂岩	20	(18.20)	(18.20)	(5.20)	1710.00
図Ⅲ-3-20	H34	1	覆土4層	石鏃	頁岩	20	2.70	1.20	0.40	0.90
図Ⅲ-3-20	H34	2	覆土東側	両面調整石器	頁岩	67②	8.10	3.40	1.50	41.10
図Ⅲ-3-20	H34	3	覆土東側	両面調整石器	頁岩	67①	10.70	4.00	1.50	63.00
図Ⅲ-3-20	H34	4	覆土4層	スクレイパー	頁岩	12	(5.40)	5.40	1.10	27.10
図Ⅲ-3-20	H34	5	覆土西側	扁平打製石器	北海道式石冠的 安山岩	78	9.50	15.40	4.85	780.90
図Ⅲ-3-20	H34	6	覆土4層	たたき石	砂岩	9	13.80	8.00	3.60	561.10
図Ⅲ-3-20	H35	1	覆土1層下位	石皿	安山岩	25	36.00	21.70	7.60	5500.00
図Ⅲ-3-20	H35	2	覆土1層下位	石皿	砂岩	24	38.90	22.40	15.60	17500.00
図Ⅲ-3-21	H35	3	覆土1層下位	台石	安山岩	23	34.80	27.90	11.80	13500.00
図Ⅲ-3-21	H36	1	覆土西側	石槍又はナイフ	頁岩	111	8.50	2.70	0.80	16.50
図Ⅲ-3-21	H36	2	覆土東側	石斧片	油ぬって焼 緑色泥岩	40	(7.70)	2.95	2.30	80.70
図Ⅲ-3-21	H36	3	覆土4層	石皿	安山岩	15	30.00	29.40	10.50	8000.00
図Ⅲ-3-21	H37	1	覆土1層	ドリル	石鏃転用 頁岩	131	5.75	1.60	0.60	4.80
図Ⅲ-3-21	H37	2	覆土2層	砥石	砂岩	141	12.90	8.70	1.90	130.00
図Ⅲ-3-21	H37	3	覆土2層	たたき石	凹み石 頁岩	143	11.25	5.30	2.95	207.90
図Ⅲ-3-21	H37	4	周溝覆土1層	石鏃	頁岩	1142	1.90	1.20	0.40	0.80
図Ⅲ-3-21	H37	5	床面	ドリル	頁岩	76	7.50	3.50	1.70	31.50
図Ⅲ-3-21	H37	6	床面	スクレイパー	頁岩	119	5.95	4.00	1.20	23.40
図Ⅲ-3-22	H37	7	周溝覆土1層	スクレイパー	掻器 頁岩	118	6.70	5.75	1.55	67.50
図Ⅲ-3-22	H37	8	床面	両面調整石器	頁岩	25	9.05	4.50	1.90	78.10
図Ⅲ-3-22	H37	9	床面	両面調整石器	頁岩	44	10.80	5.80	2.40	115.90
図Ⅲ-3-22	H37	10	覆土2層	扁平打製石器	安山岩	142	7.00	8.00	2.90	219.20
図Ⅲ-3-22	H37	11	床面	扁平打製石器	凝灰岩	62	6.70	14.40	3.00	289.80
図Ⅲ-3-22	H37	12	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	117	8.90	8.15	5.85	555.10
図Ⅲ-3-22	H37	13	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	115	10.30	7.70	5.25	496.00
図Ⅲ-3-22	H37	14	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	121	6.50	5.50	6.10	313.10

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-22	H38	1	床面	北海道式石冠	閃緑岩	16	10.90	(14.40)	7.50	1729.00
図Ⅲ-3-23	H38	2	床面	石鏃	頁岩	19②	(2.50)	1.65	0.30	1.10
図Ⅲ-3-23	H38	3	覆土南北トレンチ	ドリル	つまみ付き 頁岩	109	7.80	1.90	0.80	9.40
図Ⅲ-3-23	H38	4	覆土最下位	石のこ	砂岩	140	12.60	18.90	5.70	1230.00
図Ⅲ-3-23	H38	5	覆土上位	石皿	安山岩	2	(22.20)	(19.80)	10.10	4900.00
図Ⅲ-3-23	H39	1	床面	石鏃未成品	頁岩	43	3.13	1.90	0.40	2.00
図Ⅲ-3-23	H39	2	覆土下部	石鏃	頁岩	393	(1.12)	1.76	0.48	2.70
図Ⅲ-3-23	H39	3	覆土東側	石鏃	頁岩	90	2.90	1.40	0.40	1.50
図Ⅲ-3-23	H39	4	覆土東西トレンチ西側	石鏃	頁岩	413	4.90	1.25	5.50	3.00
図Ⅲ-3-23	H39	5	覆土上部ベルト	つまみ付きナイフ片	黒曜石	249	(1.60)	(1.10)	(0.37)	(0.60)
図Ⅲ-3-23	H39	6	覆土南側	ドリル	頁岩	345	5.75	0.90	0.30	2.20
図Ⅲ-3-23	H39	7	覆土壁際	石槍又はナイフ	片岩	291	13.10	3.80	1.00	55.40
図Ⅲ-3-23	H39	8	覆土東側	石槍又はナイフ	頁岩 無茎	241	6.90	3.60	1.30	16.60
図Ⅲ-3-23	H39	9	ベルト覆土下位	両面調整石器	打製石斧風 頁岩	147	15.00	4.90	3.10	229.80
図Ⅲ-3-23	H39	10	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344③	7.40	3.20	2.30	44.70
図Ⅲ-3-23	H39	11	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344⑤	4.90	3.85	1.15	28.30
図Ⅲ-3-23	H39	12	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344⑥	(4.40)	3.20	1.10	11.70
図Ⅲ-3-24	H39	13	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344①	8.80	3.90	2.05	50.80
図Ⅲ-3-24	H39	14	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344②	8.40	4.70	1.30	41.10
図Ⅲ-3-24	H39	15	覆土南側	スクレイパー	頁岩	3444	7.00	3.10	1.20	21.20
図Ⅲ-3-24	H39	16	覆土南側	石核	頁岩	351	9.80	15.80	15.30	3040.00
図Ⅲ-3-25	H39	17	覆土南北トレンチ北側	スクレイパー	頁岩	224	13.00	6.40	3.30	221.70
図Ⅲ-3-25	H39	18	覆土壁際ベルト	石鋸	扁平打製石器転用 安山岩	386	9.60	14.50	1.65	265.40
図Ⅲ-3-25	H39	19	覆土下位	扁平打製石器	安山岩	307	8.70	15.00	2.00	297.70
図Ⅲ-3-25	H39	20	覆土ベルト下位	扁平打製石器	粘板岩	255	5.85	12.20	1.00	84.30
図Ⅲ-3-25	H40	1	覆土南側	石製品	頁岩	28	3.40	8.05	0.65	10.30
図Ⅲ-3-26	H41	1	覆土西トレンチ	スクレイパー	頁岩	86①	12.20	3.80	1.90	78.60
図Ⅲ-3-26	H41	2	覆土西トレンチ	スクレイパー	頁岩	86②	8.40	3.60	1.05	22.50
図Ⅲ-3-26	H41	3	覆土南側	Rフレイク	つまみ付きナイフを作ろうとしたものか 黒曜石	61	3.60	1.90	0.80	3.50
図Ⅲ-3-26	H41	4	覆土ベルト	石核	頁岩	41①	5.95	7.60	3.60	98.90
図Ⅲ-3-26	H41	5	覆土ベルト	石核	頁岩	41②	7.28	6.57	2.41	75.30
図Ⅲ-3-26	H41	6	床面	両面調整石器	頁岩	1	(11.80)	7.30	4.70	295.50
図Ⅲ-3-26	H41	7	床面	石皿	安山岩	5	16.20	10.20	8.00	2010.00
図Ⅲ-3-27	H43	1	床面	ドリル+つまみ付きナイフ	頁岩	2	9.40	2.20	0.90	18.10
図Ⅲ-3-27	H43	2	床面	スクレイパー	珪岩	20	9.40	3.80	1.85	55.90
図Ⅲ-3-27	H43	3	床面	石核	頁岩	14	4.20	9.70	6.55	186.30
図Ⅲ-3-27	H44	1	床面	石槍又はナイフ	頁岩	11	(12.60)	4.60	1.30	90.10
図Ⅲ-3-27	H44	2	床面	石核	頁岩	15②	4.60	8.80	3.50	133.20
図Ⅲ-3-27	H44	3	床面	扁平打製石器	砂岩	18	6.80	16.60	3.40	599.20
図Ⅲ-3-28	H45	1	HF-1覆土2層	石斧	緑色泥岩	20	(8.20)	(4.60)	(2.80)	(166.60)
図Ⅲ-3-28	H45	2	HF-1覆土2層	扁平打製石器	安山岩	21	7.85	10.00	2.80	287.40
図Ⅲ-3-28	H46	1	床面	石核	頁岩	12	10.30	9.70	6.50	794.00
図Ⅲ-3-28	H49	1	覆土1層	石製品	頁岩	6	4.10	5.85	0.92	14.50

		掲載								
図版番号	遺構番号	番号	層位 	分類 	備考と石材 	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-28	H51	1	覆土東側	石槍又はナイフ	頁岩	61①	9.15	4.80	1.25	54.60
図Ⅲ-3-28	H51	2	覆土ベルト	石製品	線刻礫 凝灰岩クサレ	33④	5.50	6.40	1.05	17.30
図Ⅲ-3-28	H51	3	床面	たたき石	砂岩	9	7.10	5.00	3.60	183.90
図Ⅲ-3-28	H51	4	床面	たたき石	砂岩	11	9.80	8.50	6.70	608.40
図Ⅲ-3-29	H51	5	床面	扁平打製石器	砂岩	8	8.80	18.60	3.80	783.60
図Ⅲ-3-29	H51	6	床面	扁平打製石器	凝灰岩	4	7.50	18.00	2.70	494.70
図Ⅲ-3-29	H51	7	床面	石皿	安山岩	16	27.20	20.70	5.10	2020.00
図Ⅲ-3-29	H51	7	床面	石皿	安山岩	17	27.20	20.70	5.10	2020.00
図Ⅲ-3-29	H51	8	床面	台石片	砂岩	7	10.00	12.10	4.30	560.20
図Ⅲ-3-29	H52	1	床面	スクレイパー	頁岩	44	3.90	4.00	1.10	12.80
図Ⅲ-3-29	H52	2	床面	スクレイパー	頁岩	19	5.50	3.80	1.45	18.80
図Ⅲ-3-29	H52	3	床面	台石	砂岩	38	36.80	27.00	11.40	17500.00
図Ⅲ-3-30	H52	4	床面	たたき石	砂岩	28	10.75	8.90	6.20	749.40
図Ⅲ-3-30	H52	5	床面	扁平打製石器	閃緑岩	33	6.75	15.10	2.75	407.30
図Ⅲ-3-30	H52	6	床面	扁平打製石器	閃緑岩	37	6.90	16.10	2.90	365.80
図Ⅲ-3-30	H52	7	床面	扁平打製石器	閃緑岩	34	7.70	16.00	3.80	685.40
図Ⅲ-3-30	H52	8	床面	扁平打製石器	砂岩	26	7.20	14.50	3.30	454.40
図Ⅲ-3-30	H53	1	覆土1層	石鏃	頁岩	13	2.77	1.22	0.27	0.90
図Ⅲ-3-30	H53	2	覆土2層	石槍又はナイフ片	頁岩	27	(7.10)	(5.45)	(1.05)	(39.70)
図Ⅲ-3-31	H54	1	覆土2層	たたき石	凹み石 安山岩	54	11.95	5.85	4.15	377.30
図Ⅲ-3-31	H54	2	覆土2層	台石	安山岩	42	34.80	28.30	13.00	15000.00
図Ⅲ-3-31	H54	3	覆土2層	石皿	安山岩	21	32.50	22.00	8.10	7500.00
図Ⅲ-3-31	H54	4	床面	礫	石棒的 安山岩	1	35.60	11.40	9.40	5500.00
図Ⅲ-3-31	H54	5	HF-1覆土2層	石製品	異形石器 頁岩	14	(3.75)	(4.55)	1.05	13.70
図Ⅲ-3-32	H55	1	覆土1層	扁平打製石器	閃緑岩	9①	8.75	18.15	3.30	835.70
図Ⅲ-3-32	H55	2	覆土1層	扁平打製石器	閃緑岩	92	8.25	13.95	2.62	462.80
図Ⅲ-3-32	H55	3	覆土1層	扁平打製石器	安山岩	12①	(10.50)	(16.35)	(4.85)	(1065.00)
図Ⅲ-3-32	H55	4		扁平打製石器	流紋岩	12③	5.25	11.30	3.00	233.60
図Ⅲ-3-32	H55	5	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	12②	7.80	12.40	1.85	228.90
図Ⅲ-3-32	H56	1	覆土西側	台石	安山岩	17	26.90	23.40	5.10	3730.00
図Ⅲ-3-32	H56	2	覆土西側	台石片	安山岩	19	(34.50)	(19.20)	(10.90)	5000.00
図Ⅲ-3-32	H56	3	床面	スクレイパー	頁岩	16	5.90	4.10	0.85	21.80
図Ⅲ-3-33	H57	1	床面	台石	安山岩	9	34.90	22.50	6.50	7880.00
図Ⅲ-3-33	H57	2	床面 HP11	石皿	安山岩	10	(22.90)	(15.60)	6.20	2563.00
☑ Ⅲ −3−33	H57	3	覆土-85P	石製品	块状耳飾 滑石	39	(4.92)	(4.00)	(0.47)	(12.20)
図Ⅲ-3-33	H58	1	覆土中位-84Q	石製品	北海道式石冠風 軽石	81	5.60	6.20	4.50	45.30
図Ⅲ-3-33	H58	2	覆土-83Q	つまみ付きナイフ	頁岩	130	4.00	7.32	0.78	20.40
図Ⅲ-3-33	H58	3		石斧	   両端潰れる 緑色泥岩	133	9.45	4.55	2.95	248.50
図Ⅲ-3-33	H58	4	床面	北海道式石冠	安山岩	1	9.00	12.60	7.40	1062.10
☑Ⅲ-3-33	H58	5	HP-1覆土4	北海道式石冠	 	274	9.20	11.60	5.75	830.10
図Ⅲ-3-33	H58	6	床面	スクレイパー	 頁岩	5(2)	4.60	3.30	2.00	21.00
図Ⅲ-3-33	H58	7	床面	スクレイパー	頁岩	5①	5.90	5.10	1.80	46.80
図Ⅲ-3-34	H60	1	     周溝	石核		18	9.80	9.10	6.30	505.20

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-34	H60	2	覆土	つまみ付きナイフ	黒曜石	30	(3.95)	(2.30)	0.80	(6.10)
図Ⅲ-3-34	H60	3	覆土	石槍又はナイフ	片岩	31	9.95	4.20	1.35	47.60
図Ⅲ-3-34	H60	4	中央砂部分	扁平打製石器片	流紋岩	59	(8.10)	(10.65)	(2.50)	(279.40)
図Ⅲ-3-34	H60	5	周溝	扁平打製石器	流紋岩	24	11.25	17.10	3.00	689.40
図Ⅲ-3-34	H60	6	周溝	たたき石	砂岩	14	20.70	6.30	4.00	559.10
図Ⅲ-3-34	H60	7	床面	台石	砂岩	4	30.90	28.10	10.50	13000.00
図Ⅲ-3-35	H62	1	覆土-南北トレンチ	石製品	異形石器 頁岩	60	4.30	5.35	1.10	14.90
図Ⅲ-3-35	H62	2	覆土	石槍又はナイフ	磨製 片岩	51	7.80	3.00	0.69	14.90
図Ⅲ-3-35	H62	3	床面	石核	頁岩	26	8.65	8.45	7.20	447.50
図Ⅲ-3-35	H62	4	覆土	つまみ付きナイフ	黒曜石	112	(5.15)	(2.55)	(1.20)	(10.60)
図Ⅲ-3-35	H62	5	HP-4覆土	扁平打製石器	安山岩	103	10.90	17.90	3.85	1015.00
図Ⅲ-3-35	H63	1	床面	石皿	安山岩	33	30.00	27.70	8.60	6500.00
図Ⅲ-3-36	H64	1	床面	スクレイパー	頁岩	43	10.20	4.80	1.10	55.70
図Ⅲ-3-36	H64	2	床面	スクレイパー	掻器 頁岩	12	5.65	3.83	1.45	18.80
図Ⅲ-3-36	H64	3	床面	石核	 頁岩	20	2.60	5.70	4.50	68.20
図Ⅲ-3-36	H64	4	HP-5覆土1層	北海道式石冠未成品	安山岩	75	10.40	15.10	6.90	1380.00
図Ⅲ-3-36	H65	1	床面	扁平打製石器	砂岩	10	8.70	16.90	2.80	496.80
図Ⅲ-3-36	H66	1	床面	スクレイパー	 頁岩	8	10.65	5.10	1.80	116.90
☑Ⅲ-3-36	H66	2	床面	スクレイパー	 頁岩	15	10.85	5.30	2.75	142.10
図Ⅲ-3-37	H66	3	床面	スクレイパー	 頁岩	39	7.50	5.50	2.00	64.50
図Ⅲ-3-37	H66	4	床面	台石		45	53.80	27.80	11.60	26500.00
図Ⅲ-3-37	H66	5	床面	台石	砂岩	46	42.30	30.60	12.70	23000.00
図Ⅲ-3-37	H67	1	床面	石槍又はナイフ	 頁岩	23	7.45	3.00	1.30	24.10
図Ⅲ-3-37	H67	2	床面	スクレイパー	 頁岩	32	5.40	3.70	2.00	32.00
図Ⅲ-3-37	H67	3	床面	スクレイパー	 頁岩	57	4.30	5.20	1.70	38.40
図Ⅲ-3-37	H67	4	床面	つまみ付きナイフ	頁岩	25	7.60	3.95	1.75	37.90
図Ⅲ-3-37	H67	5	床面	石斧片	——————————— 緑色泥岩	75	(7.10)	(4.00)	(3.00)	(113.80)
☑Ⅲ-3-38	H67	6	床面	砥石	安山岩	62	39.90	31.10	8.40	12500.00
☑Ⅲ-3-38	H67	7	床面	台石	砂岩	64	40.70	30.30	8.90	16500.00
☑Ⅲ-3-38	H67	8	床面	台石	砂岩	58	38.00	24.50	13.00	17000.00
☑Ⅲ-3-38	H67	9	HF-1覆土1	石製品	線刻礫 凝灰岩	68	11.10	5.70	1.00	87.20
☑ Ⅲ –3–38	H67	10	床面	扁平打製石器	安山岩	18	6.60	(9.80)	3.00	(248.30)
図Ⅲ-3-38	H67	11	床面	扁平打製石器	砂岩	28	10.10	16.80	3.25	656.10
図Ⅲ-3-39	P43	1	覆土2層	石鏃		15	(2.95)	1.33	0.30	(0.90)
☑Ⅲ-3-39	P43	2	覆土2層	石鏃	頁岩	25	2.90	(0.95)	0.34	(0.90)
図Ⅲ-3-39	P43	3	覆土2層	石鏃		28	2.72	1.11	0.28	0.60
図Ⅲ-3-39	P43	4	覆土2層	石鏃	頁岩	23	3.35	1.18	0.32	1.20
図Ⅲ-3-39	P43	5	覆土2層	石鏃		27	2.60	1.23	0.23	0.60
図Ⅲ-3-39	P43	6	覆土2層	石鏃		26	2.91	1.19	0.23	0.70
図Ⅲ-3-39	P43	7	覆土2層	石鏃		17	2.98	1.30	0.28	0.90
図Ⅲ-3-39	P43	8	覆土2層	石鏃		18	3.20	1.62	0.31	1.10
図Ⅲ-3-39	P43	9	覆土2層	石鏃		21	(3.14)	1.40	0.46	(1.70)
-										
図Ⅲ-3-39	P43	10	覆土2層	石鏃	頁岩	22	3.42	1.52	0.35	1.50

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-39	P43	11	覆土2層	石鏃	頁岩	13	3.53	(1.40)	0.31	(1.10)
図Ⅲ-3-39	P43	12	覆土2層	石鏃	頁岩	19	3.90	1.53	0.33	1.50
図Ⅲ-3-39	P43	13	覆土2層	石鏃	頁岩	24	6.38	1.66	0.42	3.50
図Ⅲ-3-39	P43	14	覆土2層	石鏃	頁岩	14	5.10	1.62	0.33	2.20
図Ⅲ-3-39	P43	15	覆土2層	石鏃	頁岩	16	4.85	2.75	0.50	2.70
図Ⅲ-3-39	P43	16	覆土2層	石鏃	頁岩	20	(4.26)	1.40	0.40	(1.70)
図Ⅲ-3-39	P43	17	覆土2層	石鏃	頁岩	12	4.43	(1.34)	0.35	(1.50)
図Ⅲ-3-39	P51	1	覆土	ドリル	頁岩	5	6.70	1.60	0.85	8.20
図Ⅲ-3-39	P51	2	覆土	石斧	緑色泥岩	7	(8.05)	4.00	1.45	(91.20)
図Ⅲ-3-39	P51	3	覆土	石製品	異形石器 頁岩	6	5.00	5.10	1.05	20.10
図Ⅲ-3-39	P55	1	底面	石斧	緑色泥岩	1	11.80	4.80	3.10	232.00
図Ⅲ-3-39	P55	2	底面	石槍又はナイフ	頁岩	4	10.35	2.90	0.75	15.70
図Ⅲ-3-39	P55	3	底面	つまみ付きナイフ	頁岩	2	(8.65)	4.30	0.85	(27.40)
図Ⅲ-3-39	P55	4	底面	つまみ付きナイフ	頁岩	3	10.10	5.20	1.10	42.70
図Ⅲ-3-40	P56	1	覆土	石槍又はナイフ	頁岩	34	6.34	4.80	1.13	19.00
図Ⅲ-3-40	P56	2	覆土	石斧未成品	片岩	28	10.10	3.30	1.40	42.70
図Ⅲ-3-40	P56	3	覆土	石斧	緑色泥岩	30	(7.70)	4.30	2.70	(154.40)
図Ⅲ-3-40	P56	4	覆土	石斧未成品	緑色泥岩	29	(14.90)	(6.70)	(4.30)	(552.90)
図Ⅲ-3-40	P56	5	覆土	石製品	頁岩	42	11.95	4.00	3.15	201.10
図Ⅲ-3-40	P56	6	覆土	扁平打製石器	砂岩	38	7.90	17.90	2.20	436.90
図Ⅲ-3-40	P56	7	覆土	扁平打製石器	砂岩	39	7.90	15.40	2.40	168.20
図Ⅲ-3-41	P56	8	覆土	扁平打製石器	砂岩	20①	9.40	17.90	3.50	679.40
図Ⅲ-3-41	P56	9	覆土	扁平打製石器	砂岩	20②	9.70	16.40	3.10	694.80
図Ⅲ-3-41	P56	10	覆土	扁平打製石器	砂岩	20③	6.90	15.40	2.30	404.60
図Ⅲ-3-41	P56	11	覆土	扁平打製石器未成品	流紋岩	21	(8.60)	(12.70)	2.10	(272.60)
図Ⅲ-3-41	P56	12	覆土	たたき石	砂岩	41	11.30	(8.30)	5.40	(618.10)
図Ⅲ-3-41	P56	13	覆土	砥石	凝灰岩	40	(13.10)	(7.90)	(2.00)	(195.80)
図Ⅲ-3-41	P56	14	覆土	砥石	砂岩	19	(14.50)	(7.20)	(7.20)	(540.80)
図Ⅲ-3-41	P56	15	底面	たたき石	珪岩	3	13.20	10.20	7.50	1190.00
図Ⅲ-3-41	P56	16	底面	扁平打製石器	流紋岩	8	13.70	7.20	1.90	249.30
図Ⅲ-3-42	P56	17	底面	スクレイパー	頁岩	4	5.90	5.20	0.98	34.40
図Ⅲ-3-42	P56	18	底面	コウ打痕のある礫	石製品か 安山岩	1	39.10	16.00	12.30	12500.00
図Ⅲ-3-42	P56	19	底面	コウ打痕のある礫	石製品か 砂岩	2	29.70	14.90	10.50	6500.00
図Ⅲ-3-43	F79	1	(H19内)H19覆土1層	台石片	北海道式石冠未成品か 安山岩	H19-300	12.50	19.70	9.70	2900.00
図Ⅲ-3-43	F79	2	(H19内)H19覆土3層	北海道式石冠	閃緑岩	H19-303	8.90	13.10	6.00	1080.00
図Ⅲ-3-43	F79	3	(H19内)H19覆土3層	たたき石	砂岩	H19-294	14.00	9.40	4.30	925.60
図Ⅲ-3-43	F82	1	沢1層(45S)	扁平打製石器	流紋岩	73	7.40	12.80	1.60	172.10
図Ⅲ-3-43	F82	2	沢1層(44S)	北海道式石冠	安山岩	94	7.00	11.90	4.50	439.00
図Ⅲ-3-43	F82	3	覆土1層	たたき石	凹み石 砂岩	24	7.80	6.05	4.05	232.00
図Ⅲ-3-43	S5	1	覆土1層	台石	砂岩	6	30.90	(18.50)	9.90	(7117.80)

## 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第327集 北斗市

# 館野6遺跡(2) 補償道路地区

- 高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地內埋蔵文化財発掘調査報告書 - 平成28年 9 月30日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 江別市西野幌685番地1

TEL (011)386-3231(代表) FAX (011)386-3238

印 刷 柏楊印刷株式会社

〒007-0802 札幌市東区東苗穂2条3丁目4番48号

 $\mathtt{TEL} \ (011) \, 789 - 2377 \quad \mathtt{FAX} \ (011) \, 789 - 2376$ 

E-mail: info@hakuyo-print.jp http://hakuyo-print.jp/